

令和6年度

仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査  
報告書

令和7年3月

仙 台 市  
(公財)せんだい男女共同参画財団



# 目次

## 第1部 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 調査設計	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	2
6 回答者の属性	2

## 第2部 調査結果の要約 13

## 第3部 調査結果

### 第1章 男女の役割や地位に関する意識について 19

1 男女の地位の平等感 (問1)	19
2 性別役割分担意識 (問2)	31

### 第2章 女性活躍について 37

1 女性が働くことについての考え方 (問3)	37
2 指導的地位に女性が少ない理由 (問4)	42

### 第3章 ワーク・ライフ・バランスなどについて 44

1 生活の中で各活動に費やしている時間 (問5)	44
2 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由 (問6)	49
3 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由 (問7)	52
4 希望する介護者 (問8)	54

### 第4章 男性による男女共同参画の推進について 55

1 男性が主体的に男女共同参画推進に取り組むために必要なこと (問9)	55
2 男性の家事等への参画促進のために必要なこと (問10)	57

### 第5章 性の多様性について 61

1 性の多様性に関する言葉の認知度 (問11)	61
2 性の多様性の理解促進に向けて必要な取り組み (問12)	70

### 第6章 セクシュアル・ハラスメントについて 72

1 セクシュアル・ハラスメントの被害経験 (問13)	72
2 過去5年以内のセクシュアル・ハラスメントの被害経験 (問14)	73
3 セクシュアル・ハラスメントの内容 (問15)	74
4 セクシュアル・ハラスメント被害の相談 (問16)	75

<b>第7章 ドメスティック・バイオレンス（DV）について</b>	77
1 ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識（問17）	77
2 DVに関する法律や相談窓口等の認知度（問18）	86
3 配偶者からの被害経験（問19）	90
4 過去5年以内の配偶者からの被害経験（問20）	94
5 配偶者からの被害の相談先（問21）	96
<b>第8章 性暴力について</b>	99
1 「性的同意」という言葉の認知度（問22）	99
2 無理やりに性交された経験（問23）	100
3 加害者との面識（問24）	101
4 無理やり性交された被害の相談先（問25）	103
<b>第9章 仙台市の今後の取り組みについて</b>	106
1 男女共同参画社会の実現のために仙台市が特に力を入れるべきこと（問26）	106
2 男女共同参画社会についての意見や要望（自由記述）（問27）	108

## 第4部 資料

1 調査票	113
2 集計表（男女別）	129

## 第1部 調査の概要



# 第1部 調査の概要

## 1 調査目的

仙台市男女共同参画推進条例に基づく「男女共同参画せんだいプラン2021」（令和3（2021）年度～令和7（2025）年度）掲載の成果目標及びモニタリング指標の状況と、本市の現状及び課題を把握し、令和8（2026）年度以降の次期「男女共同参画せんだいプラン」策定の参考とするもの。

## 2 調査項目

- (1)男女の役割や地位に関する意識について
- (2)女性活躍について
- (3)ワーク・ライフ・バランスなどについて
- (4)男性による男女共同参画の推進について
- (5)性の多様性について
- (6)セクシュアル・ハラスメントについて
- (7)ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- (8)性暴力について
- (9)仙台市の今後の取り組みについて

## 3 調査設計

- (1)調査対象 仙台市内に居住する18～79歳の男女計3,500人  
(令和6（2024）年8月1日現在の住民基本台帳より居住区及び年代、性別により抽出数を調整の上無作為抽出)
- (2)調査方法 郵送配布・郵送またはインターネットによる無記名回答
- (3)調査期間 令和6（2024）年8月30日（金）～9月20日（金）
- (4)監修・助言 遠藤恵子氏（東北学院大学 名誉教授、  
（公財）せんだい男女共同参画財団アドバイザー・フェロー）  
神林博史氏（東北学院大学 人間科学部 教授）
- (5)実施主体 仙台市、（公財）せんだい男女共同参画財団

## 4 回収結果

- (1)有効回収数（回収率） 949件（27.1%）
- (2)年代別・性別回収率

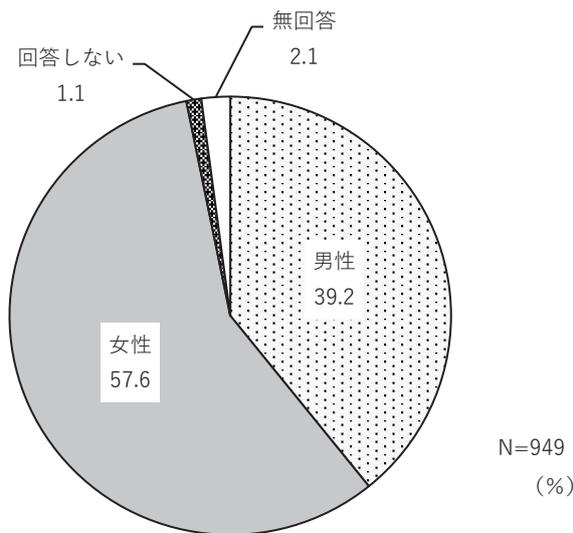
年代	全体			男性			女性			回答しない	性別無回答
	送付数	回収数	回収率	送付数	回収数	回収率	送付数	回収数	回収率	回収数	回収数
10代	81	6	7.4%	41	2	4.9%	40	4	10.0%	0	0
20代	523	61	11.7%	262	19	7.3%	261	41	15.7%	1	0
30代	552	103	18.7%	275	39	14.2%	277	63	22.7%	1	0
40代	661	158	23.9%	328	55	16.8%	333	99	29.7%	4	0
50代	659	191	29.0%	329	85	25.8%	330	105	31.8%	0	1
60代	510	195	38.2%	246	79	32.1%	264	111	42.0%	3	2
70代	514	220	42.8%	234	93	39.7%	280	123	43.9%	1	3
無回答	-	15	-	-	0	-	-	1	-	0	14
合計	3,500	949	27.1%	1,715	372	21.7%	1,785	547	30.6%	10	20

## 5 報告書の見方

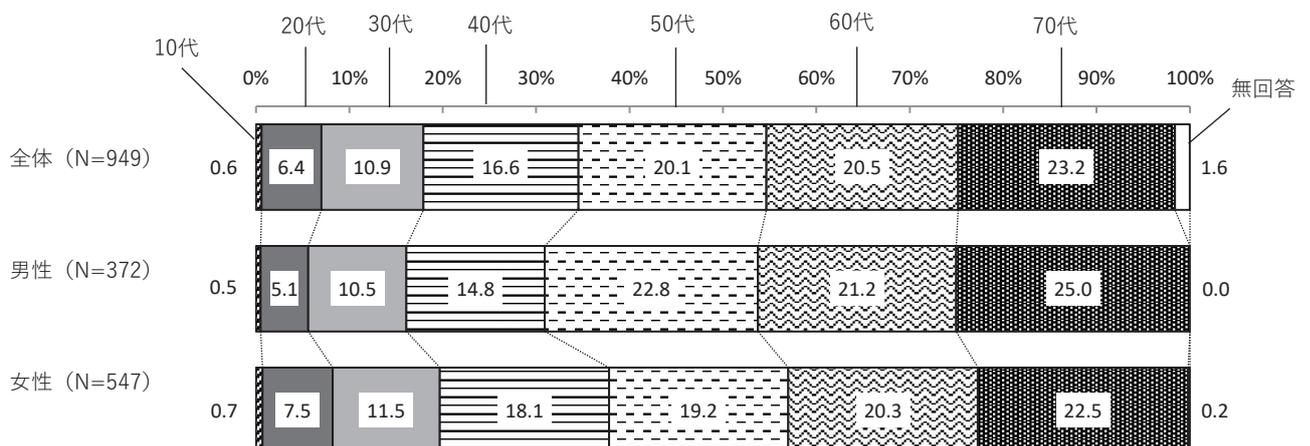
- 図表中のN（N=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- 各設問において、基本属性（性別）に「回答しない」「無回答」があるため、全体の数値と男性・女性の数値の合計が一致しない。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- クロス集計による分析では、カイ二乗検定（有意水準5%）で有意な関連が認められ、かつデータ解釈上有用であると判断した項目を中心に掲載している。性別については、「回答しない」「無回答」を含めて検定を行ったが、図表には「回答しない」と「無回答」の集計結果は掲載していない。
- 回答者総数あるいは分類別の回答者数（N値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

## 6 回答者の属性

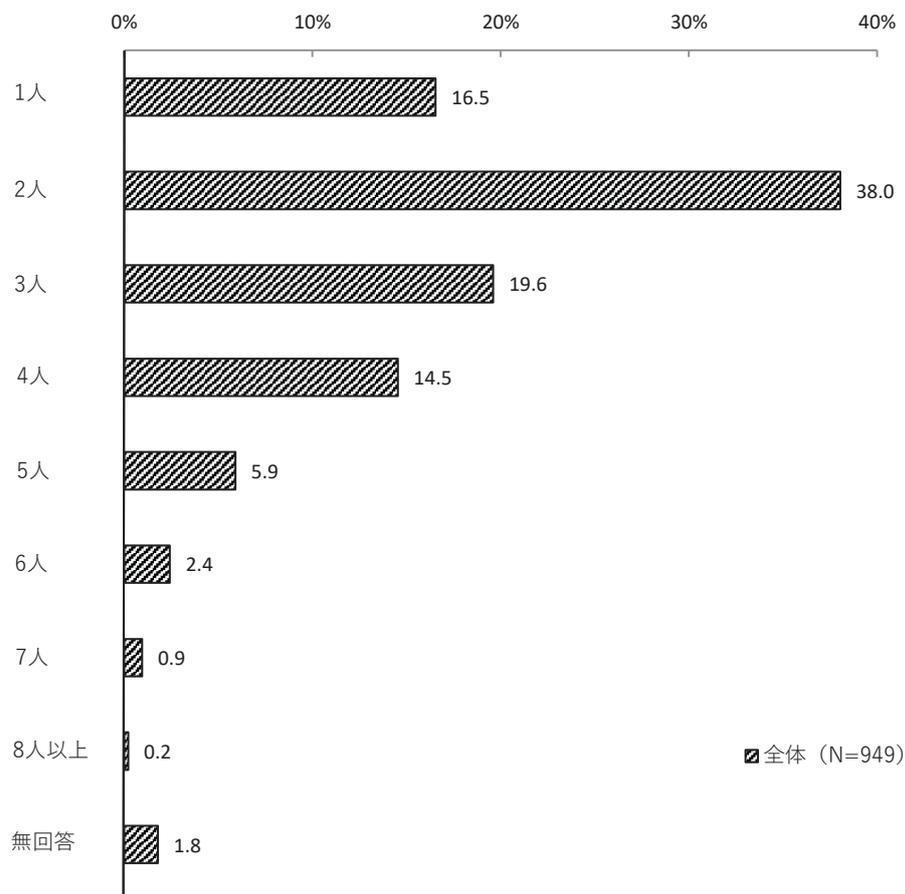
### (1)性別



### (2)年齢

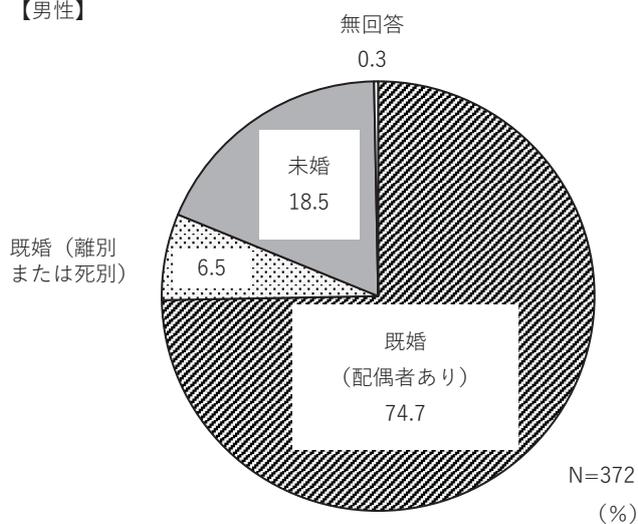


### (3)同居人数

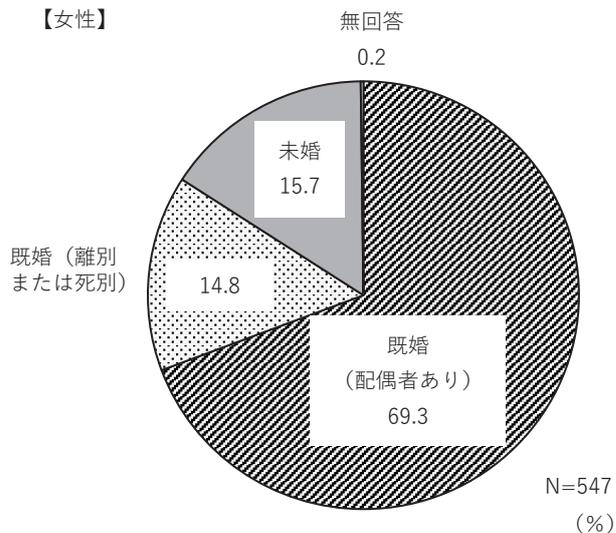


### (4)配偶関係

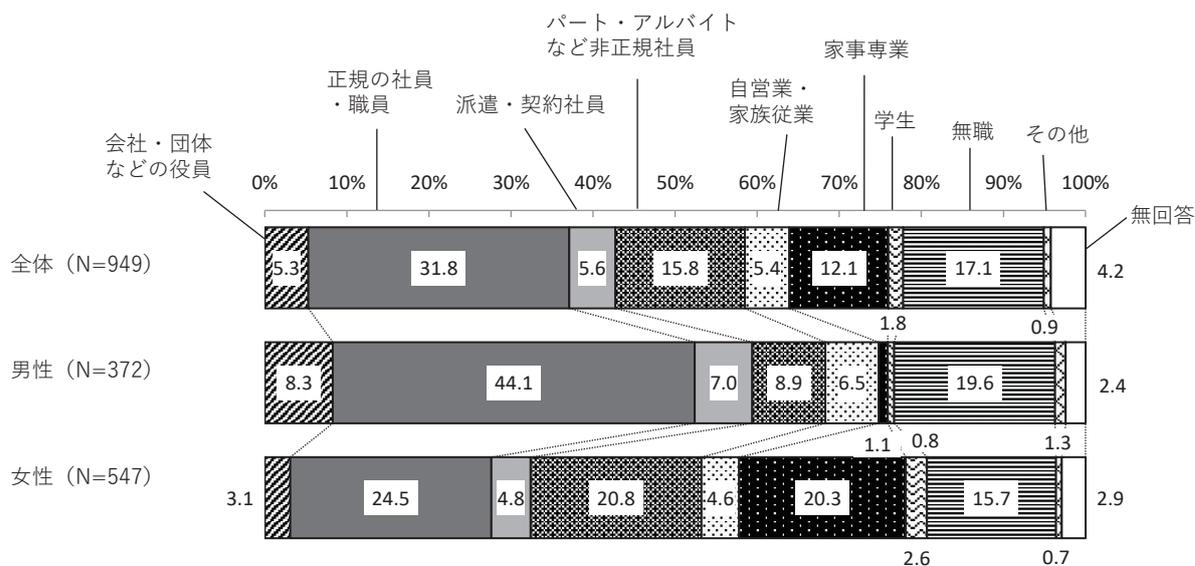
【男性】



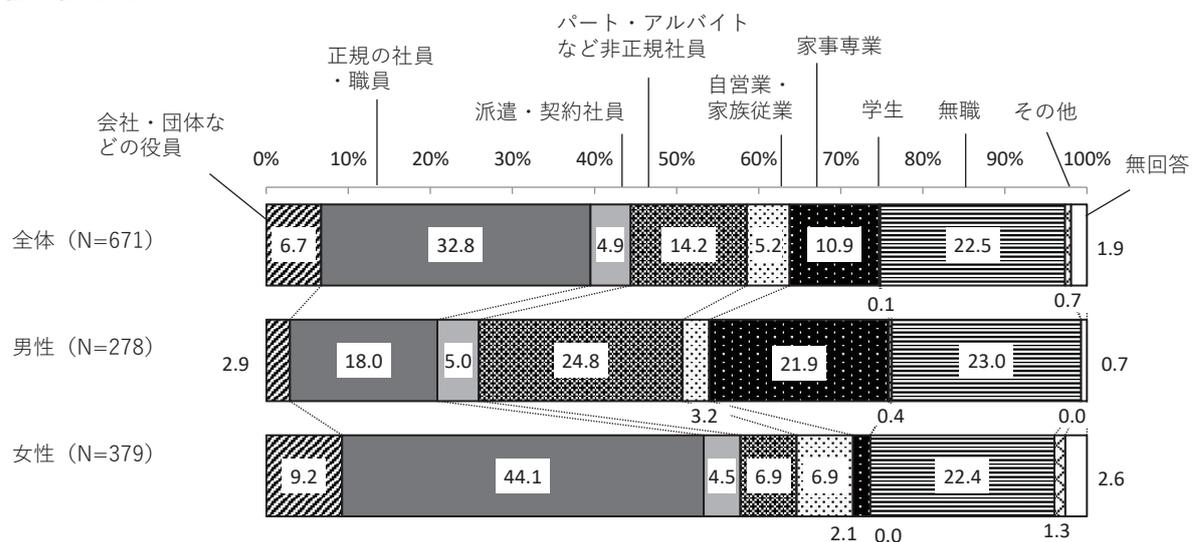
【女性】



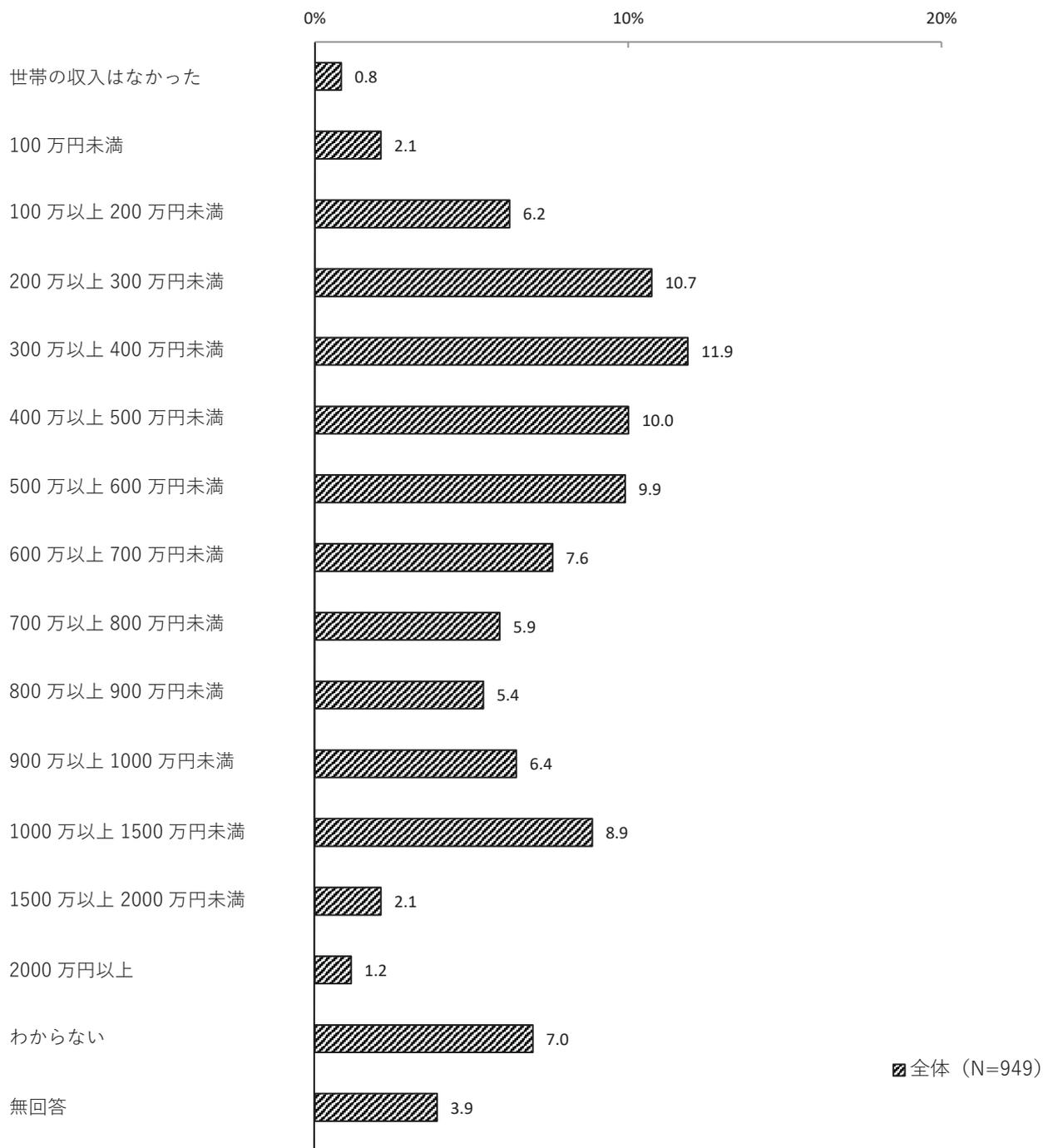
### (5) 自分の働き方



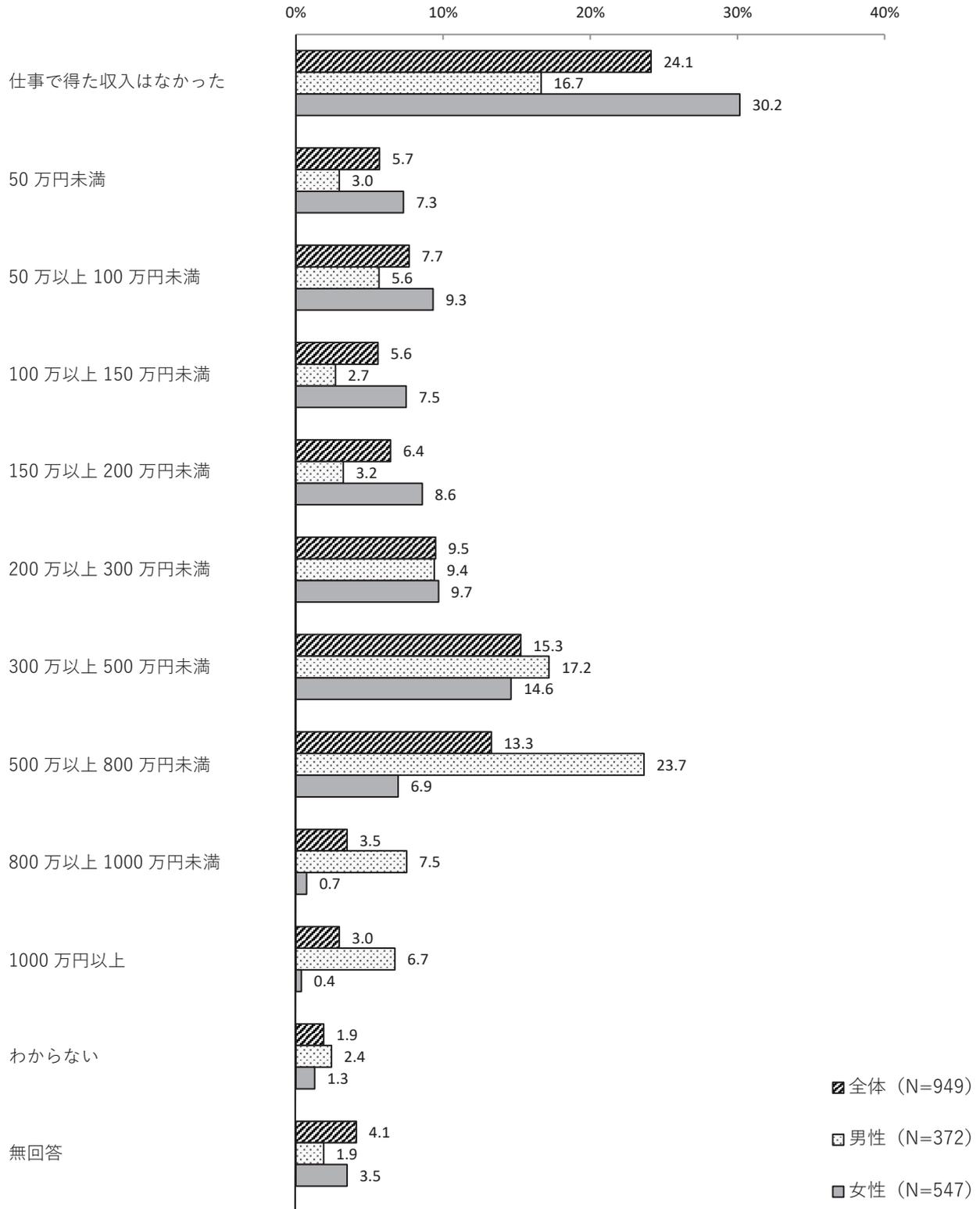
### (6) 配偶者の働き方



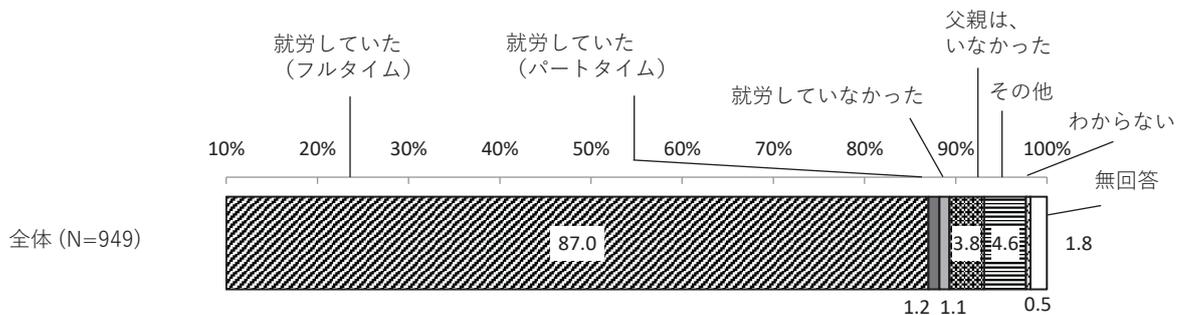
### (7)世帯年収



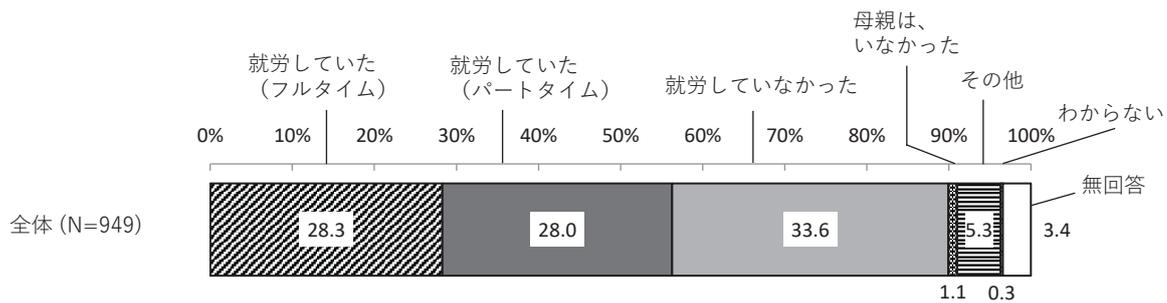
## (8)本人の年収



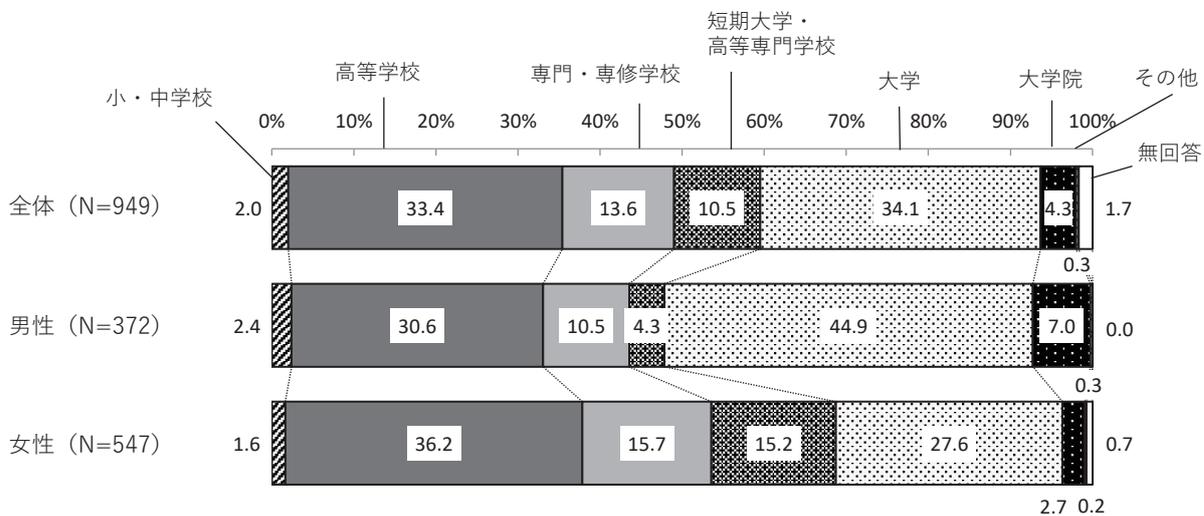
(9)父親の就労状況



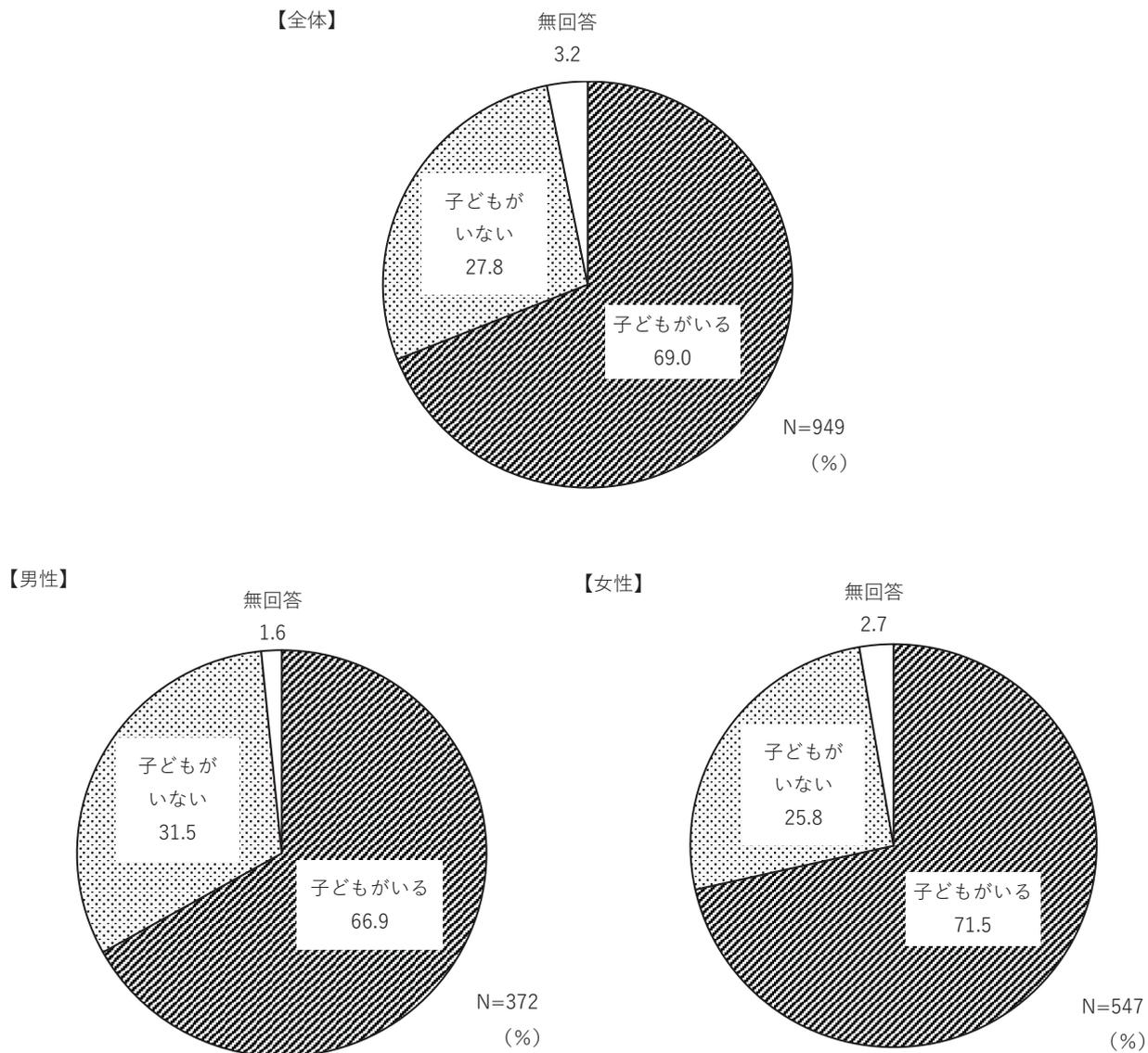
(10)母親の就労状況



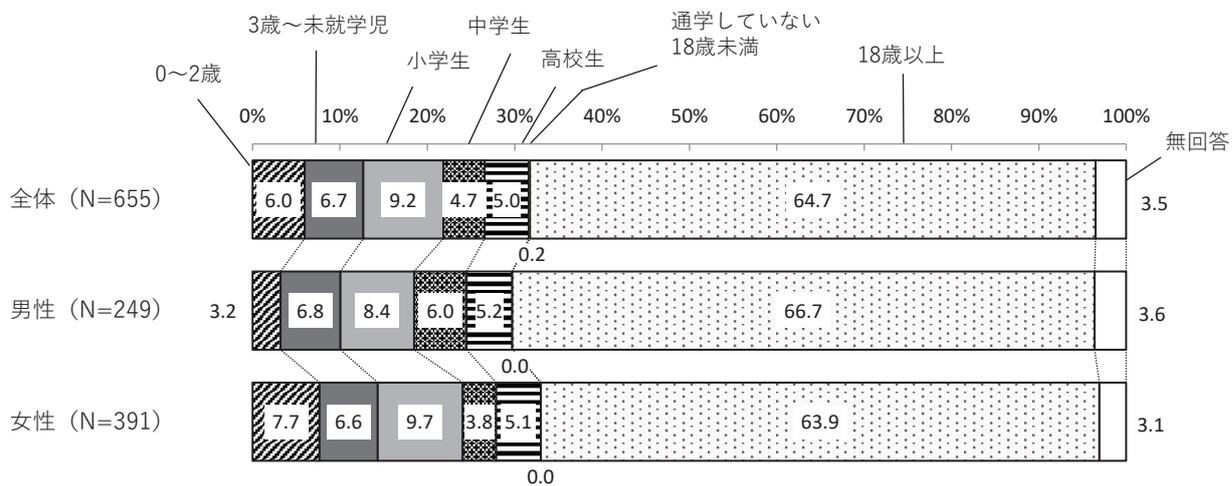
(11)最終学歴



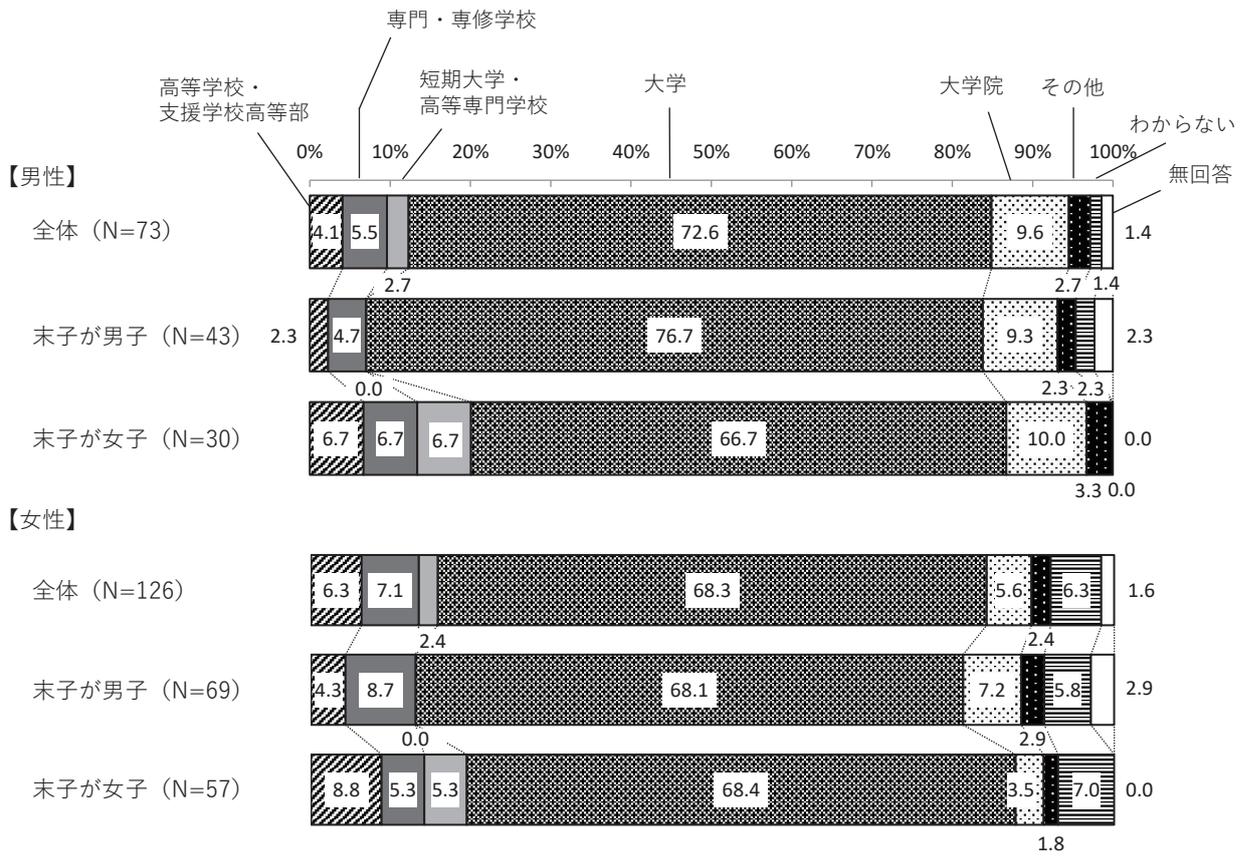
(12)子どもの有無



(13)末子の年代 ※子どもがいる人のみ

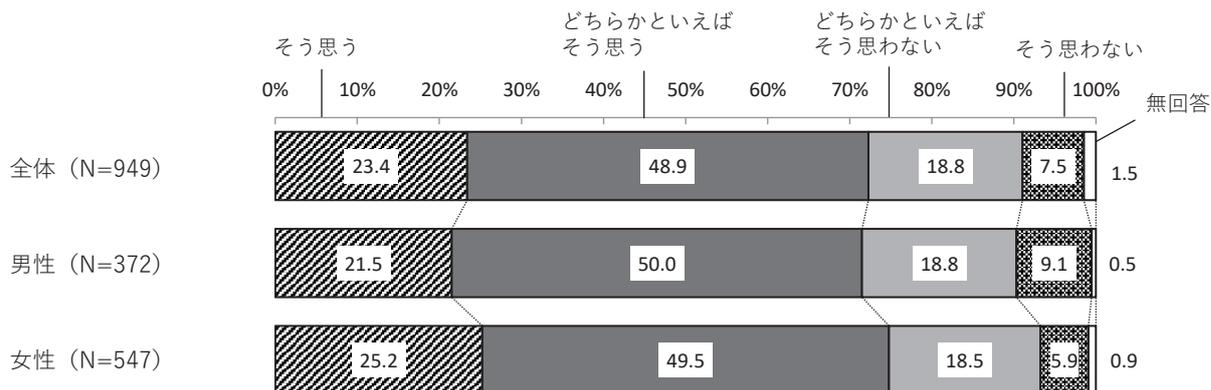


(14) 末子に受けさせたい教育程度 ※末子が高校生以下の人のみ

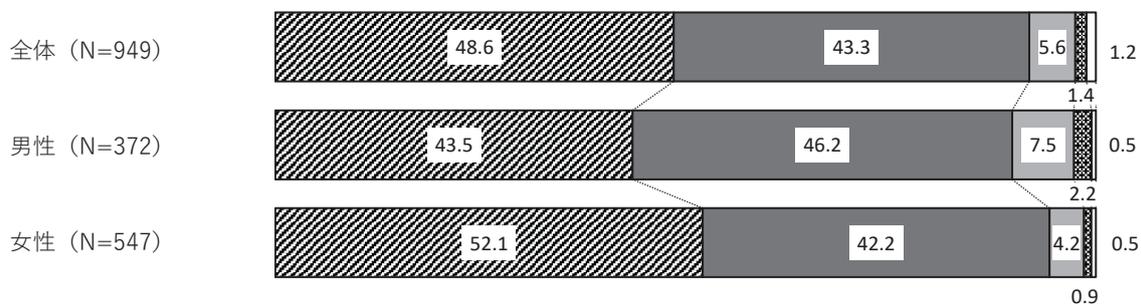


## (15) 自己肯定感・生きづらさ

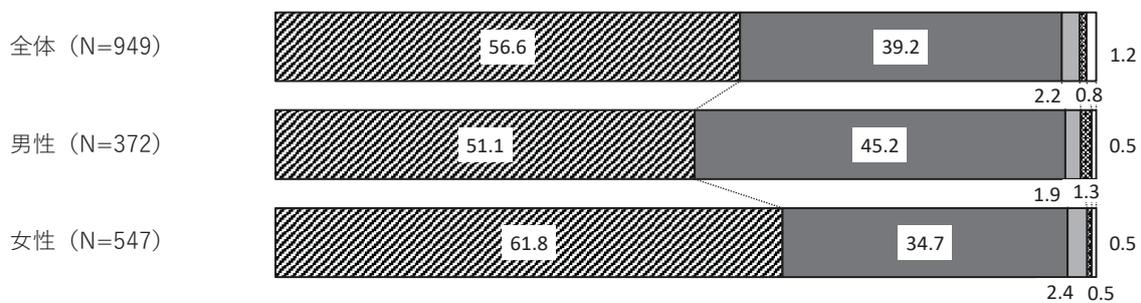
(ア) だいたいにおいて、自分に満足している



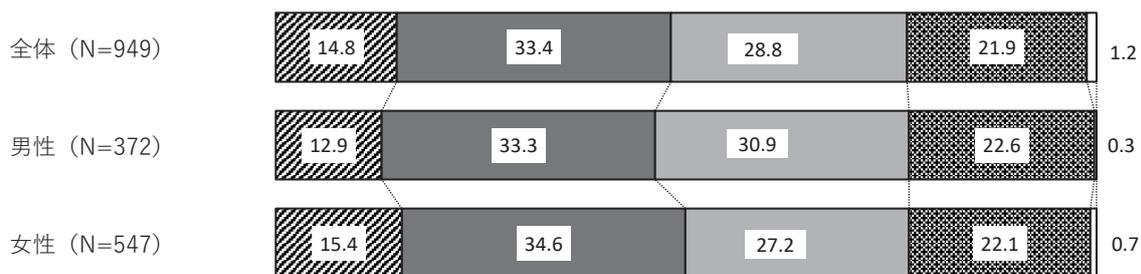
(イ) 困った時は人に助けを求めてもいい



(ウ) 自分のことは自分が決めていいと思う

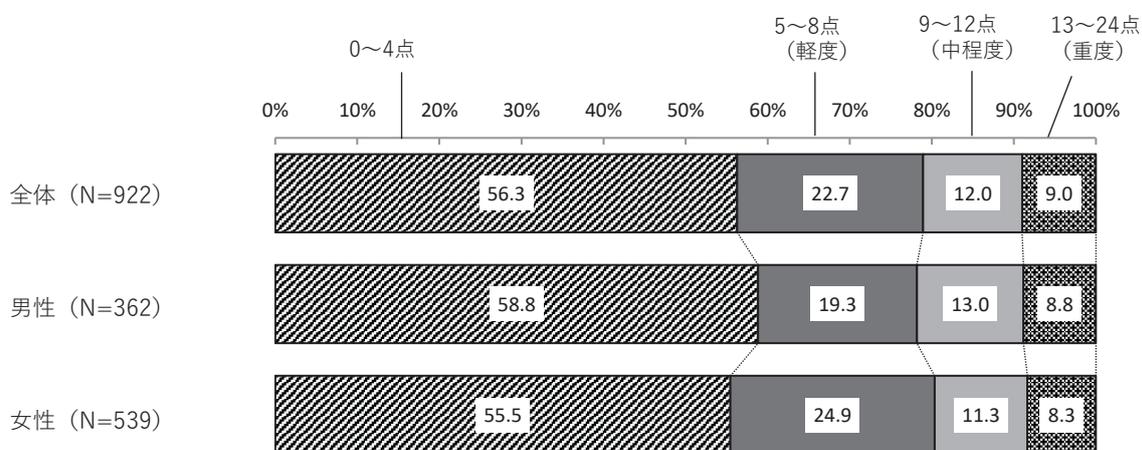


(エ) なんとなく、生きづらさを感じる



## (16)心の健康状態

- 過去1か月間の心の状態を「神経過敏に感じた」「絶望的だと感じた」「そわそわしたり、落ち着きがなく感じた」「気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じた」「何をするのも骨折りだと感じた」「自分は価値のない人間だと感じた」の6つの項目でたずねた。
- 6項目のそれぞれについて「まったくない」を0点、「少しだけ」を1点、「ときどき」を2点、「たいてい」を3点、「いつも」を4点とし、6つの得点を足し合わせた数値はK6（ケイ・シックス）と呼ばれ、心の健康状態（メンタルヘルス）を測定する尺度として標準的に使用されている。
- 最小値は0点（6項目すべてに「まったくない」と回答）、最大値は24点（6項目すべてに「いつも」と回答）で、値が大きいほど、心の健康状態が悪い（精神的な不調を感じている度合いが強い）ことを表している。
- K6得点が5～8点は精神的な不調の度合いが「軽度」、9～12点は「中程度」、13～24点は「重度」とされている。





## 第2部 調査結果の要約



## 第2部 調査結果の要約

### 第1章 男女の役割や地位に関する意識について

#### 1 男女の地位の平等感（問1）

- ・ 全体で見ると、“男性優遇”は「政治の場」（83.7%）が最も高く、次いで「社会通念・慣習など」（76.8%）、「社会全体」（75.0%）。
- ・ “平等”の回答は、「学校教育の場」（50.4%）が最も高い。それ以外は全て“平等”を“男性優遇”が上回っている。
- ・ 「家庭生活」が“男性優遇”と回答した女性は約6割。男性より21.2ポイント高く、8つの分野の中で最も男女差が大きい。

#### 2 性別役割分担意識（問2）

- ・ “反対”の割合は、全体で65.1%、男性で58.6%、女性で70.2%。
- ・ 男女ともに全ての年代で“反対”が“賛成”を上回っている。
- ・ 家事専業、無職の女性は、他の働き方の女性と比べ、“賛成”と回答した割合が高く、家事専業の女性では3割を超えている。
- ・ 前回調査（令和元（2019）年度調査）※と比較すると、“賛成”は全体・男性・女性全てで10ポイント前後減少、反対は全体で12.2ポイント、男性で8.9ポイント、女性で14.6ポイント上昇している。

※令和元年度「仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査」（実施主体：仙台市、（公財）せんだい男女共同参画財団）

### 第2章 女性活躍について

#### 1 女性が働くことについての考え方（問3）

- ・ 男女ともに約6割が「結婚・出産に関わらず、働く方がよい」（“就業継続型”）と回答しており、「出産を機会に勤務先を辞め、育児が一段落した後、再び働く方がよい」（“中断再就職型”）を合わせると8割を超えている。
- ・ 男女ともに性別役割分担意識に“賛成”と回答した人は、“中断再就職型”と回答した割合が“就業継続型”を上回っているが、「出産を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい」「結婚を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい」「女性は働かない方がよい」（“専業主婦型”）を支持する割合が高いわけではない。
- ・ 前回調査と比較すると、全体・男性・女性全てで“就業継続型”が増加し、“中断再就職型”が減少している。

#### 2 指導的地位に女性が少ない理由（問4）

- ・ 性別にみると、女性は「子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから」（58.1%）、男性は「子育て・介護の支援などの公的サービスが十分ではないから」（43.0%）が最も高い。
- ・ 「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないから」「女性自身がリーダー的立場になることを希望しないから」といった女性個人に原因があるとする理由は男性の方が高く、「子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから」「長時間労働の改善が十分ではないから」といった環境面に原因があるとする理由は女性の方が高い。

## 第3章 ワーク・ライフ・バランスなどについて

### 1 生活の中で各活動に費やしている時間（問5）

- ・ 仕事、学校時間（現状）は、男性9時間14分、女性7時間52分で、男性の方が1時間22分長い。
- ・ 仕事や学校がある日も無い日も、家事及び育児、介護の時間（現状）は女性の方が男性より長い。
- ・ 仕事や学校がある日も無い日も、睡眠時間及び自由時間（現状）は女性の方が男性より短い。
- ・ 家事及び育児、介護の時間を「長くしたい」割合は男性の方が高く、「短くしたい」割合は女性の方が高い。

### 2 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由（問6）

- ・ 「特に変化はない」と回答した割合は男性では4割を超え、女性（23.5%）よりも高くなっている。
- ・ 仕事や働き方に変化があった理由として、全体、男女ともに「家事や育児などに時間をとりたかったため」が半数を超え、最も高い。

### 3 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由（問7）

- ・ 全体の2.2%、男性の1.4%、女性の2.7%が“変化あり”と回答している。

### 4 希望する介護者（問8）

- ・ 全体、男女ともに「ヘルパーなどの介護サービスの人」と回答した割合が最も高い（全体：68.0%、男性：57.5%、女性：76.4%）。
- ・ 「配偶者」と回答した割合は、男性が女性の約3倍となっている（男性：21.2%、女性：7.1%）。

## 第4章 男性による男女共同参画の推進について

### 1 男性が主体的に男女共同参画推進に取り組むために必要なこと（問9）

- ・ 全体、男女ともに「性別によらず自分らしく生きるための教育を行うこと」と回答した割合が最も高く（全体：48.8%、男性：44.9%、女性：53.0%）、次いで「家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画できるよう、本人の意識向上や、周囲の理解促進を図ること」と回答した割合が高い（全体：45.0%、男性：40.6%、女性48.6%）。

### 2 男性の家事等への参画促進のために必要なこと（問10）

- ・ 全体及び女性では「性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育をすること」と回答した割合が最も高く、男女で大きな差がみられた（全体：46.2%、男性：34.7%、女性：55.2%）。
- ・ 性・末子の年齢別にみると、「家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と回答した割合は、0歳から未就学児の子どもがいる女性が他の年齢の子どもがいる女性に比べて高く、末子の年齢が上がるにつれて低くなっている。
- ・ 「労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること」と回答した割合は、0歳から未就学児の子どもがいる女性が他の年齢の子どもがいる女性に比べて高く、半数を超えている。

## 第5章 性の多様性について

### 1 性の多様性に関する言葉の認知度（問11）

- ・ 「言葉も意味も知っている」と回答した割合は、「レズビアン」「ゲイ」では9割を超え、「カミングアウト」で約8割となっている。
- ・ 「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」では“知っている”（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが意味は知らない」の合計）の割合は9割前後だが、「言葉は知っているが意味は知らない」が約2割となっている。
- ・ 「クエスチョニング」「アウティング」については、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が2割を下回っており、「全く知らない」が6割を超えている。

### 2 性の多様性の理解促進に向けて必要な取り組み（問12）

- ・ 全体、男女ともに上位3項目は「自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う」「自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する」「多様な人材が働きやすい職場環境づくりに役立つよう企業向けリーフレットの配布などを行う」。

## 第6章 セクシュアル・ハラスメントについて

### 1 セクシュアル・ハラスメントの被害経験（問13）

- ・ セクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した割合は、女性が約2.5人に1人（41.0%）、男性が約8人に1人（12.1%）で、女性の被害経験率は男性の3倍強となっている。

### 2 過去5年以内のセクシュアル・ハラスメントの被害経験（問14）

- ・ これまでセクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人のうち、過去5年以内に「受けたことがある」と回答した割合は男性が42.2%、女性が32.6%で、男性の方が高い。

### 3 セクシュアル・ハラスメントの内容（問15）

- ・ 女性では「性的な話や冗談を聞かされた」と回答した割合が最も高く、次いで「異性との交際、結婚や出産など、プライベートなことについて不必要に聞かれた」「容姿や年齢について不必要に話題にされた」の順となっている。

### 4 セクシュアル・ハラスメント被害の相談（問16）

- ・ セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人のうち、「相談した」と回答した割合は全体で30.9%で、約7割はどこ（だれ）にも相談していない。

## 第7章 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

### 1 ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識（問17）

- ・ 身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力・性的暴力のいずれの行為も男性の方が「どんな場面でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低い。
- ・ 男女の認識の差が最も大きいのは「大声で怒鳴る」（17.0ポイント差）、次いで「必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない」（12.7ポイント差）、「外出や携帯電話・メールなどを細かく監視する」（12.4ポイント差）となっている。
- ・ 性別役割分担意識に“賛成”の男性と“反対”の男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合の差が最も大きかった項目は「相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる」で、16.6ポイントの差がみられる。

### 2 DVに関する法律や相談窓口等の認知度（問18）

- ・ “知っている”の割合は、「各警察署」（87.9%）が最も高く、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」（77.4%）、「区役所（または総合支所）」（77.1%）、「仙台市『女性への暴力相談電話』」（53.7%）と続く。

### 3 配偶者からの被害経験（問19）

- ・ これまでに「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為を1度でも受けたことがある人をまとめると、“あった”（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）と回答した人が34.3%となっている。
- ・ いずれかの行為について被害経験が“あった”と回答した人の割合を性別にみると、男性が約3.7人に1人（27.2%）、女性が約2.6人に1人（38.5%）と、女性の方が11.3ポイント高くなっている。
- ・ 男性の7.3%、女性の18.3%は「何度もあった」と回答している。

### 4 過去5年以内の配偶者からの被害経験（問20）

- ・ 「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為について、被害を受けたことが「この5年間にあった」と回答した人は38.1%となっている。
- ・ それぞれの行為についてみると、「身体的暴行」が9.0%、「心理的攻撃」が33.2%、「経済的圧迫」が7.5%、「性的強要」が7.1%となっており、「心理的攻撃」の被害経験者の割合が最も高くなっている。

### 5 配偶者からの被害の相談先（問21）

- ・ 「家族や親戚に相談した」「友人・知人・職場の同僚や上司に相談した」「相談窓口で相談した」のいずれかを選択した人を「相談した」にまとめると、配偶者から過去5年以内に被害を受けたことがある人のうち、「相談した」が35.3%、「相談しなかった」が57.8%となっている。

## 第8章 性暴力について

### 1 「性的同意」という言葉の認知度（問22）

- ・ 全体、男女ともに、「性的同意」という言葉を“知っている”（「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計）と回答した人の割合は9割を超えているが、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が2割前後となっている。
- ・ 性別にみると、「言葉も内容も知っている」と回答した割合は女性の方が高い。

### 2 無理やりに性交された経験（問23）

- ・ 全体では、「1回あった」が3.5%、「2回以上あった」が4.0%で、被害経験のある人は7.5%となっている。
- ・ 性別にみると、被害経験のある男性は2.7%、女性は10.8%となっており、女性の約10人に1人が被害経験がある。

### 3 加害者との面識（問24）

- ・ 全体及び女性では「よく知っている人だった」と回答した割合が最も高く、7割を超えている。

### 4 無理やり性交された被害の相談先（問25）

- ・ 「家族や親戚に相談した」「友人・知人・職場の同僚や上司に相談した」「学校の先生・養護教員・スクールカウンセラーに相談した」「相談窓口相談した」のいずれかを選択した人を「相談した」にまとめると、無理やり性交された被害を受けたことがある人のうち、「相談した」は22.5%、「相談しなかった」は76.1%となっている。

## 第9章 仙台市の今後の取り組みについて（問26）

- ・ 全体では、「子どもの頃から人権の尊重に向けたジェンダー平等意識を養うための教育を充実させる」（52.6%）が最も高く、半数を超えている。次いで、「保育サービスの拡充と多様な子育て支援を行う」（31.8%）、「一人ひとりのニーズに合わせた多様な働き方への支援を行う」（31.7%）となっている。



## 第3部 調査結果



# 第3部 調査結果

## 第1章 男女の役割や地位に関する意識について

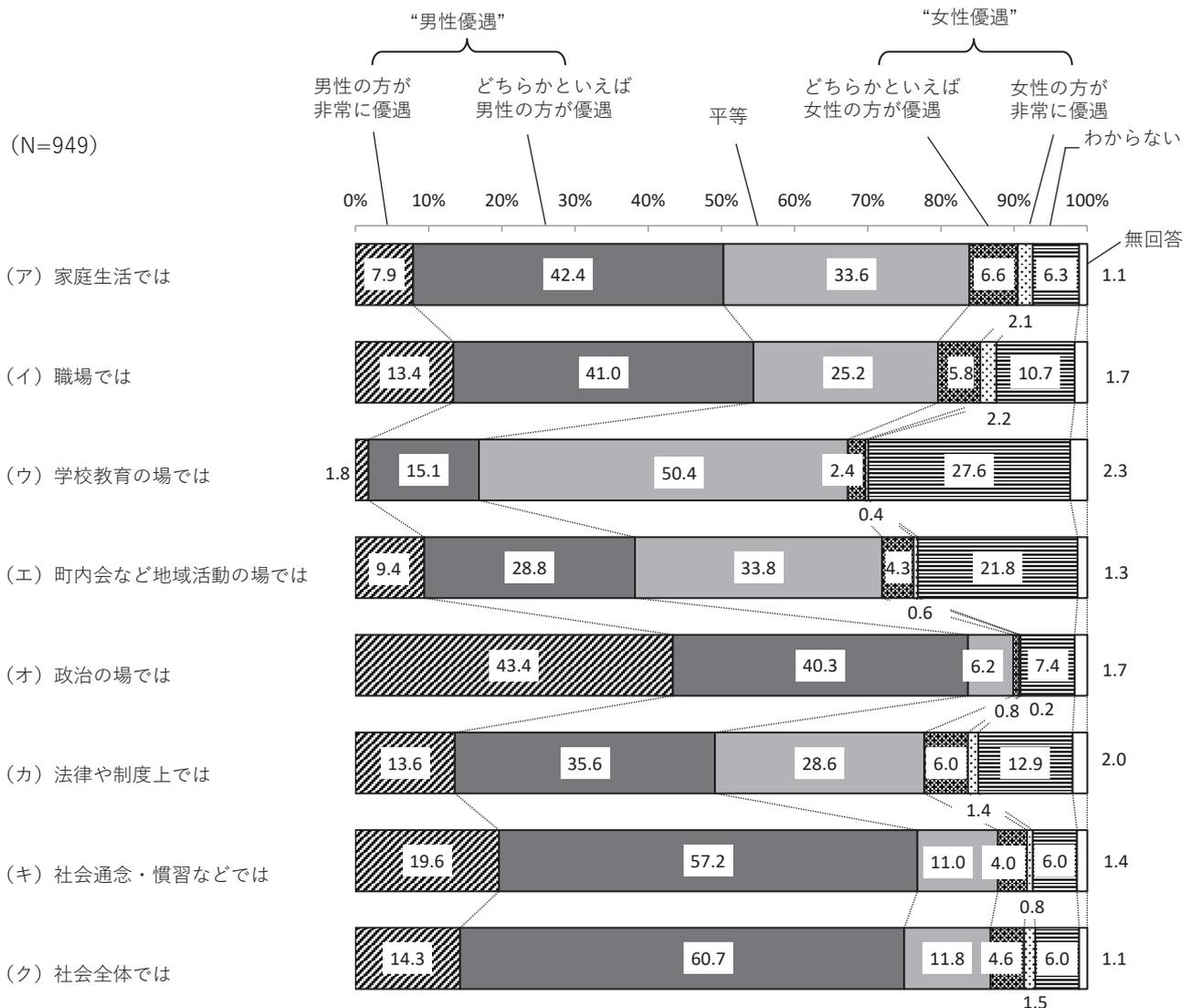
### 1 男女の地位の平等感

問1 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア)～(ク)のそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

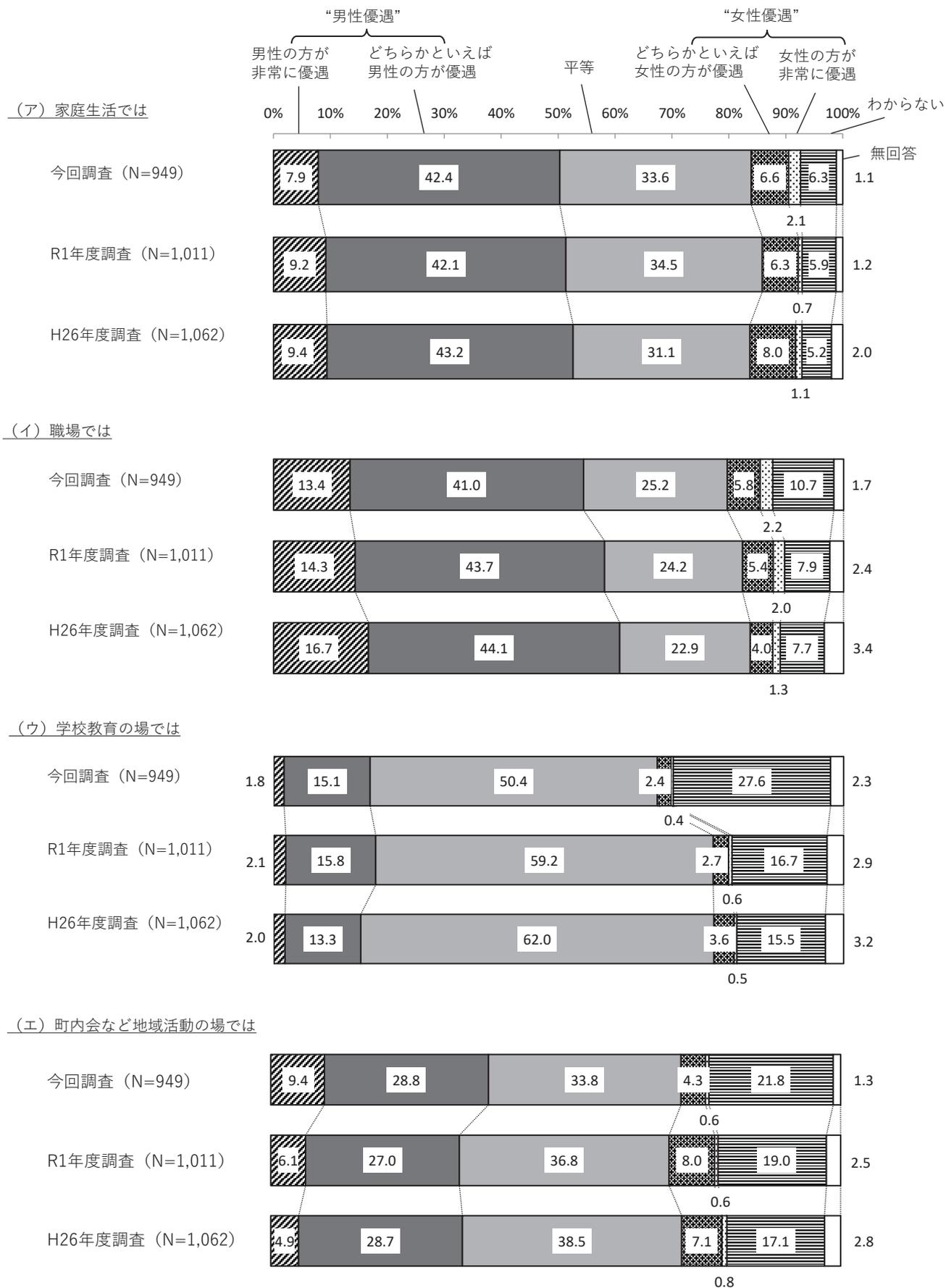
- 全体で見ると、“男性優遇”は「政治の場」(83.7%)が最も高く、次いで「社会通念・慣習など」(76.8%)、「社会全体」(75.0%)。
- “平等”の回答は、「学校教育の場」(50.4%)が最も高い。それ以外は全て“男性優遇”が“平等”を上回っている。

図表1-1-① 男女の地位の平等感



【参考】男女の地位の平等感 [経年比較]

図表 1 - 1 - ② 男女の地位の平等感 — 経年比較

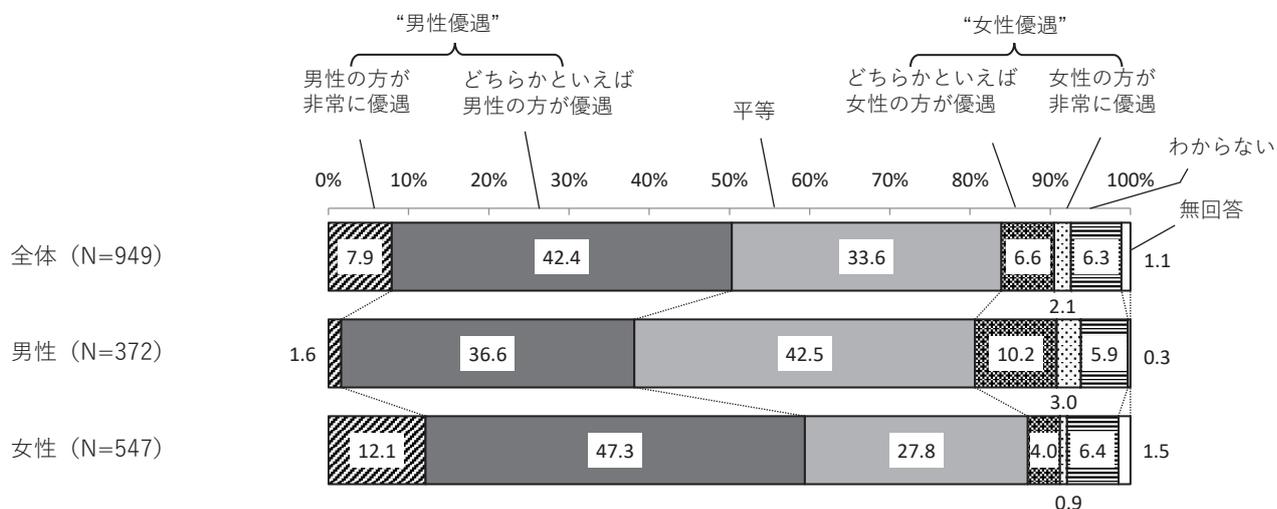




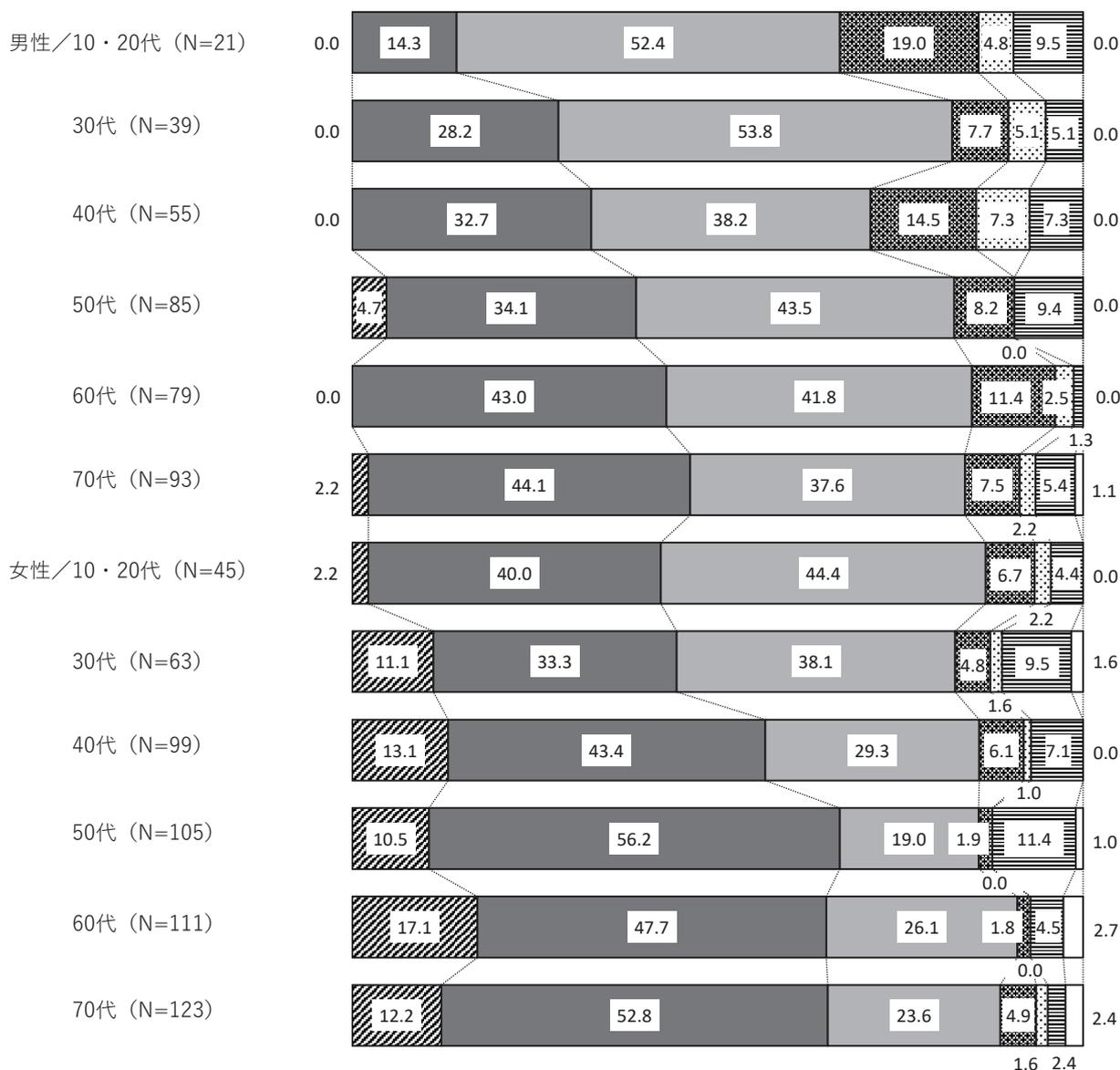
### (1)家庭生活における男女の地位の平等感

- 性別にみると、女性は“男性優遇”が約6割。男性より21.2ポイント高く、8つの分野の中で最も男女差が大きい。
- 性・年代別にみると、女性の50代～70代で“男性優遇”が6割を超えている。

図表 1-1-1-1-① 家庭生活における男女の地位の平等感 — 性別



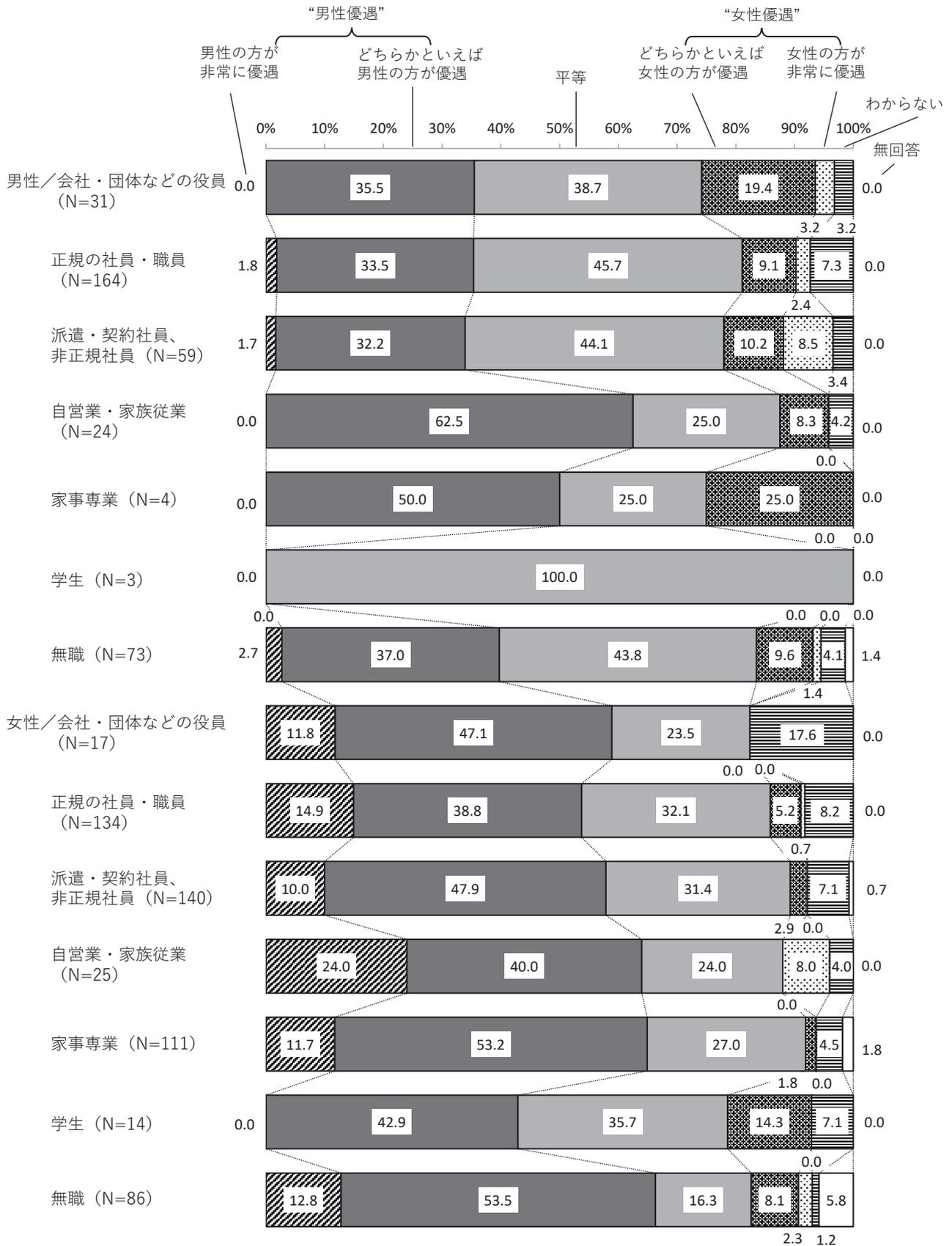
図表 1-1-1-1-② 家庭生活における男女の地位の平等感 — 性・年代別



【性・自分の働き方別】

- 家事専業、無職の女性は“男性優遇”と答えた割合が高く、いずれも6割を超えている。

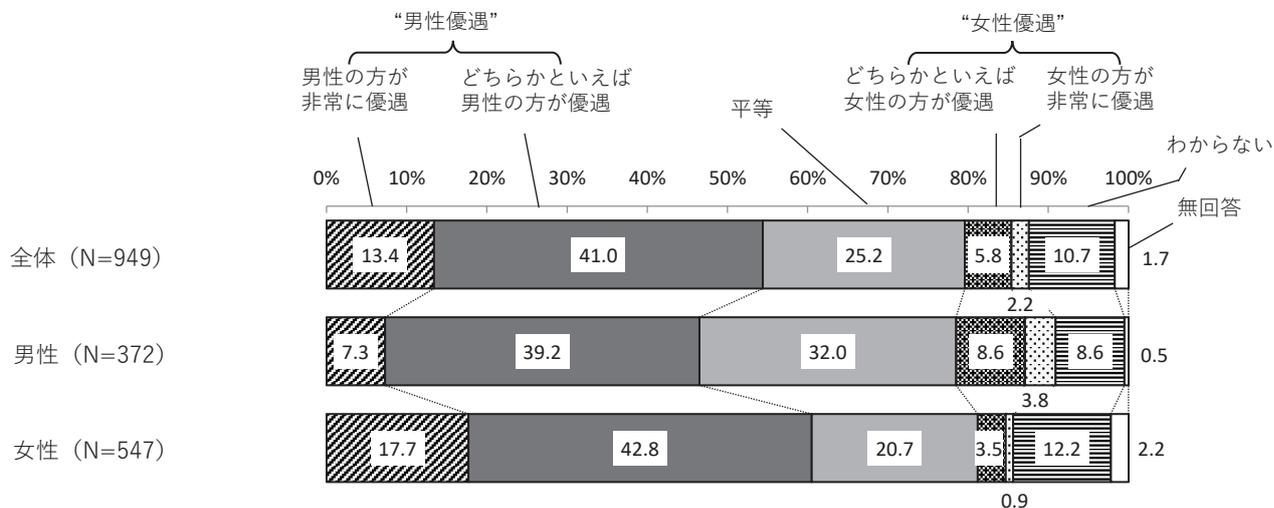
図表 1 - 1 - 1 - ③ 家庭生活における男女の地位の平等感 — 性・自分の働き方別



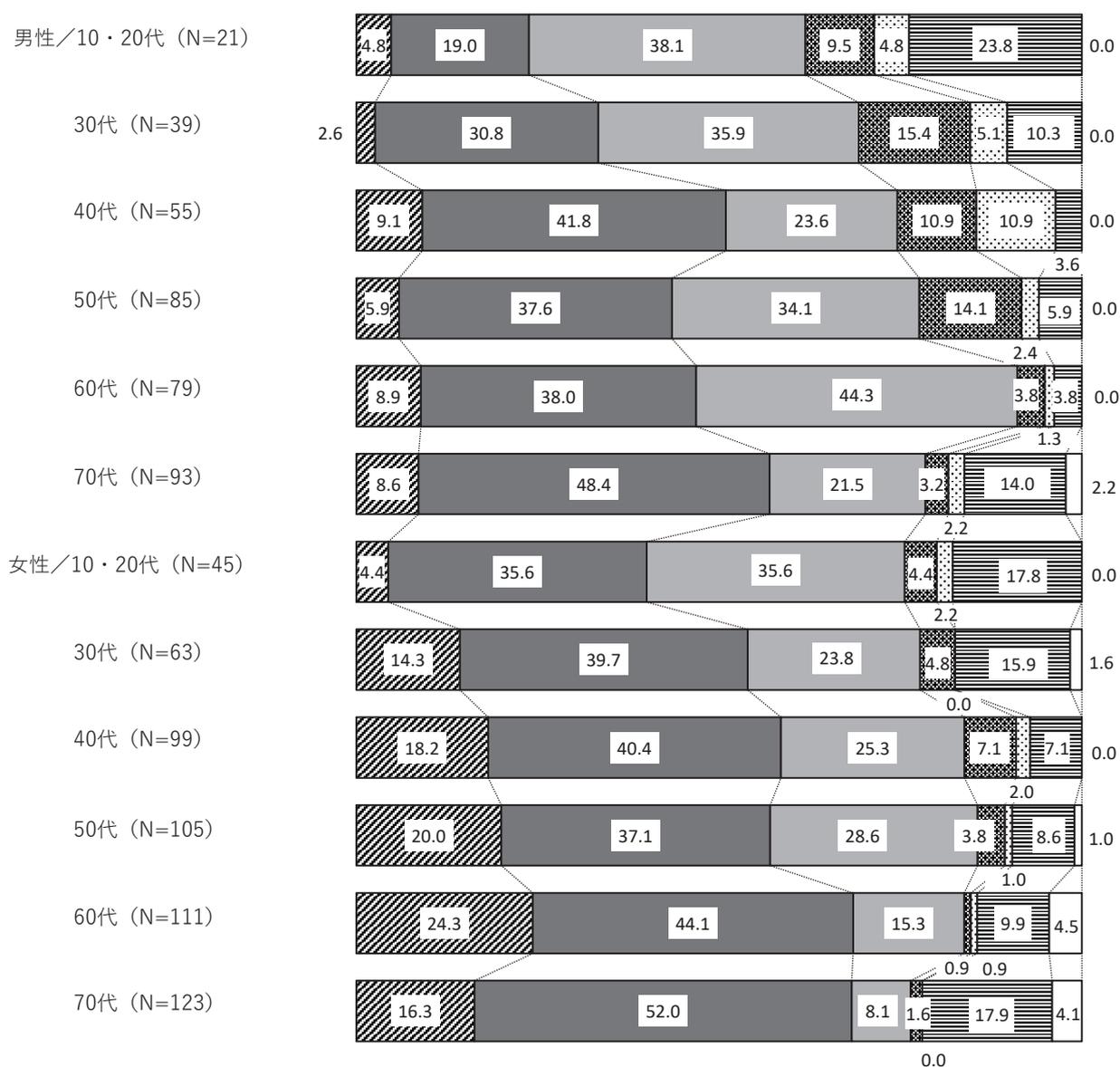
## (2)職場における男女の地位の平等感

- 性別にみると、女性は“男性優遇”が6割を超えている。
- 性・年代別にみると、“男性優遇”の割合は、男性の40代・70代、女性の30代～70代で半数を超え、女性の60代以上では約7割。

図表 1 - 1 - 2 - ① 職場における男女の地位の平等感 — 性別



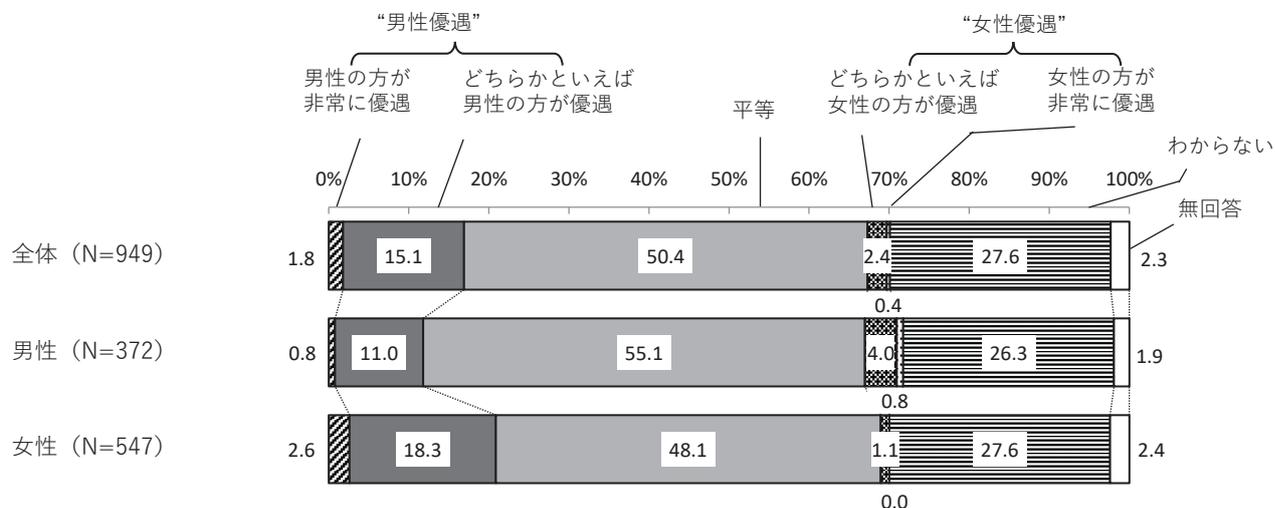
図表 1 - 1 - 2 - ② 職場における男女の地位の平等感 — 性・年代別



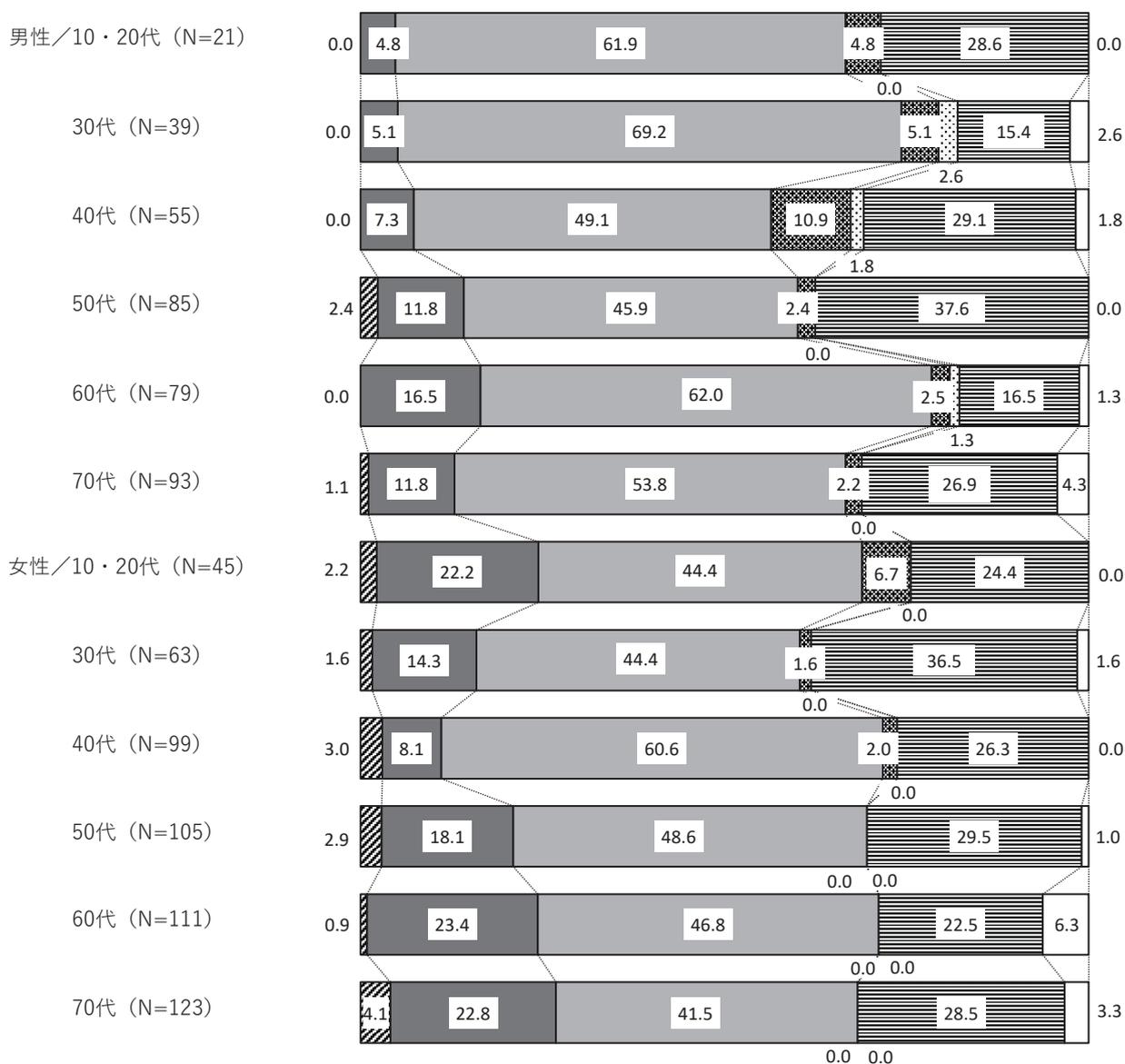
### (3)学校教育の場における男女の地位の平等感

- 性別にみると、男性、女性ともに“平等”が5割前後となっている。
- 性・年代別にみると、40代の女性は“平等”と答えた割合が女性の他の年代よりも高く、“男性優遇”と答えた割合が低い。

図表 1 - 1 - 3 - ① 学校教育の場における男女の地位の平等感 — 性別



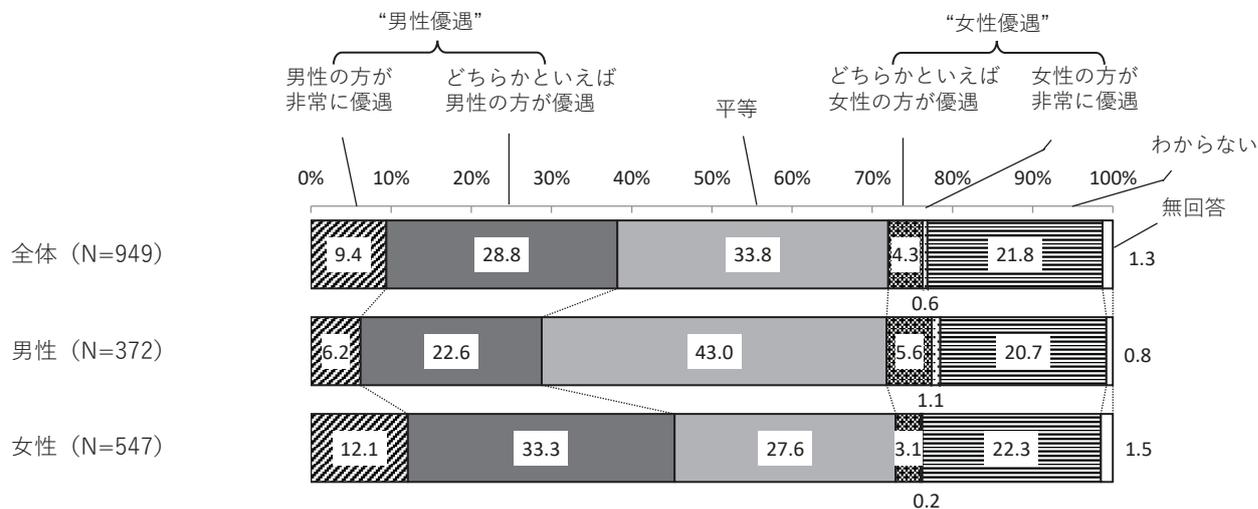
図表 1 - 1 - 3 - ② 学校教育の場における男女の地位の平等感 — 性・年代別



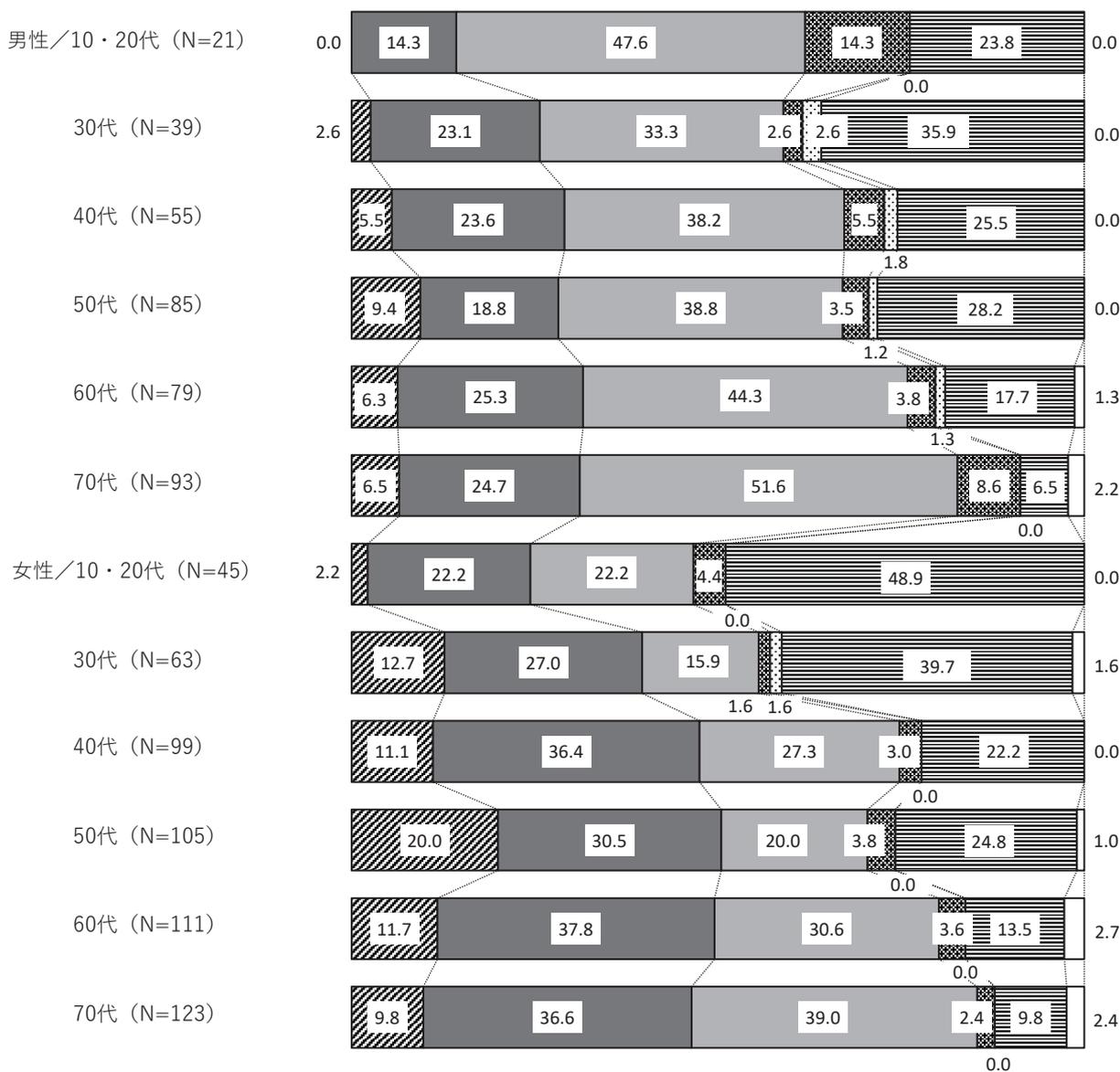
#### (4)町内会など地域活動の場における男女の地位の平等感

- 性別にみると、男性は“平等”が4割を超えているが、女性は“男性優遇”が4割を超えている。
- “男性優遇”の割合は、女性が男性より16.6ポイント高く、8つの分野の中で3番目に男女差が大きい。
- 性・年代別にみると、女性の40代～70代で“男性優遇”が5割前後と女性全体より高い。

図表 1 - 1 - 4 - ① 町内会など地域活動の場における男女の地位の平等感 — 性別



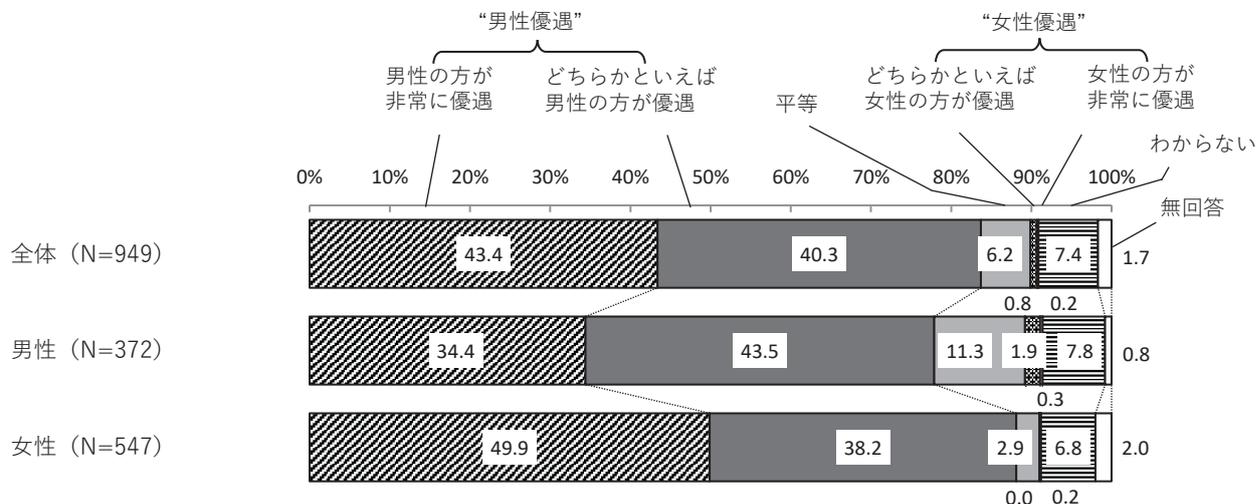
図表 1 - 1 - 4 - ② 町内会など地域活動の場における男女の地位の平等感 — 性・年代別



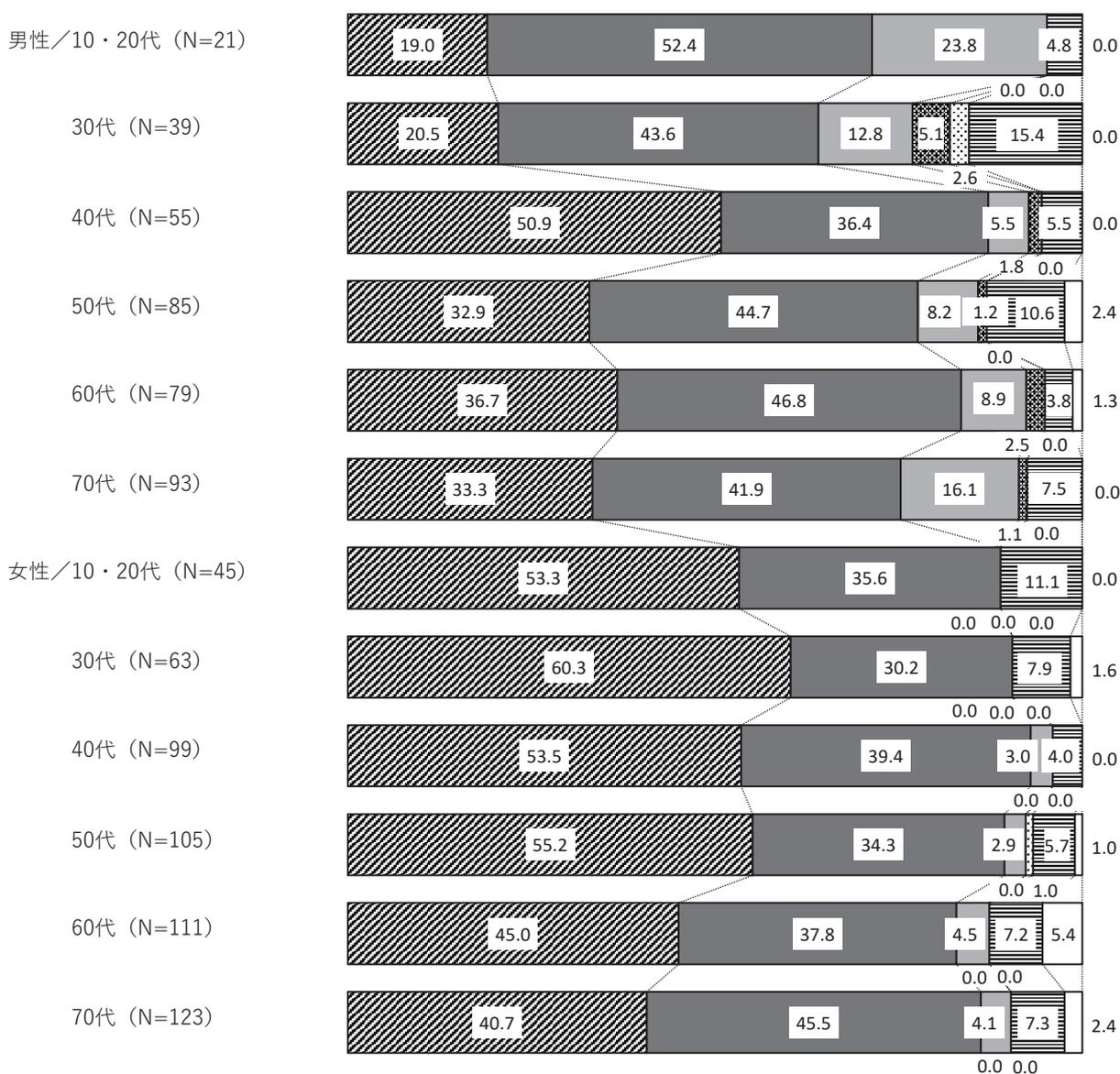
### (5)政治の場における男女の地位の平等感

- 全体、男女ともに8つの分野の中で“男性優遇”と回答した割合が最も高く、“平等”が最も低い。
- 特に女性は約9割が“男性優遇”と回答している。

図表 1 - 1 - 5 - ① 政治の場における男女の地位の平等感 — 性別



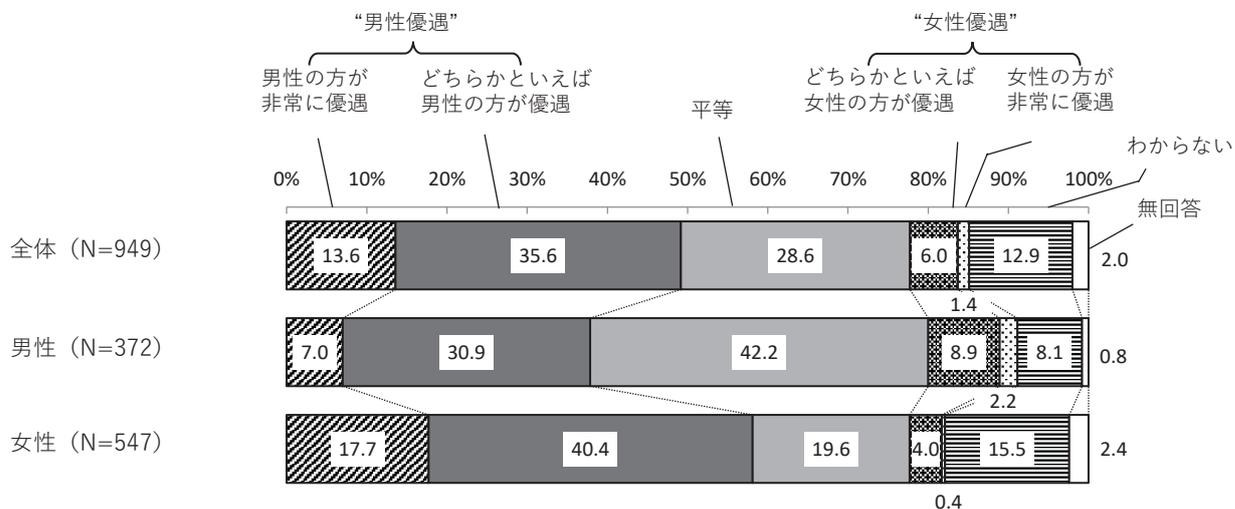
図表 1 - 1 - 5 - ② 政治の場における男女の地位の平等感 — 性・年代別



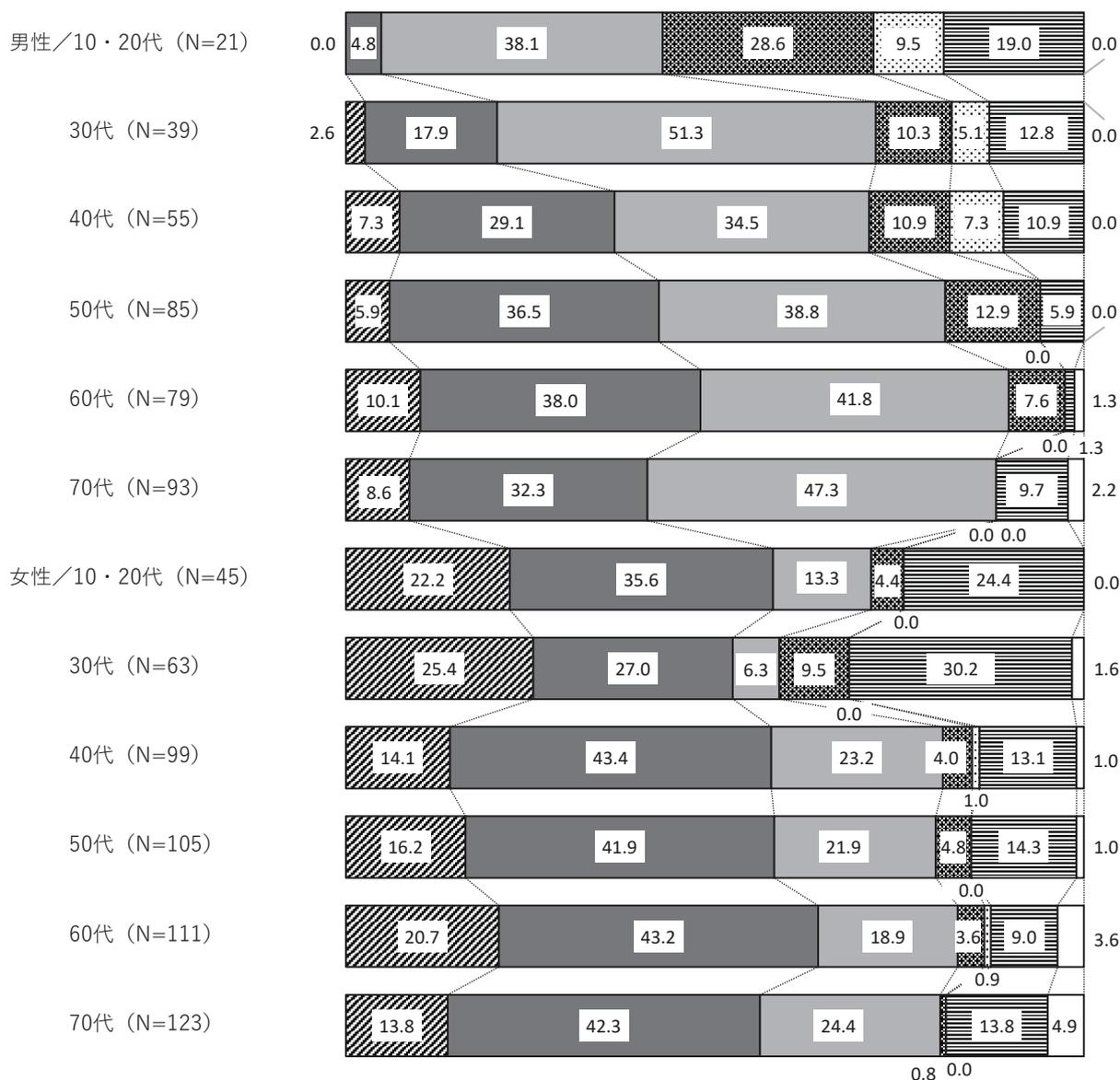
## (6)法律や制度上における男女の地位の平等感

- 性別にみると、男性は“平等”が4割を超えているが、女性は“男性優遇”が約6割となっている。
- “男性優遇”の割合は、女性が男性より20.2ポイント高く、8つの分野の中で2番目に男女差が大きい。
- “平等”の割合は、男性が女性より22.6ポイント高く、8つの分野の中で最も男女差が大きい。

図表1-1-6-① 法律や制度上における男女の地位の平等感 — 性別



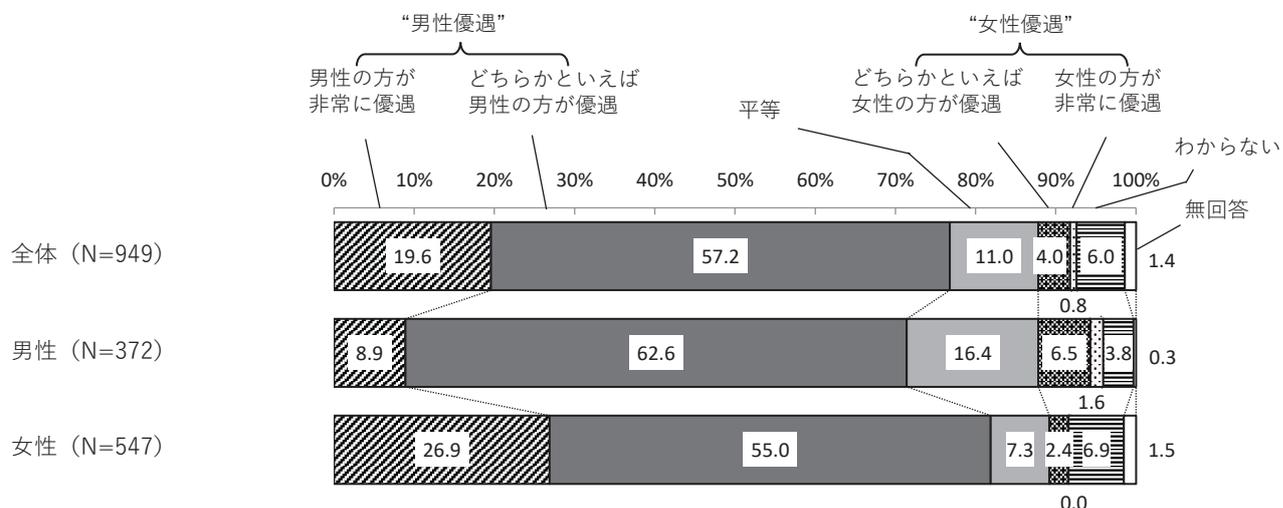
図表1-1-6-② 法律や制度上における男女の地位の平等感 — 性・年代別



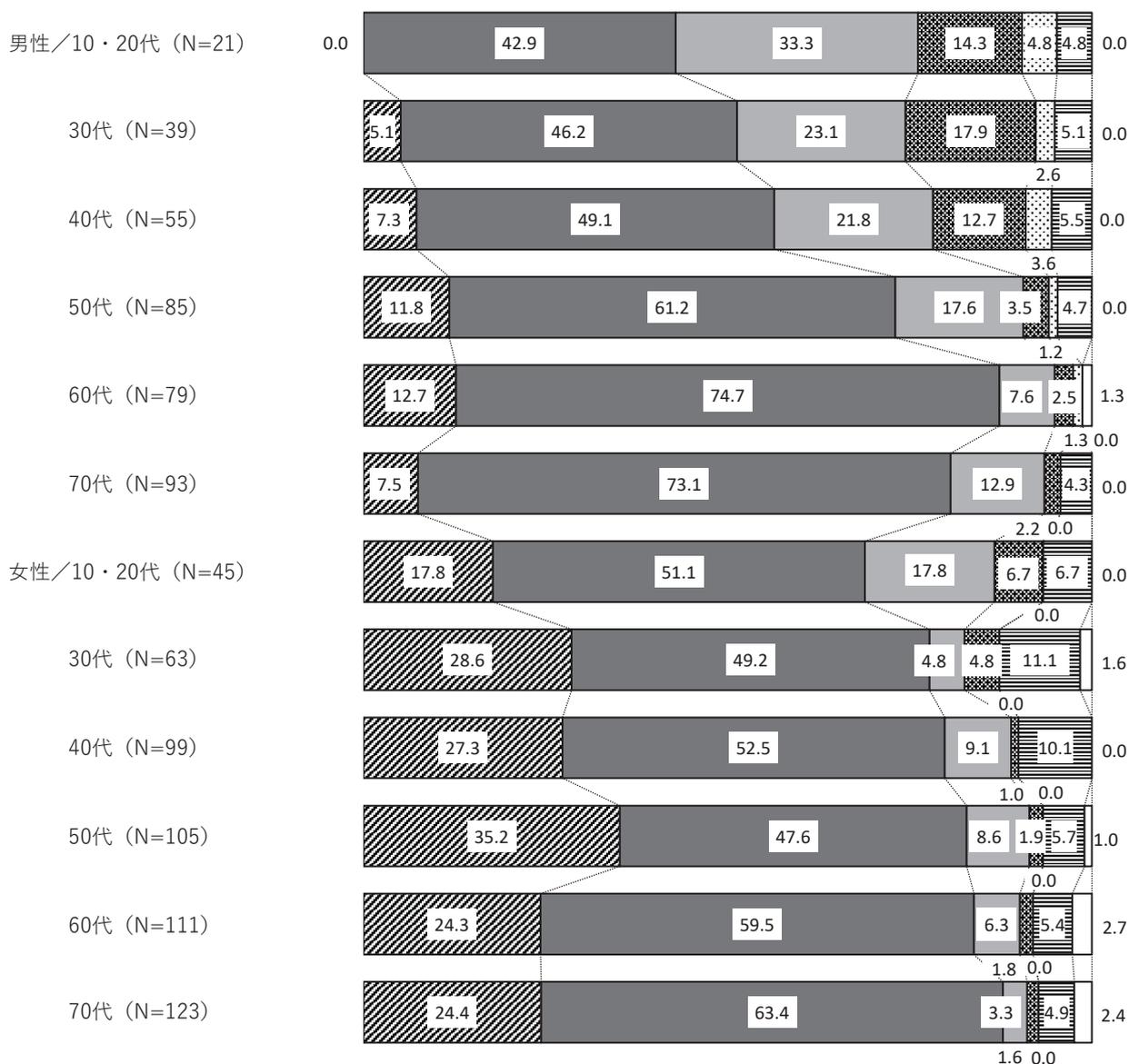
## (7)社会通念や慣習などにおける男女の地位の平等感

- 性別にみると、女性は“男性優遇”が8割を超えている。
- 性・年代別にみると、男性の60代、女性の30代～70代では“平等”が低く、10%を下回っている。

図表 1 - 1 - 7 - ① 社会通念や慣習などにおける男女の地位の平等感 — 性別



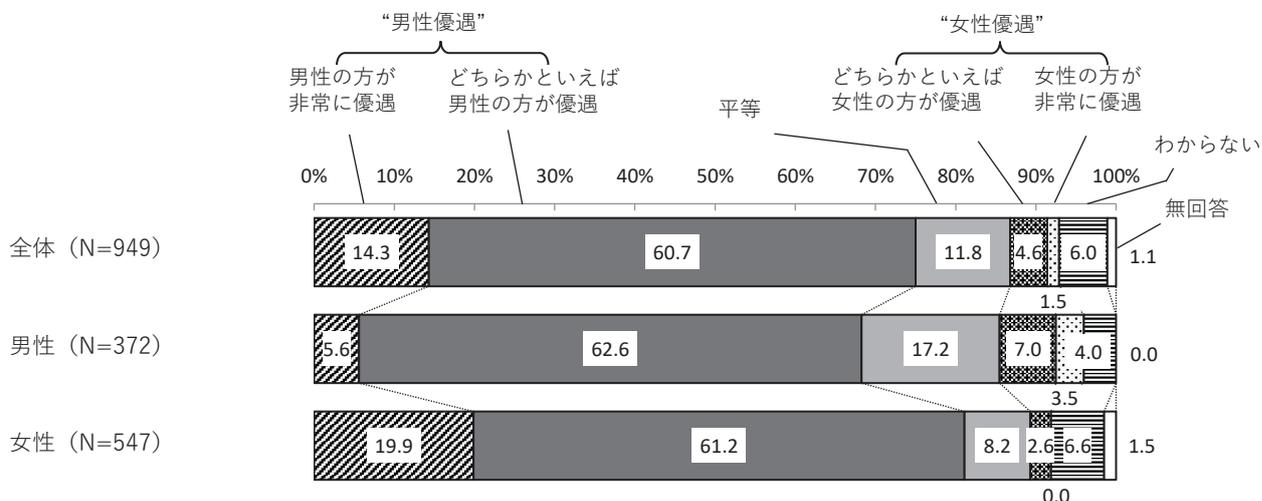
図表 1 - 1 - 7 - ② 社会通念や慣習などにおける男女の地位の平等感 — 性・年代別



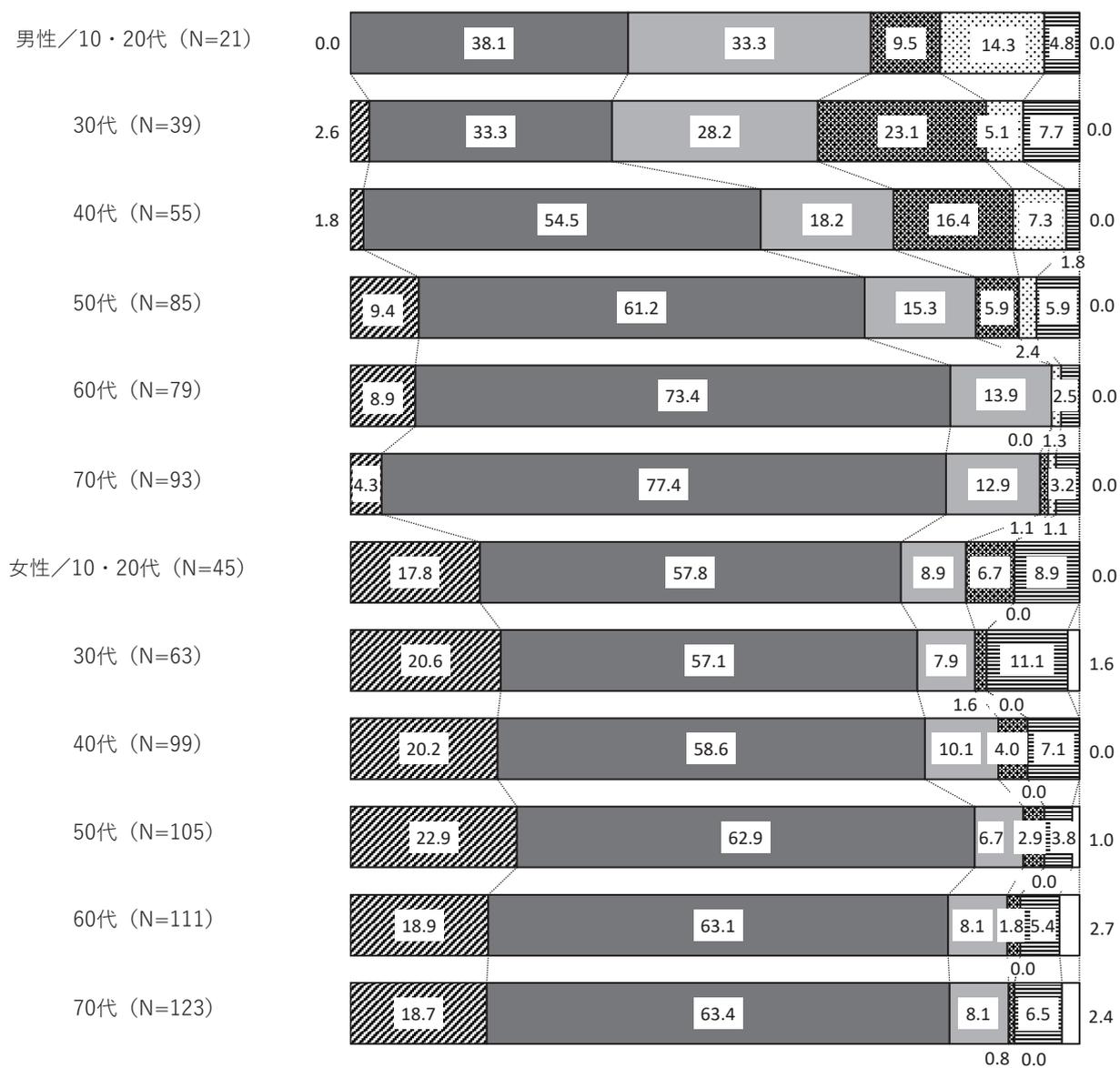
## (8)社会全体における男女の地位の平等感

- 性別にみると、女性は“男性優遇”が8割を超えている。
- 性・年代別にみると、男性では概ね年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっており、50代～70代で7割を超えている。

図表 1 - 1 - 8 - ① 社会全体における男女の地位の平等感 — 性別



図表 1 - 1 - 8 - ② 社会全体における男女の地位の平等感 — 性・年代別

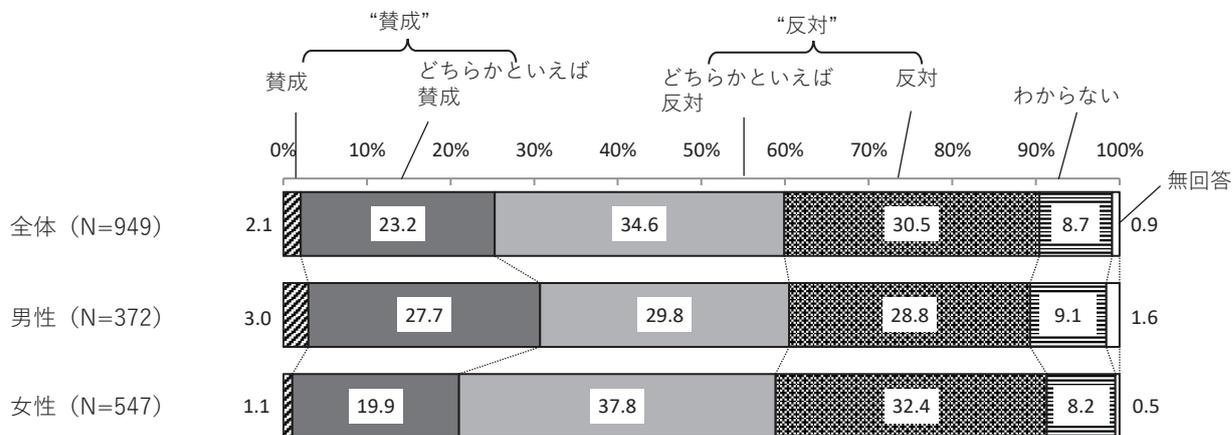


## 2 性別役割分担意識

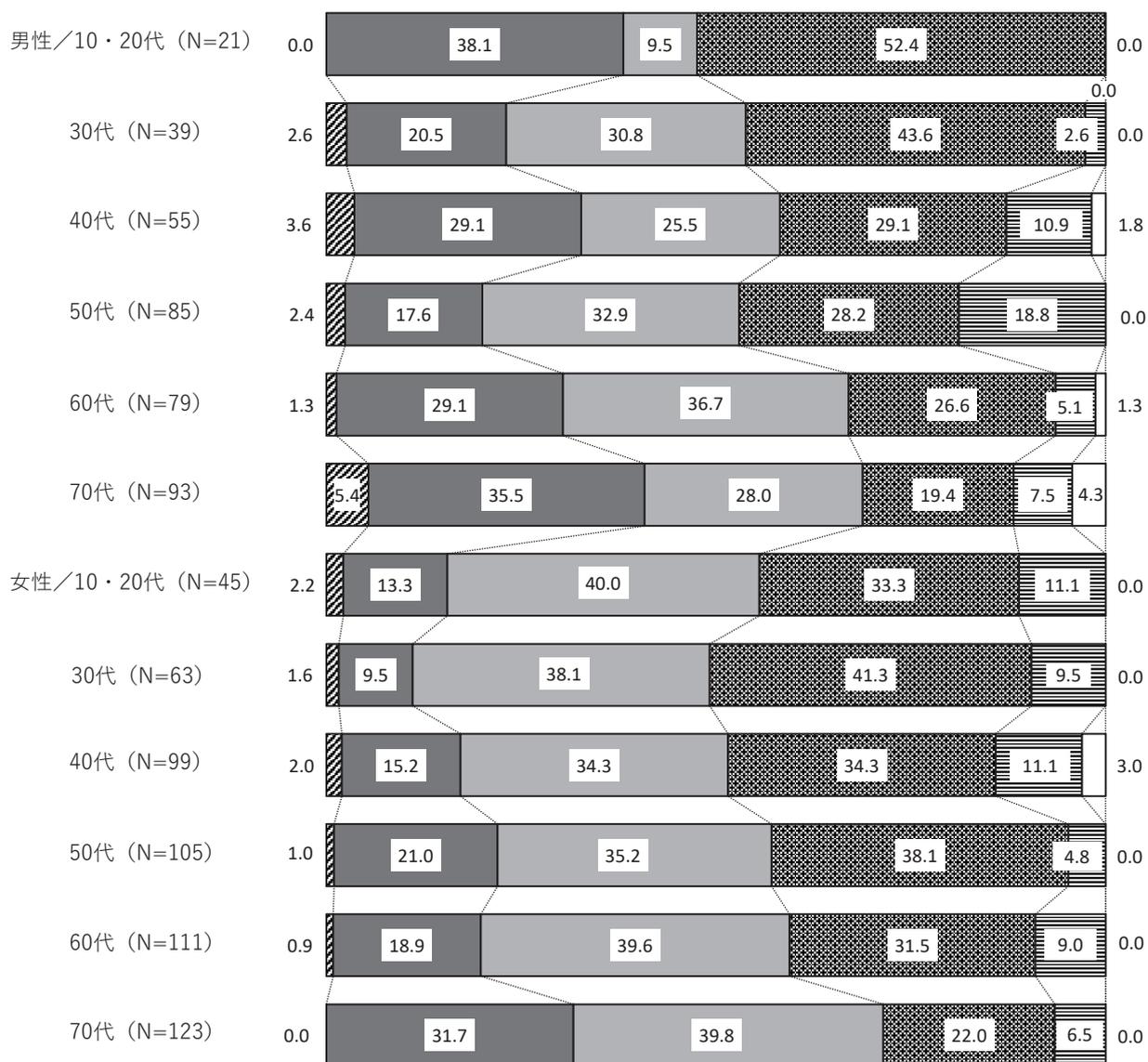
問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたの考えに近いものを次の中からお選びください。(○は1つ)

- “反対”の割合は、全体で65.1%、男性で58.6%、女性で70.2%。
- 性・年代別にみると、男女ともに全ての年代で“反対”が“賛成”を上回っている。

図表1-2-① 性別役割分担意識 — 性別



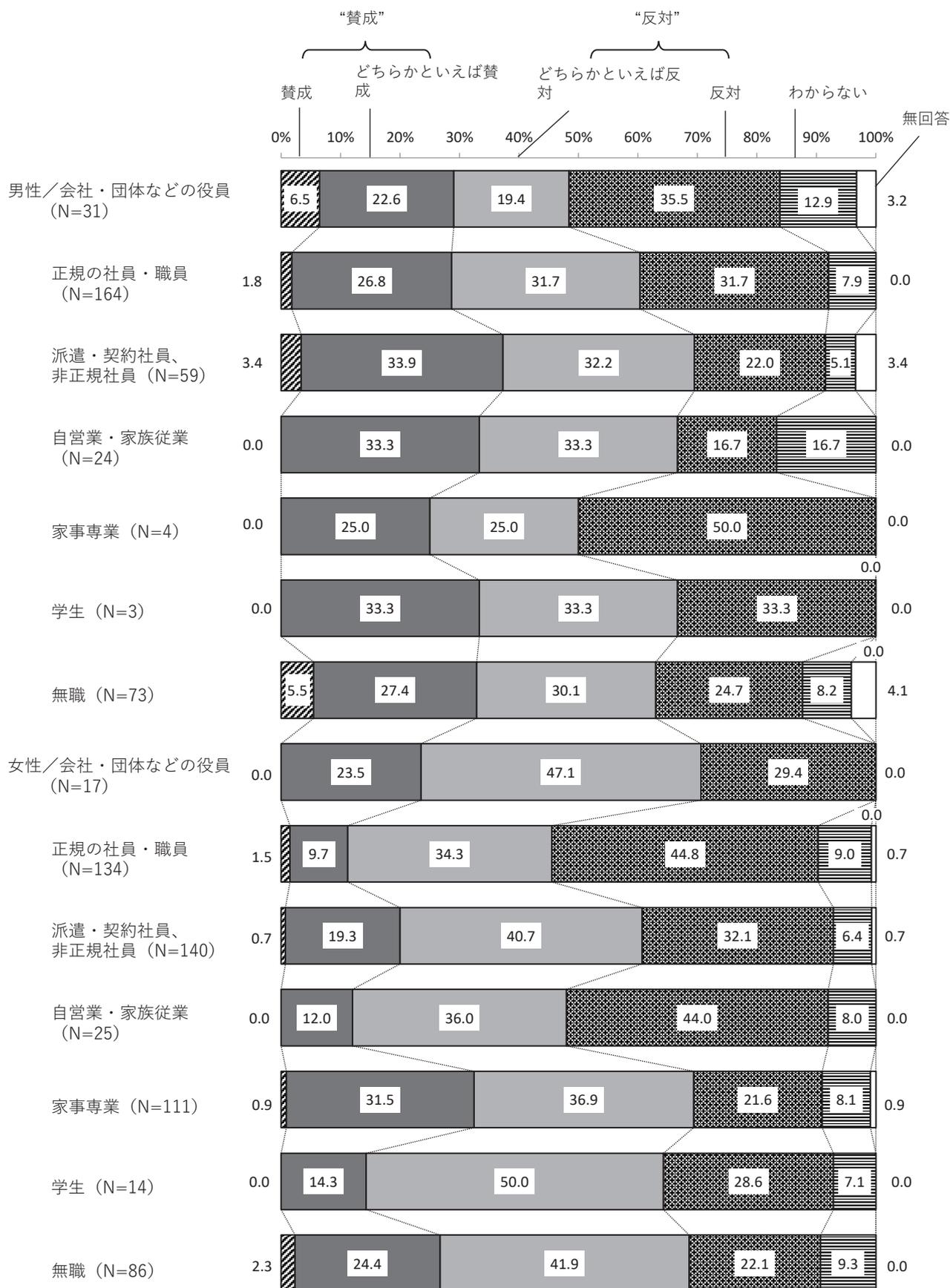
図表1-2-② 性別役割分担意識 — 性・年代別



【性・自分の働き方別】

- 家事専業、無職の女性は、他の働き方の女性と比べ、“賛成”と回答した割合が高く、家事専業の女性では3割を超えている。

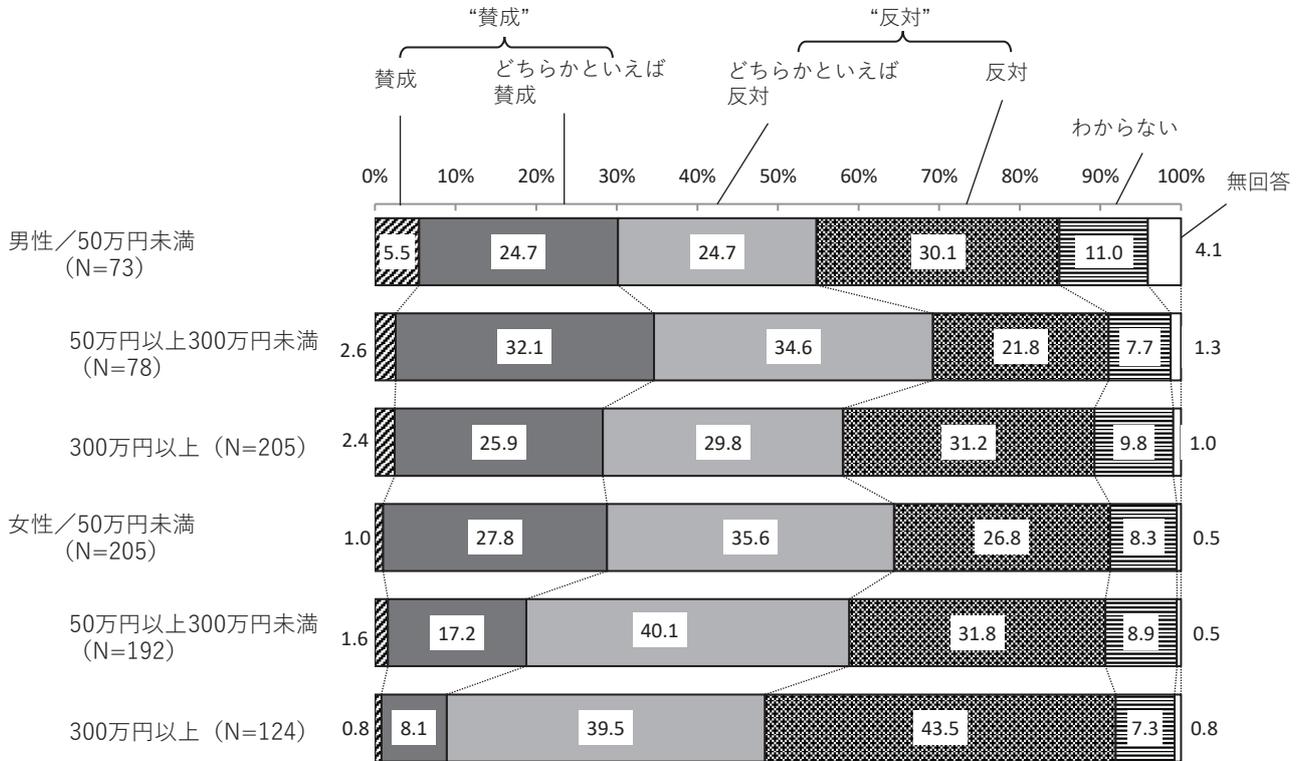
図表1-2-③ 性別役割分担意識 — 性・自分の働き方別



【性・本人の年収別】

- 個人年収が300万円以上の女性は、300万円未満の女性と比べ、“賛成”と回答した割合が低く、“反対”と回答した割合が高い。

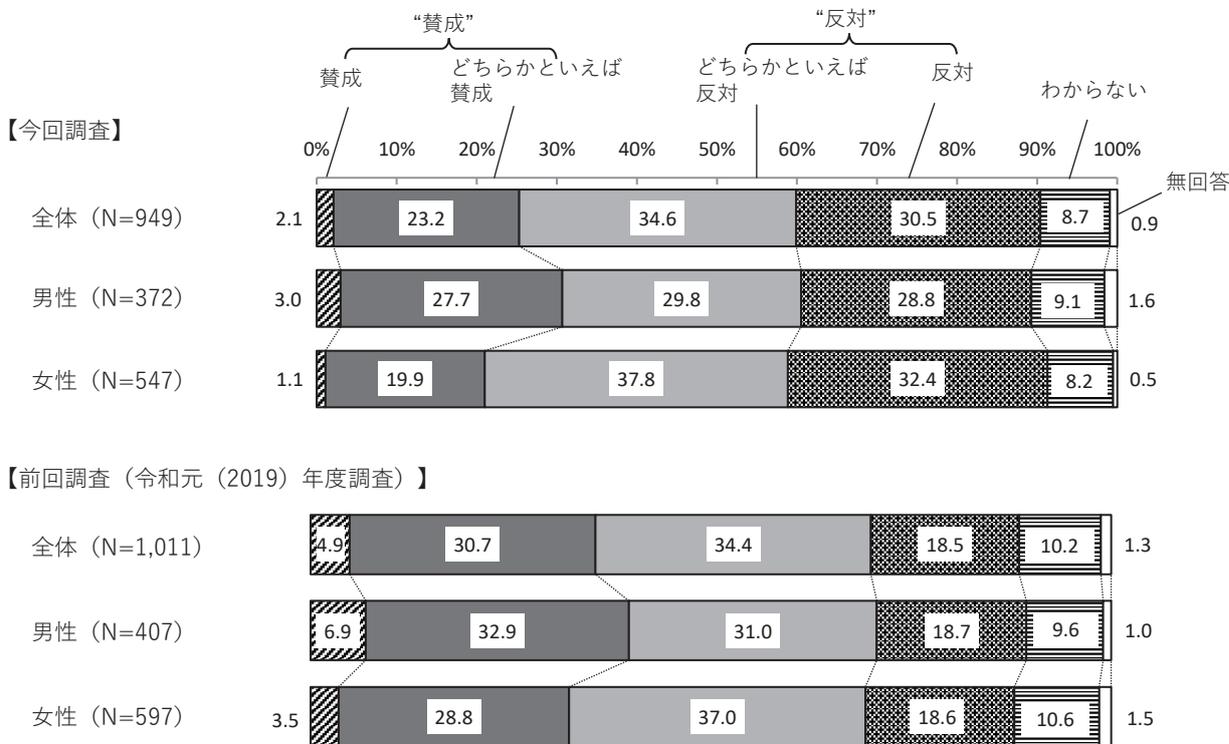
図表 1 - 2 - ④ 性別役割分担意識 — 性・本人の年収別



【参考】性別役割分担意識 [経年比較]

- 前回調査（令和元（2019）年度調査）と比較すると、“賛成”は全体・男性・女性全てで10ポイント前後減少、“反対”は全体で12.2ポイント、男性で8.9ポイント、女性で14.6ポイント上昇している。

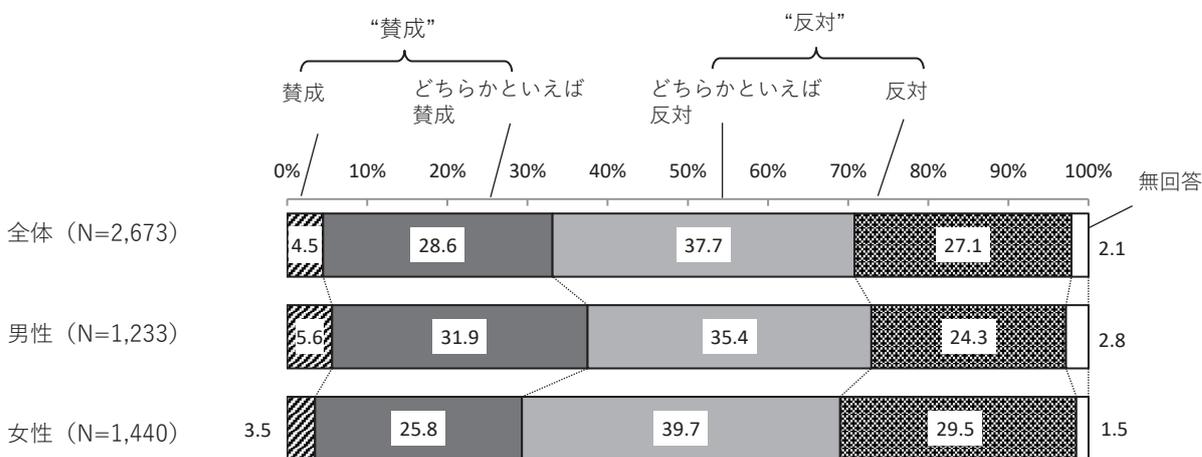
図表 1 - 2 - ⑤ 性別役割分担意識 — 経年比較（性別）



※前回調査：令和元年度「仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査」  
 （実施主体：仙台市、（公財）せんだい男女共同参画財団）

【参考】性別役割分担意識 [全国調査]

図表 1 - 2 - ⑥ 性別役割分担意識 — 全国調査



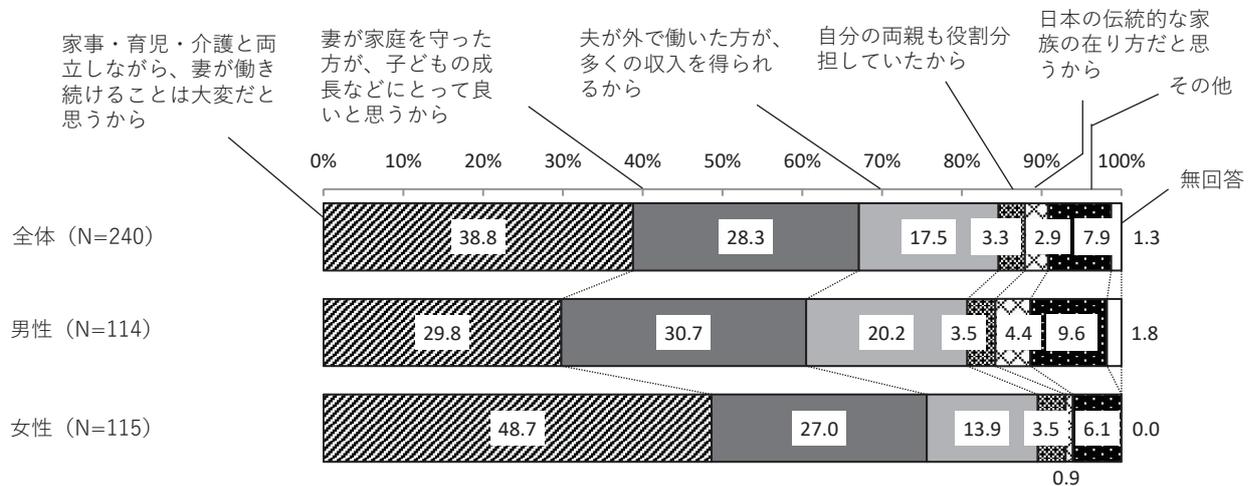
※全国調査：令和6（2024）年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」（実施主体：内閣府）

【問2で「1 賛成」または「2 どちらかといえば賛成」と回答した方にお聞きします。】

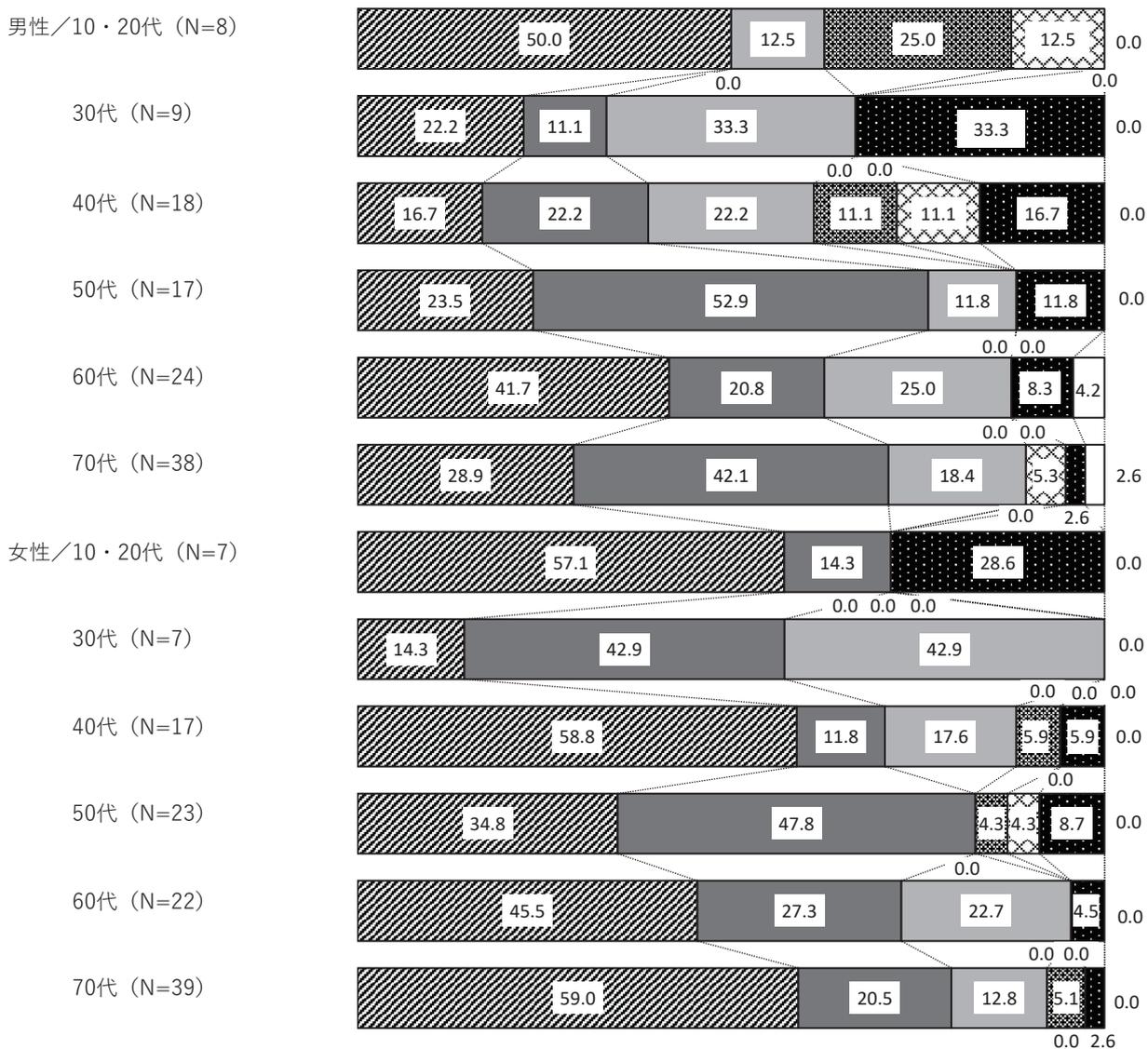
問2-1 そのように思う理由は何ですか。(○は1つ)

- 性別にみると、女性は「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けるのは大変だと思うから」が約5割となっている。

図表1-2-1-① 性別役割分担に“賛成”の理由 — 性別



図表1-2-1-② 性別役割分担に“賛成”の理由 — 性・年代別

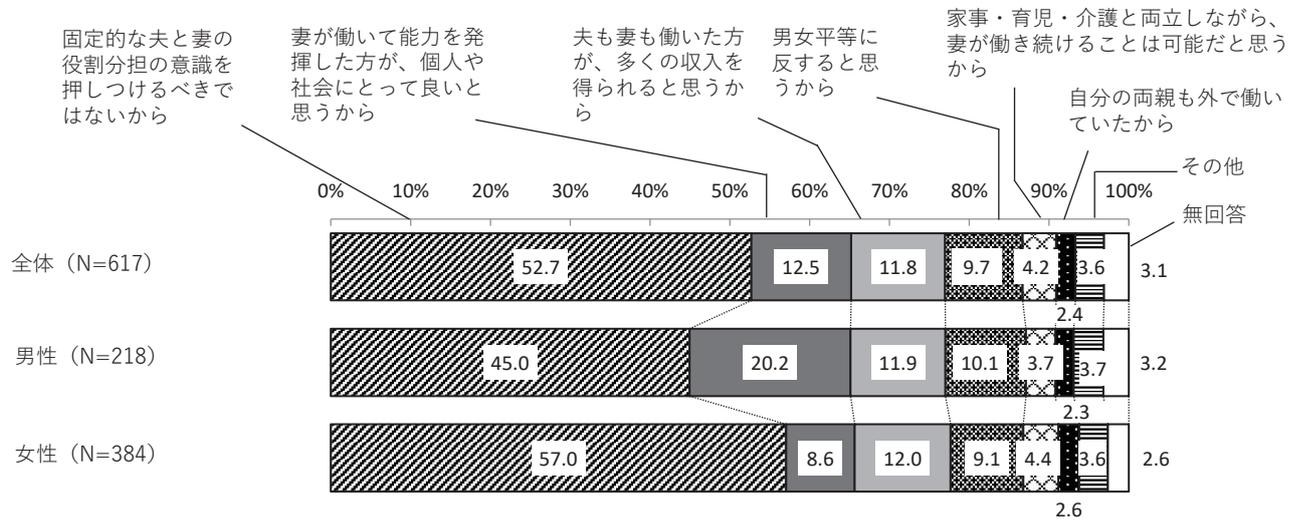


【問2で「3 どちらかといえば反対」または「4 反対」と回答した方にお聞きします。】

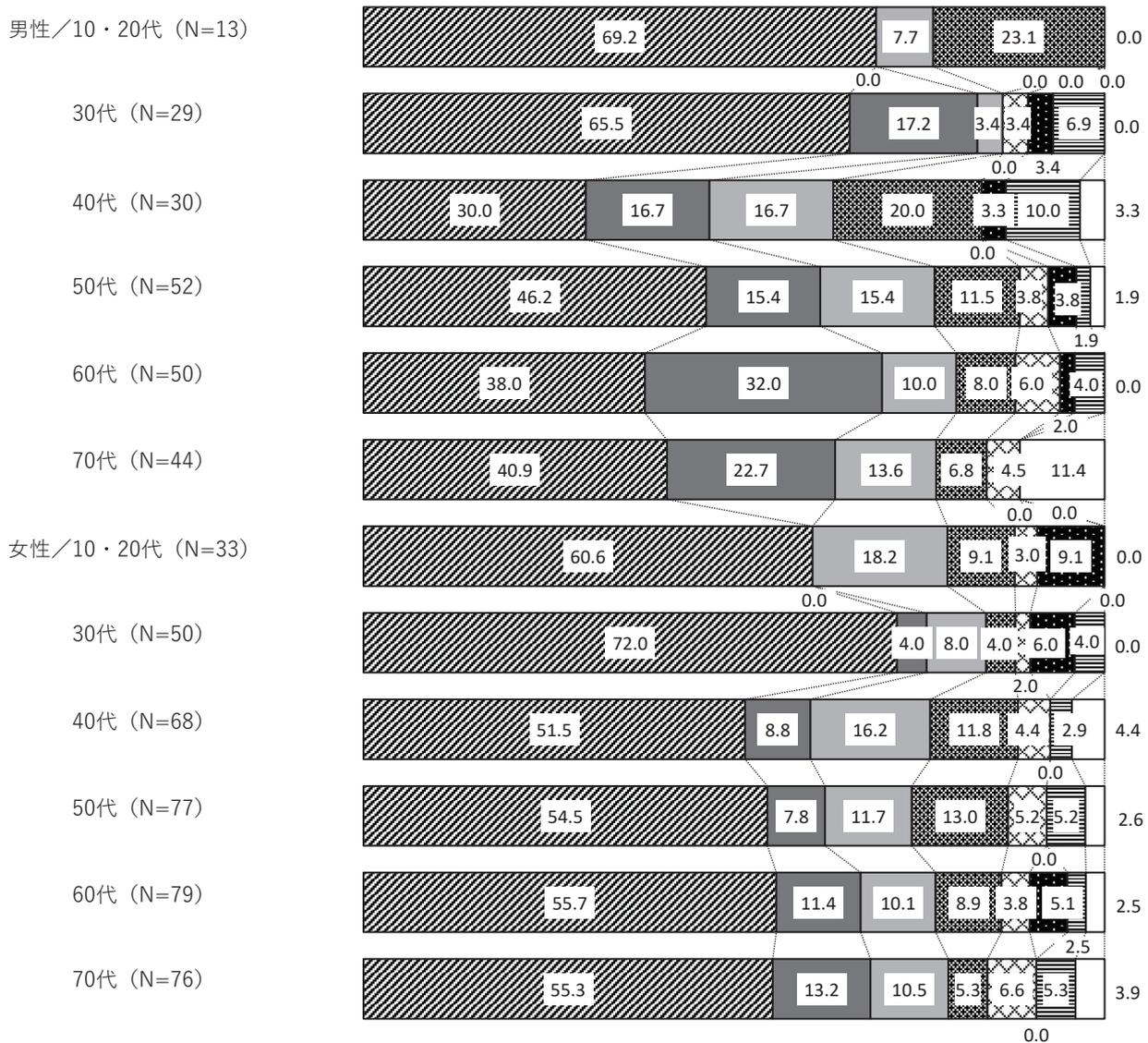
問2-2 そのように思う理由は何ですか。(○は1つ)

- 性別にみると、男性は「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が約2割と、女性よりも高い。

図表1-2-2-① 性別役割分担に“反対”の理由 — 性別



図表1-2-2-② 性別役割分担に“反対”の理由 — 性・年代別



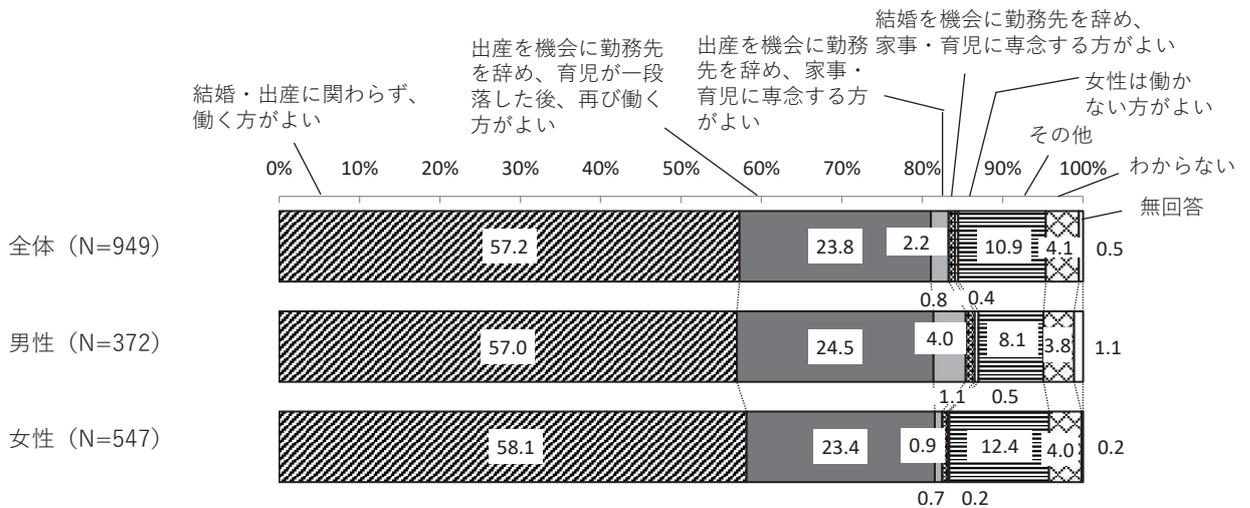
## 第2章 女性活躍について

### 1 女性が働くことについての考え方

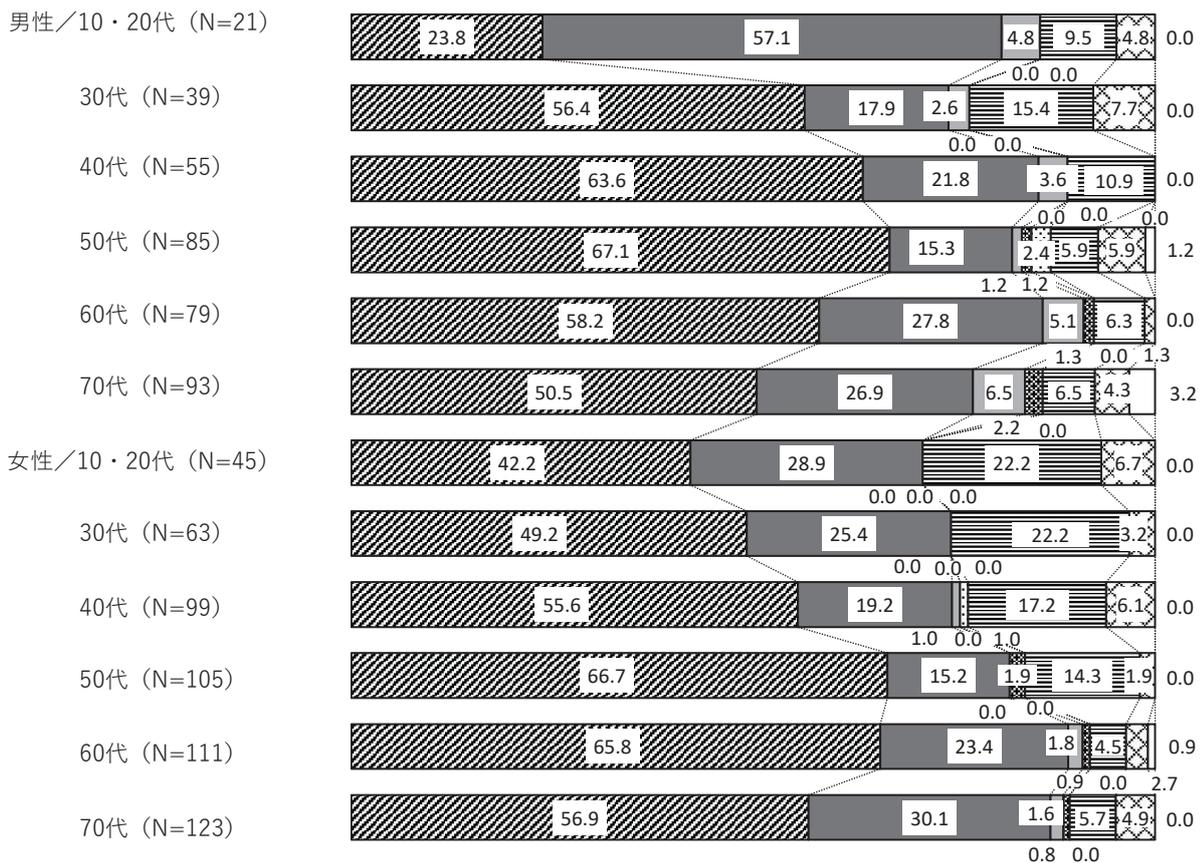
#### 問3 女性が働くことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

- 性別にみると、男女ともに約6割が「結婚・出産に関わらず、働く方がよい」(“就業継続型”)と回答しており、「出産を機会に勤務先を辞め、育児が一段落した後、再び働く方がよい」(“中断再就職型”)を合わせると8割を超えている。
- 性・年代別にみると、女性は全ての年代で“就業継続型”と回答した割合が“中断再就職型”と回答した割合を上回っている。
- 30代以下の女性では、“就業継続型”と回答した割合が5割を下回っている。

図表2-1-① 女性が働くことについての考え方 — 性別



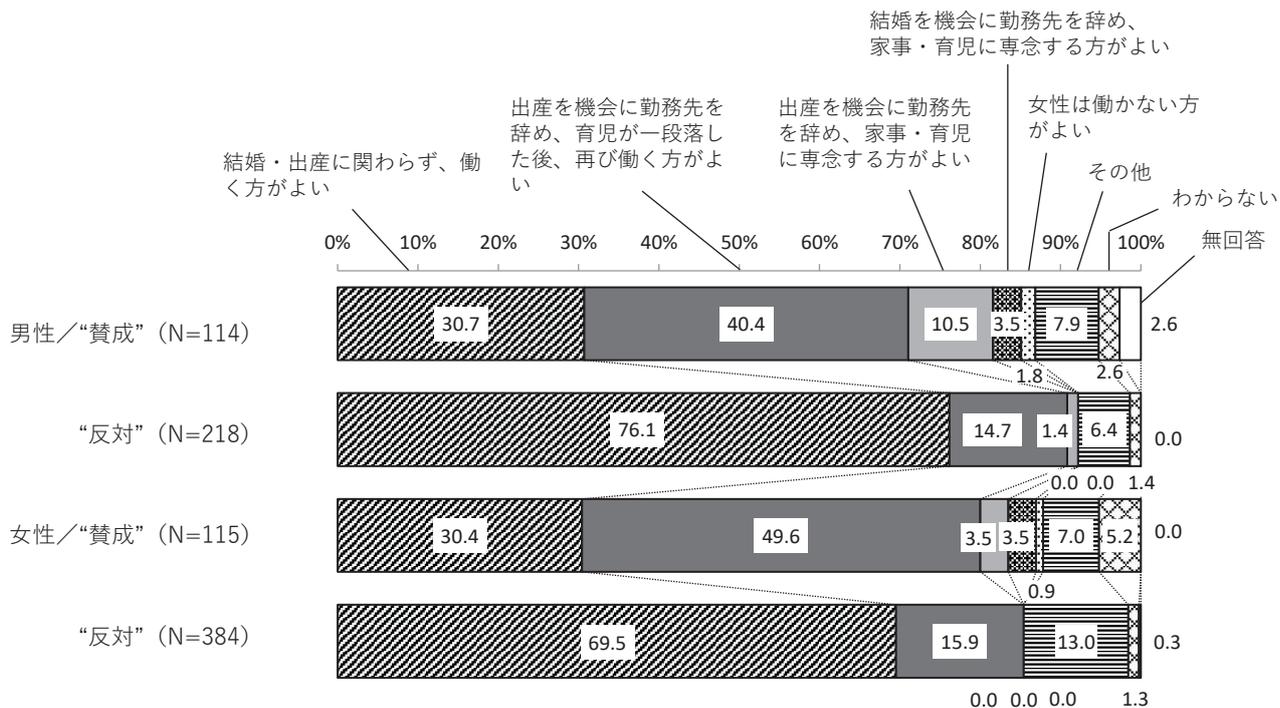
図表2-1-② 女性が働くことについての考え方 — 性・年代別



【性・性別役割分担意識別】

- 男女ともに性別役割分担意識に“賛成”と回答した人は、“中断再就職型”と回答した割合が“就業継続型”を上回っているが、「出産を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい」「結婚を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい」「女性は働かない方がよい」（“専業主婦型”）を支持する割合が高いわけではない。
- 性別役割分担意識に“反対”と回答した人で“就業継続型”と回答した割合は、男性では8割弱、女性では約7割で、それぞれ“賛成”と回答した人の2倍以上となっている。

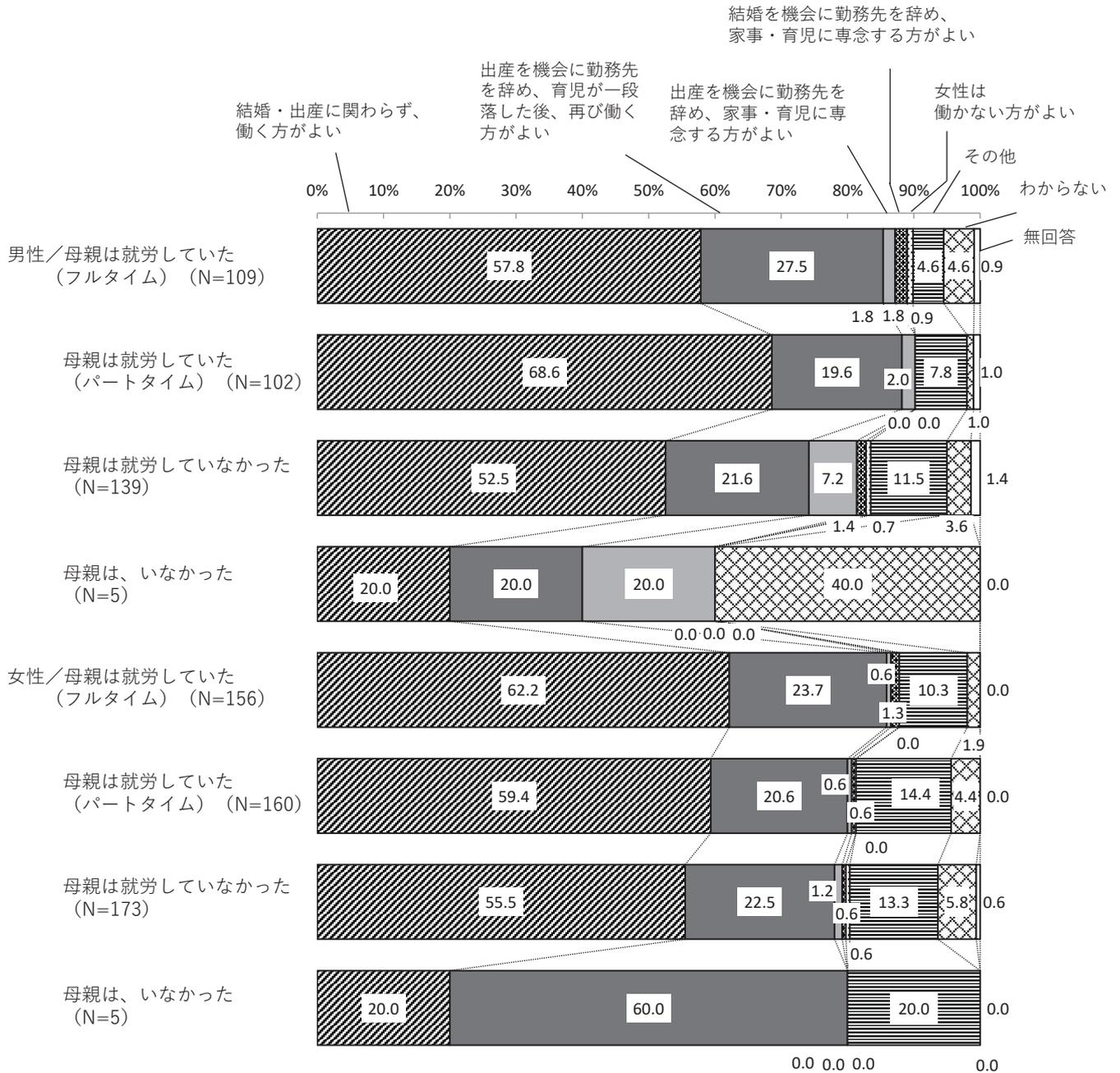
図表 2 - 1 - ③ 女性が働くことについての考え方 — 性・性別役割分担意識別



【性・母親の就労状況別】

- 母親が就労していなかった男性は、母親が就労していた男性と比べて“就業継続型”と回答した割合が低く、“専業主婦型”と回答した割合が高い。

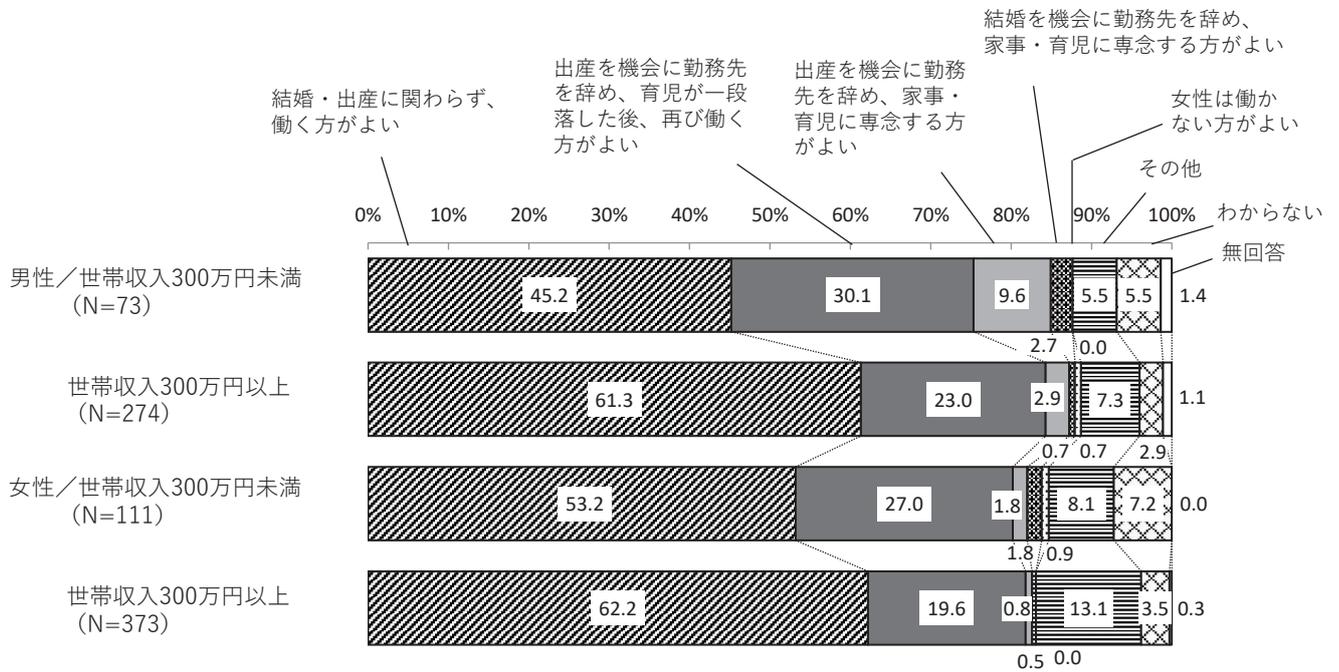
図表 2-1-④ 女性が働くことについての考え方 — 性・母親の就労状況別



【性・世帯年収別】

- 世帯年収が300万円未満の女性は、300万円以上の女性と比べ、“就業継続型”と回答した割合が低く、“中断再就職型”と回答した割合が高い。

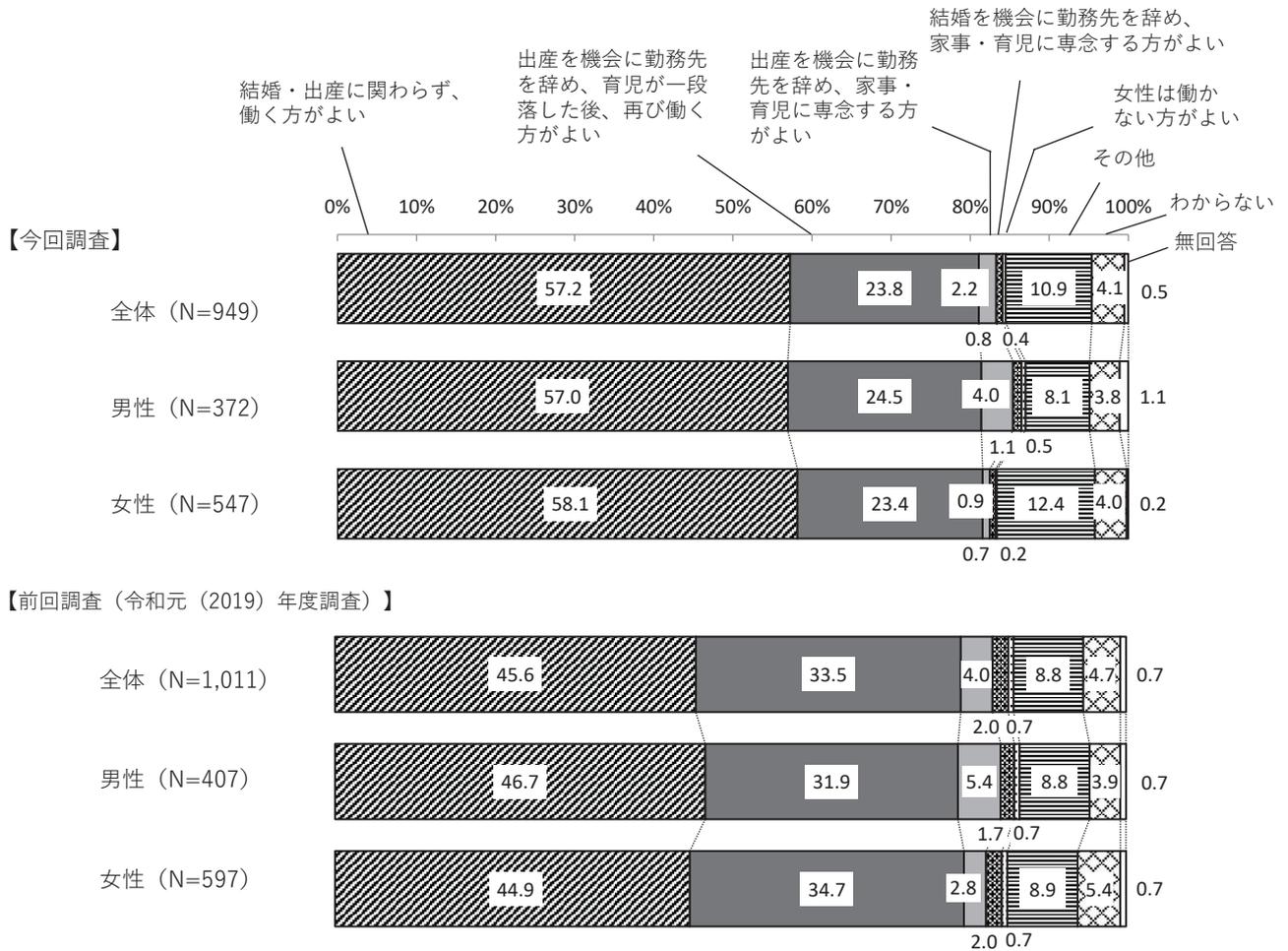
図表2-1-⑤ 女性が働くことについての考え方 — 性・世帯年収別



【参考】女性が働くことについての考え方 [経年比較]

- 前回調査（令和元（2019）年度調査）と比較すると、全体・男性・女性全てで“就業継続型”が増加し、“中断再就職型”が減少している。

図表 2 - 1 - ⑥ 女性が働くことについての考え方 — 経年比較



※前回調査：令和元年度「仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査」

(実施主体：仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団)

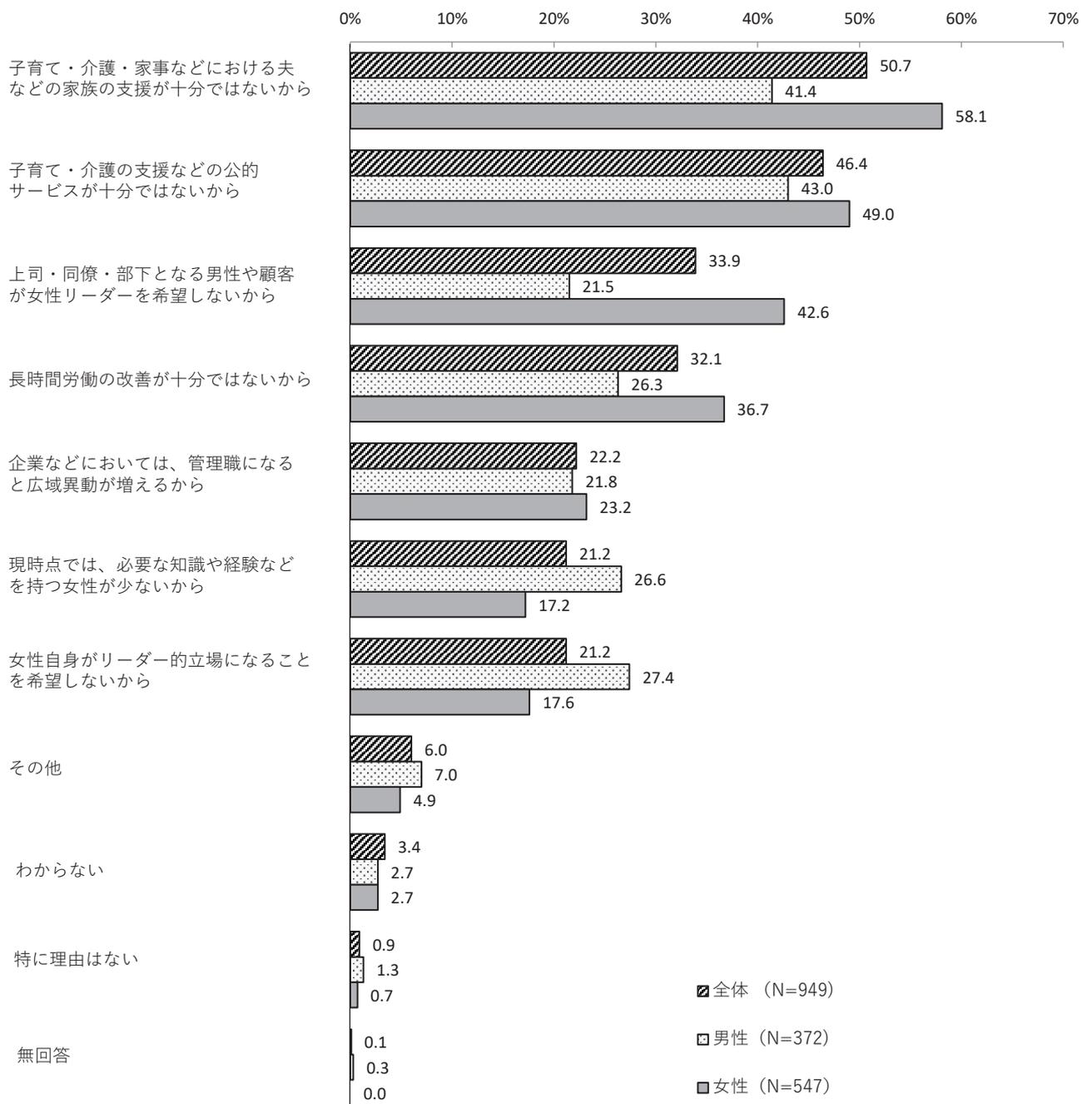
※前回調査から選択肢の文言が一部変更となっている。

## 2 指導的地位に女性が少ない理由

問4 政治や企業などにおいて、政策や方針を決定する立場や指導的地位に女性が少ないという状況があります。あなたは、その理由は何だと思いますか。（○はいくつでも）

- 性別にみると、女性は「子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから」（58.1%）、男性は「子育て・介護の支援などの公的サービスが十分ではないから」（43.0%）が最も高い。
- 「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないから」（男性：21.5%、女性：42.6%）、「子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから」（男性：41.4%、女性58.1%）において特に男女差が大きい。
- 「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないから」「女性自身がリーダー的立場になることを希望しないから」といった女性個人に原因があるとする理由は男性の方が高く、「子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから」「長時間労働の改善が十分ではないから」といった環境面に原因があるとする理由は女性の方が高い。

図表2-2-① 指導的地位に女性が少ない理由 — 性別



図表 2 - 2 - ② 指導的地位に女性が少ない理由 — 性・年代別

		調査数 (N)	子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから	子育て・介護の支援などの公的サービスが十分ではないから	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないから	長時間労働の改善が十分ではないから	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えるから	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないから	女性自身がリーダー的立場になることを希望しないから	その他	わからない	特に理由はない	無回答	
全 体		949	50.7	46.4	33.9	32.1	22.2	21.2	21.2	6.0	3.4	0.9	0.1	
性 別	男 性	372	41.4	43.0	21.5	26.3	21.8	26.6	27.4	7.0	2.7	1.3	0.3	
	女 性	547	58.1	49.0	42.6	36.7	23.2	17.2	17.6	4.9	2.7	0.7	0.0	
性・年代別	男 性	10・20代	21	28.6	33.3	14.3	28.6	0.0	19.0	14.3	14.3	4.8	4.8	0.0
		30代	39	38.5	35.9	15.4	15.4	15.4	28.2	38.5	15.4	2.6	0.0	0.0
		40代	55	38.2	38.2	20.0	12.7	20.0	38.2	34.5	9.1	3.6	1.8	0.0
		50代	85	42.4	44.7	20.0	29.4	20.0	18.8	25.9	4.7	7.1	0.0	1.2
		60代	79	38.0	44.3	20.3	26.6	22.8	20.3	24.1	6.3	0.0	3.8	0.0
	70代	93	49.5	48.4	29.0	35.5	31.2	33.3	25.8	3.2	0.0	0.0	0.0	
	女 性	10・20代	45	53.3	53.3	40.0	26.7	15.6	4.4	24.4	4.4	6.7	0.0	0.0
		30代	63	66.7	55.6	49.2	33.3	22.2	11.1	19.0	7.9	4.8	0.0	0.0
		40代	99	55.6	43.4	38.4	34.3	20.2	15.2	15.2	8.1	0.0	1.0	0.0
		50代	105	59.0	45.7	42.9	29.5	21.0	22.9	18.1	7.6	1.0	0.0	0.0
		60代	111	59.5	42.3	49.5	42.3	27.9	20.7	18.0	3.6	0.9	1.8	0.0
70代		123	55.3	57.7	37.4	45.5	26.8	18.7	15.4	0.0	5.7	0.8	0.0	

### 第3章 ワーク・ライフ・バランスなどについて

#### 1 生活の中で各活動に費やしている時間

問5 あなたは平均的な1日において、下記(ア)～(オ)のそれぞれについてどの程度の時間をかけていますか(現状)、またかけたいと思いますか(理想)。仕事や学校がある日と無い日の両方についてお答えください。

※無職・家事専業の方は、「仕事や学校が無い日」のみお答えください。

(枠内におおよその合計時間をご記入ください。該当がない場合は、「0 時間 0 分」とご記入ください)

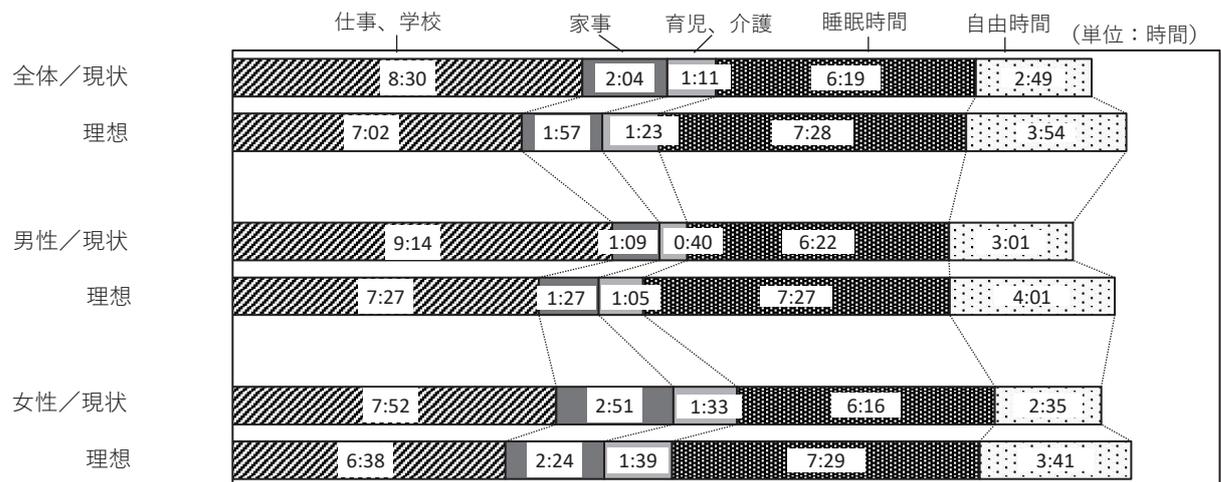
(ア) 仕事、学校(通勤・通学時間を含む) ※仕事・学校がある人のみ (イ) 家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)

(ウ) 育児、介護 (エ) 睡眠時間 (オ) 自由時間(仕事、学校、家事、育児、介護、睡眠など以外の時間)

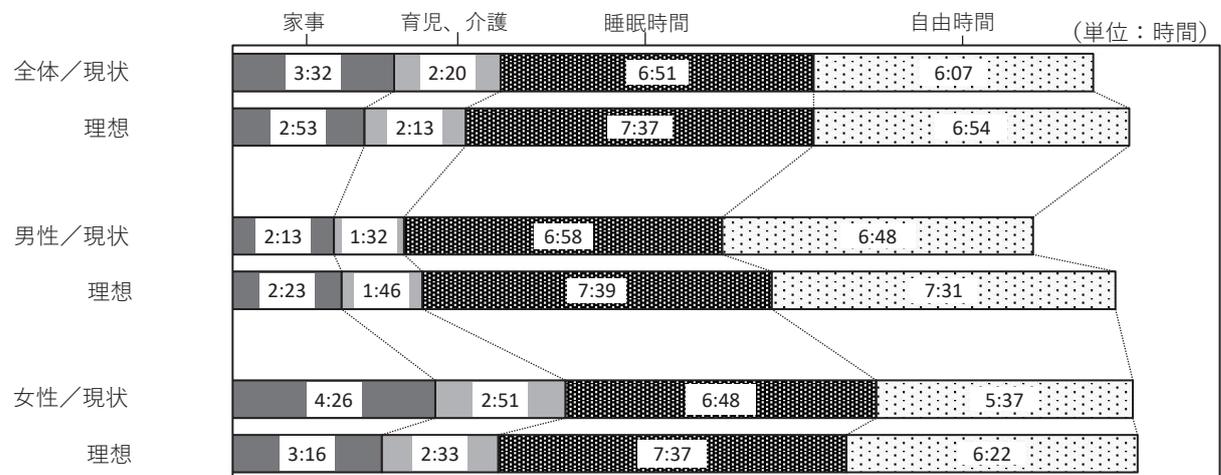
#### (1) 性別(現状・理想)

- 仕事、学校時間(現状)は、男性9時間14分、女性7時間52分で、男性の方が1時間22分長い。
- 仕事や学校がある日も無い日も、家事及び育児、介護の時間(現状)は女性の方が男性より長い。
- 仕事や学校がある日も無い日も、睡眠時間及び自由時間(現状)は女性の方が男性より短い。

図表3-1-1-1-① 仕事や学校がある日の生活時間(平均) — 性別



図表3-1-1-1-② 仕事や学校が無い日の生活時間(平均) — 性別



注) 仕事や学校がある日の生活時間については、有業者及び学生を集計対象とした。

注) 活動ごとに有効回答数が異なる(現状についてのそれぞれの有効回答は次ページの図表3-1-2-①、図表3-1-2-②のとおり)。

注) 時間は、各活動の有効回答の平均を示しており、また、1日のうちの全ての活動についてたずねた訳ではないため、合計時間は24時間となっていない。

(2)性・年代別（現状のみ）

図表3-1-2-① 仕事や学校がある日の生活時間 — 性・年代別

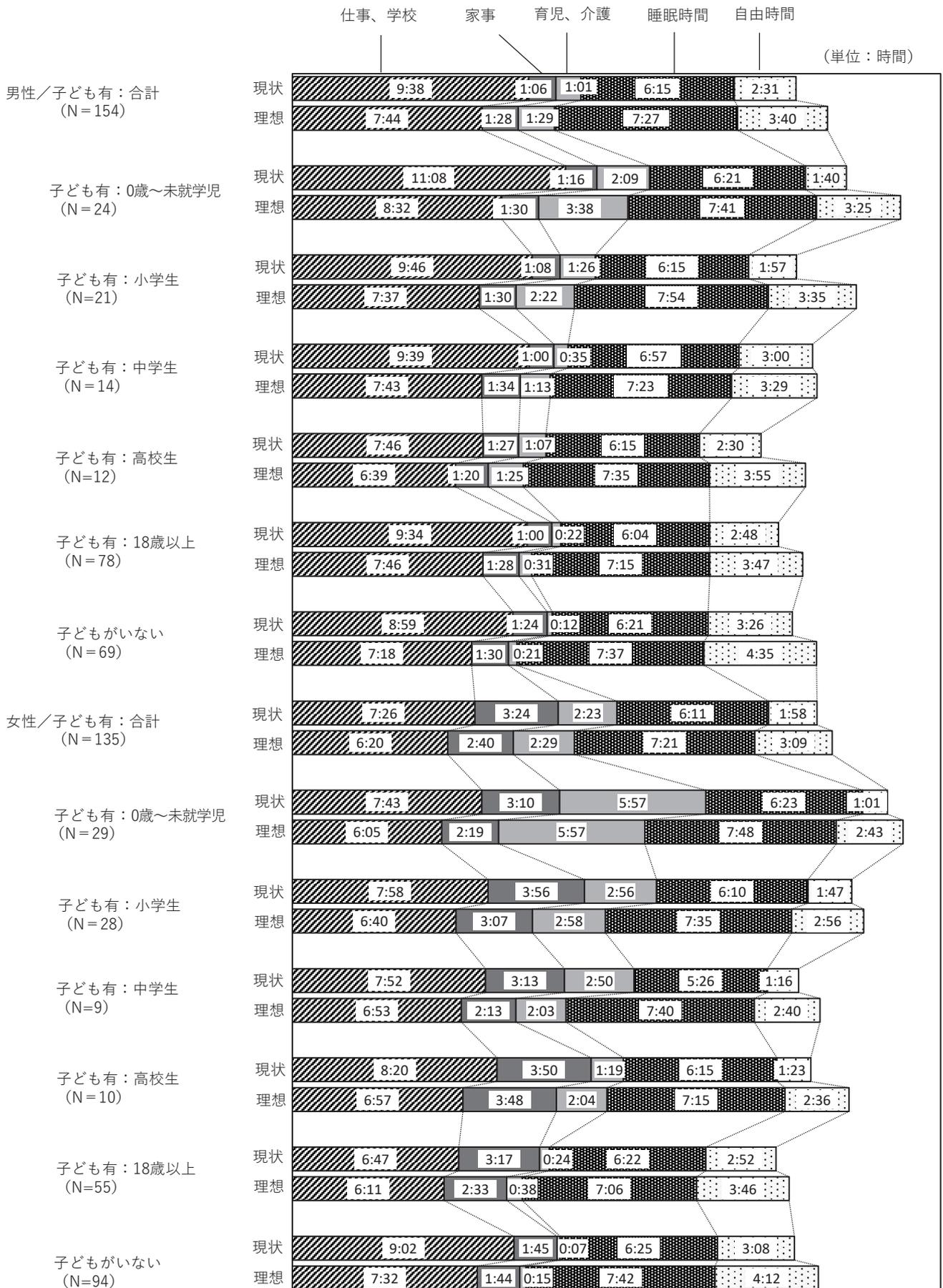
		仕事、学校		家事		育児、介護		睡眠時間		自由時間		
		調査数(N)	平均時間									
全体		614	8:30	610	2:04	570	1:11	617	6:19	610	2:49	
性別	男性	277	9:14	275	1:09	261	0:40	279	6:22	277	3:01	
	女性	322	7:52	319	2:51	295	1:33	322	6:16	317	2:35	
性・年代別	男性	10・20代	18	8:27	19	1:28	16	0:07	19	6:45	19	4:09
		30代	38	10:15	38	1:22	38	1:11	38	6:27	38	2:44
		40代	52	9:47	52	1:02	52	0:48	52	6:19	52	2:05
		50代	79	9:18	78	1:14	74	0:35	78	6:04	77	2:52
		60代	67	9:00	65	1:03	63	0:08	67	6:20	66	3:16
		70代	23	7:17	23	0:51	18	1:56	25	7:02	25	4:16
	女性	10・20代	41	8:28	40	1:35	40	1:00	41	6:32	41	3:24
		30代	46	8:34	45	2:32	43	2:49	46	6:18	44	1:57
		40代	86	8:08	86	3:13	82	2:46	86	6:05	85	2:02
		50代	79	8:11	78	2:58	69	0:37	78	6:14	79	2:28
		60代	48	6:57	49	2:54	45	0:33	49	6:26	48	2:48
		70代	22	5:08	21	3:49	16	0:03	22	6:12	20	4:31

図表3-1-2-② 仕事や学校が無い日の生活時間 — 性・年代別

		家事		育児、介護		睡眠時間		自由時間		
		調査数(N)	平均時間	調査数(N)	平均時間	調査数(N)	平均時間	調査数(N)	平均時間	
全体		834	3:32	761	2:20	849	6:51	830	6:07	
性別	男性	339	2:13	310	1:32	341	6:58	340	6:48	
	女性	478	4:26	437	2:51	490	6:48	475	5:37	
性・年代別	男性	10・20代	21	2:25	18	0:33	20	7:27	21	7:58
		30代	36	2:42	36	4:45	36	7:20	36	6:30
		40代	55	2:10	55	2:05	55	7:01	55	5:12
		50代	78	2:26	72	1:19	78	6:42	78	6:27
		60代	71	2:05	68	0:28	73	6:46	71	7:33
		70代	78	1:54	61	0:54	79	7:05	79	7:27
	女性	10・20代	43	2:37	42	1:54	44	7:51	44	7:23
		30代	59	4:13	57	7:10	61	7:16	60	5:02
		40代	93	4:30	89	4:41	93	6:42	92	4:17
		50代	92	4:45	86	1:27	95	6:39	94	5:34
		60代	89	4:50	80	1:45	90	6:26	89	5:17
		70代	101	4:38	82	0:40	106	6:37	95	6:50

(3)性・子の有無・末子の年齢別（現状・理想）

図表3-1-3-① 仕事や学校がある日の生活時間（平均） 一性・子の有無・末子の年齢別



図表 3 - 1 - 3 - ② 仕事や学校が無い日の生活時間（平均） 一性・子の有無・末子の年齢別

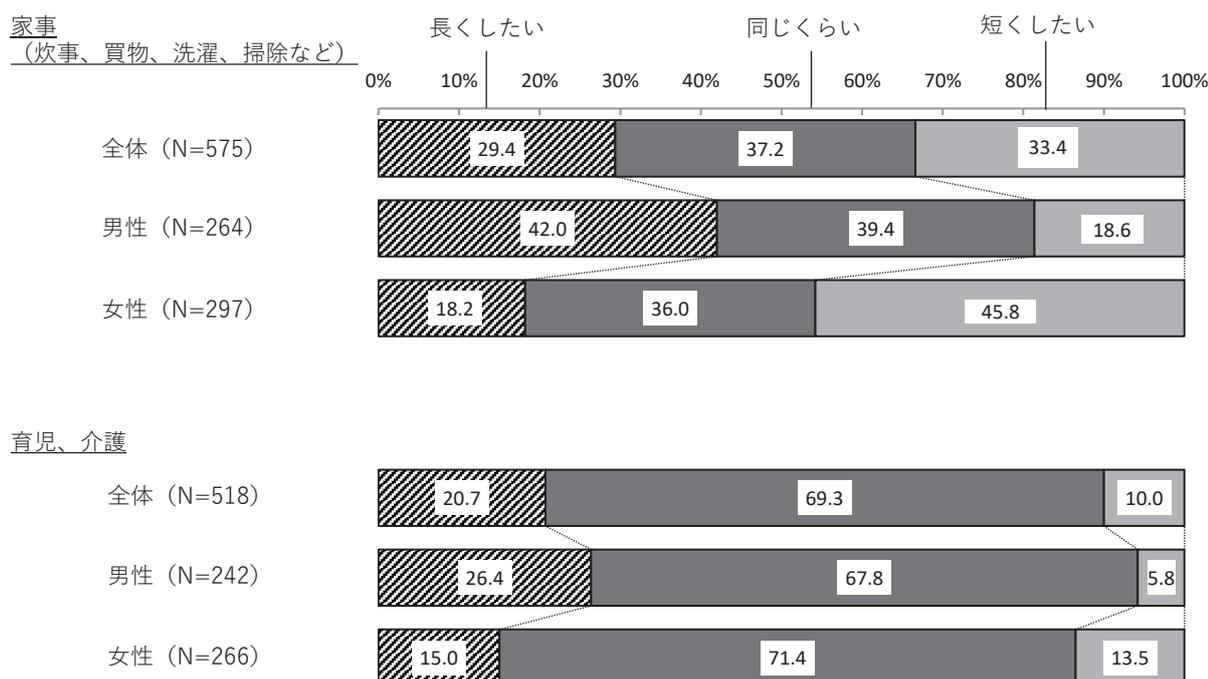


#### (4)現状と理想のギャップ

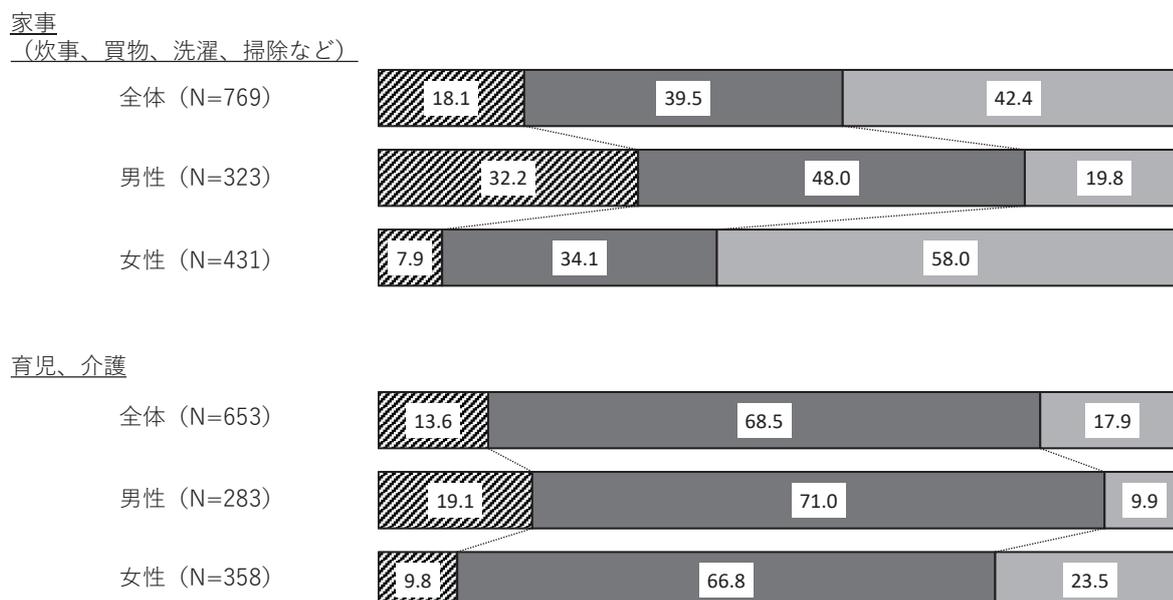
問5で回答があった生活時間の現状と理想のギャップを下記のとおり規定し、性別に比較した。  
 現状<理想…「長くしたい」      現状=理想…「同じくらい」      現状>理想…「短くしたい」

- 家事及び育児、介護の時間を「長くしたい」割合は男性の方が高く、「短くしたい」割合は女性の方が高い。

図表3-1-4-① 仕事や学校がある日の生活時間 — 現状と理想のギャップ（性別）



図表3-1-4-② 仕事や学校が無い日の生活時間 — 現状と理想のギャップ（性別）



## 2 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由

【次の設問はお子さんのいる方にお聞きします。】

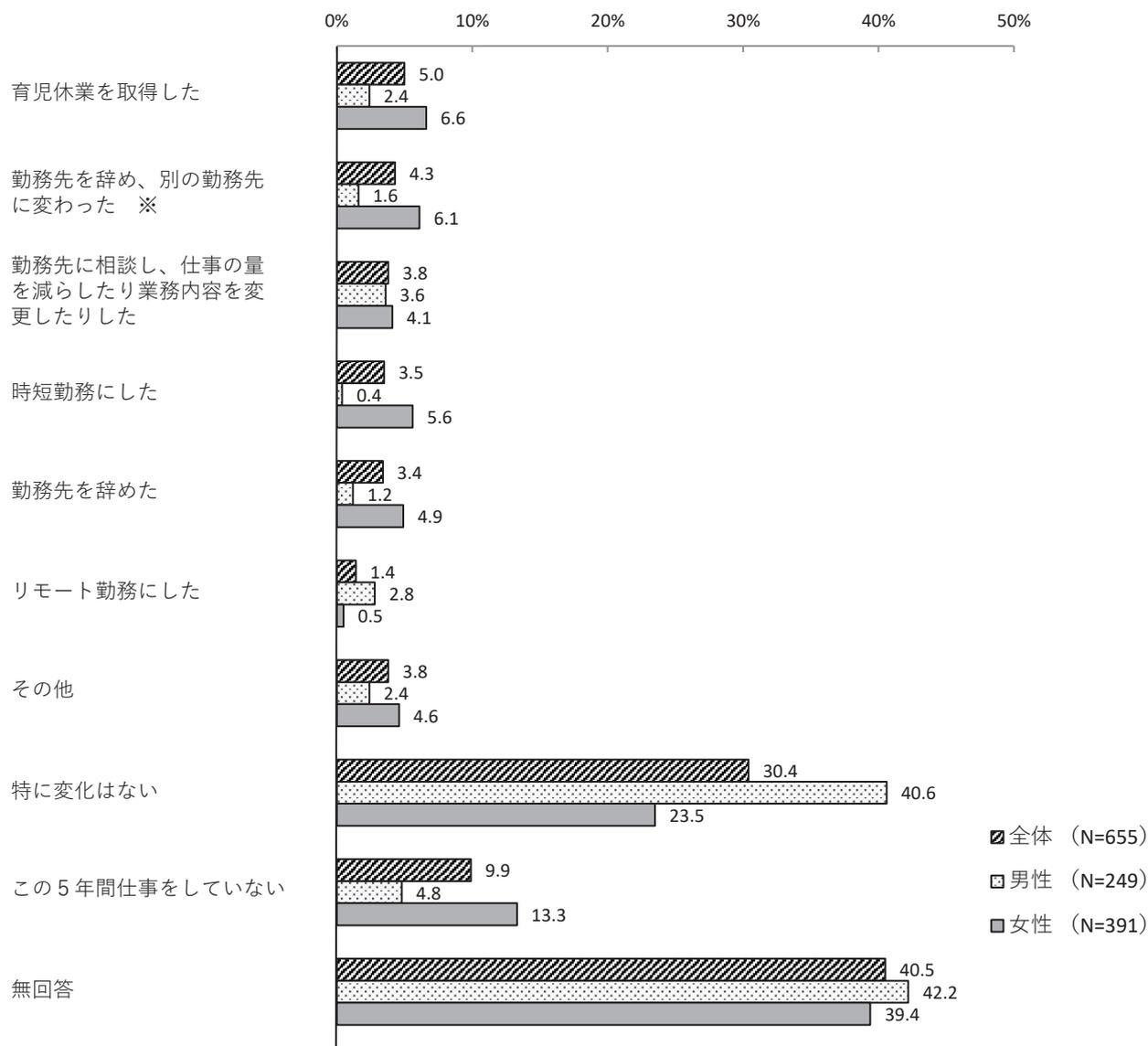
問6 あなたは、この5年間で出産・育児をきっかけに仕事や働き方に変化がありましたか。

(〇はいくつでも)

※複数回仕事や働き方に変化があった方は、一番最近のことについてお答えください。

- 「特に変化はない」と回答した割合は男性では4割を超え、女性（23.5%）よりも高くなっている。

図表3-2-① 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化 — 性別



※ 勤務先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更した場合も含む。

図表3-2-② 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化 — 性・年代別

		調査数 (N)	育児休業を取得した	勤務先を辞め、別の勤務先へ変わった※	勤務先に相談し、仕事の量を減らしたり業務内容を変更したりした	時短勤務にした	勤務先を辞めた	リモート勤務にした	その他	特に変化はない	この5年間仕事をしていない	無回答	
全体		655	5.0	4.3	3.8	3.5	3.4	1.4	3.8	30.4	9.9	40.5	
性別	男性	249	2.4	1.6	3.6	0.4	1.2	2.8	2.4	40.6	4.8	42.2	
	女性	391	6.6	6.1	4.1	5.6	4.9	0.5	4.6	23.5	13.3	39.4	
性・年代別	男性	10・20代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代	19	15.8	5.3	21.1	5.3	0.0	15.8	5.3	42.1	0.0	0.0
		40代	33	6.1	6.1	9.1	0.0	0.0	6.1	9.1	66.7	0.0	3.0
		50代	54	0.0	1.9	3.7	0.0	1.9	3.7	0.0	68.5	0.0	22.2
		60代	62	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	41.9	0.0	54.8
		70代	80	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3	10.0	15.0	72.5
	女性	10・20代	5	60.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代	39	38.5	17.9	17.9	23.1	10.3	0.0	12.8	2.6	20.5	2.6
		40代	69	8.7	17.4	8.7	17.4	7.2	2.9	8.7	36.2	11.6	1.4
		50代	75	0.0	6.7	1.3	0.0	4.0	0.0	0.0	50.7	10.7	28.0
		60代	94	1.1	0.0	1.1	0.0	2.1	0.0	2.1	24.5	9.6	59.6
	70代	108	0.9	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	4.6	4.6	17.6	69.4	

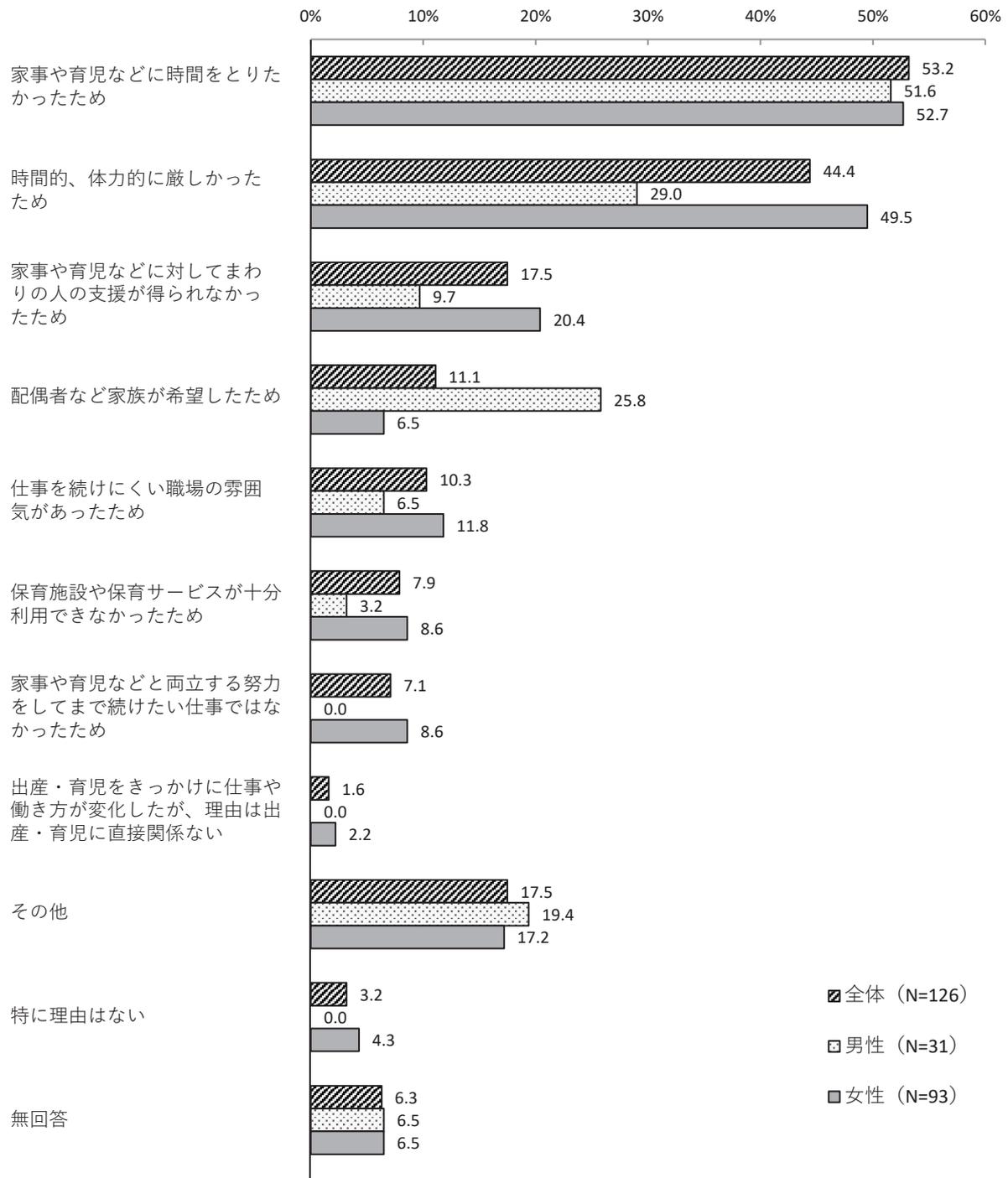
※ 勤務先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更した場合も含む。

【問6で1～7と回答した方（仕事や働き方に変化があった方）にお聞きします。】

問6-1 出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化したのはなぜですか。（〇はいくつでも）

- 全体、男女ともに「家事や育児などに時間をとりたかったため」が半数を超え、最も高い。

図表3-2-1-① 出産・育児をきっかけとした仕事や働き方の変化の理由 — 性別

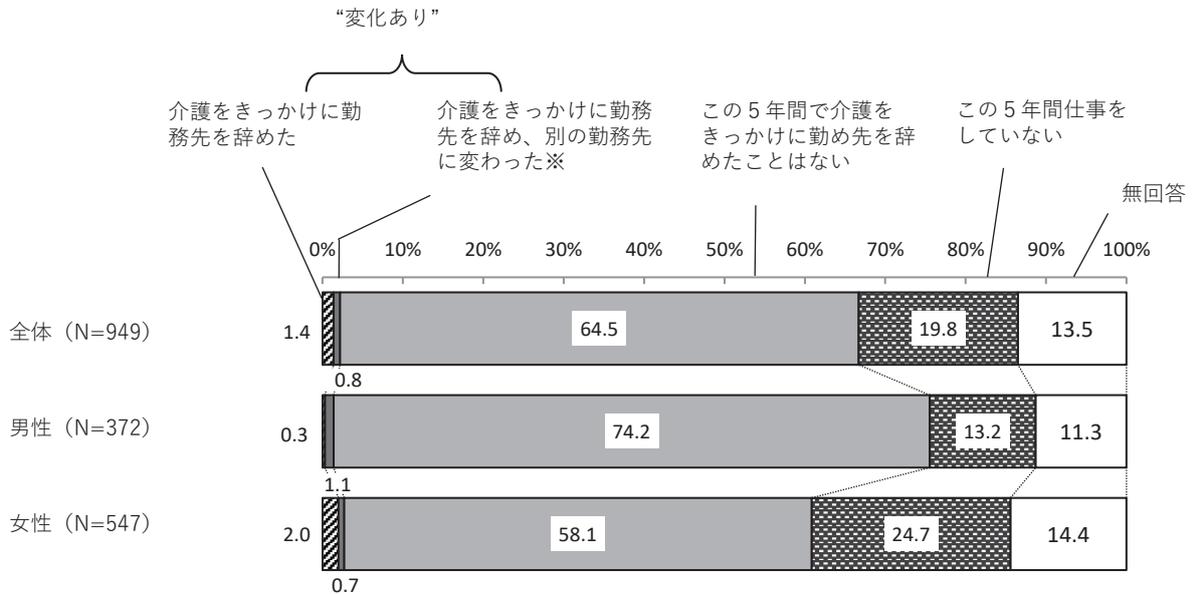


### 3 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化とその理由

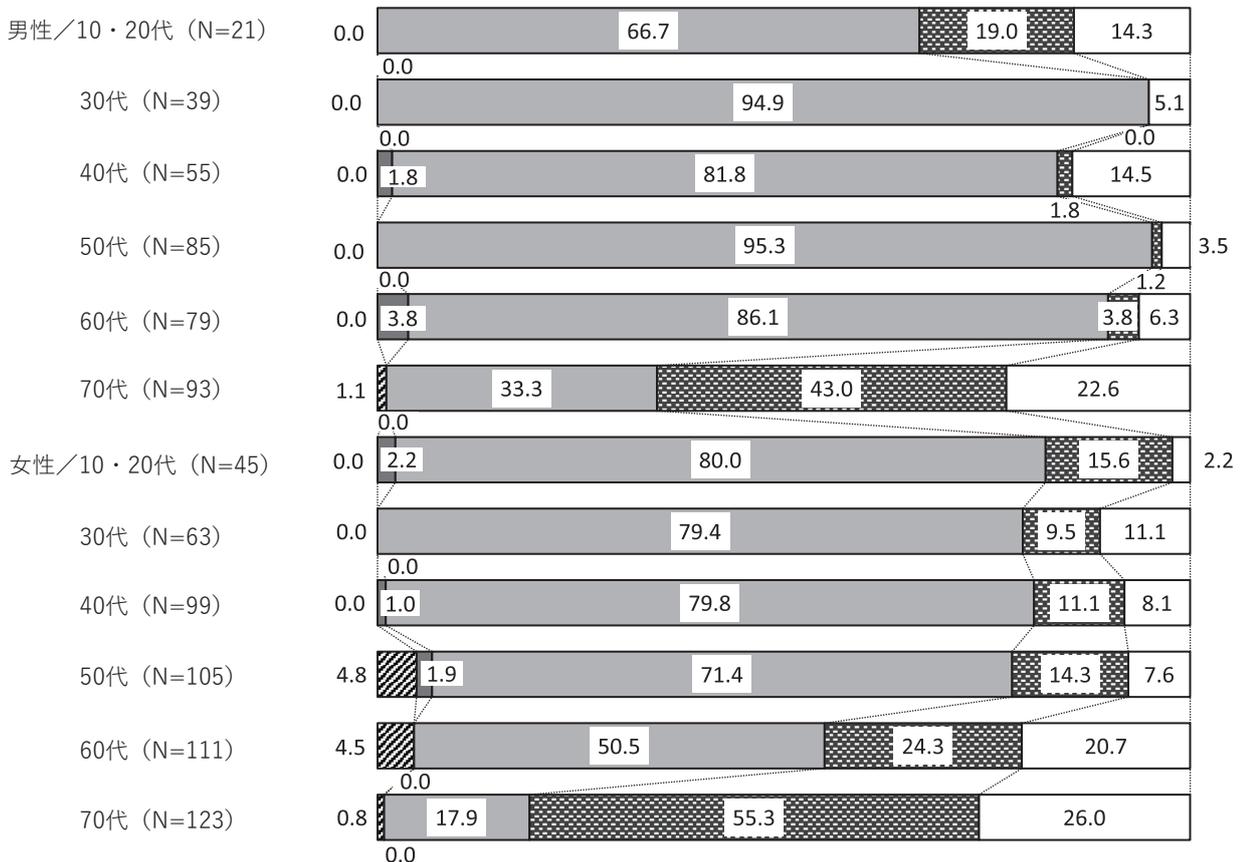
問7 あなたは、この5年間で介護をきっかけに勤務先を辞めたことはありますか（介護休業などによる休職や出向は除く）。（〇は1つ）  
 ※勤務先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更した場合も含まれます。

- 全体の2.2%、男性の1.4%、女性の2.7%が“変化あり”と回答している。

図表3-3-① 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化 — 性別



図表3-3-② 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化 — 性・年代別



【問7で「1 勤務先を辞めた」または「2 勤務先を辞め、別の勤務先が変わった」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 あなたが介護をきっかけに勤務先を辞めたのはなぜですか。（〇はいくつでも）

※複数回辞めた経験がある方は、一番最近のことについてお答えください。

※ 回答者数（N）が少ないため、結果は参考とし、比率ではなく回答件数を以下に掲載する。

図表3-3-1-① 介護をきっかけとした仕事や働き方の変化の理由 — 性別

(件)

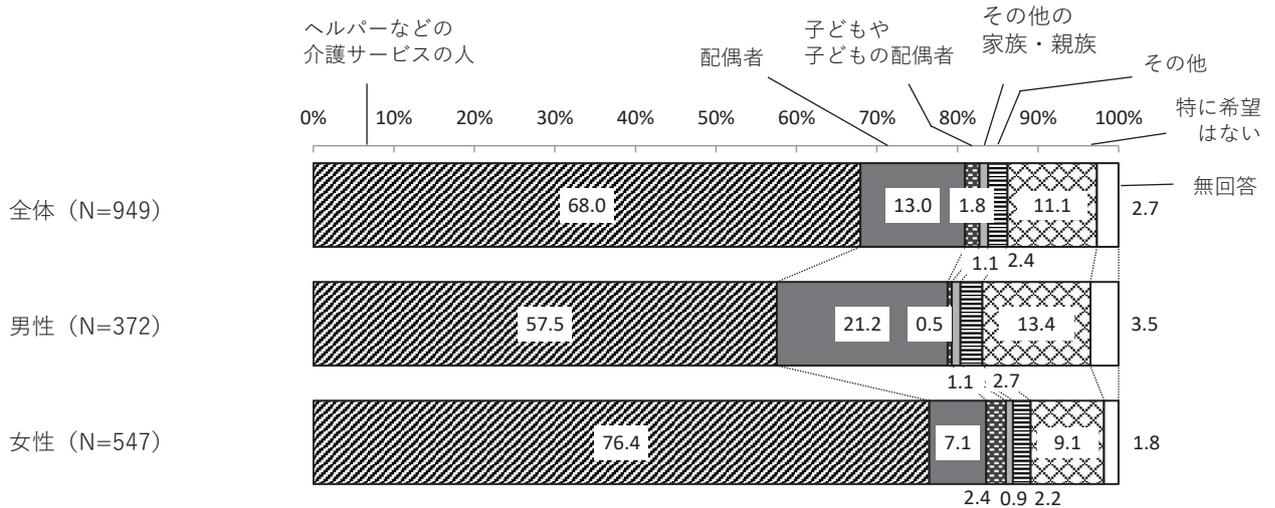
		調査数 (N)	仕事と介護の両立が難しい職場だったから	自分の心身の健康状態が悪化したから	介護対象者や家族が希望したから	施設や介護サービスを利用する経済的余裕がなかったから	自分の希望として介護に専念したかったから	定員の都合で施設への入所ができなかったから	介護をきっかけに勤め先を辞めたが、理由は介護に直接関係ない	その他	特に理由はない	無回答
全 体		21	9	8	4	2	2	1	1	0	2	0
性 別	男 性	5	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0
	女 性	15	8	6	3	1	2	1	0	0	1	0

## 4 希望する介護者

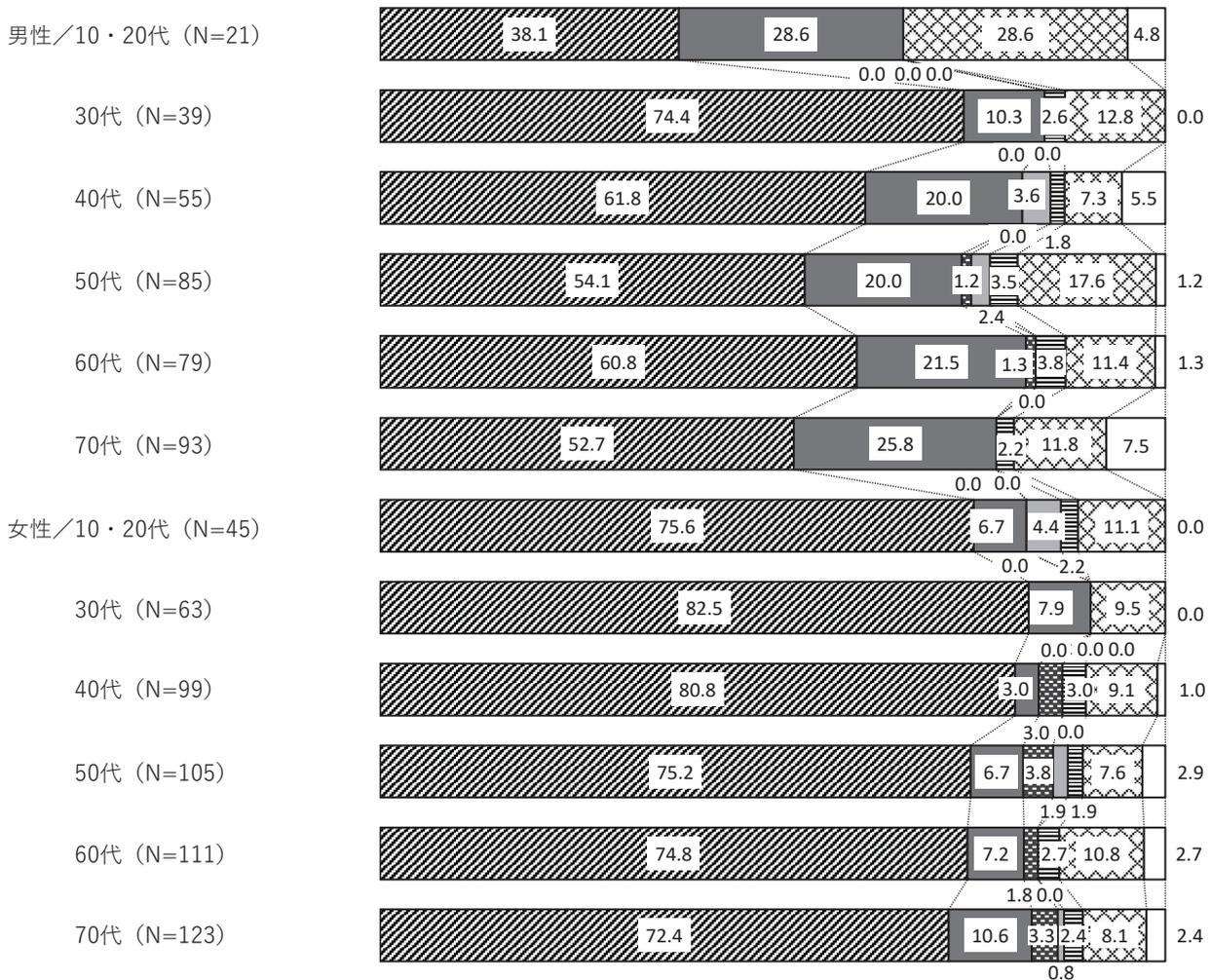
問8 あなたは、将来自分が排せつなどの介護が必要になった場合、どなたに介護を頼みたいと思いますか。(〇は1つ)

- 全体、男女ともに「ヘルパーなどの介護サービスの人」と回答した割合が最も高い（全体：68.0%、男性：57.5%、女性：76.4%）。
- 性別にみると、「配偶者」と回答した割合は、男性が女性の約3倍となっている（男性：21.2%、女性：7.1%）。

図表3-4-① 希望する介護者 — 性別



図表3-4-② 希望する介護者 — 性・年代別



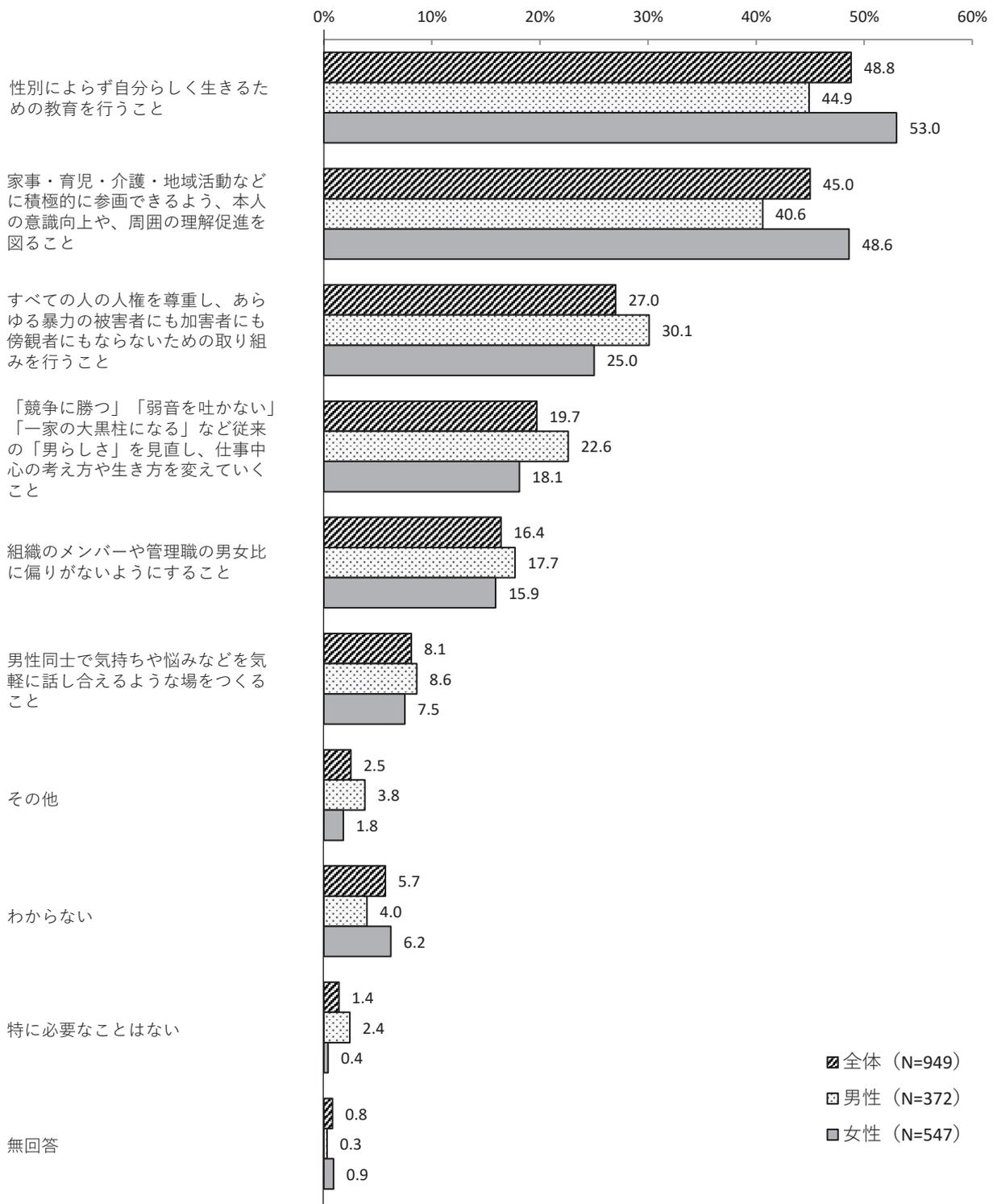
## 第4章 男性による男女共同参画の推進について

### 1 男性が主体的に男女共同参画推進に取り組むために必要なこと

問9 あなたは、男性が主体的に男女共同参画社会の推進に取り組むためには、どのようなことが必要だと思いますか。（特に必要だと思うものを2つまで○）

- ・ 全体、男女ともに「性別によらず自分らしく生きるための教育を行うこと」と回答した割合が最も高く（全体：48.8%、男性：44.9%、女性：53.0%）、次いで「家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画できるよう、本人の意識向上や、周囲の理解促進を図ること」と回答した割合が高い（全体：45.0%、男性：40.6%、女性48.6%）。

図表4-1-① 男性が主体的に男女共同参画推進に取り組むために必要なこと — 性別



図表4-1-② 男性が主体的に男女共同参画推進に取り組むために必要なこと ー 性・年代別

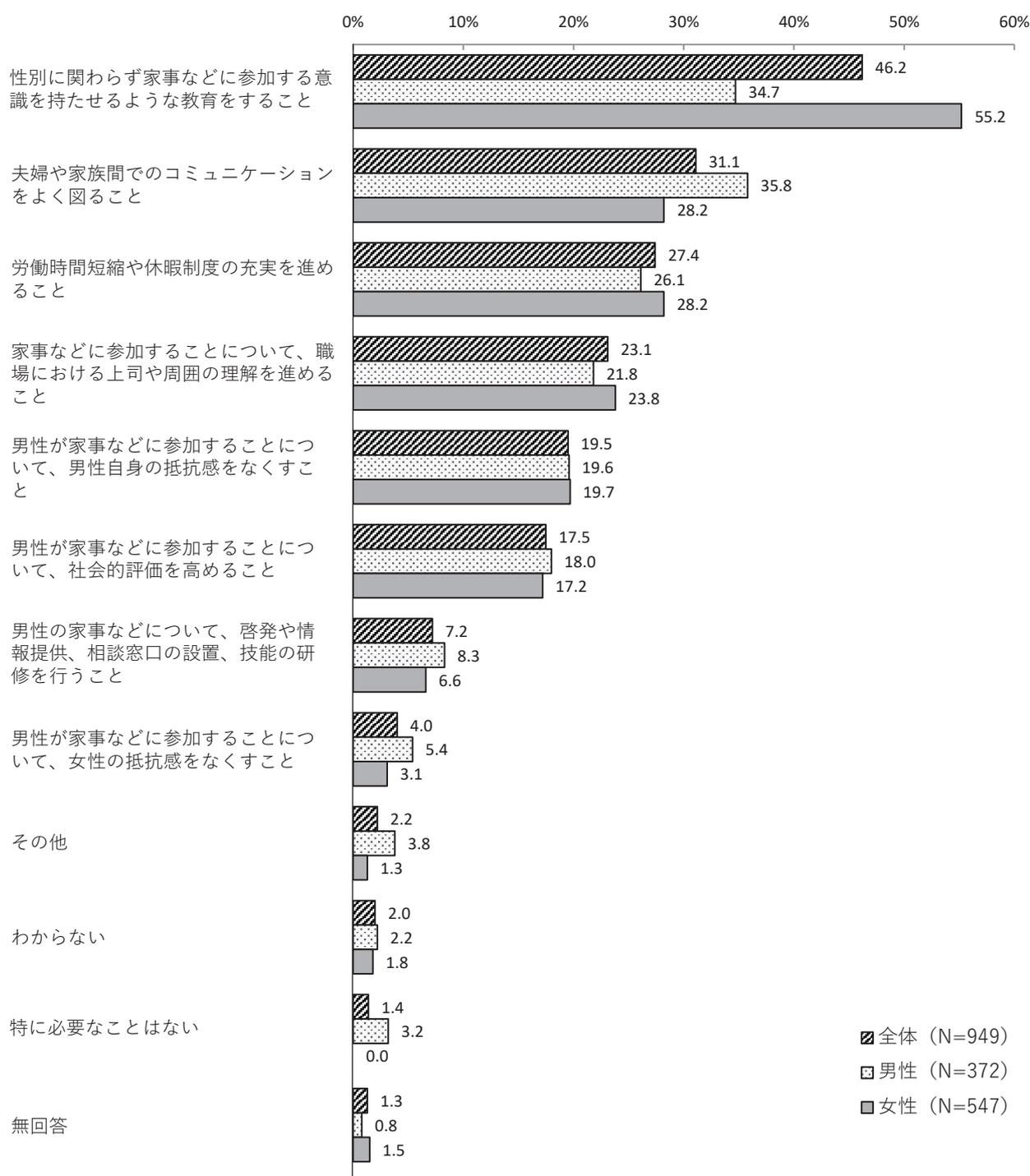
		調査数 (N)	性別によらず自分らしく生きるための教育を行うこと	家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画できるよう、本人の意識向上や、周囲の理解促進を図ること	すべての人の人権を尊重し、あらゆる暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないための取り組みを行うこと	「競争に勝つ」「弱音を吐かない」「一家の大黒柱になる」など従来の「男らしさ」を見直し、仕事中心の考え方や生き方を変えていくこと	組織のメンバーや管理職の男女比に偏りがないようにすること	男性同士で気持ちや悩みなどを気軽に話し合えるような場をつくること	その他	わからない	特に必要なことはない	無回答	
全体		949	48.8	45.0	27.0	19.7	16.4	8.1	2.5	5.7	1.4	0.8	
性別	男性	372	44.9	40.6	30.1	22.6	17.7	8.6	3.8	4.0	2.4	0.3	
	女性	547	53.0	48.6	25.0	18.1	15.9	7.5	1.8	6.2	0.4	0.9	
性・年代別	男性	10・20代	21	38.1	28.6	33.3	33.3	4.8	28.6	0.0	9.5	4.8	0.0
		30代	39	30.8	56.4	23.1	25.6	5.1	7.7	15.4	2.6	2.6	0.0
		40代	55	41.8	32.7	30.9	29.1	18.2	14.5	5.5	3.6	1.8	1.8
		50代	85	41.2	36.5	29.4	23.5	16.5	8.2	3.5	5.9	3.5	0.0
		60代	79	62.0	45.6	25.3	16.5	17.7	5.1	0.0	1.3	1.3	0.0
		70代	93	43.0	40.9	36.6	19.4	26.9	4.3	2.2	4.3	2.2	0.0
	女性	10・20代	45	42.2	42.2	28.9	28.9	13.3	13.3	0.0	6.7	0.0	2.2
		30代	63	54.0	36.5	17.5	25.4	23.8	9.5	6.3	4.8	0.0	0.0
		40代	99	49.5	48.5	25.3	15.2	19.2	10.1	4.0	4.0	1.0	0.0
		50代	105	52.4	53.3	24.8	16.2	16.2	5.7	0.0	6.7	1.0	0.0
		60代	111	54.1	47.7	27.0	18.9	14.4	6.3	1.8	6.3	0.0	0.9
		70代	123	58.5	53.7	26.0	13.8	11.4	4.9	0.0	8.1	0.0	2.4

## 2 男性の家事等への参画促進のために必要なこと

問10 あなたは男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。（特に必要だと思うものを2つまで○）

- ・ 全体及び女性では「性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育をすること」と回答した割合が最も高く、男女で大きな差がみられた（全体：46.2%、男性：34.7%、女性：55.2%）。
- ・ 性・年代別にみると、「家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と回答した割合は、女性では年代が下がるほど高く、10代～40代で女性全体（23.8%）より高くなっている（女性10・20代：35.6%、30代：34.9%、40代：27.3%）。

図表4-2-① 男性の家事等への参画促進のために必要なこと — 性別



図表4-2-② 男性の家事等への参画促進のために必要なこと — 性・年代別

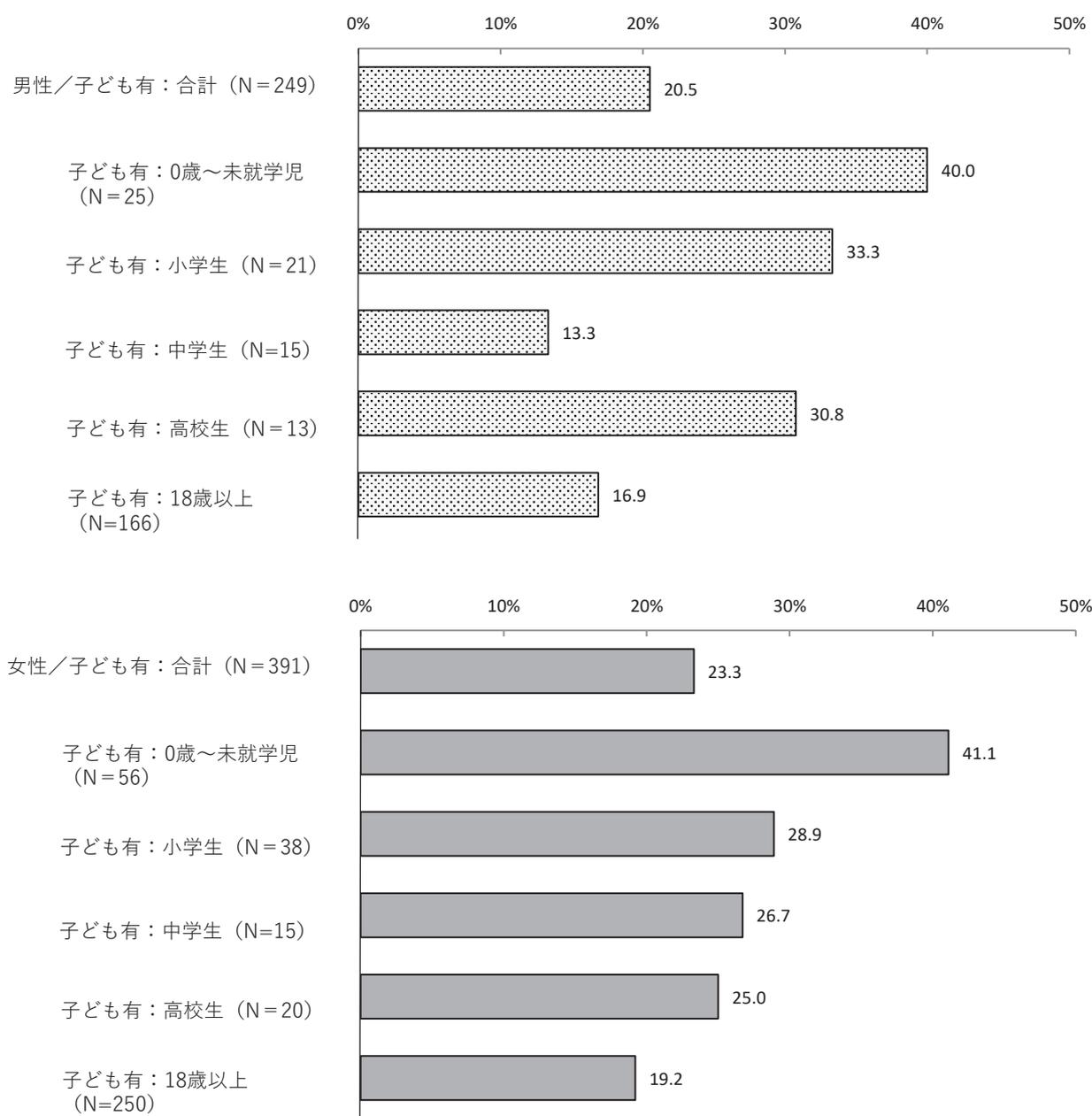
		調査数 (N)	性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育をすること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること	家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	男性が家事などに参加することについて、男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することについて、社会的評価を高めること	男性の家事などについて、啓発や情報提供相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事などに参加することについて、女性の抵抗感をなくすこと	その他	わからない	特に必要なことはない	無回答	
全体		949	46.2	31.1	27.4	23.1	19.5	17.5	7.2	4.0	2.2	2.0	1.4	1.3	
性別	男性	372	34.7	35.8	26.1	21.8	19.6	18.0	8.3	5.4	3.8	2.2	3.2	0.8	
	女性	547	55.2	28.2	28.2	23.8	19.7	17.2	6.6	3.1	1.3	1.8	0.0	1.5	
性・年代別	男性	10・20代	21	23.8	42.9	33.3	28.6	23.8	23.8	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	0.0
		30代	39	12.8	35.9	28.2	33.3	28.2	20.5	0.0	7.7	7.7	2.6	5.1	0.0
		40代	55	25.5	30.9	27.3	30.9	21.8	21.8	3.6	3.6	3.6	1.8	1.8	3.6
		50代	85	32.9	30.6	32.9	18.8	14.1	18.8	10.6	2.4	1.2	3.5	4.7	1.2
		60代	79	39.2	34.2	22.8	17.7	20.3	16.5	8.9	7.6	5.1	0.0	1.3	0.0
		70代	93	49.5	43.0	19.4	16.1	18.3	14.0	14.0	6.5	4.3	2.2	2.2	0.0
	女性	10・20代	45	51.1	17.8	28.9	35.6	15.6	20.0	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	2.2
		30代	63	57.1	15.9	42.9	34.9	15.9	14.3	3.2	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0
		40代	99	50.5	25.3	28.3	27.3	21.2	18.2	7.1	4.0	2.0	1.0	0.0	1.0
		50代	105	57.1	26.7	28.6	23.8	22.9	20.0	1.9	4.8	0.0	1.0	0.0	1.0
		60代	111	55.9	35.1	27.9	15.3	20.7	18.0	6.3	2.7	2.7	0.9	0.0	0.9
	70代	123	57.7	35.8	19.5	17.9	18.7	13.8	12.2	4.1	0.8	2.4	0.0	3.3	

【性・末子の年齢別】

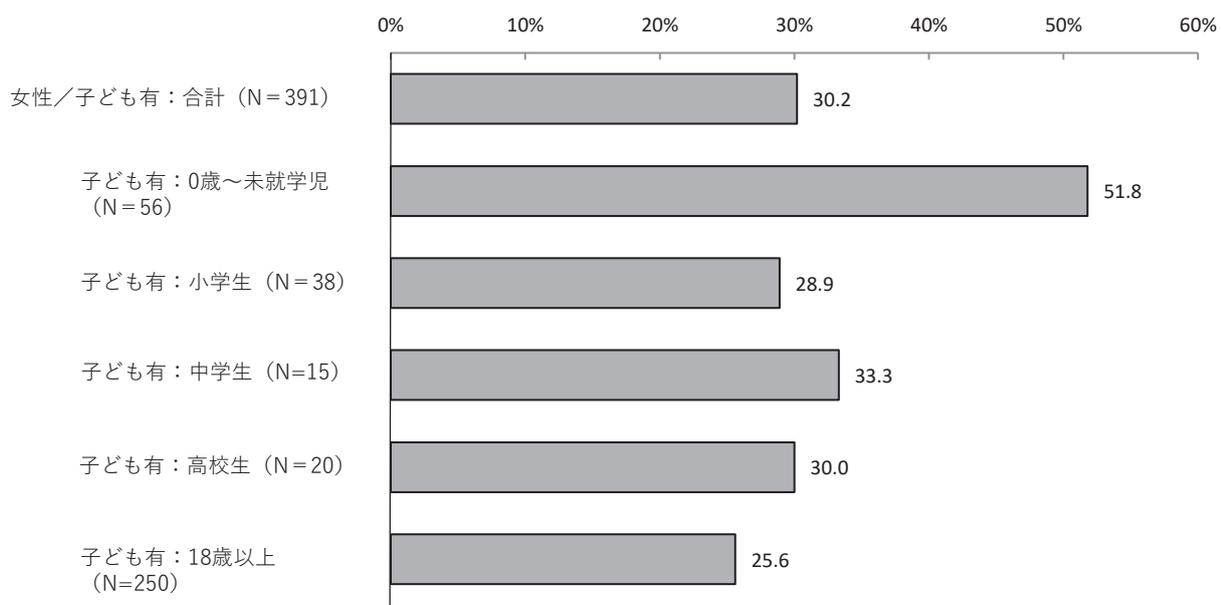
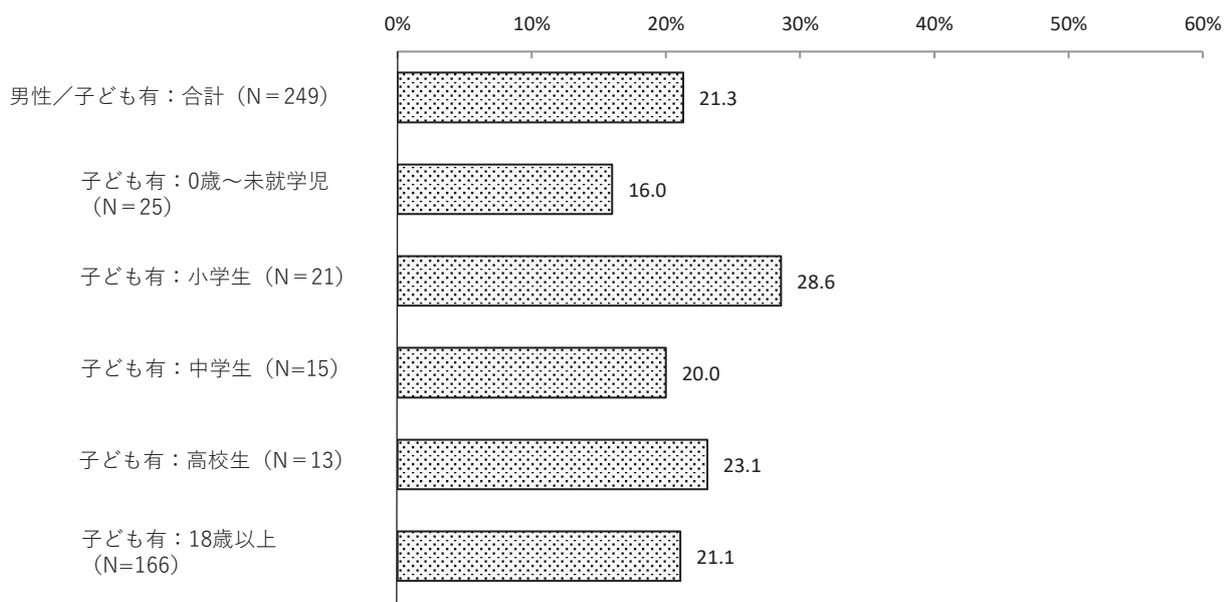
- ・ 「家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と回答した割合は、0歳から未就学児の子どもがいる女性が他の年齢の子どもがいる女性に比べて高く、末子の年齢が上がるにつれて低くなっている。
- ・ 「労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること」と回答した割合は、0歳から未就学児の子どもがいる女性が他の年齢の子どもがいる女性に比べて高く、半数を超えている。

図表4-2-③ 男性の家事等への参画促進のために必要なこと ー 性・末子の年齢別

家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること



労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること



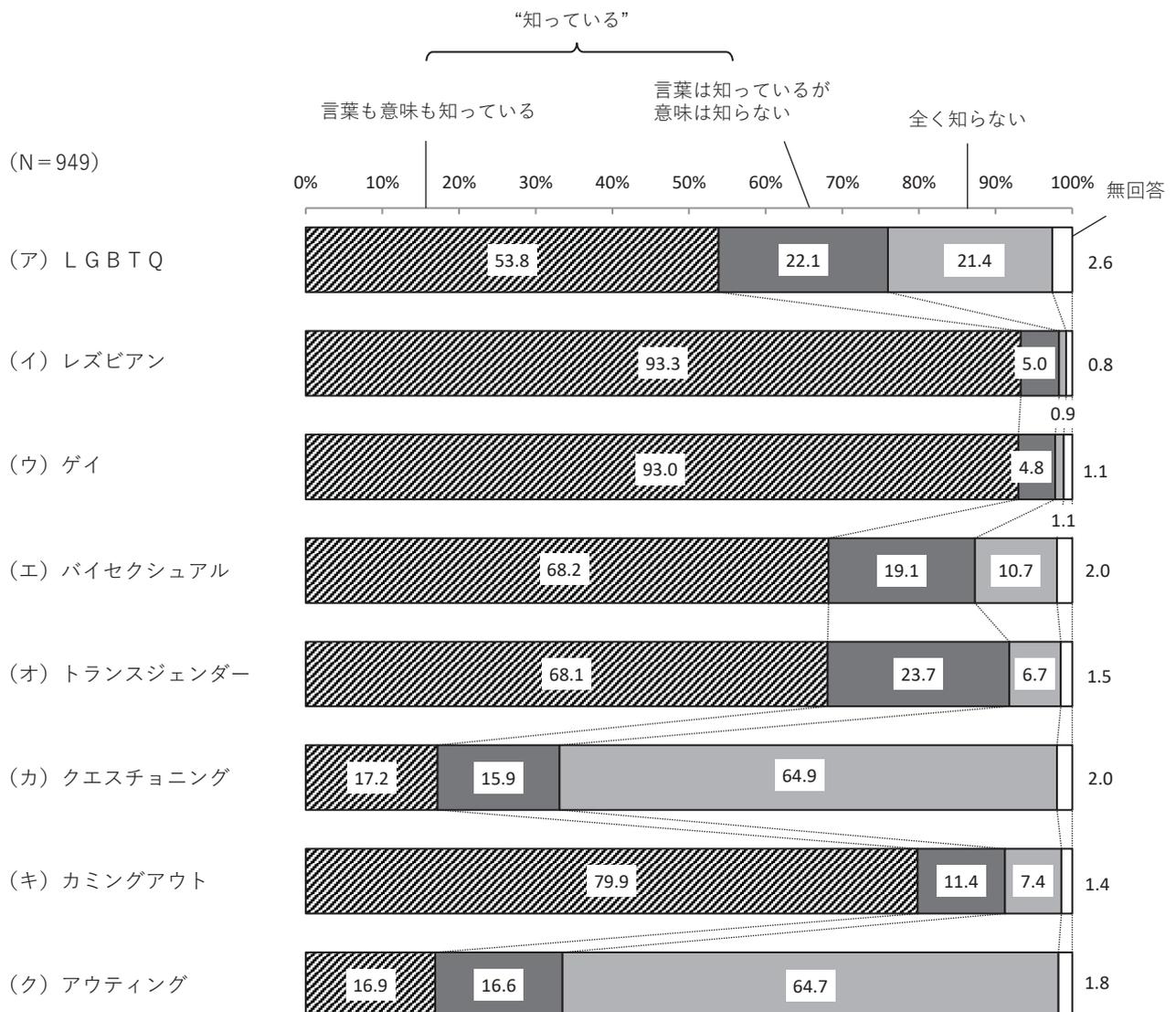
## 第5章 性の多様性について

### 1 性の多様性に関する言葉の認知度

問11 あなたは、次の言葉と意味について知っていますか。(ア)～(ク)それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

- ・ 「言葉も意味も知っている」と回答した割合は、「レズビアン」「ゲイ」では9割を超え、「カミングアウト」で約8割となっている。
- ・ 「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」では“知っている”(「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが意味は知らない」の合計)の割合は9割前後だが、「言葉は知っているが意味は知らない」が約2割となっている。
- ・ 「クエスチョニング」「アウティング」については、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が2割を下回っており、「全く知らない」が6割を超えている。

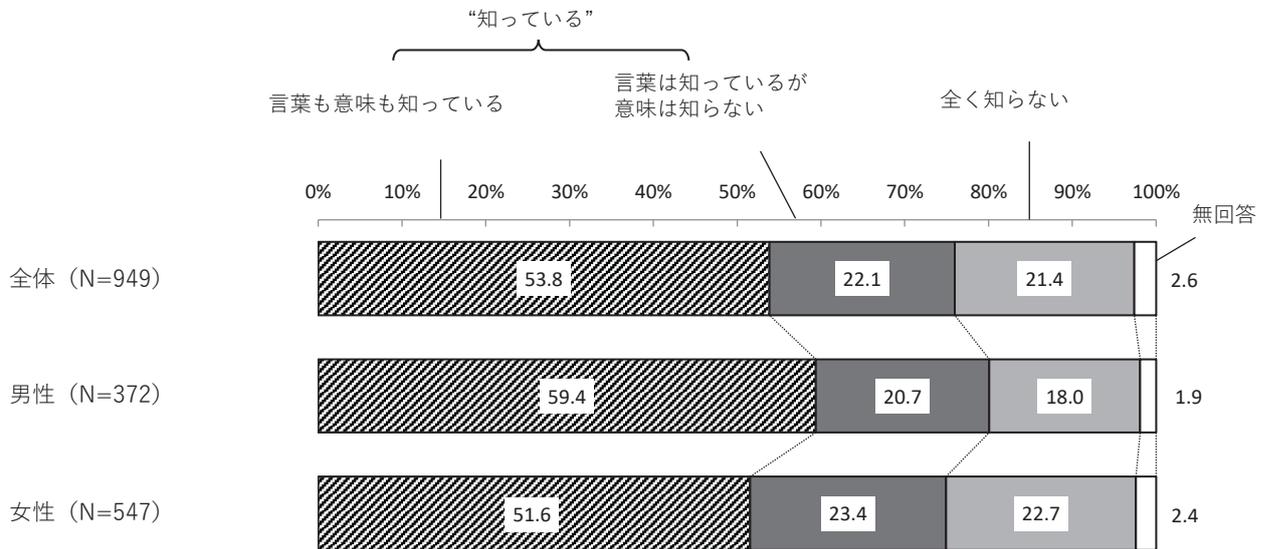
図表5-1-① 性の多様性に関する言葉の認知度



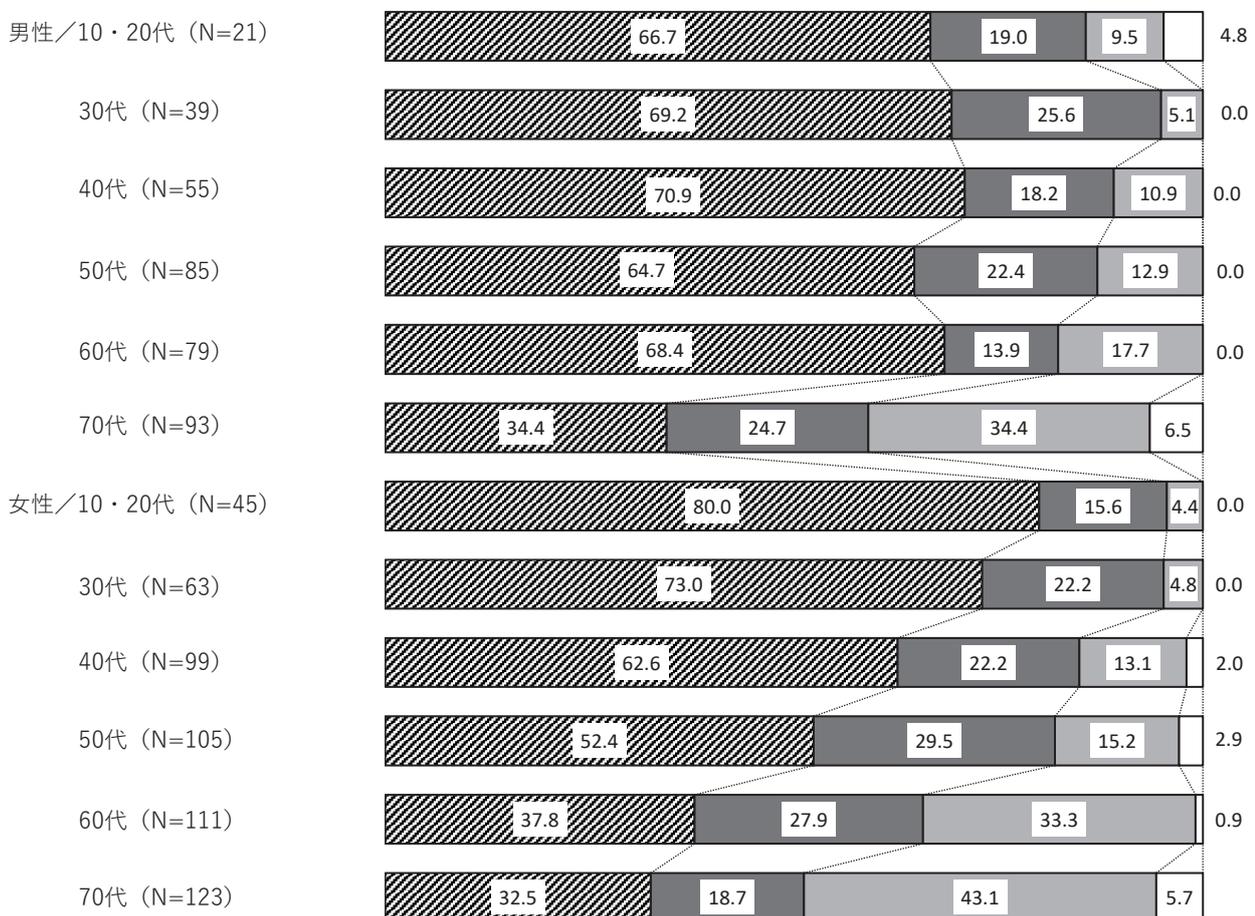
### (1) LGBTQの認知度

- 全体及び女性では“知っている”と回答した割合が7割を超えており、男性では8割を超えているが、「言葉は知っているが、意味は知らない」が2割強となっている。
- 性・年代別にみると、女性では年代が下がるにつれて認知度が高くなっている。

図表 5 - 1 - 1 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「LGBTQ」 — 性別



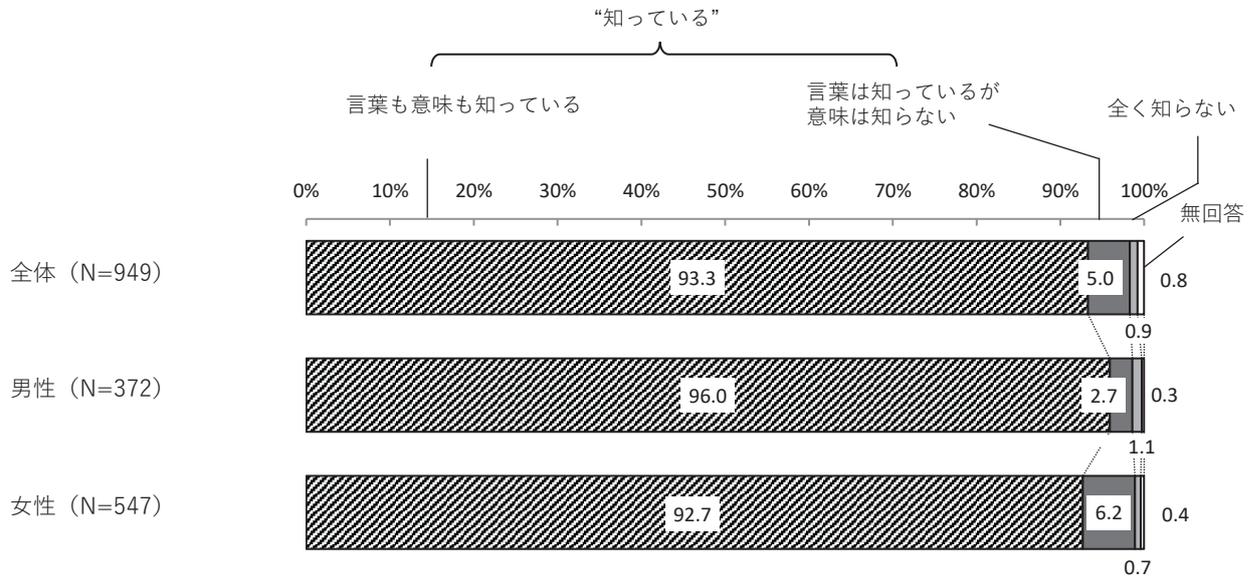
図表 5 - 1 - 1 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「LGBTQ」 — 性・年代別



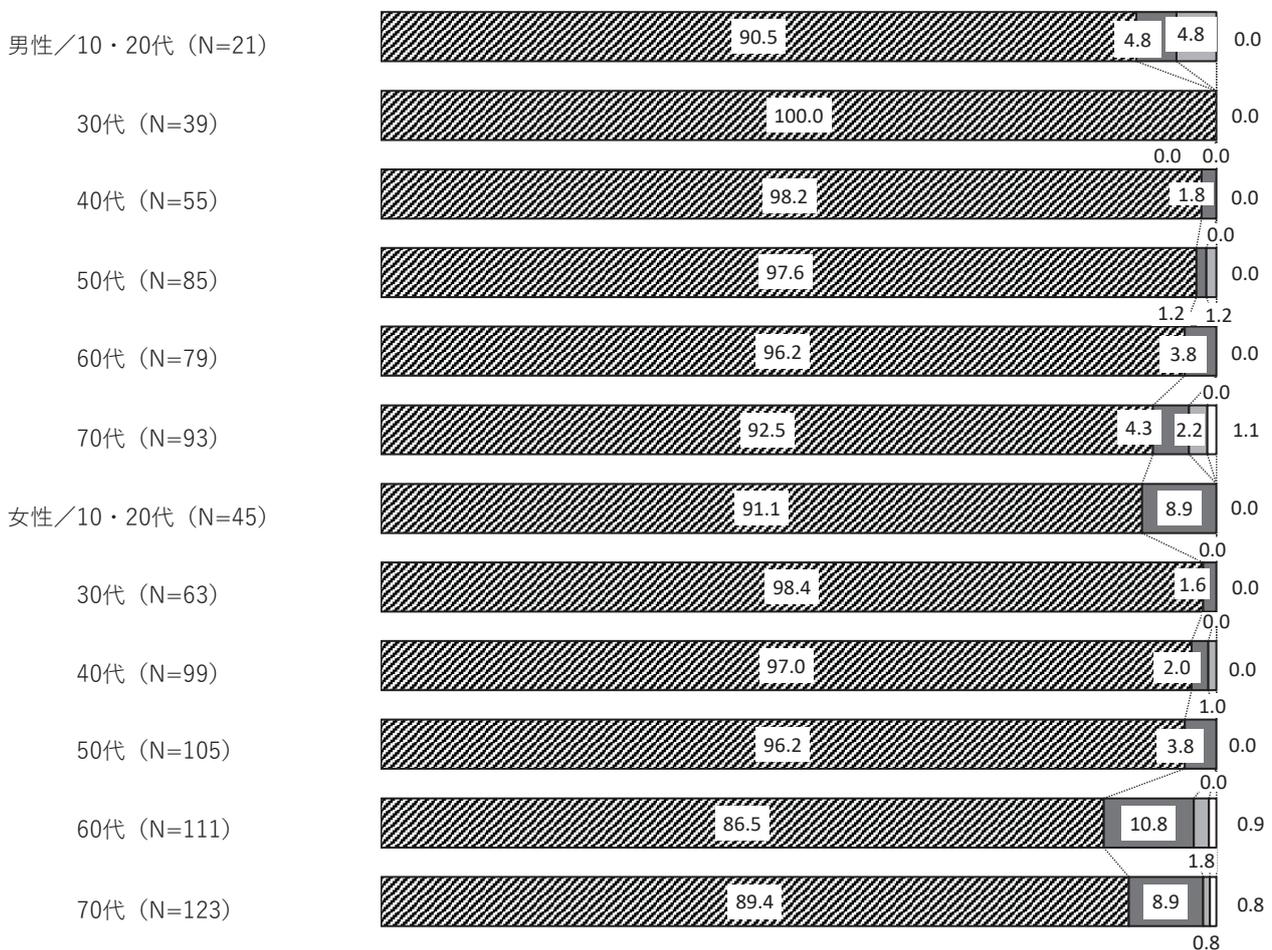
## (2) レズビアン認知度

- 全体、男女ともに“知っている”と回答した割合が9割台後半となっている。

図表 5 - 1 - 2 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「レズビアン」 — 性別



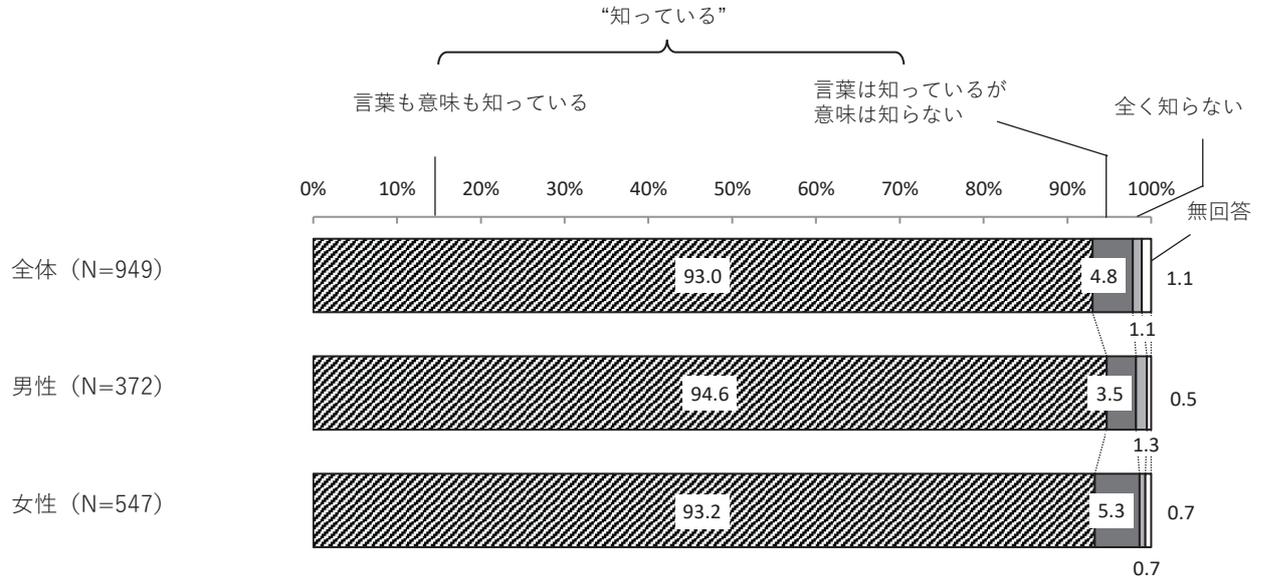
図表 5 - 1 - 2 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「レズビアン」 — 性・年代別



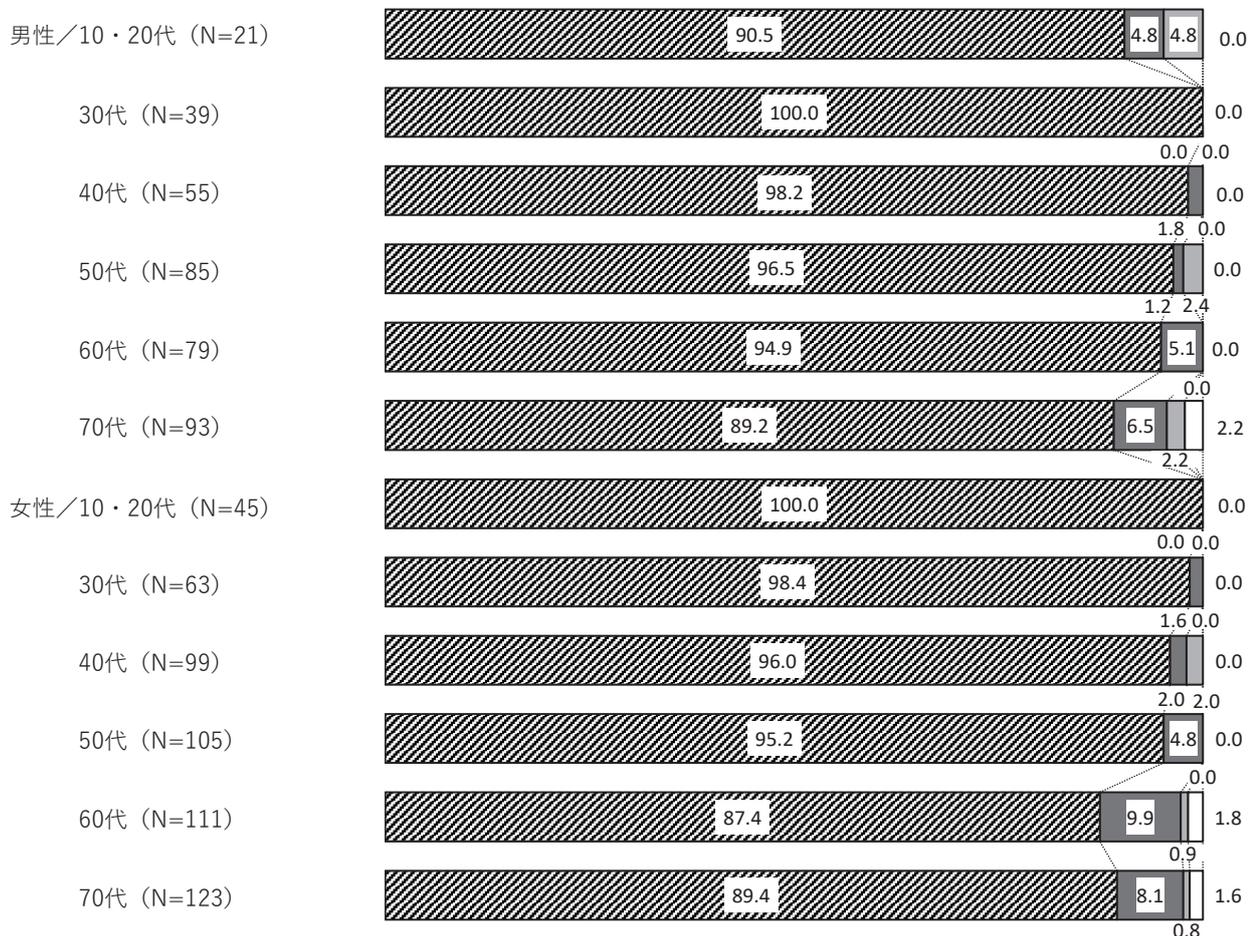
### (3)ゲイの認知度

- 全体、男女ともに“知っている”と回答した割合が9割台後半となっている。

図表5-1-3-① 性の多様性に関する言葉の認知度「ゲイ」 — 性別



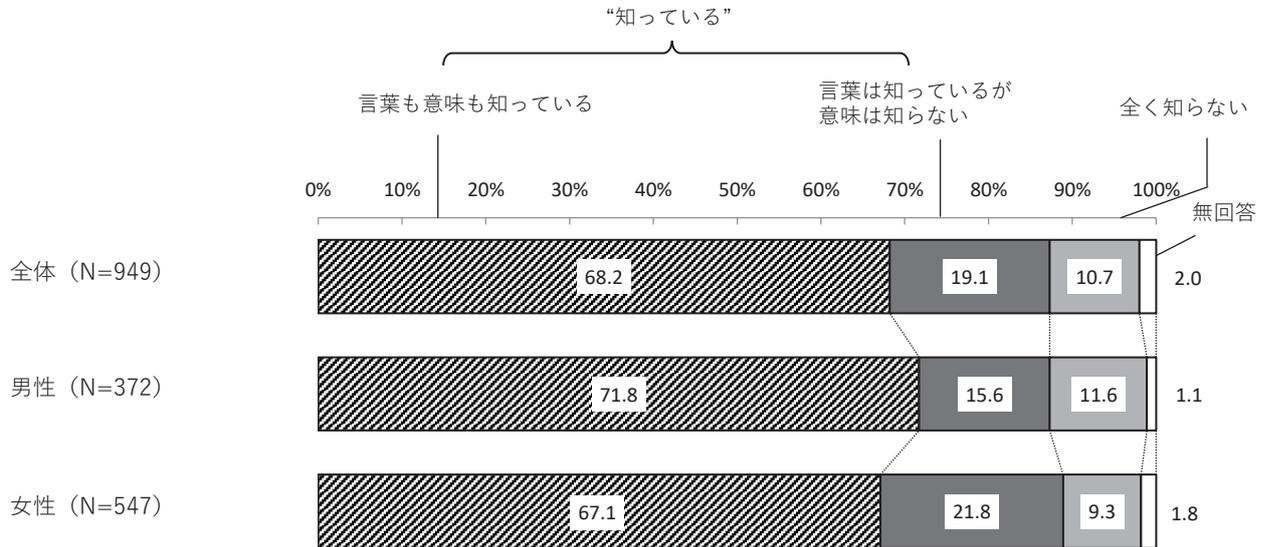
図表5-1-3-② 性の多様性に関する言葉の認知度「ゲイ」 — 性・年代別



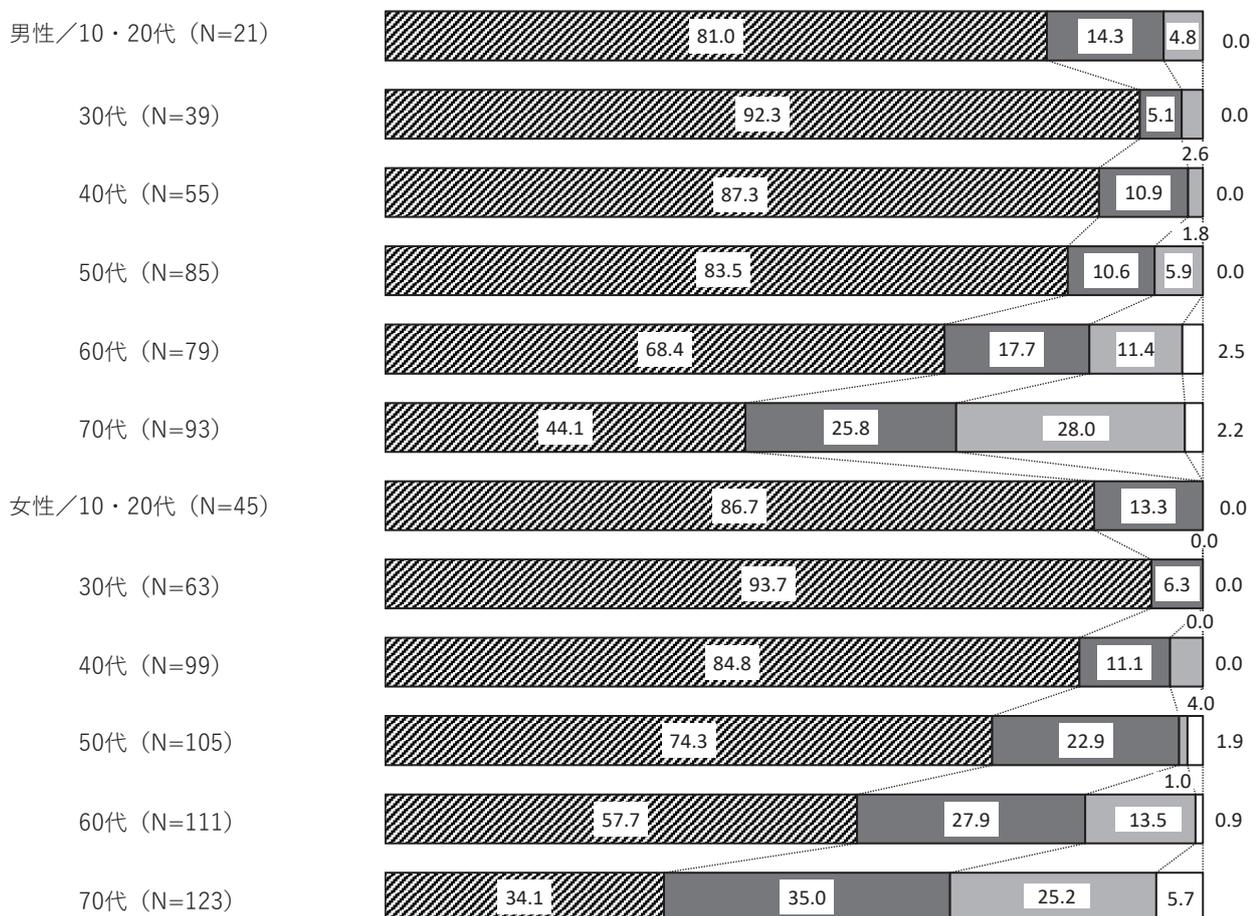
#### (4) バイセクシュアルの認知度

- 全体、男女ともに“知っている”と答えた割合が9割弱だが、「言葉は知っているが意味は知らない」が2割弱～2割強となっている。
- 性・年代別にみると、“知っている”の割合は概ね年代が下がるにつれて高くなっている。

図表 5 - 1 - 4 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「バイセクシュアル」 — 性別



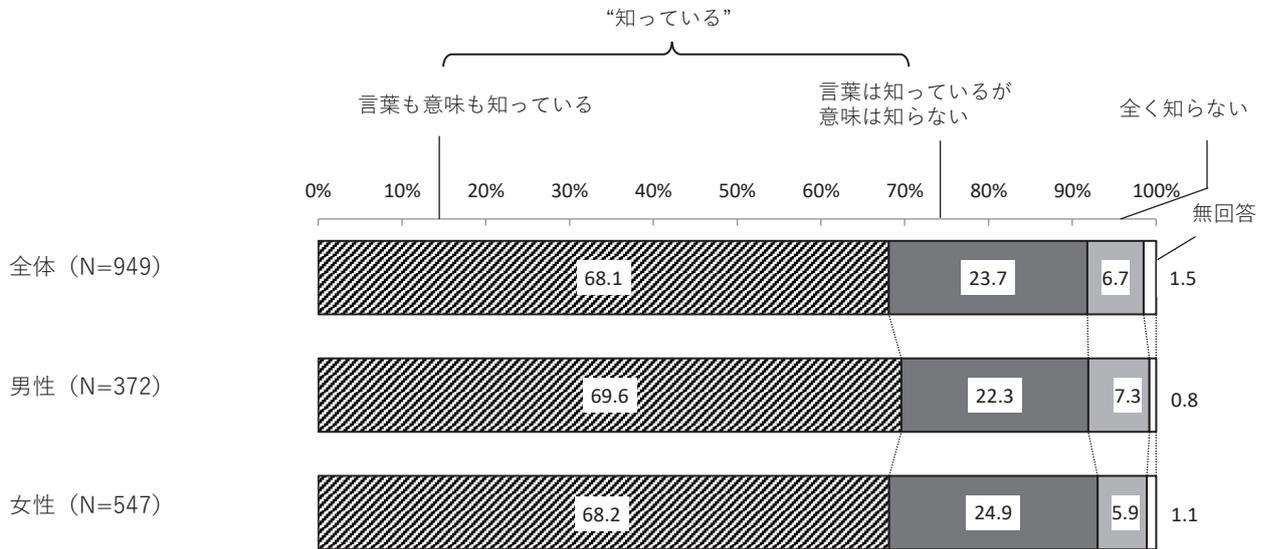
図表 5 - 1 - 4 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「バイセクシュアル」 — 性・年代別



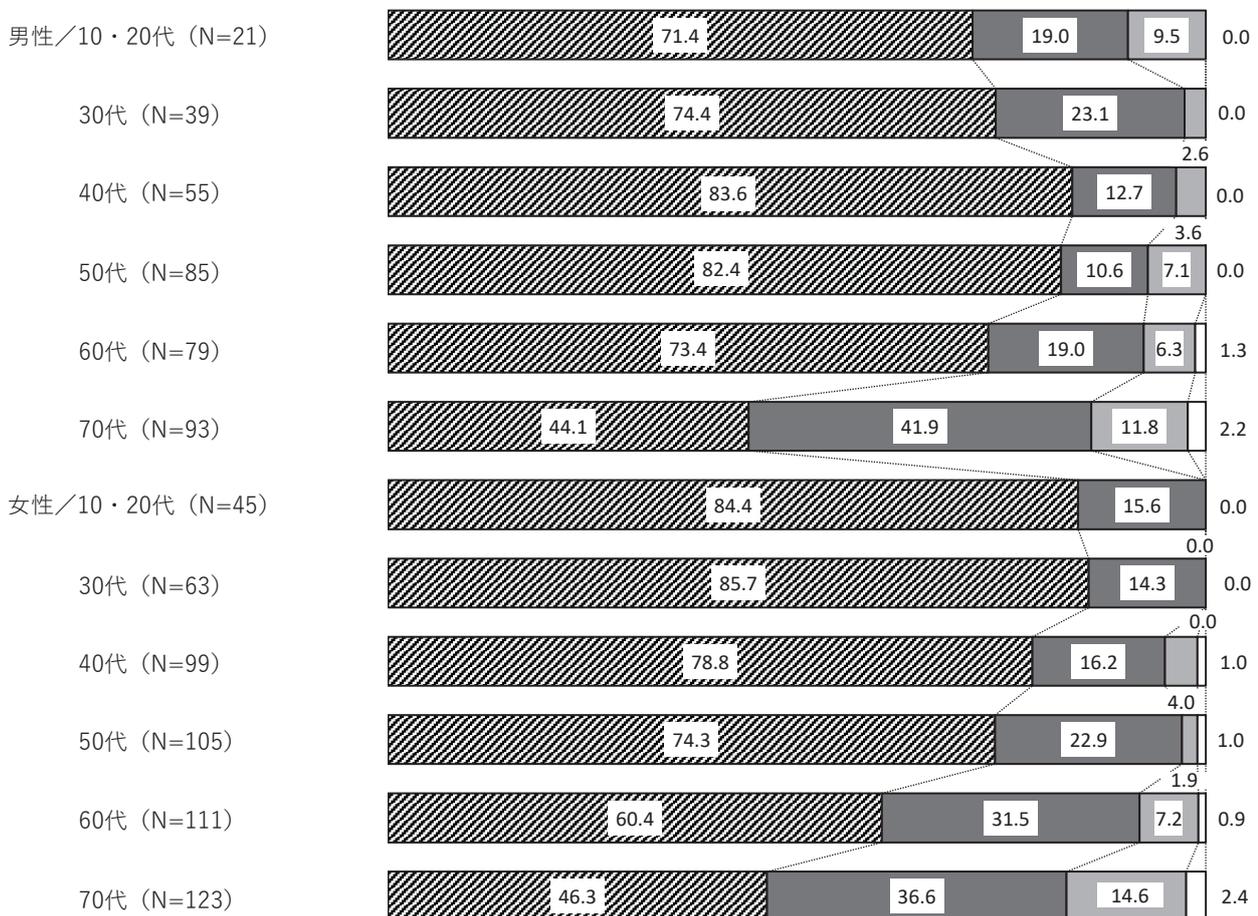
(5)トランスジェンダーの認知度

- 全体、男女ともに“知っている”と答えた割合が9割を超えているが、「言葉は知っているが意味は知らない」が2割強となっている。
- 性・年代別にみると、“知っている”の割合は概ね年代が下がるにつれて高くなっている。

図表5-1-5-① 性の多様性に関する言葉の認知度「トランスジェンダー」 — 性別



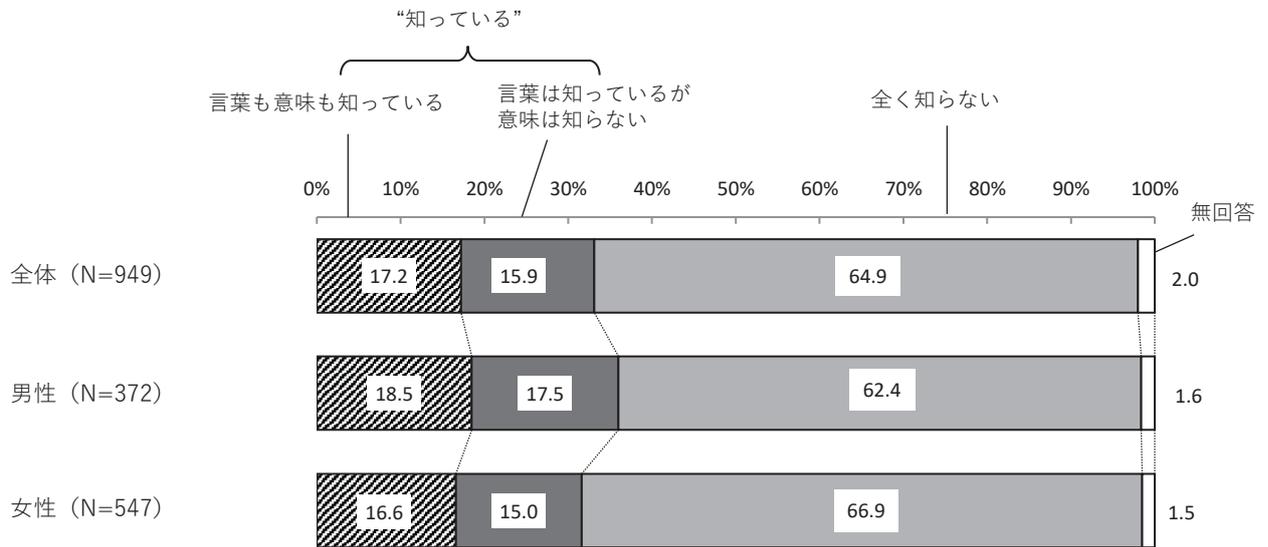
図表5-1-5-② 性の多様性に関する言葉の認知度「トランスジェンダー」 — 性・年代別



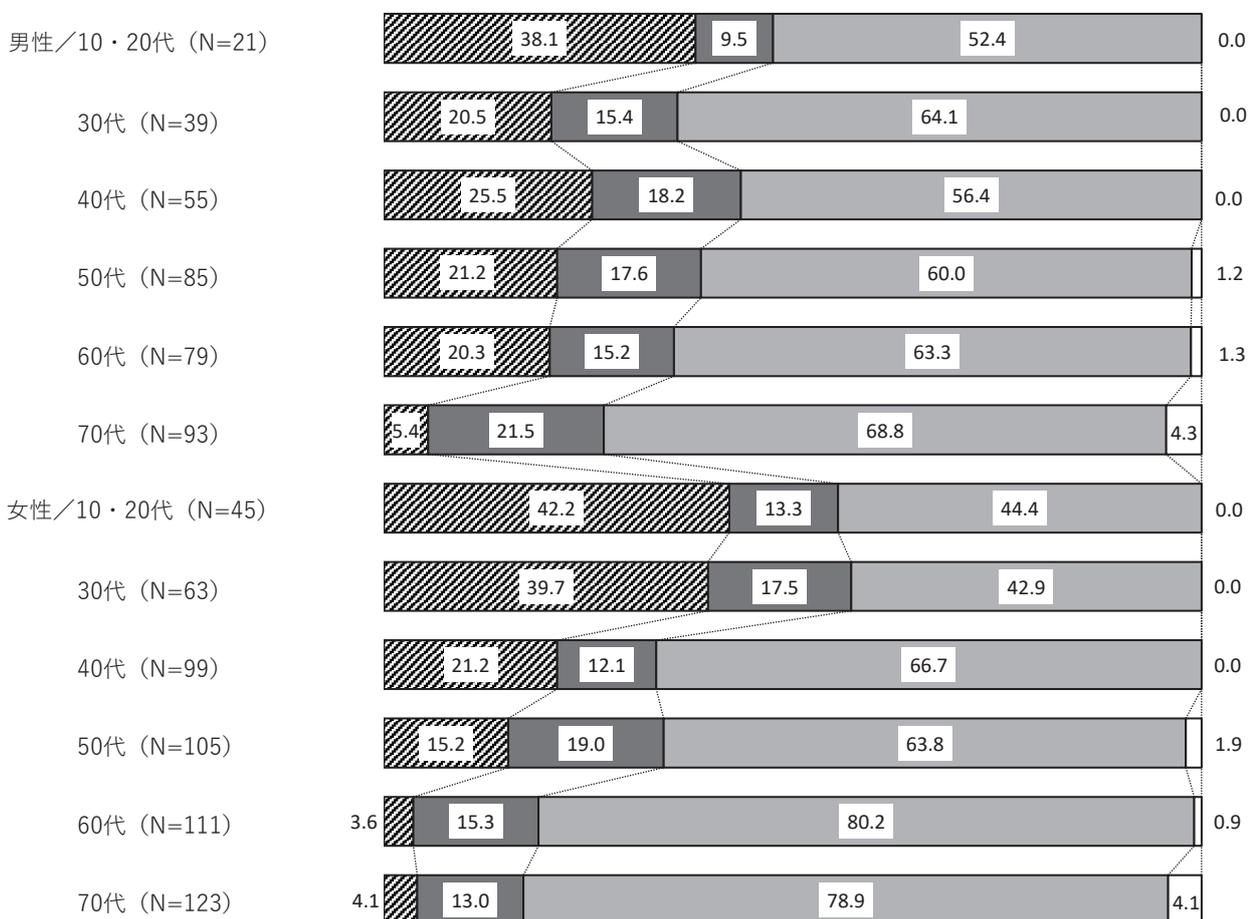
### (6) クエスチョニングの認知度

- 全体、男女ともに「全く知らない」と回答した割合が6割を超えている。
- 性・年代別にみると、30代以下の女性では“知っている”の割合が半数を超えている。

図表 5 - 1 - 6 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「クエスチョニング」 — 性別



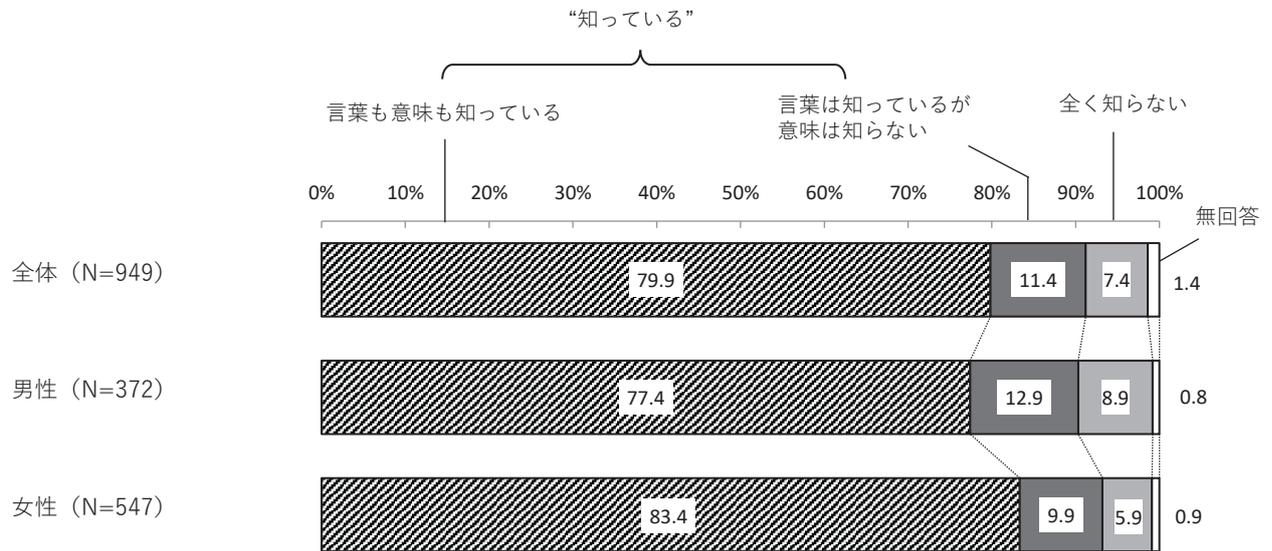
図表 5 - 1 - 6 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「クエスチョニング」 — 性・年代別



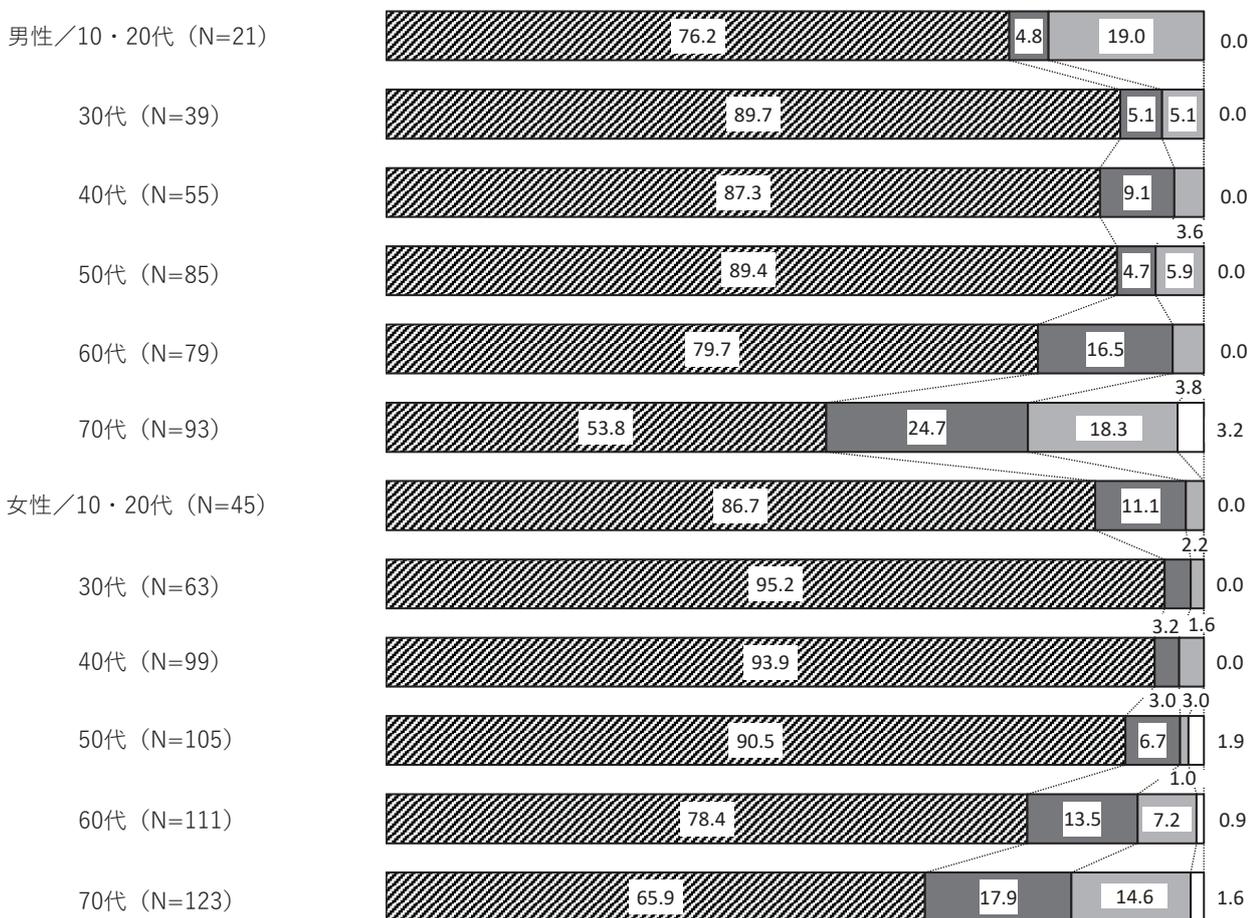
### (7)カミングアウトの認知度

- 全体、男女ともに“知っている”と回答した割合が9割を超えている。
- 性・年代別にみると、30代～50代の女性では「言葉も意味も知っている」の割合が9割を超えている。

図表 5 - 1 - 7 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「カミングアウト」 — 性別



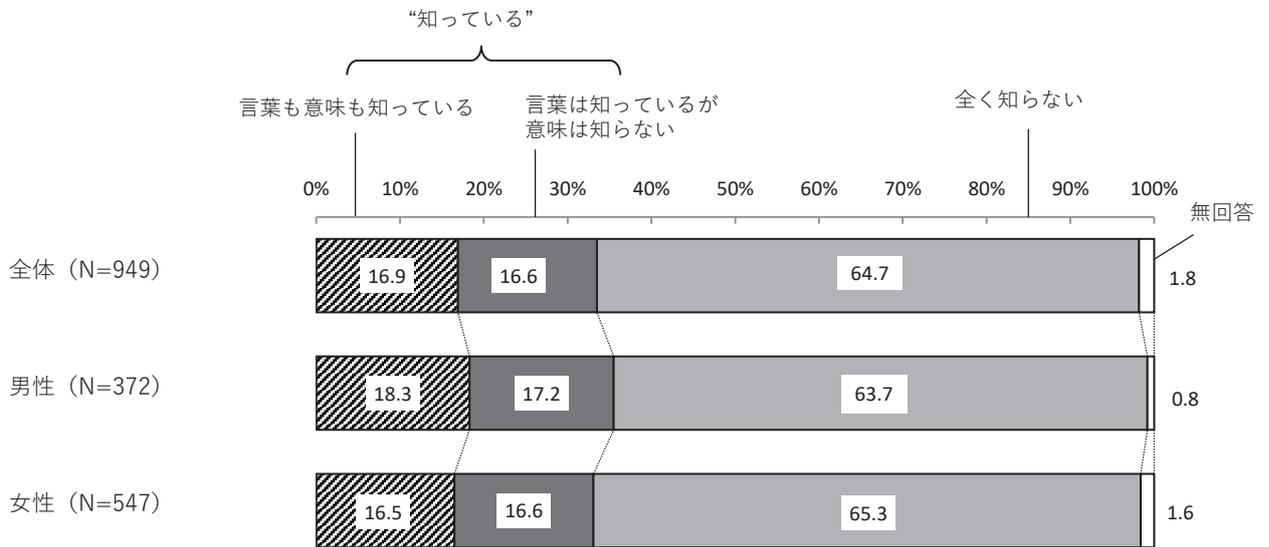
図表 5 - 1 - 7 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「カミングアウト」 — 性・年代別



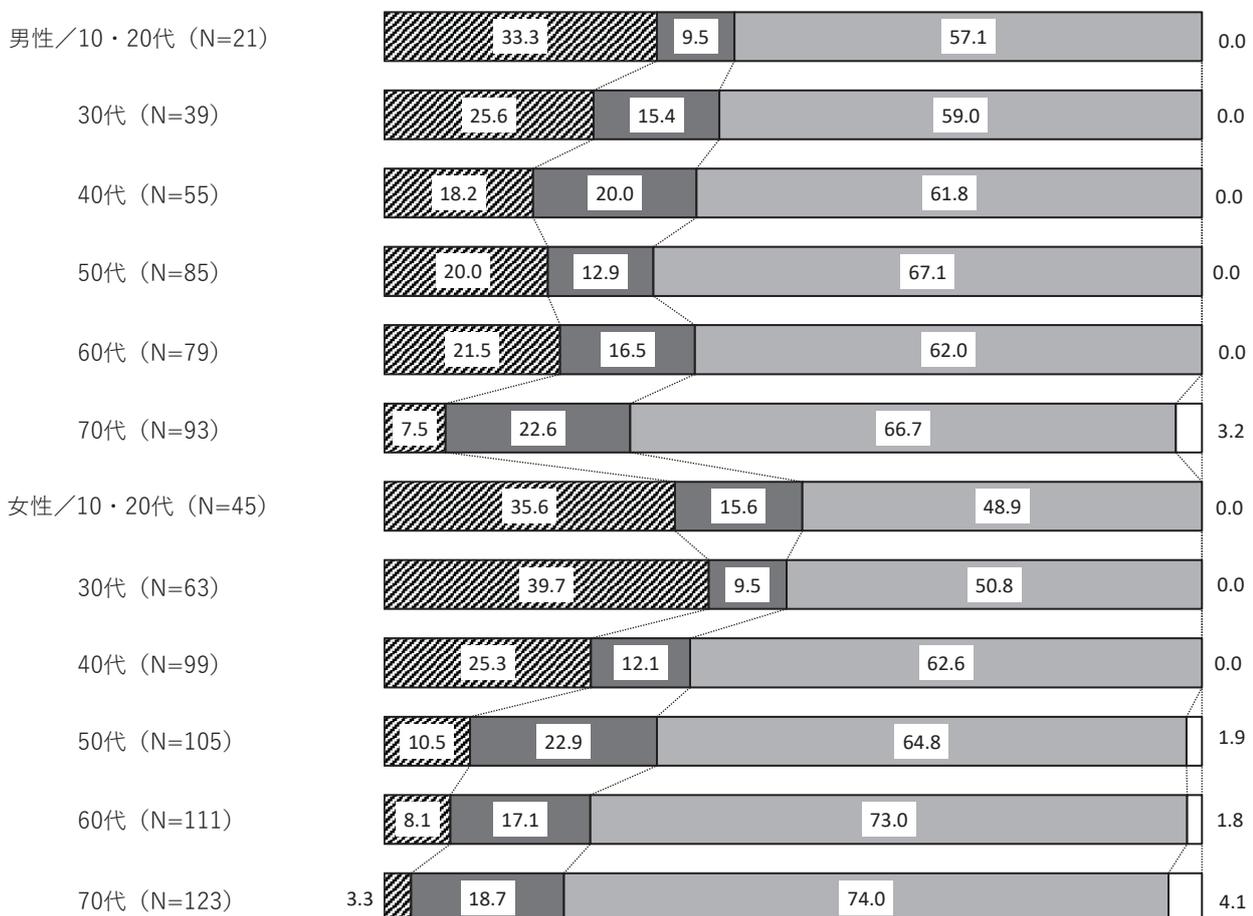
(8) アウティングの認知度

- 全体、男女ともに「全く知らない」と回答した割合が6割を超えている。
- 性・年代別にみると、「言葉も意味も知っている」と回答した割合は30代の女性が最も高く、次いで10・20代の女性となっている。

図表 5 - 1 - 8 - ① 性の多様性に関する言葉の認知度「アウティング」 — 性別



図表 5 - 1 - 8 - ② 性の多様性に関する言葉の認知度「アウティング」 — 性・年代別

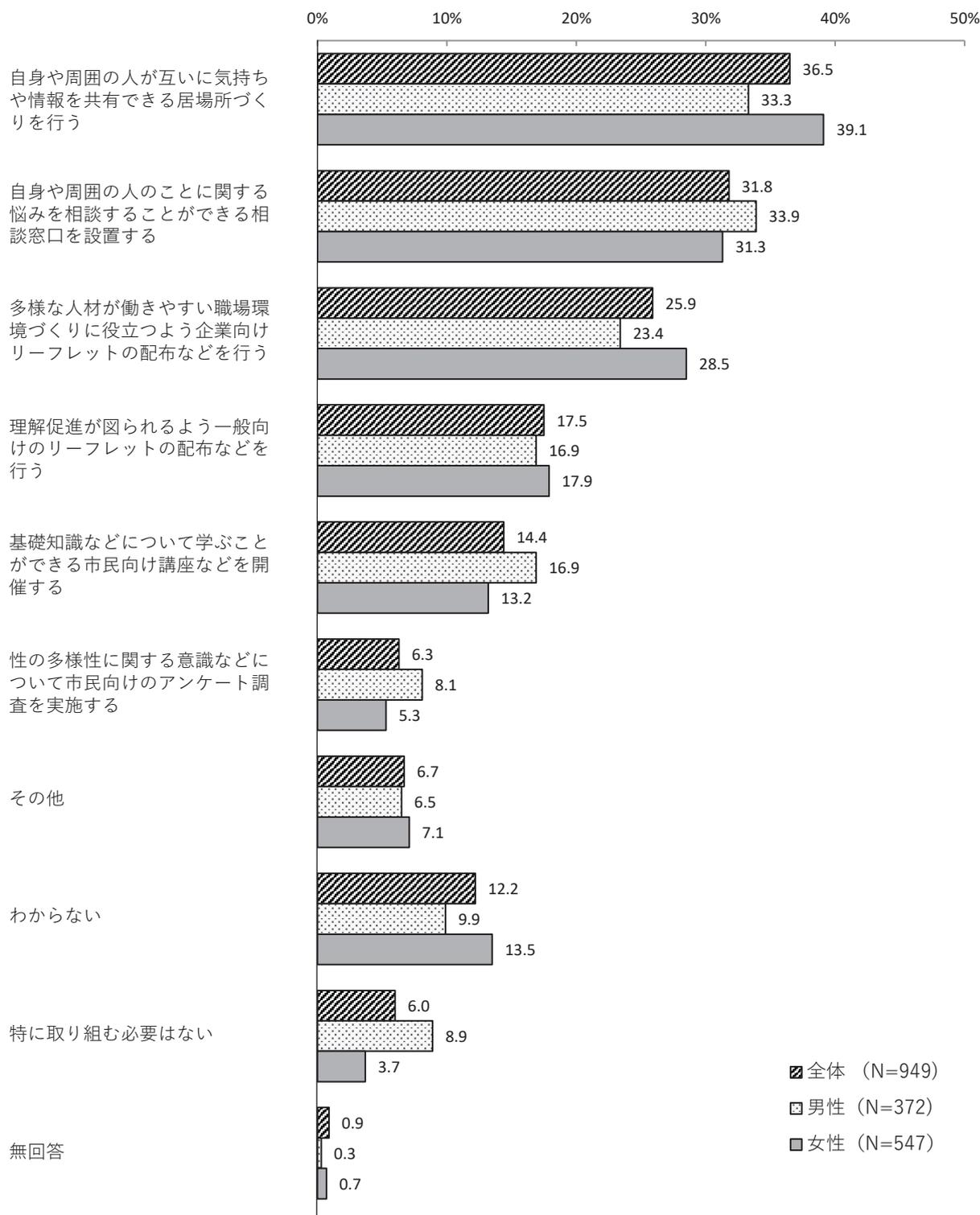


## 2 性の多様性の理解促進に向けて必要な取り組み

問12 あなたは、性の多様性の理解促進に向けて、仙台市はどのような取り組みをしていくことが必要だと思いますか。（特に必要だと思うものを2つまで○）

- 全体、男女ともに上位3項目は「自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う」「自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する」「多様な人材が働きやすい職場環境づくりに役立つよう企業向けリーフレットの配布などを行う」。
- 性・年代別に見ると、男性では「自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う」と回答した割合が年代が下がるにつれて高くなっている。

図表5-2-① 性の多様性の理解促進に向けて必要な取り組み — 性別



図表5-2-② 性の多様性の理解促進に向けて必要な取り組み — 性・年代別

		調査数 (N)	自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う	自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する	自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する	多様な人材が働きやすい職場環境づくりに役立つよう企業向けリーフレットの配布などを行う	理解促進が図られるよう一般向けのリーフレットの配布などを行う	基礎知識などについて学ぶことができる市民向け講座などを開催する	性の多様性に関する意識などについて市民向けのアンケート調査を実施する	その他	わからない	特に取り組む必要はない	無回答
全体		949	36.5	31.8	25.9	17.5	14.4	6.3	6.7	12.2	6.0	0.9	
性別	男性	372	33.3	33.9	23.4	16.9	16.9	8.1	6.5	9.9	8.9	0.3	
	女性	547	39.1	31.3	28.5	17.9	13.2	5.3	7.1	13.5	3.7	0.7	
性・年代別	男性	10・20代	21	57.1	33.3	33.3	9.5	4.8	14.3	9.5	4.8	9.5	0.0
		30代	39	51.3	35.9	7.7	5.1	10.3	10.3	12.8	7.7	12.8	0.0
		40代	55	43.6	40.0	21.8	7.3	18.2	5.5	3.6	9.1	9.1	0.0
		50代	85	35.3	29.4	21.2	16.5	12.9	7.1	7.1	12.9	10.6	0.0
		60代	79	26.6	30.4	31.6	27.8	16.5	3.8	6.3	7.6	5.1	0.0
		70代	93	18.3	36.6	23.7	20.4	25.8	11.8	4.3	11.8	8.6	1.1
	女性	10・20代	45	46.7	42.2	13.3	6.7	13.3	8.9	11.1	11.1	4.4	0.0
		30代	63	39.7	20.6	34.9	9.5	9.5	14.3	14.3	11.1	6.3	0.0
		40代	99	46.5	29.3	32.3	16.2	10.1	4.0	12.1	10.1	2.0	0.0
		50代	105	43.8	26.7	29.5	23.8	10.5	2.9	5.7	10.5	6.7	1.0
		60代	111	32.4	36.0	28.8	19.8	17.1	3.6	3.6	16.2	1.8	0.9
		70代	123	32.5	33.3	26.8	21.1	15.4	4.1	2.4	18.7	2.4	1.6

## 第6章 セクシュアル・ハラスメントについて

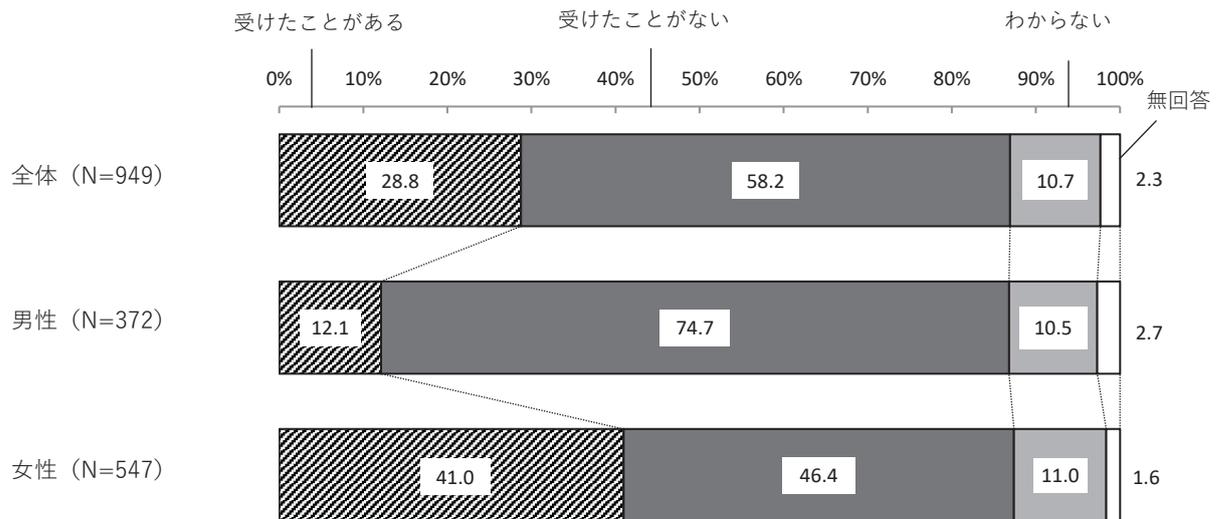
### 1 セクシュアル・ハラスメントの被害経験

問13 あなたは職場や学校、日常生活でセクシュアル・ハラスメントだと思う行為を受けた経験はありますか。(○は1つ)

#### (1)セクシュアル・ハラスメントの被害経験

- セクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した割合は、女性が41.0%、男性が12.1%で、女性の被害経験率は男性の3倍強となっている。

図表6-1-1-① セクシュアル・ハラスメントの被害経験 — 性別

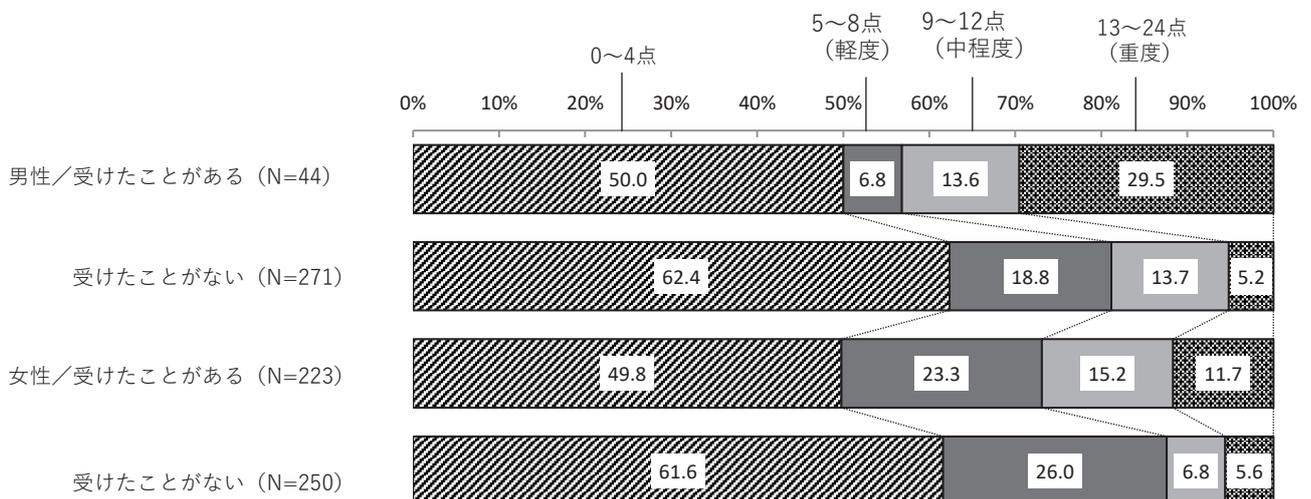


#### (2)セクシュアル・ハラスメントの被害経験の心の健康状態（メンタルヘルス）への影響

セクシュアル・ハラスメントの被害経験がある人となない人で、心の健康状態を測る尺度であるK6得点を比較し、メンタルヘルスへの影響を分析した。

- 男女ともにセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した人は、「受けたことがない」と回答した人と比べて、精神的不調の度合いが「重度」（13点以上）の割合が高くなっている。

図表6-1-2-① セクシュアル・ハラスメントの被害経験の有無とK6得点の分布 — 性別



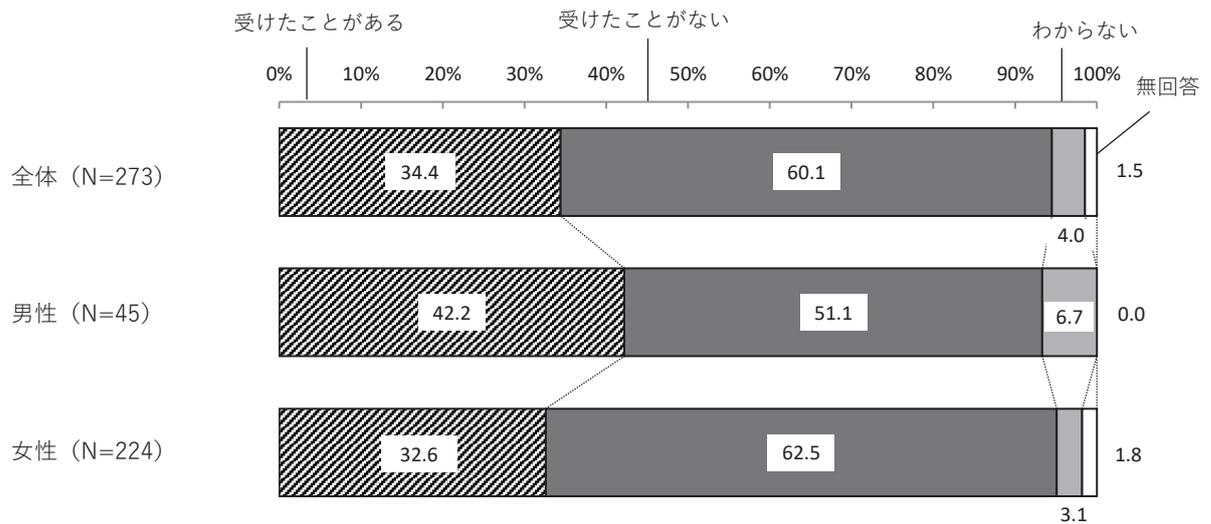
## 2 過去5年以内のセクシュアル・ハラスメントの被害経験

【問13で「1 受けたことがある」と回答した方にお聞きします。】

問14 では、この5年間は、どうでしたか。（○は1つ）

- これまでセクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人のうち、過去5年以内に「受けたことがある」と回答した割合は男性が42.2%、女性が32.6%で、男性の方が高い。

図表6-2-① セクシュアル・ハラスメントを受けた経験<過去5年以内> — 性別

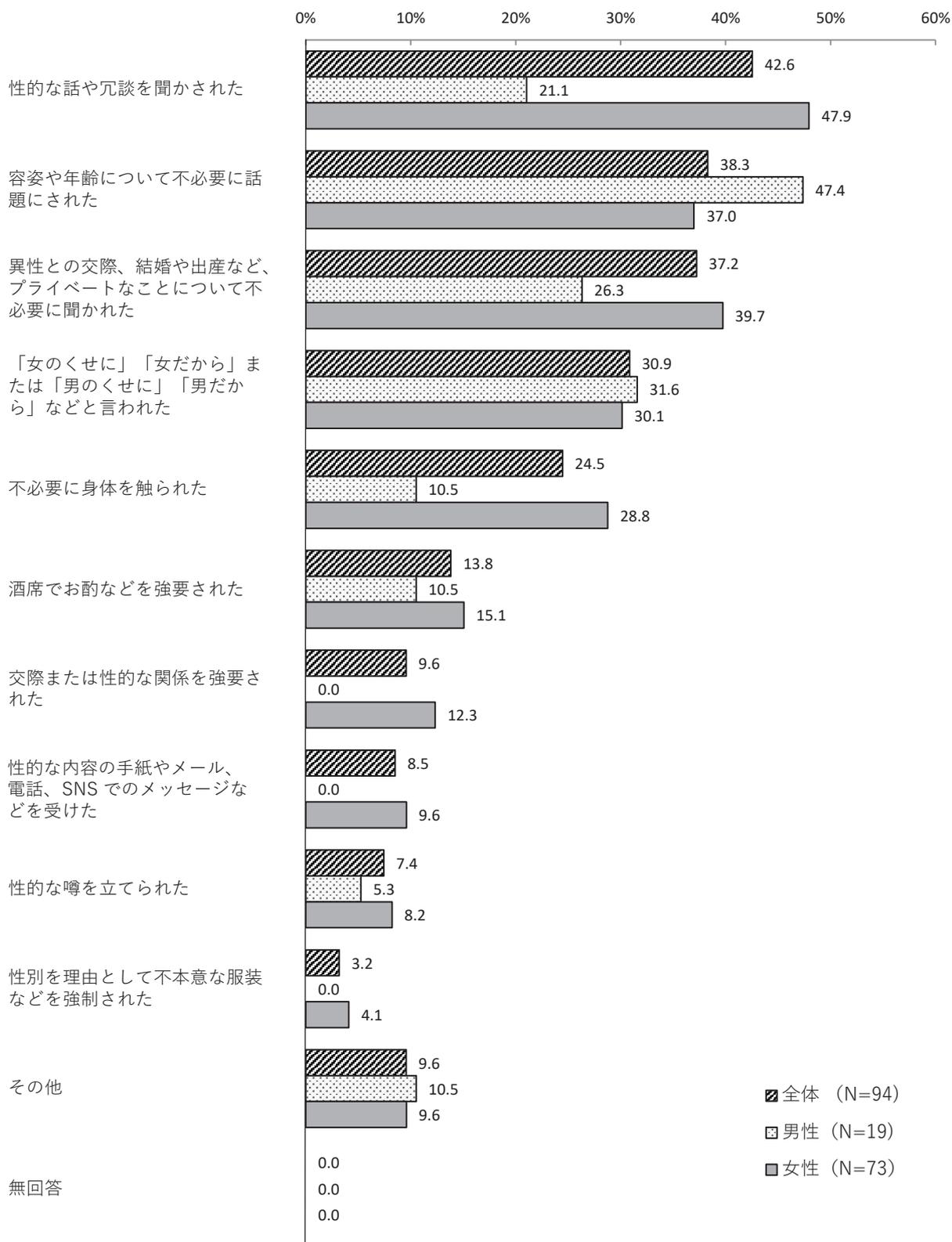


### 3 セクシュアル・ハラスメントの内容

【問14で「1 受けたことがある」と回答した方にお聞きします。】  
 問15 あなたが受けた行為は、どのような行為ですか。（〇はいくつでも）

- 女性では「性的な話や冗談を聞かされた」と回答した割合が最も高く、次いで「異性との交際、結婚や出産など、プライベートなことについて不必要に聞かれた」「容姿や年齢について不必要に話題にされた」の順となっている。

図表6-3-① セクシュアル・ハラスメント被害の内容 — 性別

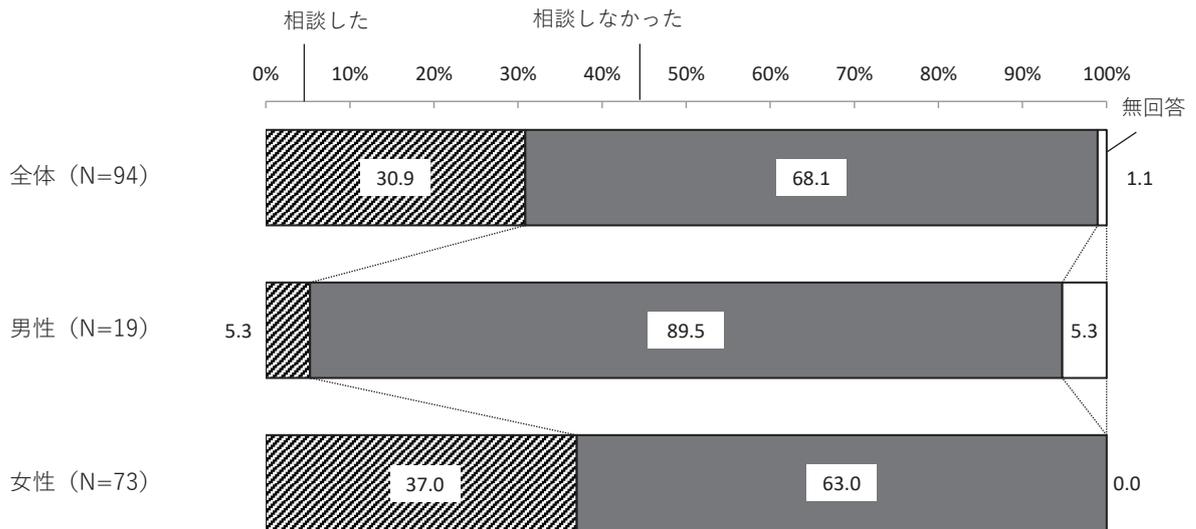


#### 4 セクシュアル・ハラスメント被害の相談

問16 あなたは、その行為を受けたとき、だれかに相談しましたか。(〇は1つ)

- セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人のうち、「相談した」と回答した割合は全体で30.9%で、約7割はどこ(だれ)にも相談していない。

図表6-4-① セクシュアル・ハラスメント被害の相談の有無 — 性別



【問16で「1 相談した」と回答した方にお聞きします。】

問16-1 どこ(だれ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

※ 回答者数(N)が少ないため、結果は参考とし、比率ではなく回答件数を以下に掲載する。

図表6-4-1-① セクシュアル・ハラスメント被害の相談先 — 性別

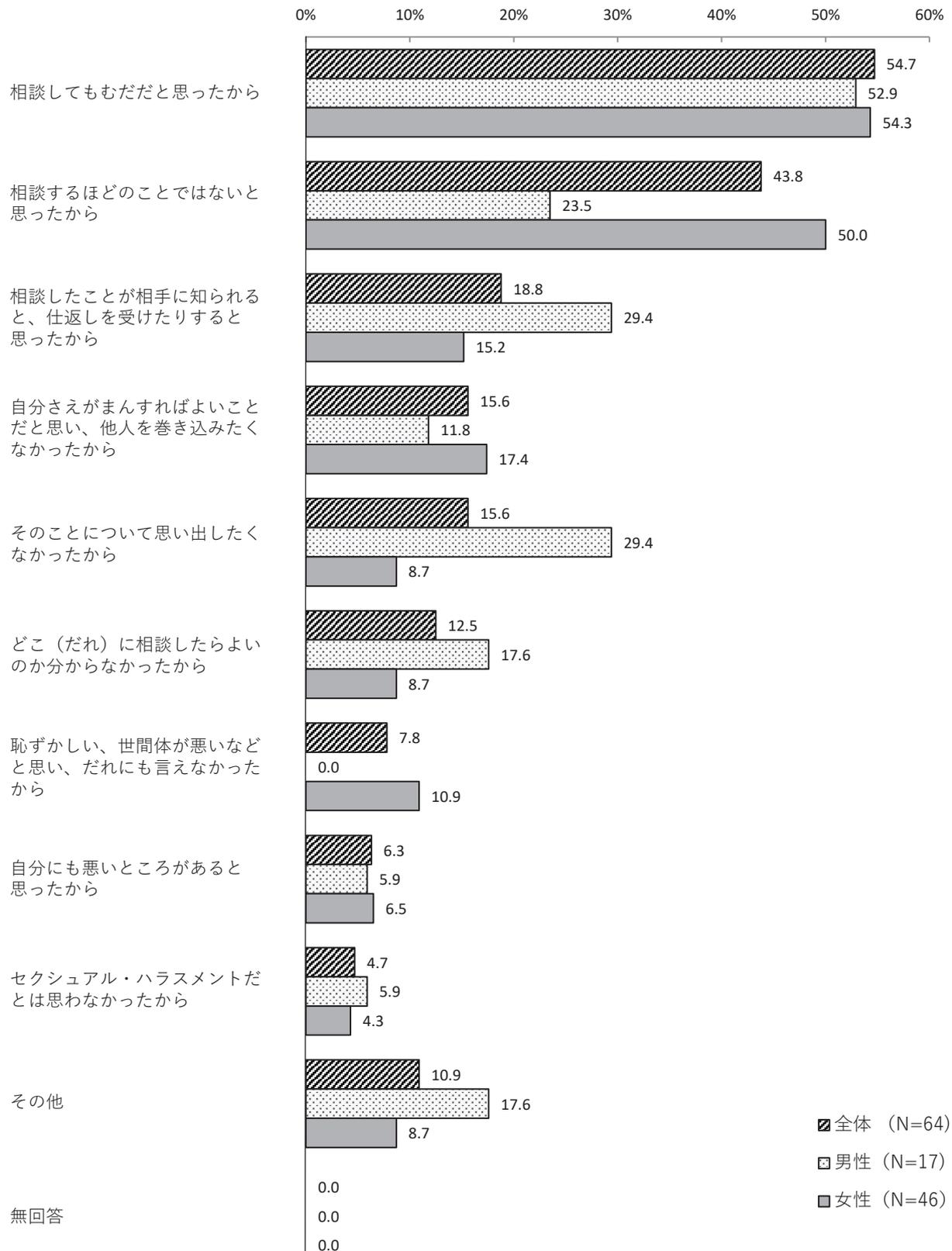
		調査数 (N)	家族・友人	学校の先生・養護教員・スクールカウンセラー	学校の相談窓口	職場の同僚・上司	職場の相談窓口	宮城労働局雇用環境・均等室	エル・ソーラ仙台「女性相談」	仙台市「男性のための電話相談」	みやぎ男女共同参画相談室	その他	無回答
全体		29	14	1	0	14	2	1	2	0	0	2	0
性別	男性	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	女性	27	13	1	0	13	1	1	2	0	0	2	0

【問16で「2 相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問16-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- 全体、男女ともに「相談してもむだだと思ったから」と回答した割合が最も高く、半数を超えている。
- 女性では、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合も5割となっている。

図表6-4-2-① セクシュアル・ハラスメント被害を相談しなかった理由 — 性別



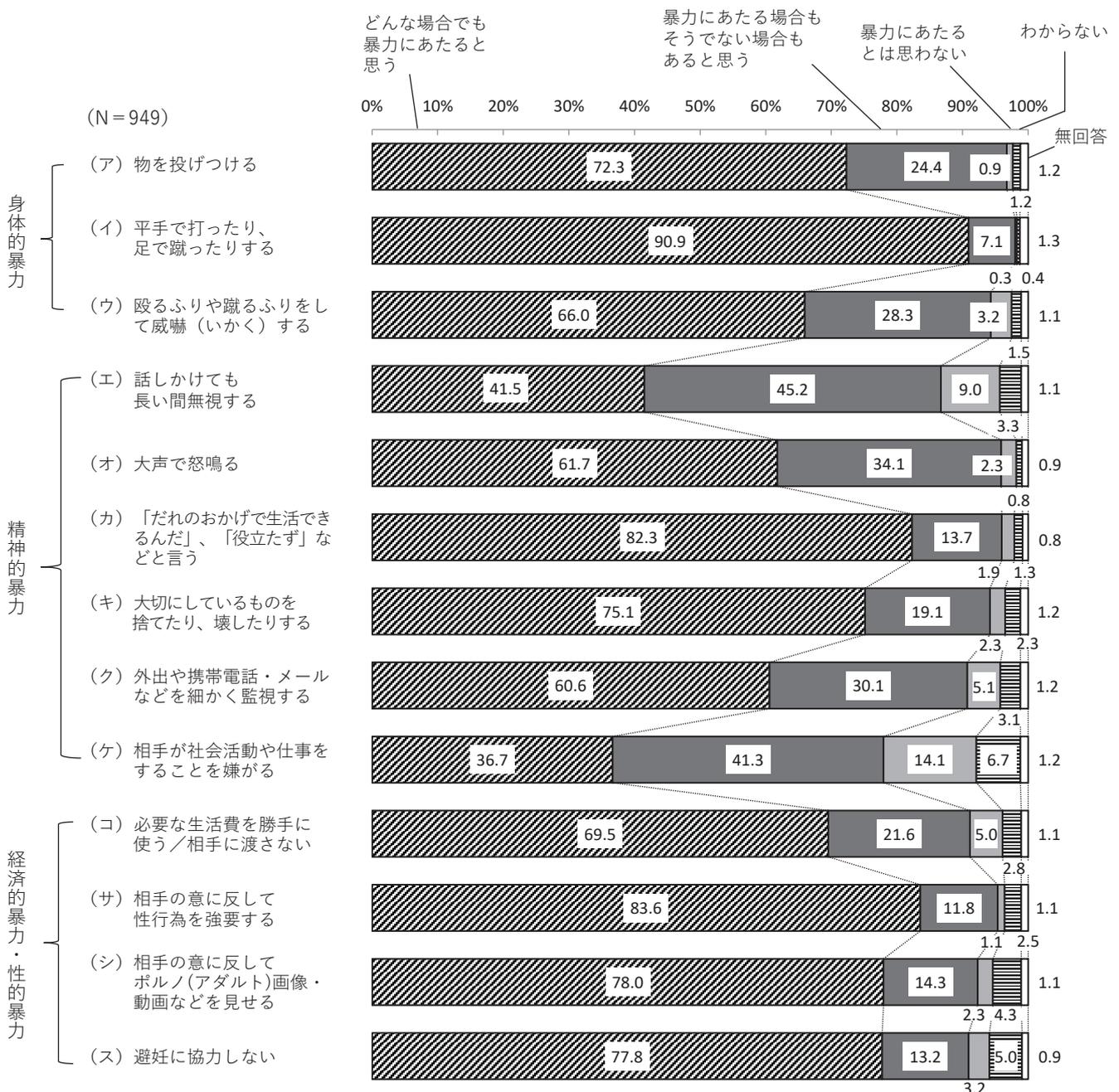
# 第7章 ドメスティック・バイオレンス (DV) について

## 1 ドメスティック・バイオレンス (DV) に関する認識

問17 あなたは、次のようなことが配偶者や交際相手から行われた場合、暴力だと思いますか。  
 (ア)～(ス)それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、「平手で打ったり、足で蹴ったりする」(90.9%)が9割を超えて最も高く、「相手の意に反して性行為を強要する」(83.6%)、「『だれのおかげで生活できるんだ』、『役立たず』などと言う」(82.3%)で8割を超えている。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が最も低いのは、「相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる」(36.7%)、次いで「話しかけても長い間無視する」(41.5%)で、これらの項目では「暴力にあたるとは思わない」の割合も1割前後となっている。

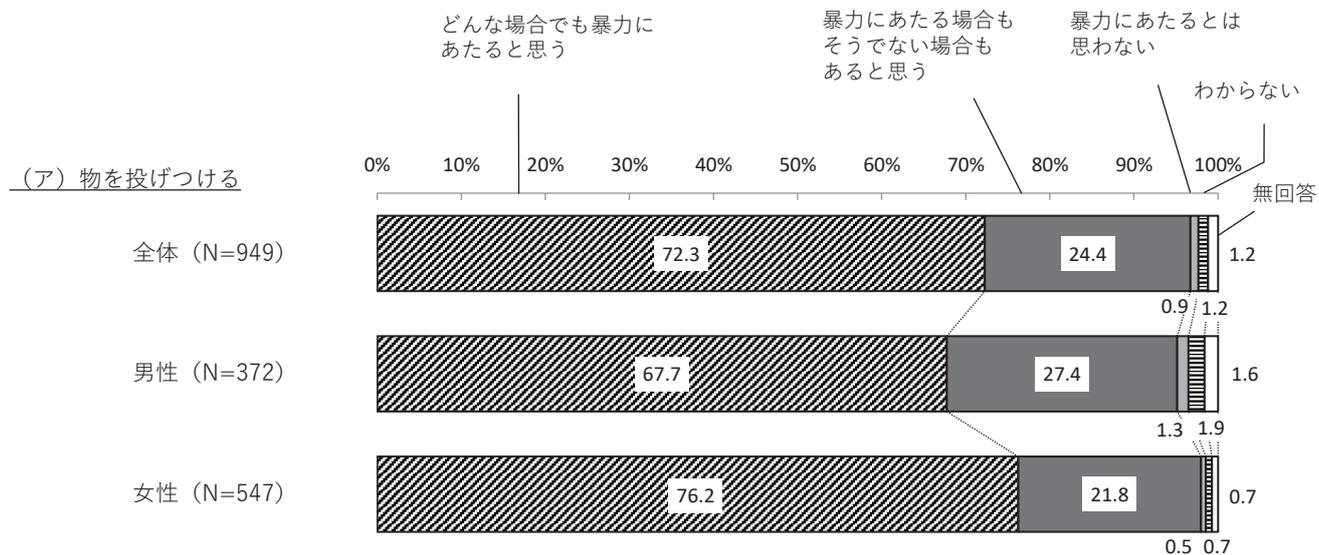
図表7-1-① ドメスティック・バイオレンス (DV) に関する認識



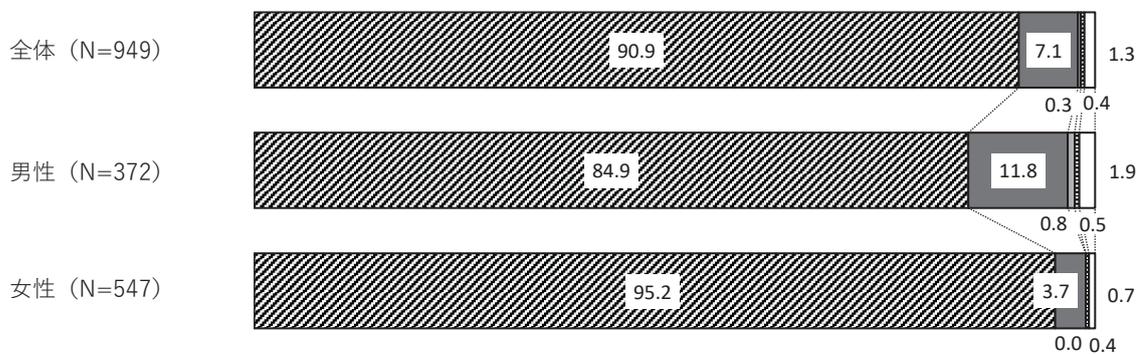
## (1) 身体的暴力の認識

- 性別にみると、身体的暴力のいずれの行為も男性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低く、「平手で打ったり、足で蹴ったりする」では10.3ポイントの差がみられた（男性：84.9%、女性：95.2%）。

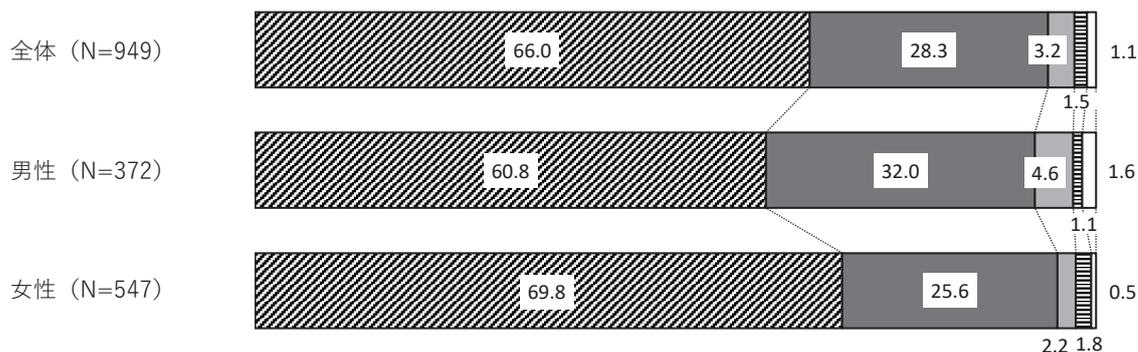
図表 7-1-1-1-① ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識（身体的暴力） — 性別



(イ) 平手で打ったり、足で蹴ったりする



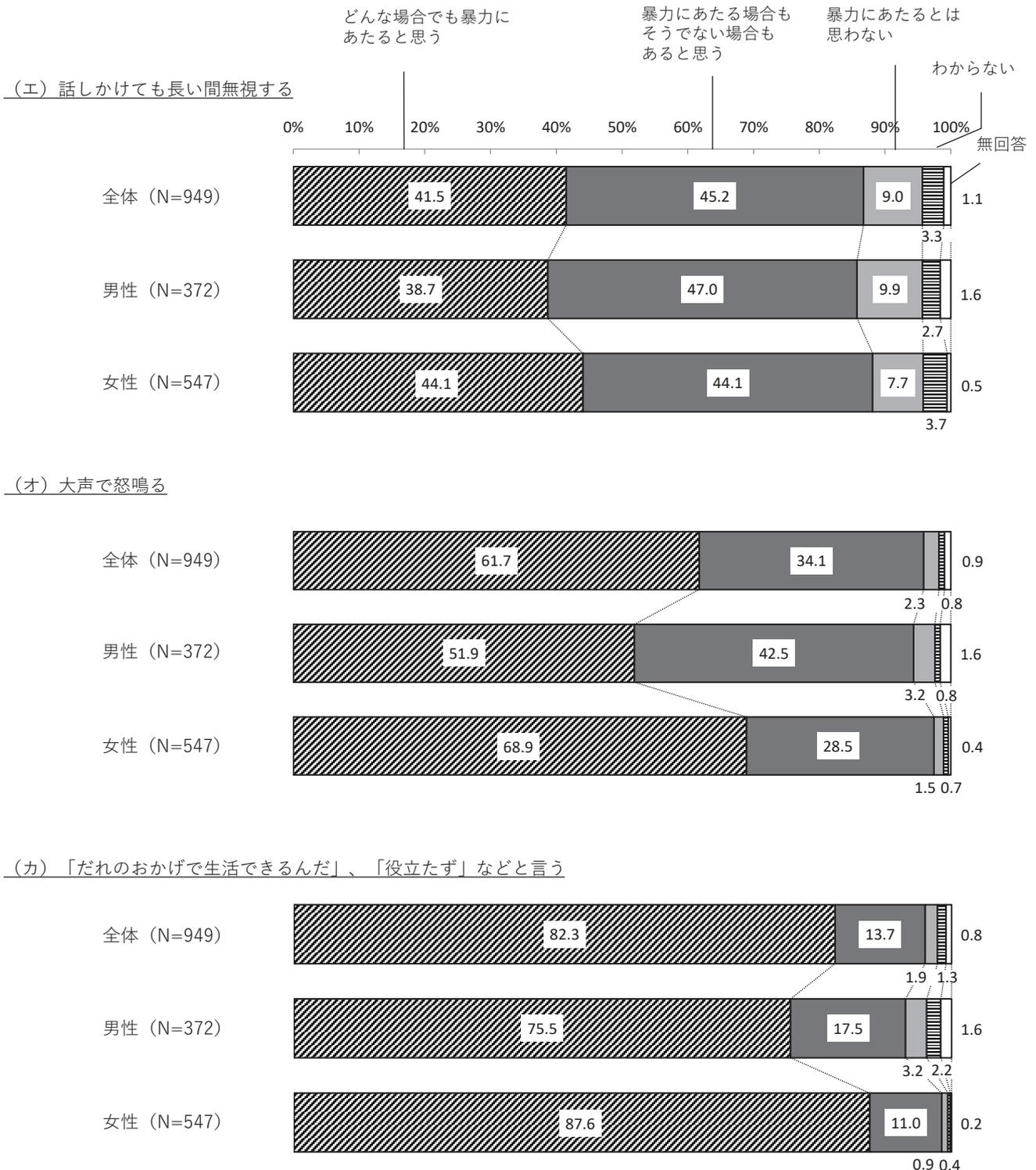
(ウ) 殴るふりや蹴るふりをして威嚇（いかく）する



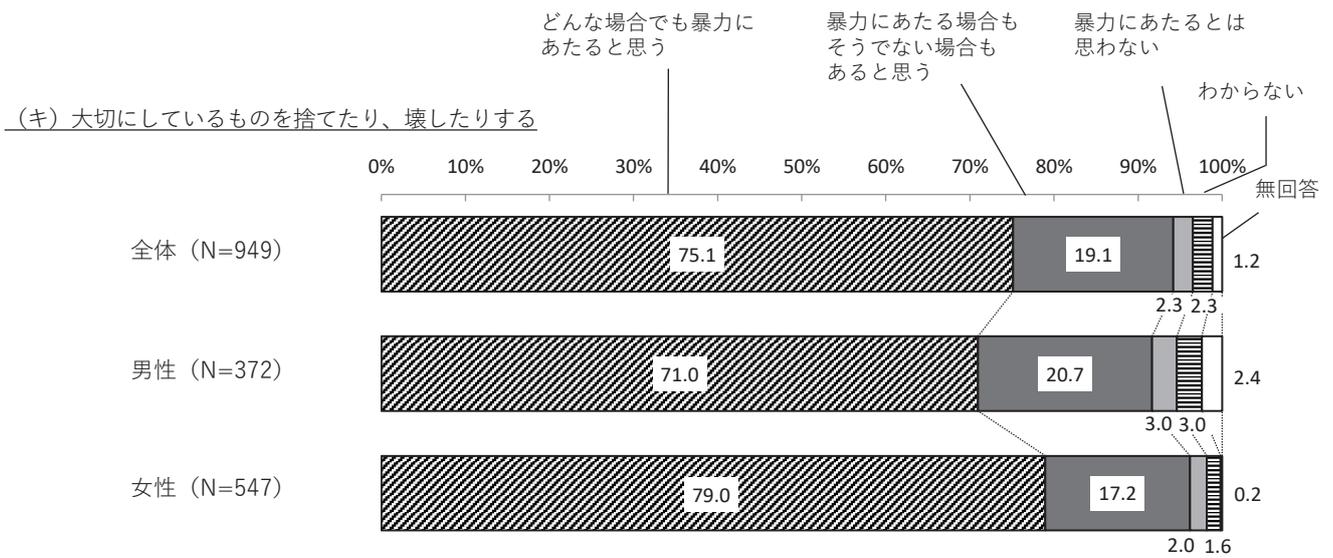
## (2)精神的暴力の認識

- 性別にみると、精神的暴力のいずれの行為も男性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低く、「大声で怒鳴る」では17.0ポイント（男性：51.9%、女性：68.9%）、「外出や携帯電話・メールなどを細かく監視する」では12.4ポイント（男性：53.2%、女性：65.6%）、「『だれのおかげで生活できるんだ』、『役立つ』などと言う」で12.1ポイントの差がみられた（男性：75.5%、女性：87.6%）。

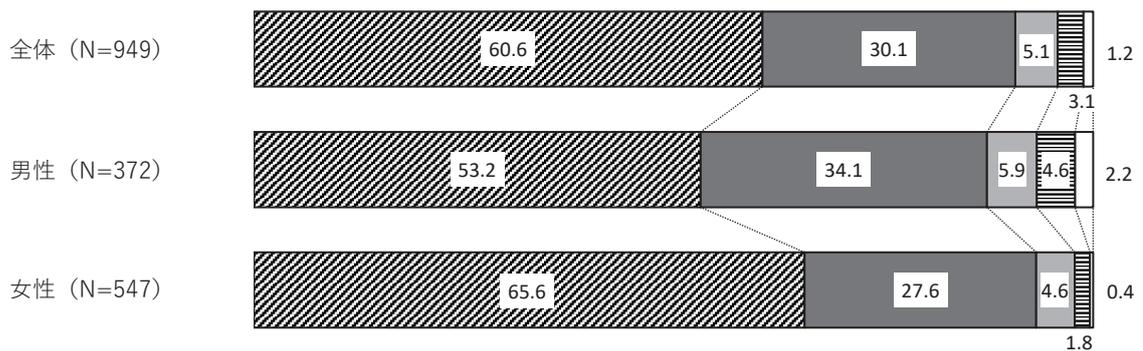
図表7-1-2-① ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識（精神的暴力） — 性別（1/2）



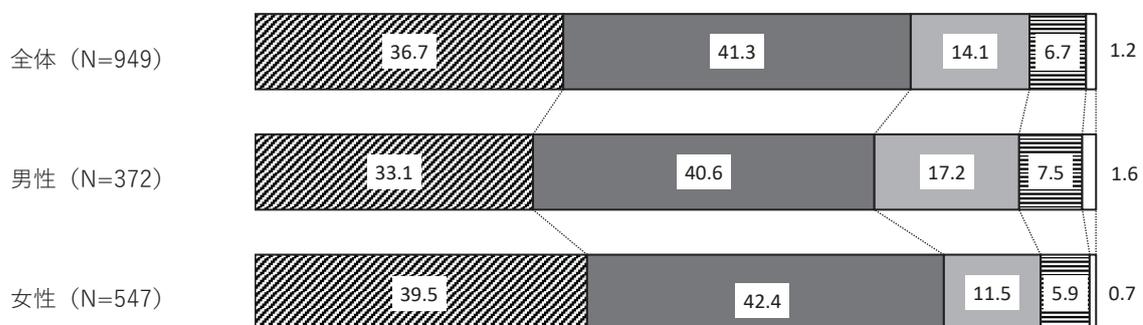
図表7-1-2-① ドメスティック・バイオレンス (DV) に関する認識 (精神的暴力) ー性別 (2/2)



(ク) 外出や携帯電話・メールなどを細かく監視する



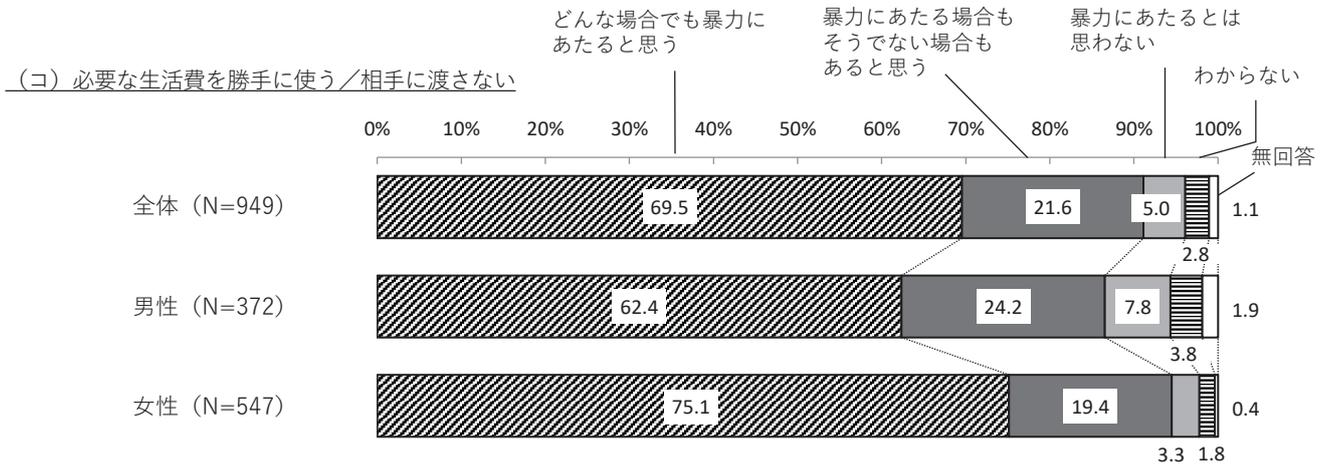
(ケ) 相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる



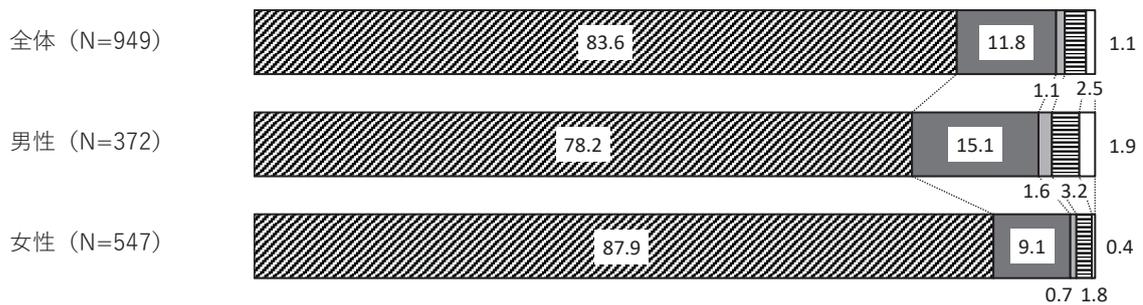
### (3) 経済的暴力・性的暴力の認識

- 性別にみると、経済的暴力・性的暴力のいずれの行為も男性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低く、「必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない」では12.7ポイントの差がみられた（男性：62.4%、女性：75.1%）。
- 性的暴力についても同様に10ポイント前後の差がみられ、女性の方が暴力と捉える認識が高い。

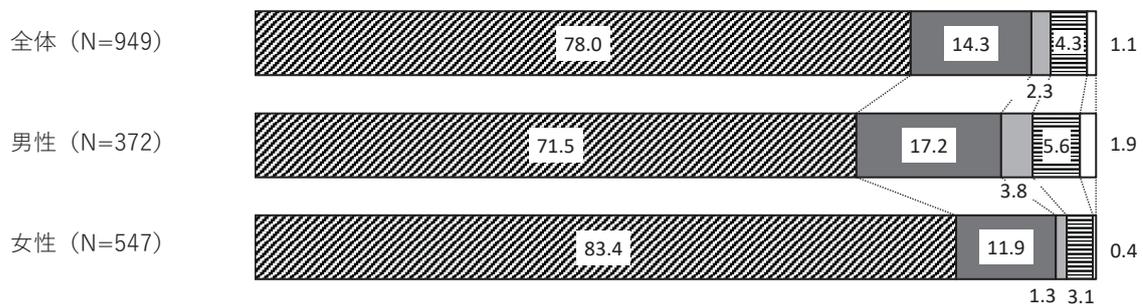
図表7-1-3-① ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識（経済的暴力・性的暴力） — 性別



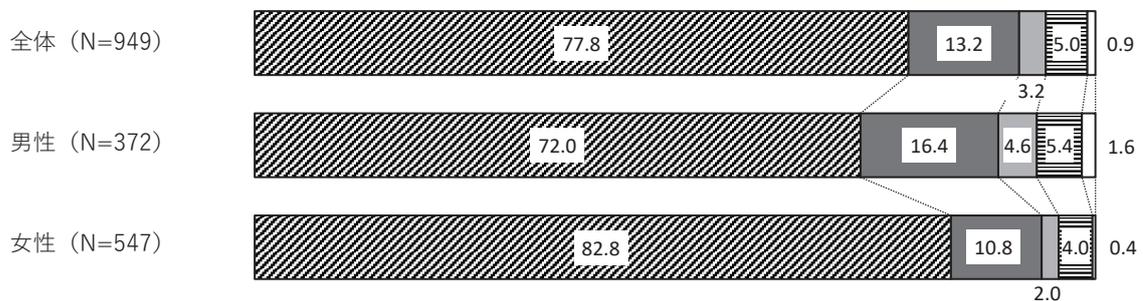
(サ) 相手の意に反して性行為を強要する



(シ) 相手の意に反してポルノ(アダルト)画像・動画などを見せる



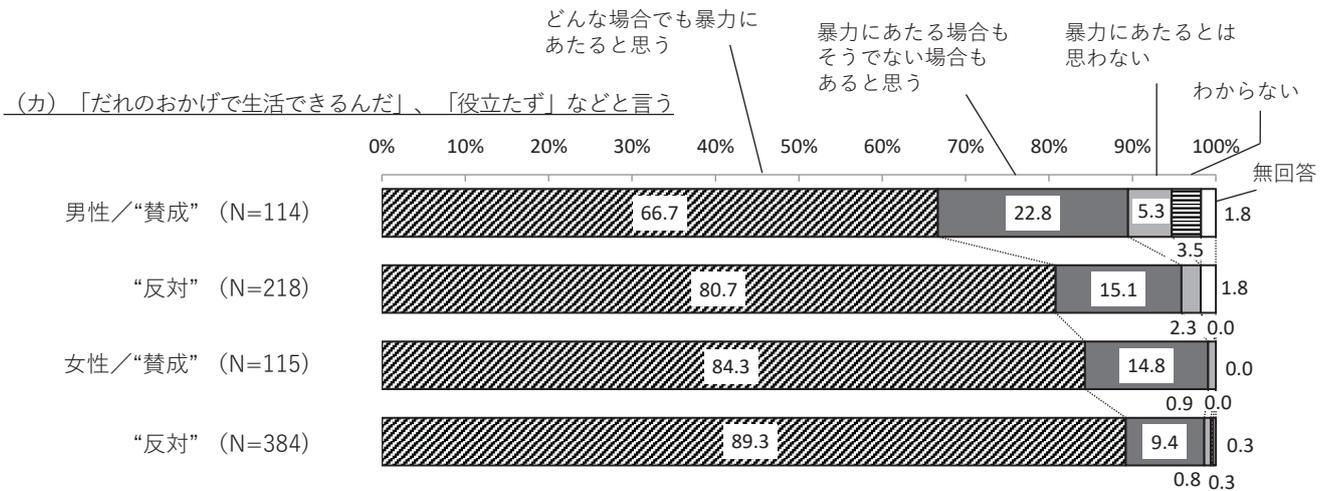
(ス) 避妊に協力しない



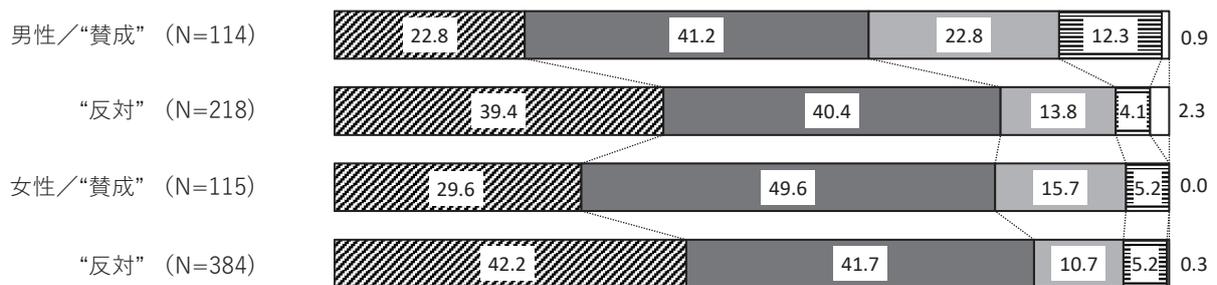
#### (4)性別役割分担意識との関連性

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に“賛成”の人と“反対”の人で、暴力の認識に違いがあるかを性別に比較したところ、“賛成”の男性の方が“反対”の男性に比べて、下記の項目を暴力と捉える認識が低い傾向がみられた。
- “賛成”の男性と“反対”の男性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合の差が最も大きかった項目は、「相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる」（16.6ポイント）、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』、『役立たず』などと言う」（14.0ポイント）で、「相手の意に反して性行為を強要する」「相手の意に反してポルノ(アダルト)画像・動画などを見せる」「避妊に協力しない」についても10ポイント前後の差があった。

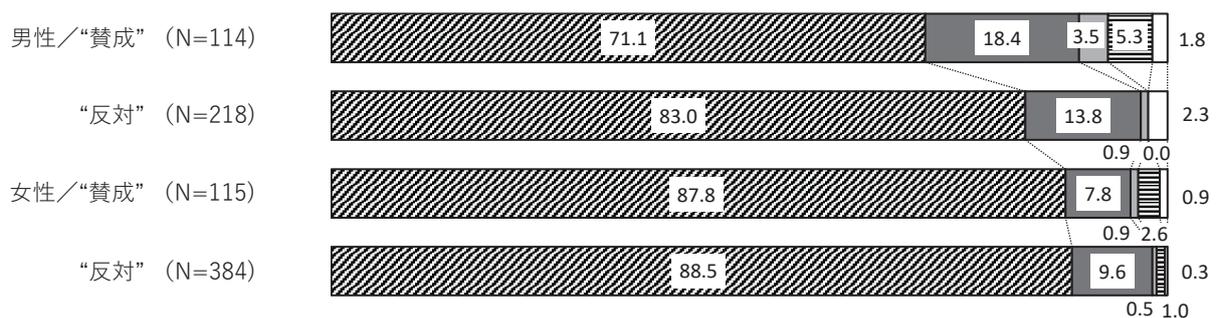
図表 7-1-4-① ドメスティック・バイオレンス (DV) に関する認識 — 性・性別役割分担意識別



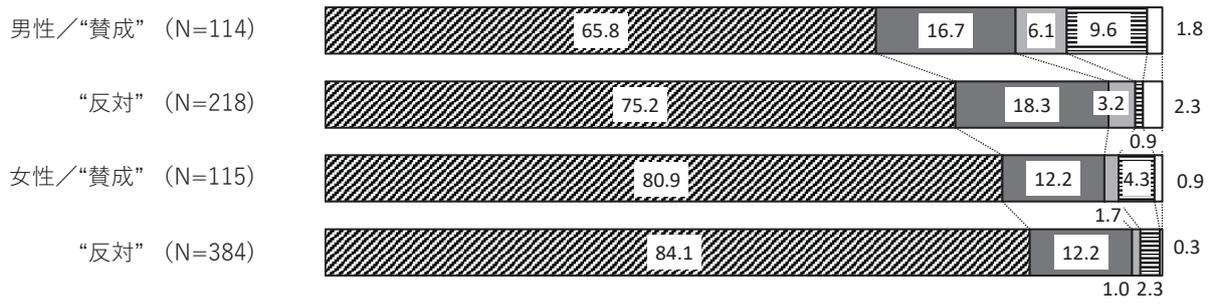
(ケ) 相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる



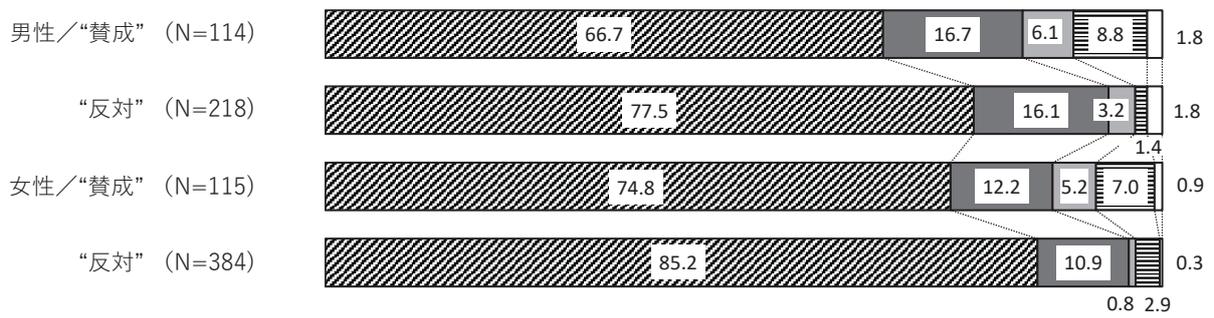
(サ) 相手の意に反して性行為を強要する



(シ) 相手の意に反してポルノ(アダルト)画像・動画などを見せる



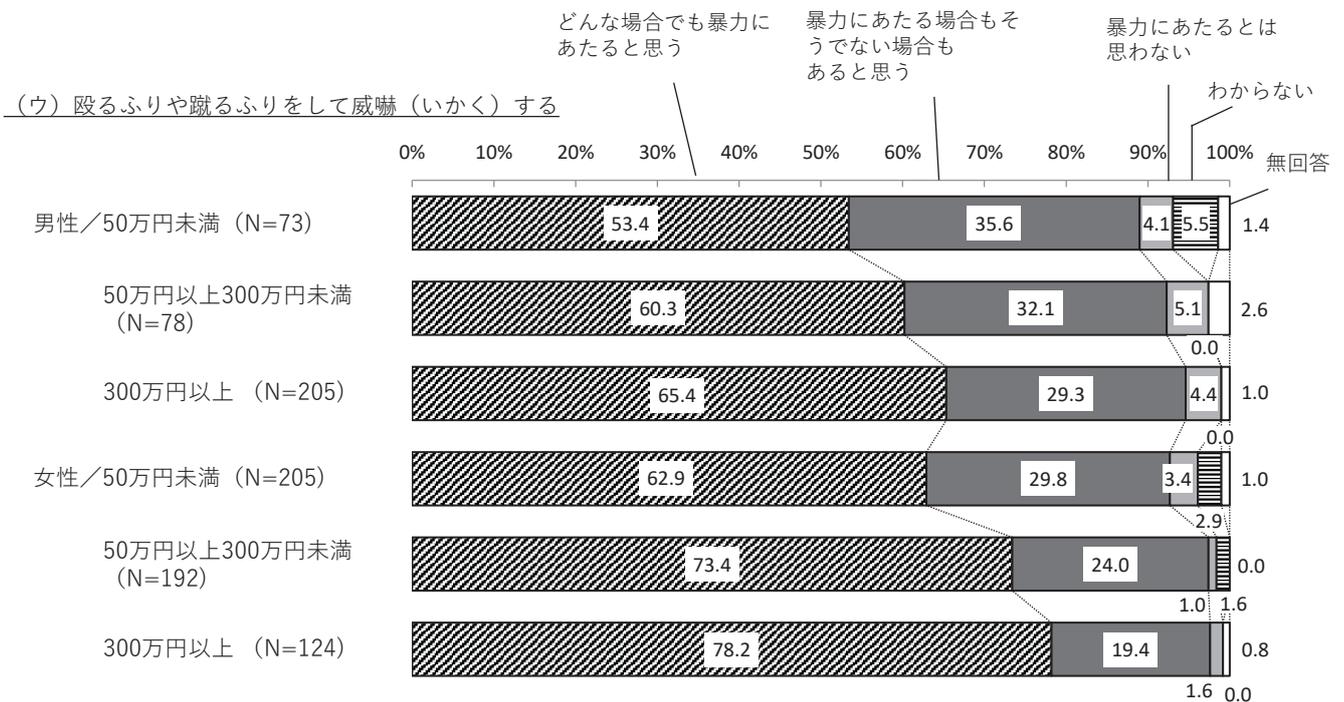
(ス) 避妊に協力しない



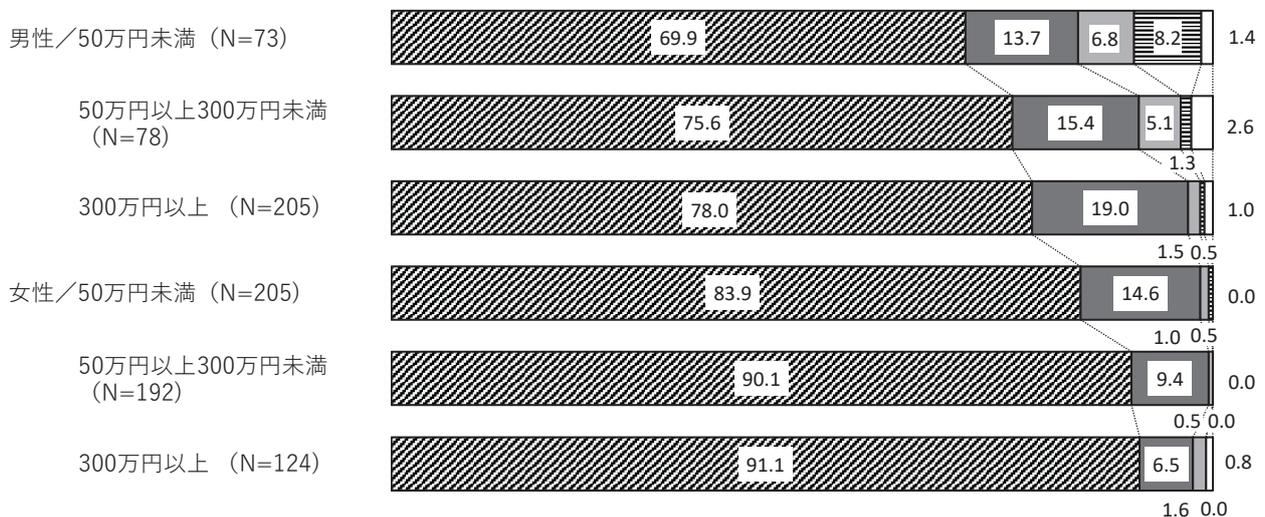
## (5)本人の年収別の比較

- 本人の年収別に暴力の認識に違いがあるかを比較したところ、「殴るふりや蹴るふりをして威嚇（いかく）する」「『だれのおかげで生活できるんだ』、『役立たず』などと言う」「避妊に協力しない」の項目で、年収が低い人ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低い（ただし、男性のみ有意。統計的検定の方法についてはp.2参照）。
- 一方で、「必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない」の項目については、本人の年収が高い人ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低い（ただし、男性のみ有意）。

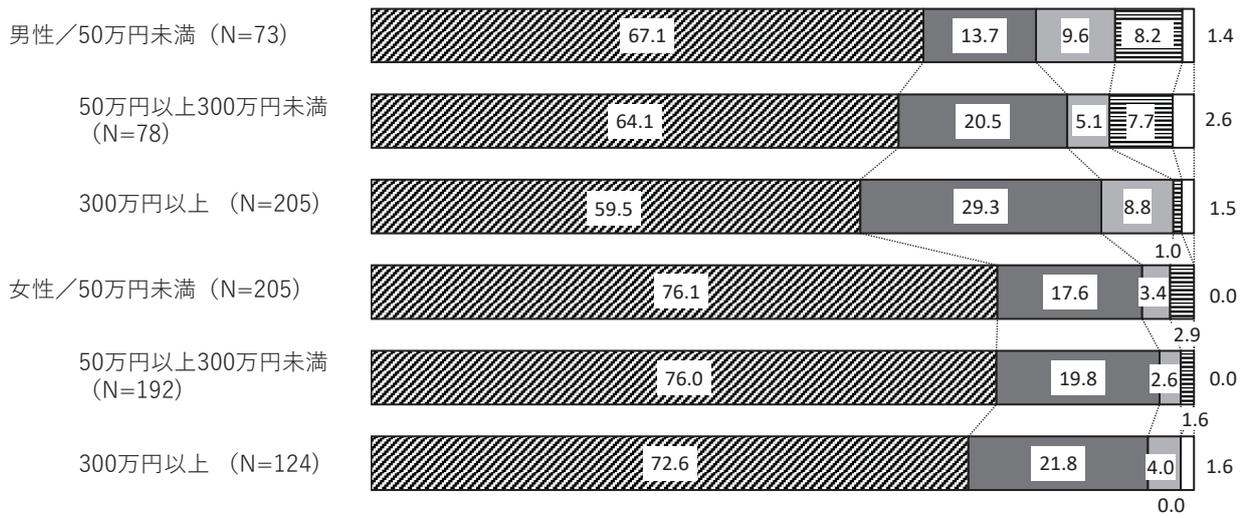
図表7-1-5-① ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する認識 — 性・本人の年収別



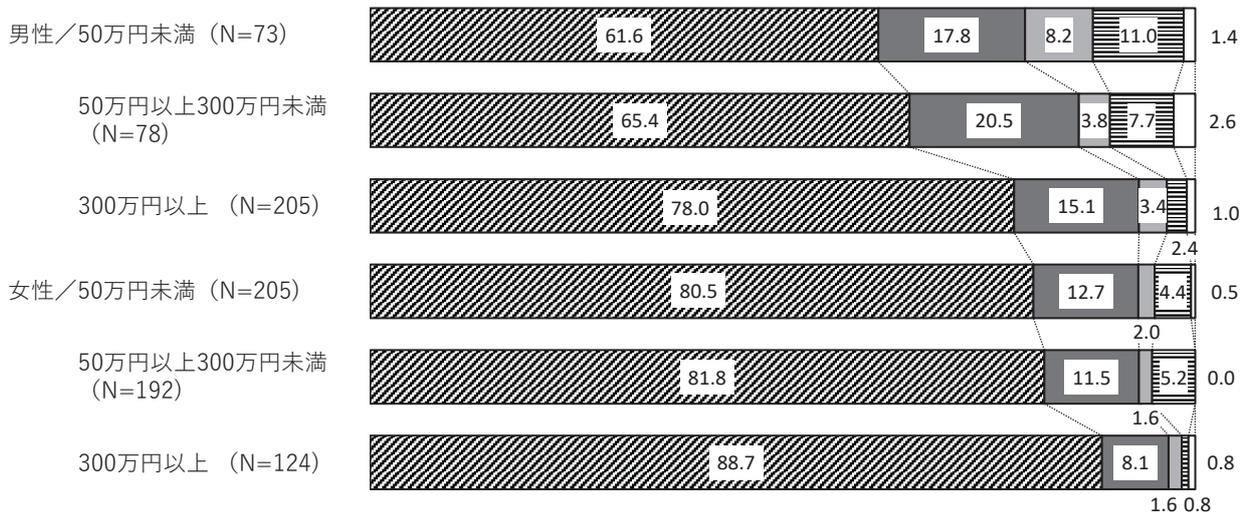
(カ) 「だれのおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う



(コ) 必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない



(ス) 避妊に協力しない

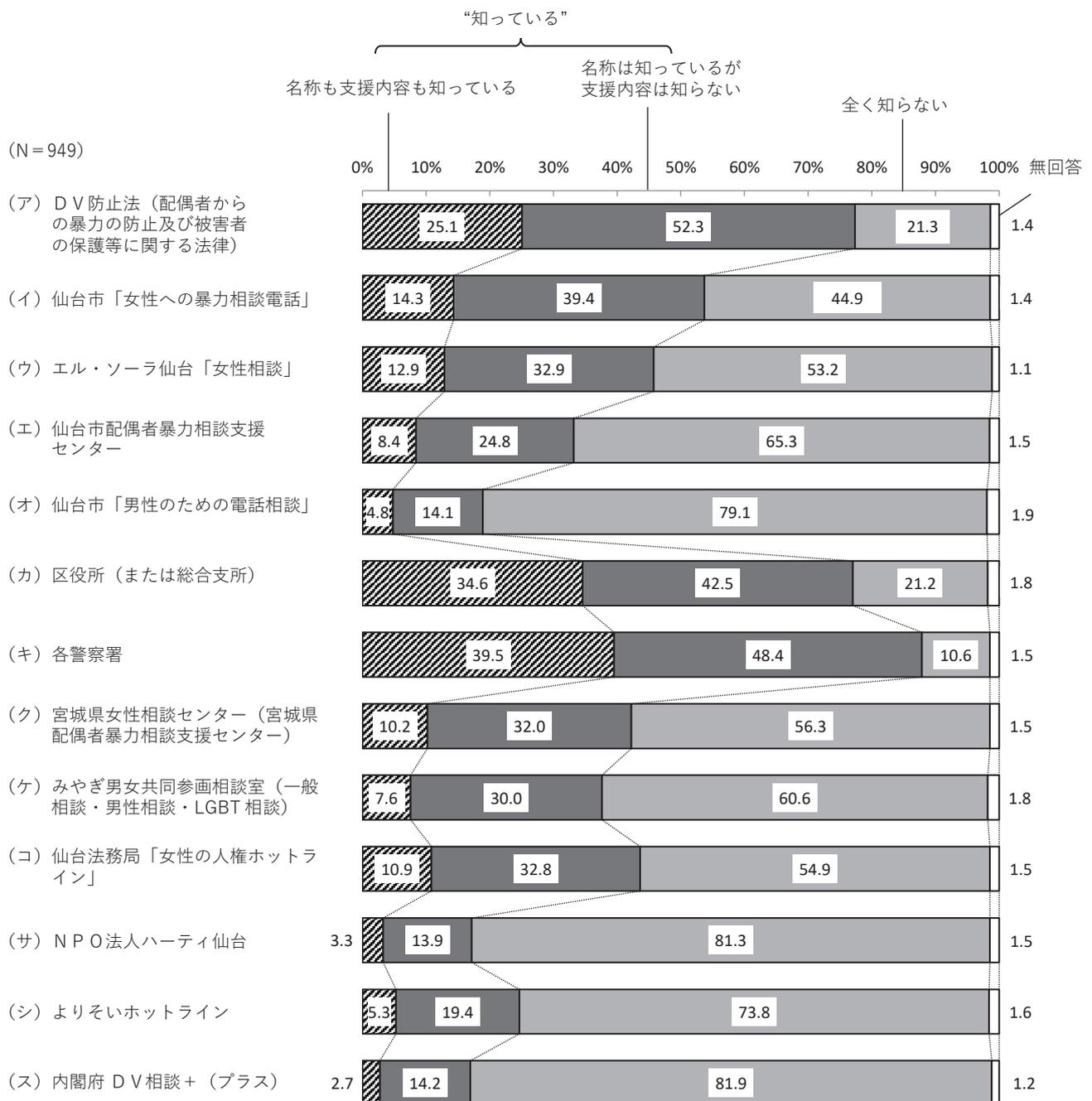


## 2 DVに関する法律や相談窓口等の認知度

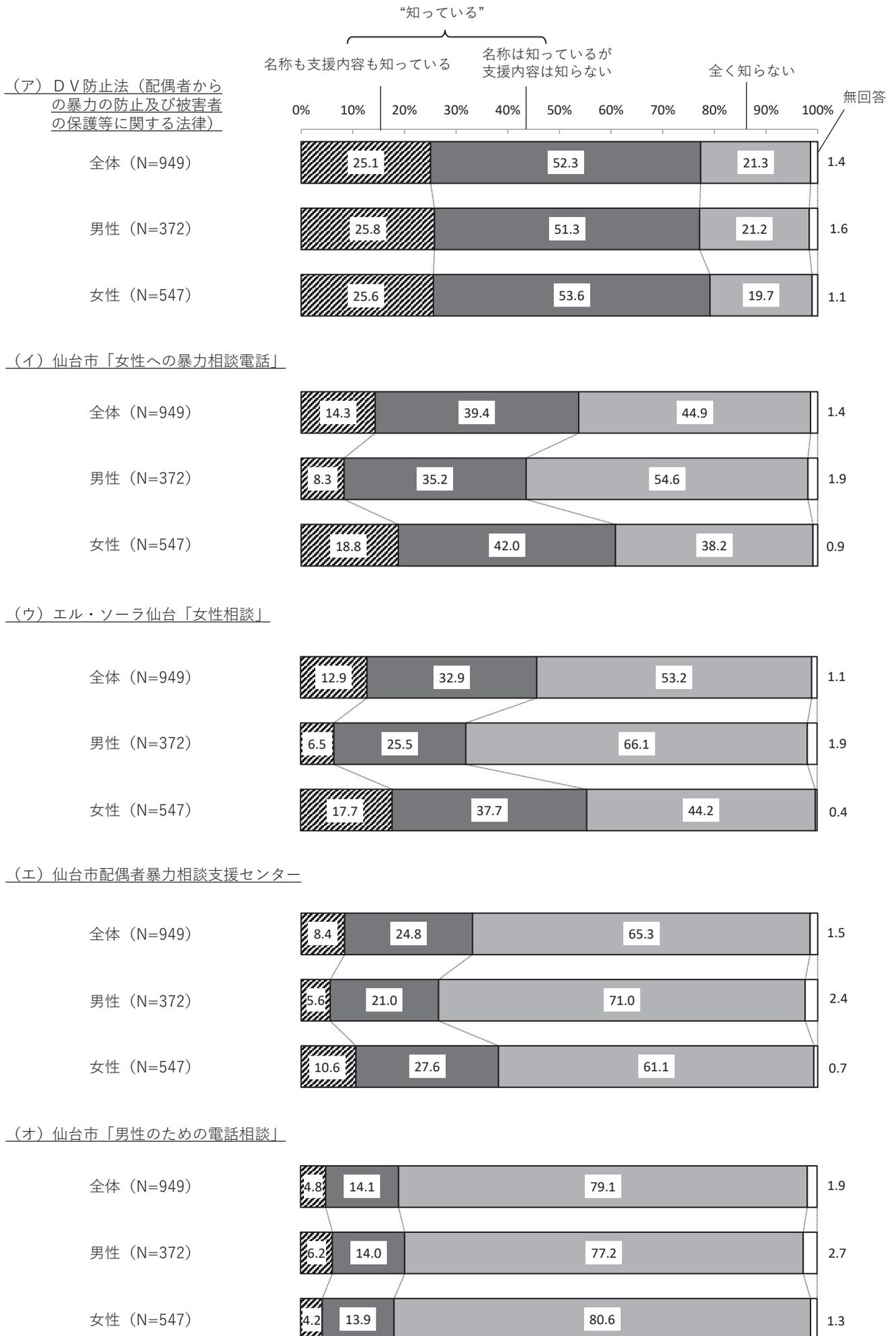
問18 あなたは、次のような法律や、配偶者や交際相手からの暴力について相談できる窓口などを  
知っていますか。(ア)～(ス)それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

- “知っている”(「名称も支援内容も知っている」と「名称は知っているが支援内容は知らない」の合計)の割合は、「各警察署」(87.9%)が8割を超えて最も高く、「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)」(77.4%)、「区役所(または総合支所)」(77.1%)で7割以上、「仙台市『女性への暴力相談電話』」(53.7%)で5割以上となっている。
- それ以外の相談窓口等は、“知っている”の割合が1割台から4割台となっている。
- 性別にみると、“知っている”の割合は、「エル・ソーラ仙台『女性相談』」で23.4ポイント、「仙台市『女性への暴力相談電話』」で17.3ポイント、女性の方が男性よりも高く、大きな差がみられた。

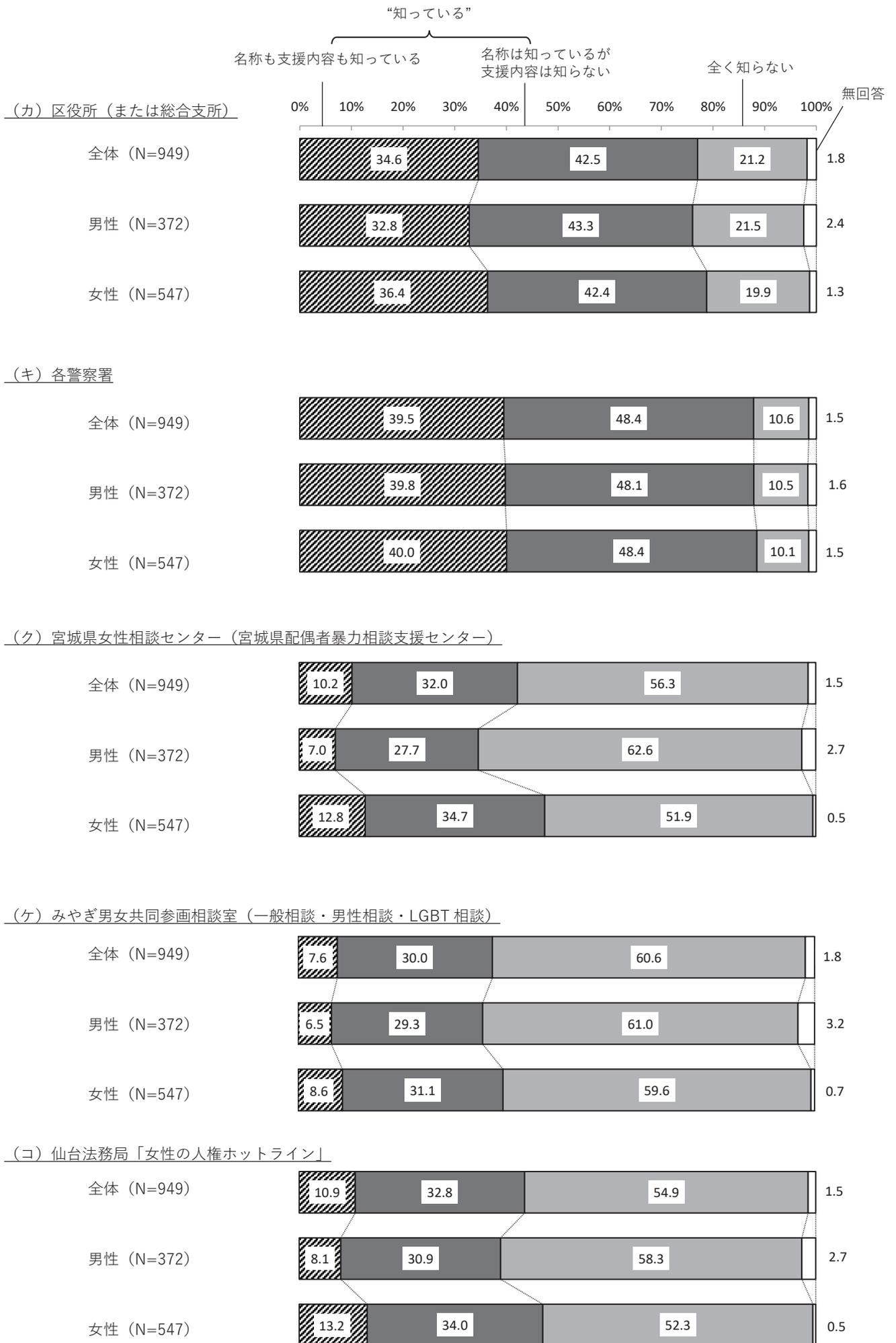
図表7-2-① DVに関する法律や相談窓口等の認知度



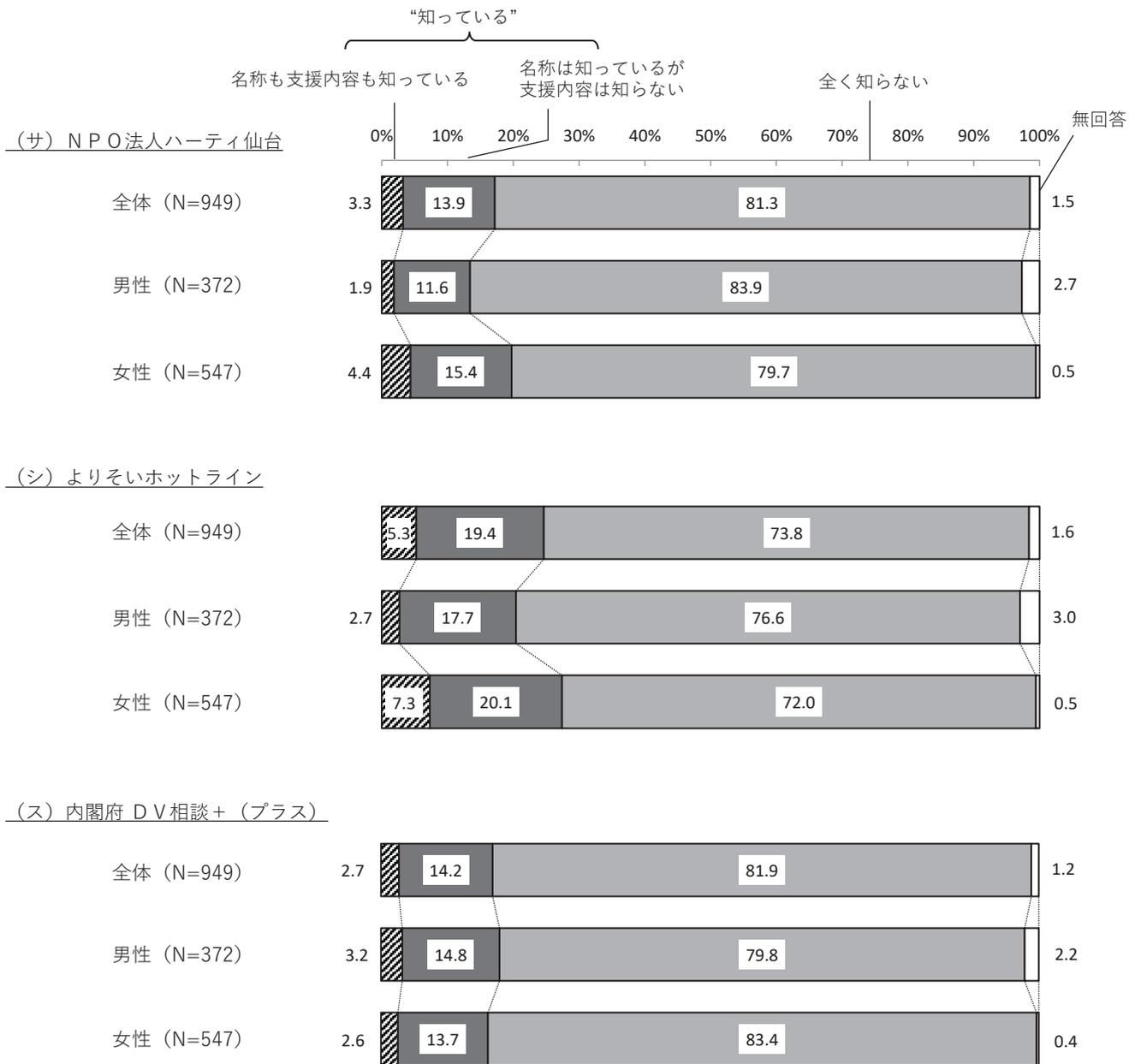
図表7-2-② DVに関する法律や相談窓口等の認知度 ー 性別 (1/3)



図表7-2-② DVに関する法律や相談窓口等の認知度 ー 性別 (2/3)



図表 7 - 2 - ② DVに関する法律や相談窓口等の認知度 — 性別 (3 / 3)



### 3 配偶者からの被害経験

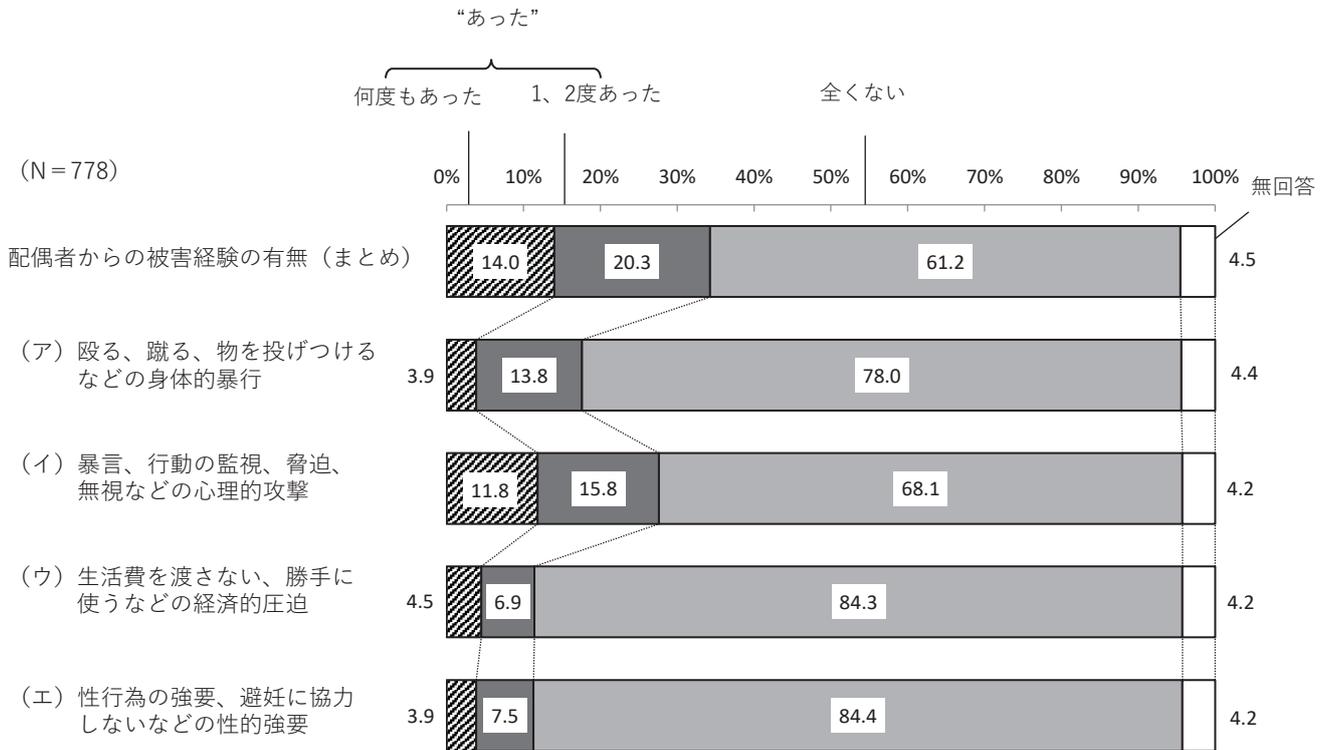
【次の設問は配偶者などがいる（いた）方にお聞きします。】

問19 あなたは配偶者などから次のような行為を受けたことがありますか。（ア）～（エ）それぞれについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

※配偶者などには婚姻届を出していない事実婚、同棲関係にある交際相手を含みます。（以下、同様）

- これまでに配偶者などから「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為を1度でも受けたことがある人をまとめると、“あった”（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）と回答した人が34.3%となっている。
- それぞれの行為について、被害経験が“あった”と回答した人の割合をみると、「身体的暴行」が17.7%、「心理的攻撃」が27.6%、「経済的圧迫」が11.4%、「性的強要」が11.4%となっており、「心理的攻撃」の被害経験者の割合が最も高くなっている。

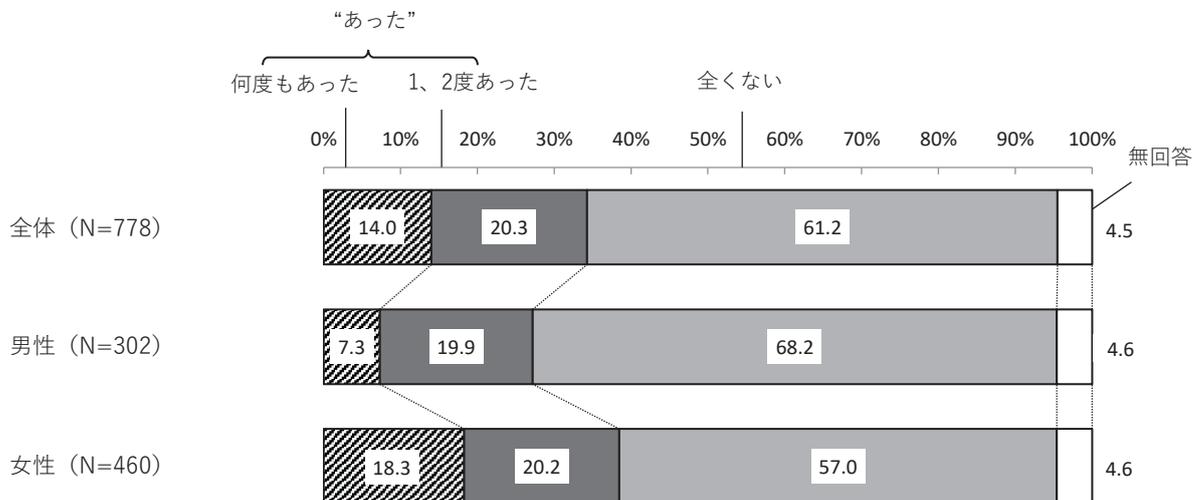
図表7-3-① 配偶者からの被害経験



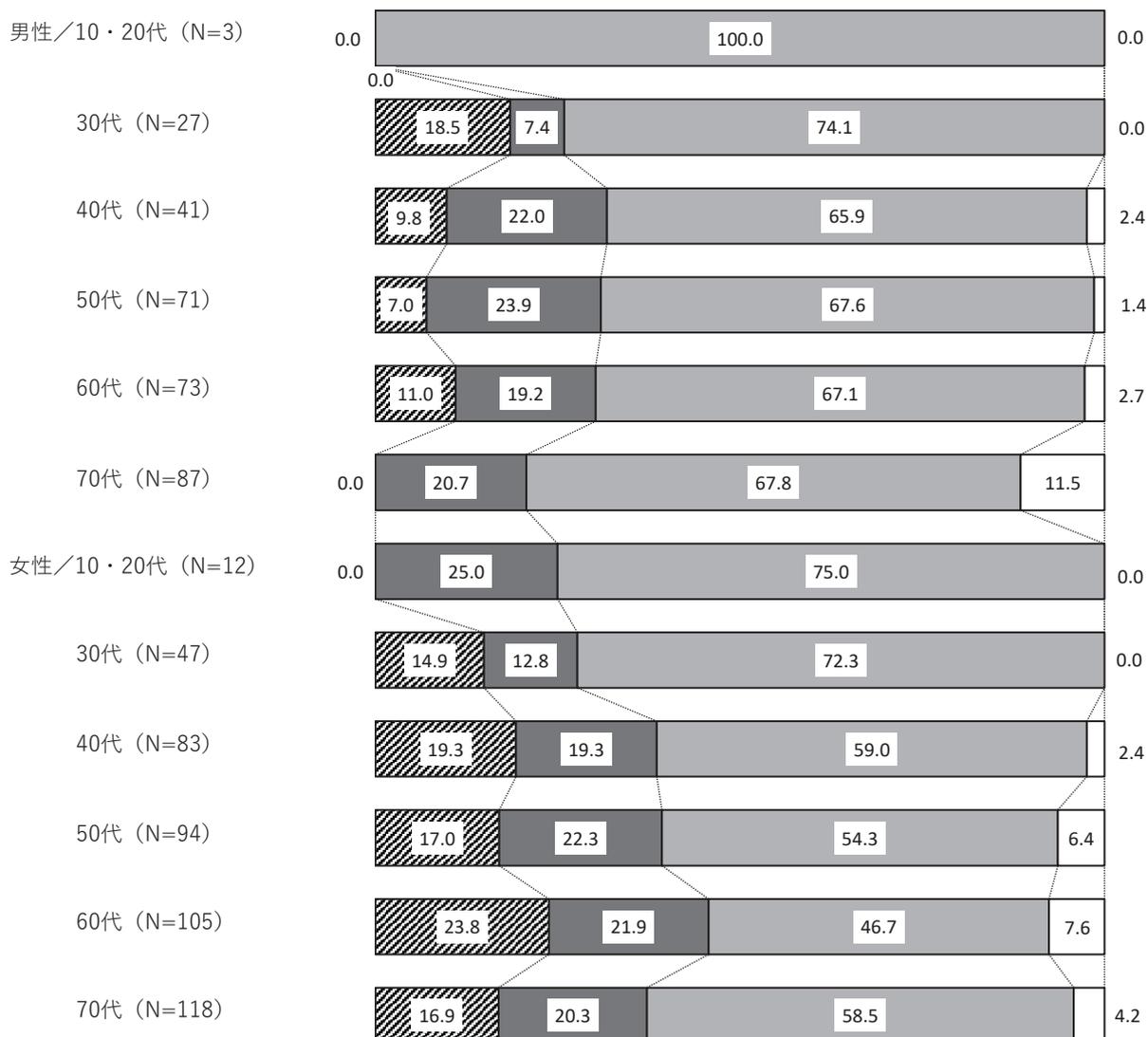
(1)配偶者からの被害経験（まとめ）

- 「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為について被害経験が“あった”と回答した人の割合を性別にみると、男性が27.2%、女性が38.5%と、女性の方が11.3ポイント高くなっている。

図表 7-3-1-① 配偶者からの被害経験（まとめ） — 性別



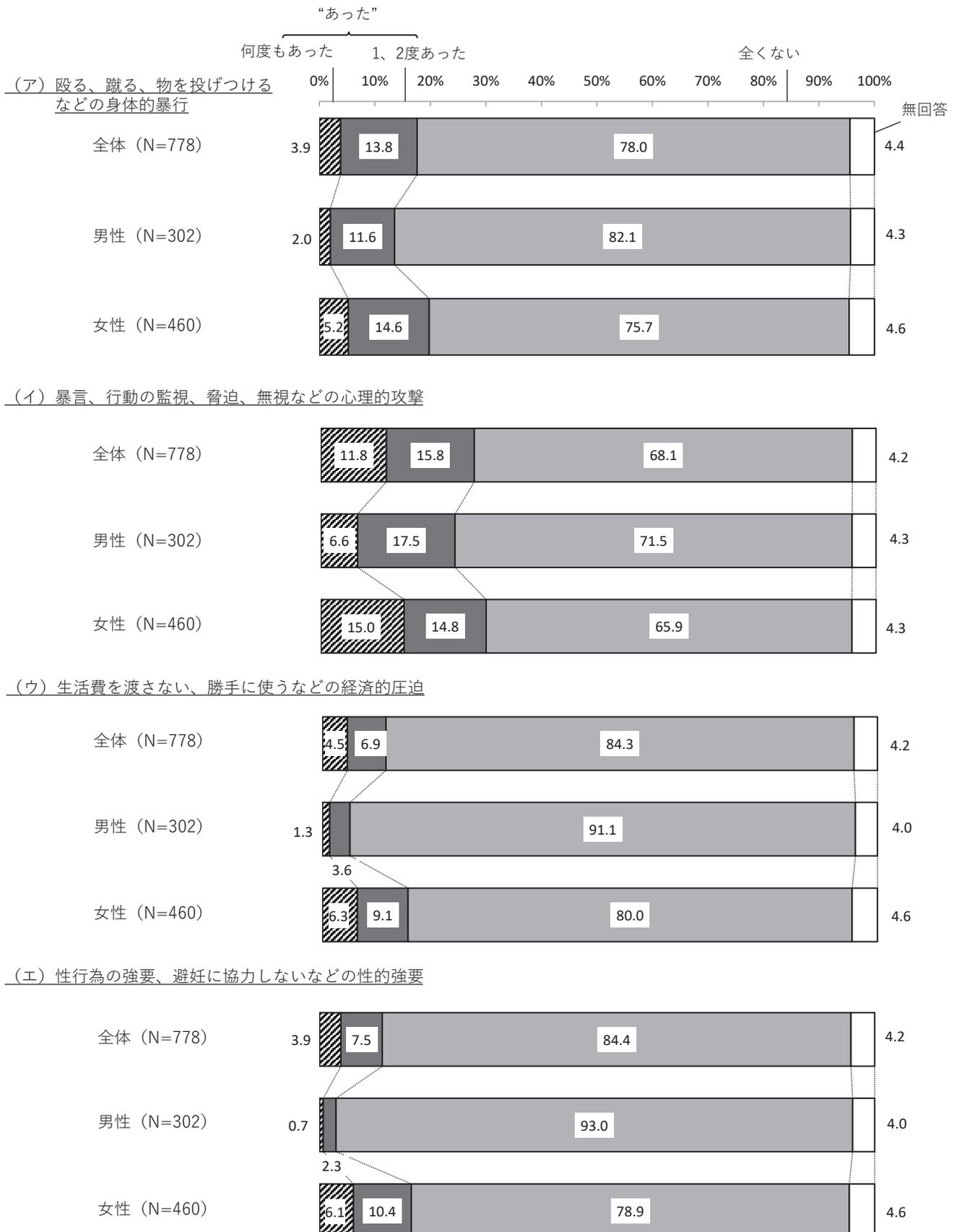
図表 7-3-1-② 配偶者からの被害経験（まとめ） — 性・年代別



**(2)配偶者からの被害経験（暴力の種類別）**

- それぞれの行為についての被害経験を性別にみると、被害経験が“あった”と回答した人の割合は、「身体的暴行」では男性が13.6%、女性が19.8%、「心理的攻撃」では男性が24.1%、女性が29.8%、「経済的圧迫」では男性が4.9%、女性が15.4%、「性的強要」では男性が3.0%、女性が16.5%となっている。
- いずれの行為も女性の方が被害経験者の割合が高く、「経済的圧迫」と「性的強要」で男女差が大きい。

図表 7 - 3 - 2 - ① 配偶者からの被害経験（暴力の種類別） — 性別



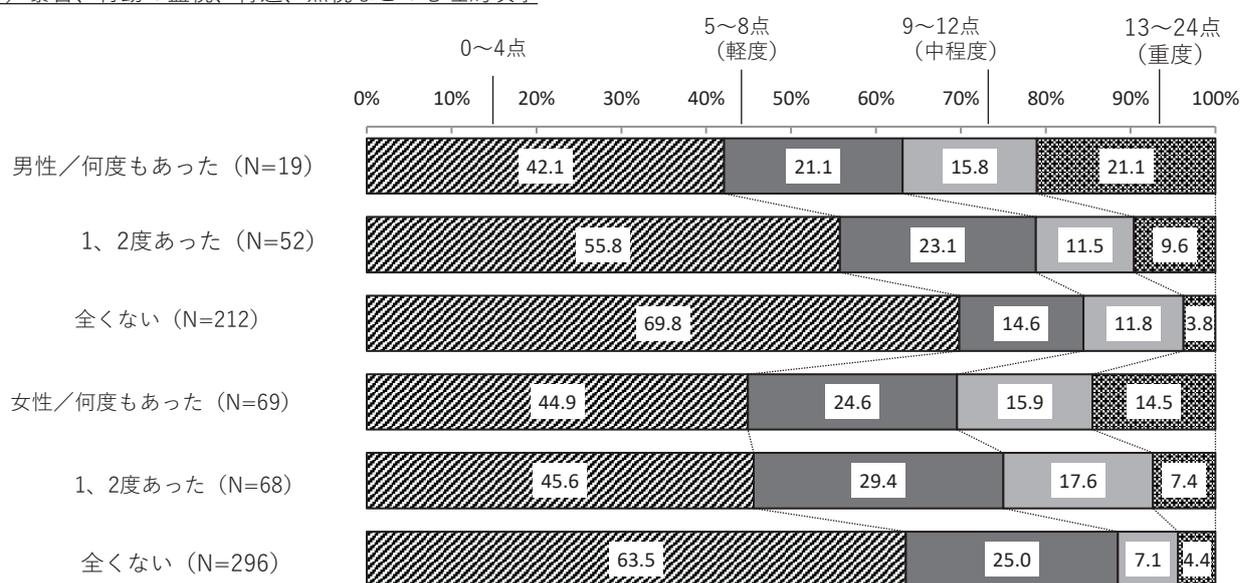
### (3)配偶者からの被害経験の心の健康状態（メンタルヘルス）への影響

配偶者からの被害経験がある人となない人で、心の健康状態を測る尺度であるK6得点を比較し、メンタルヘルスへの影響を分析した。

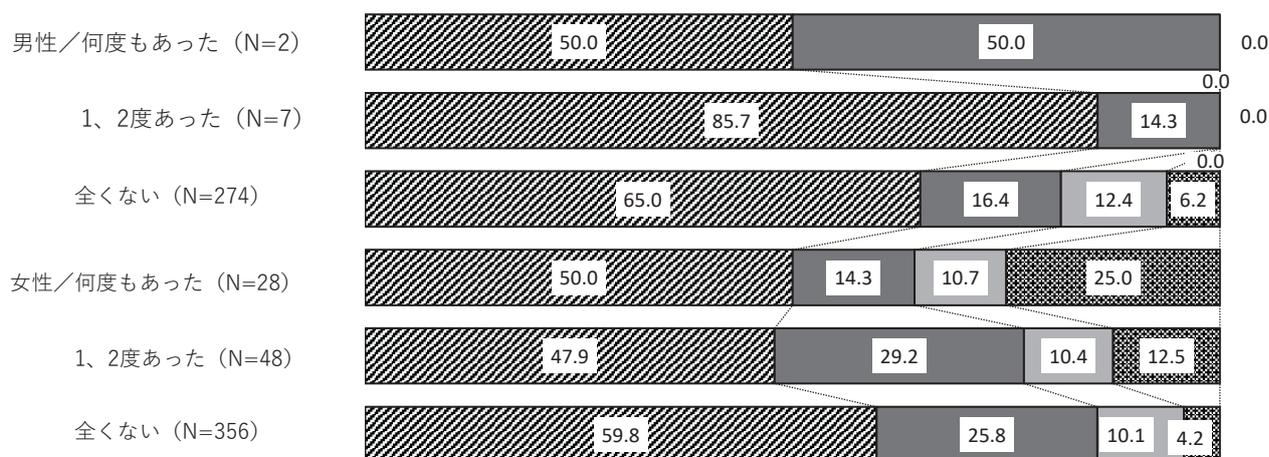
- 配偶者から「心理的攻撃」を受けた経験が「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人は、「全くない」と回答した人と比べて、精神的不調の度合いが「重度」（13点以上）の割合が高くなっている（ただし、女性のみ有意。統計的検定の方法についてはp.2参照）。
- 配偶者から「性的強要」を受けた経験が「何度もあった」「1、2度あった」と回答した女性は、「全くない」と回答した女性と比べて、精神的不調の度合いが「重度」（13点以上）の割合が高くなっている。

図表7-3-3-① 配偶者からの被害経験の有無とK6得点の分布 — 性別

#### (イ) 暴言、行動の監視、脅迫、無視などの心理的攻撃



#### (エ) 性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要



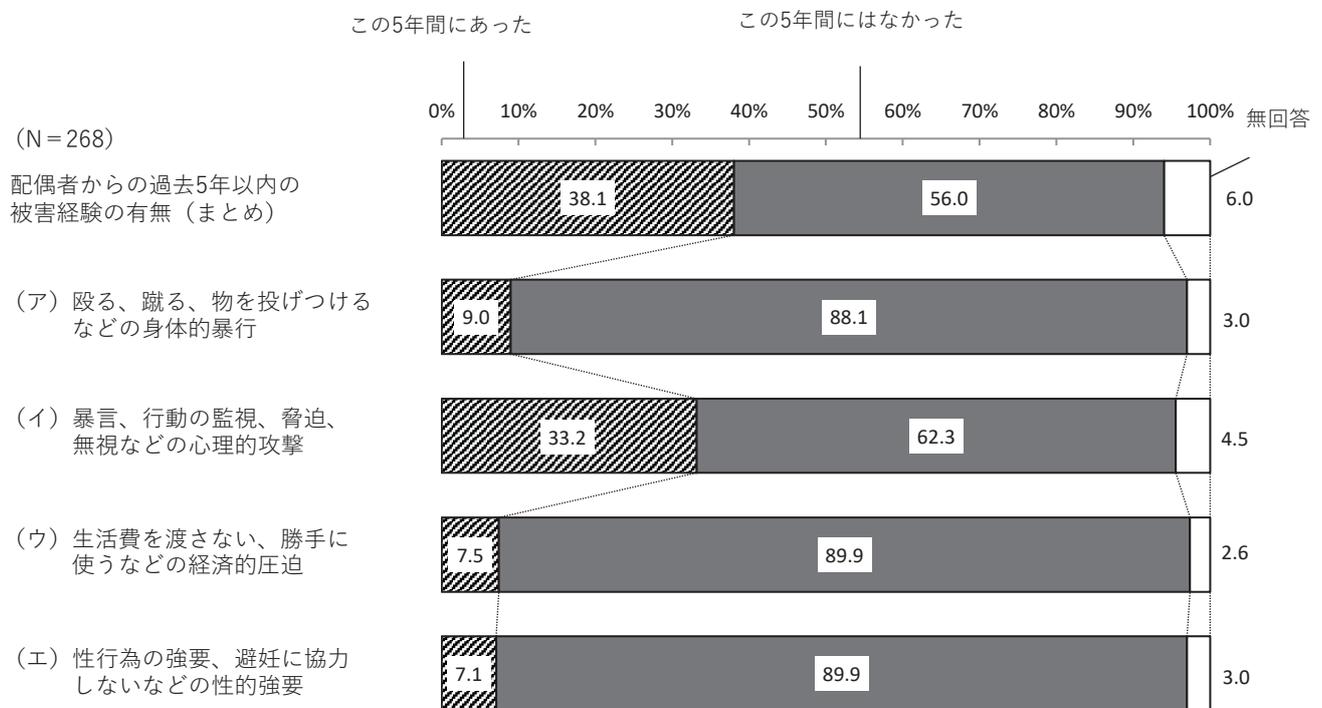
#### 4 過去5年以内の配偶者からの被害経験

【問19で(ア)～(エ)のうち1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した方にお聞きします。】

問20 では、この5年間は、どうでしたか。(ア)～(エ)それぞれについてお答えください。  
(○はそれぞれ1つ)

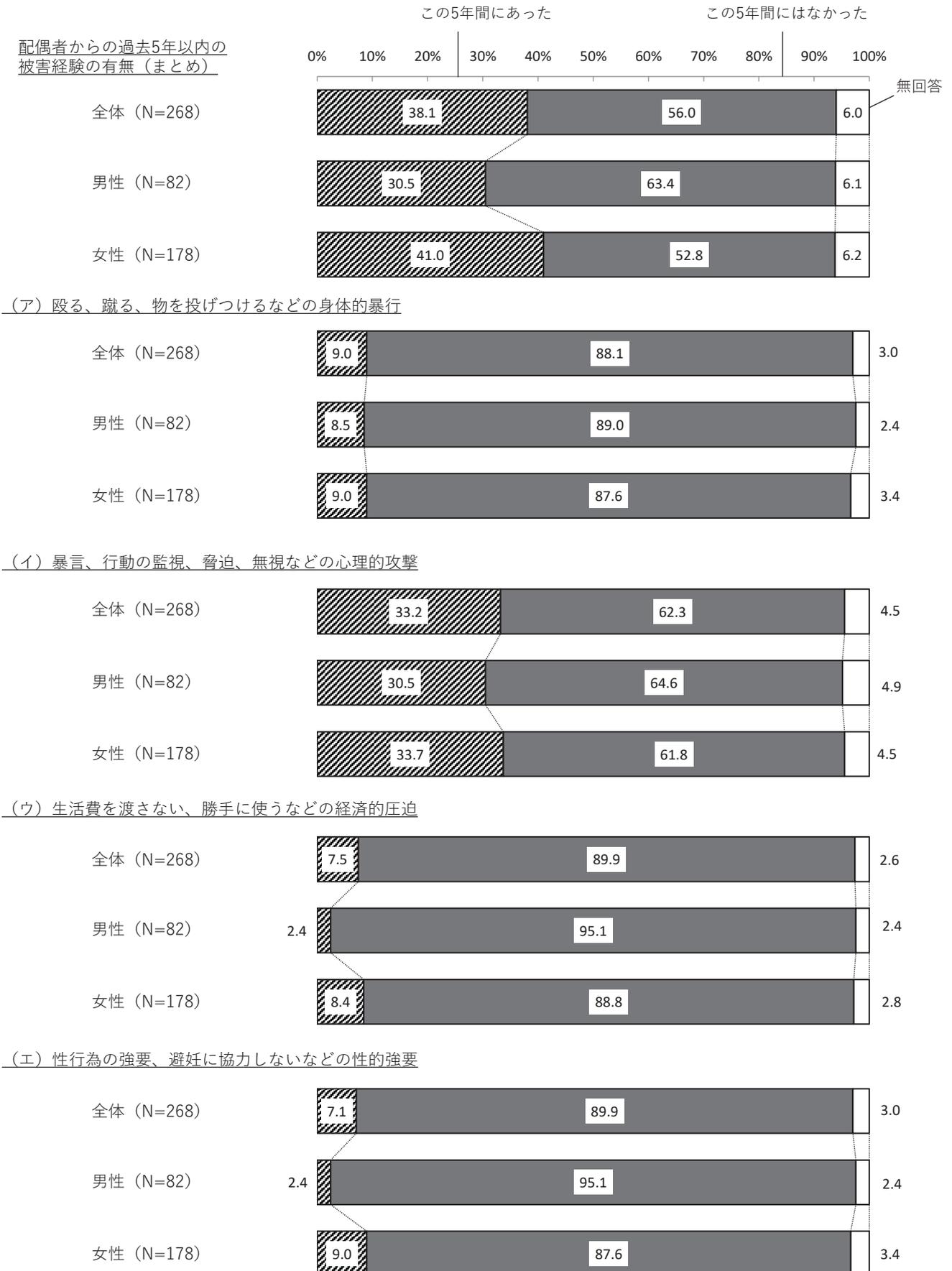
- 配偶者からこれまで被害を受けたことがある人のうち、「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為の被害経験が「この5年間にあった」と回答した人は38.1%となっている。
- それぞれの行為について、「この5年間にあった」と回答した人の割合をみると、「身体的暴行」が9.0%、「心理的攻撃」が33.2%、「経済的圧迫」が7.5%、「性的強要」が7.1%となっており、「心理的攻撃」の被害経験者の割合が最も高くなっている。

図表7-4-① 配偶者からの被害経験<過去5年以内>



- 過去5年以内の配偶者からの被害経験を性別にみると、「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為について被害経験が「この5年間にあった」と回答した人の割合は、男性では30.5%、女性では41.0%となっている。

図表7-4-② 配偶者からの被害経験<過去5年以内> — 性別



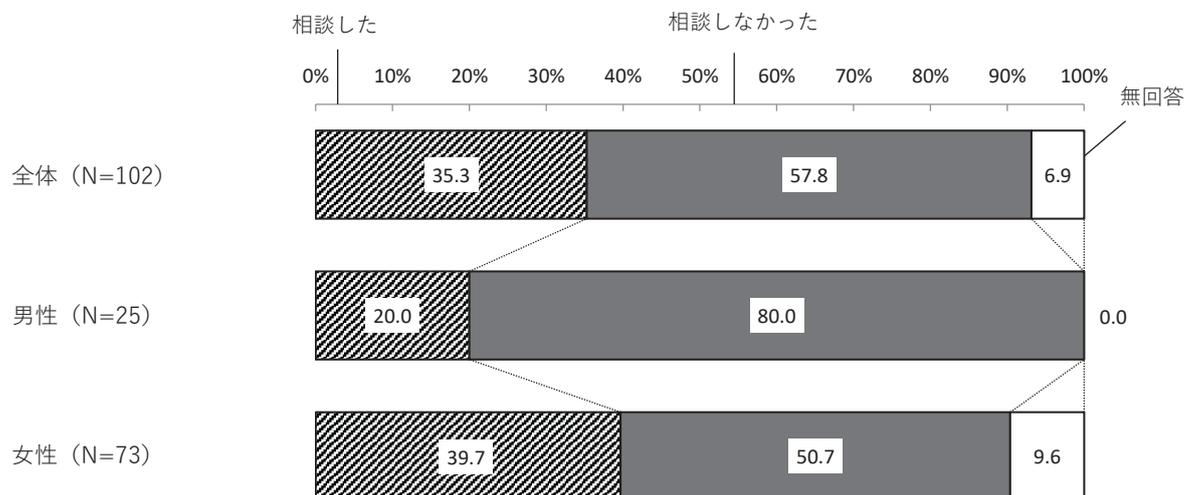
## 5 配偶者からの被害の相談先

【問 20 で (ア) ~ (エ) のうち1つでも「この5年間にあった」と回答した方にお聞きします。】

問 21 あなたは、問 20 における行為を受けた後、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(〇はいくつでも)

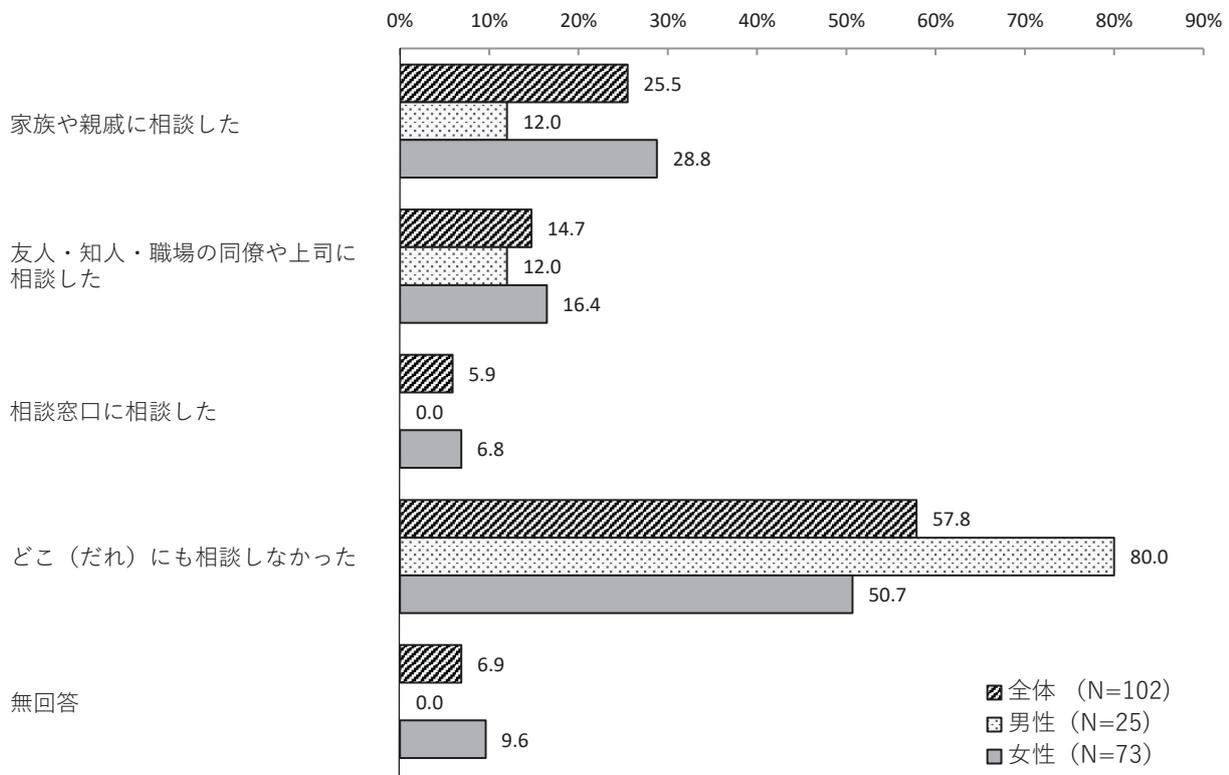
- 「家族や親戚に相談した」「友人・知人・職場の同僚や上司に相談した」「相談窓口相談した」のいずれかを選択した人を「相談した」にまとめると、全体では「相談した」が35.3%、「相談しなかった」が57.8%となっている。
- 性別にみると、女性では「相談しなかった」の割合は、50.7%となっている。男性は回答者数 (N) が25人と少ないため、参考程度にとどめるが、80.0%が「相談しなかった」と回答している。

図表 7 - 5 - ① 配偶者からの被害の相談の有無 — 性別



- 相談先を性別にみると、女性では「家族や親戚に相談した」と回答した割合が28.8%と、相談先の中で最も高くなっている。男性は回答者数（N）が25人と少ないため、参考程度にとどめるが、「家族や親戚に相談した」と回答した割合は12.0%となっている。

図表7-5-② 配偶者からの被害の相談先 — 性別



【問21で「3 相談窓口相談した」と回答した方にお聞きします。】  
 問21-1 どこに相談しましたか。(〇はいくつでも)

※ 回答者数（N）が少ないため、結果は参考とし、比率ではなく回答件数を以下に掲載する。

図表7-5-1-① 配偶者からの被害の相談先（相談窓口） — 性別

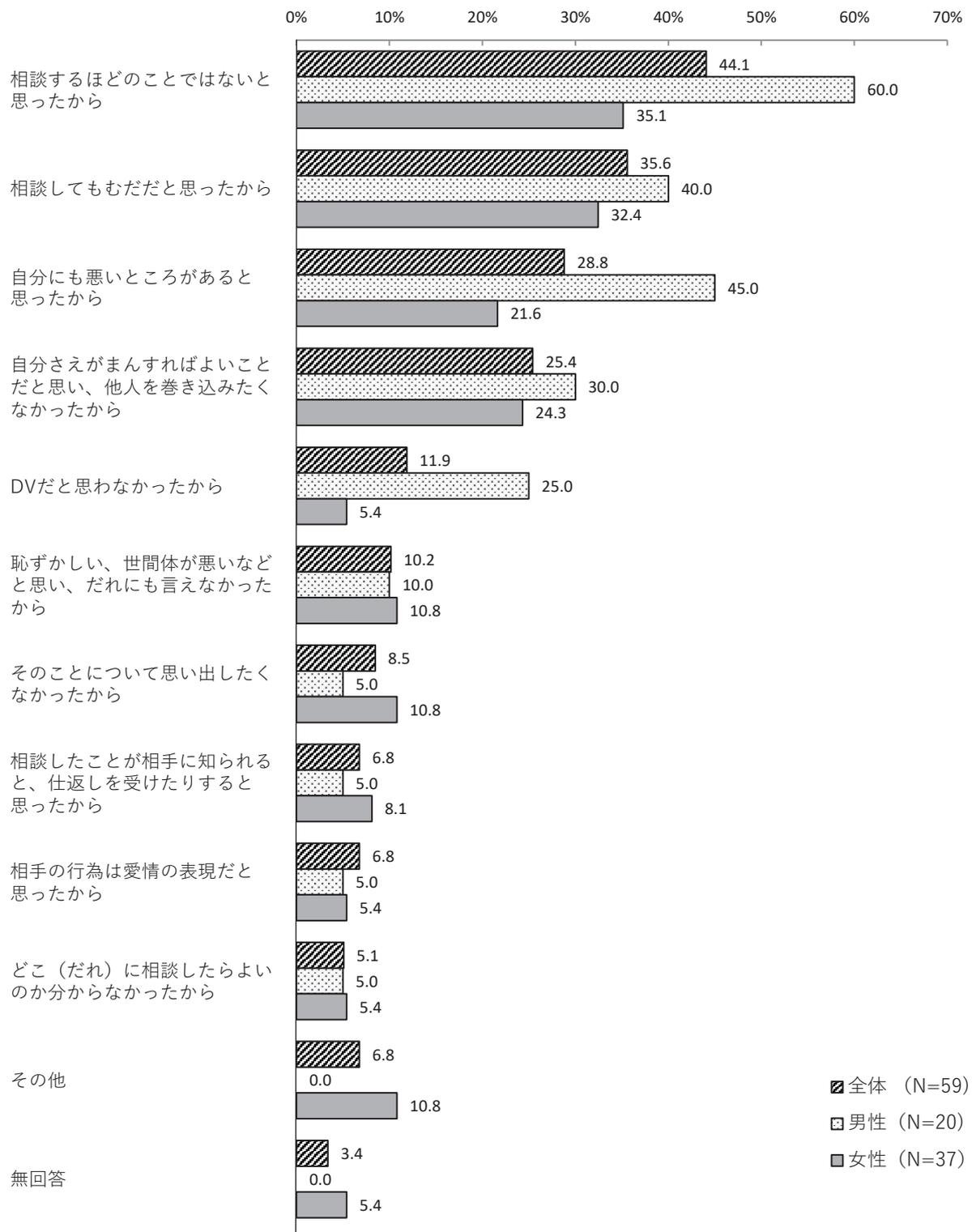
		調査数 (N)	仙台市「女性への暴力相談電話」	エル・ソーラ仙台「女性相談」	仙台市配偶者暴力相談支援センター	仙台市「男性のための電話相談」	区役所(または総合支所)	各警察署	宮城県女性相談センター (宮城県配偶者暴力相談支援センター)	みやぎ男女共同参画相談室	仙台法務局「女性の権利ホットライン」	NPO法人ハーティ仙台	よりそいホットライン	内閣府DV相談+ (プラス)	その他
性別	全体	6	1	1	1	—	2	1	1	—	—	1	—	—	5
	男性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女性	5	1	1	1	—	1	1	1	—	—	1	—	—	4

【問 2 1 で「4 どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問 2 1 - 2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」（44.1%）が最も高く、次いで、「相談してもむだだと思ったから」（35.6%）、「自分にも悪いところがあったから」（28.8%）となっている。

図表 7 - 5 - 2 - ① 配偶者からの被害を相談しなかった理由 — 性別



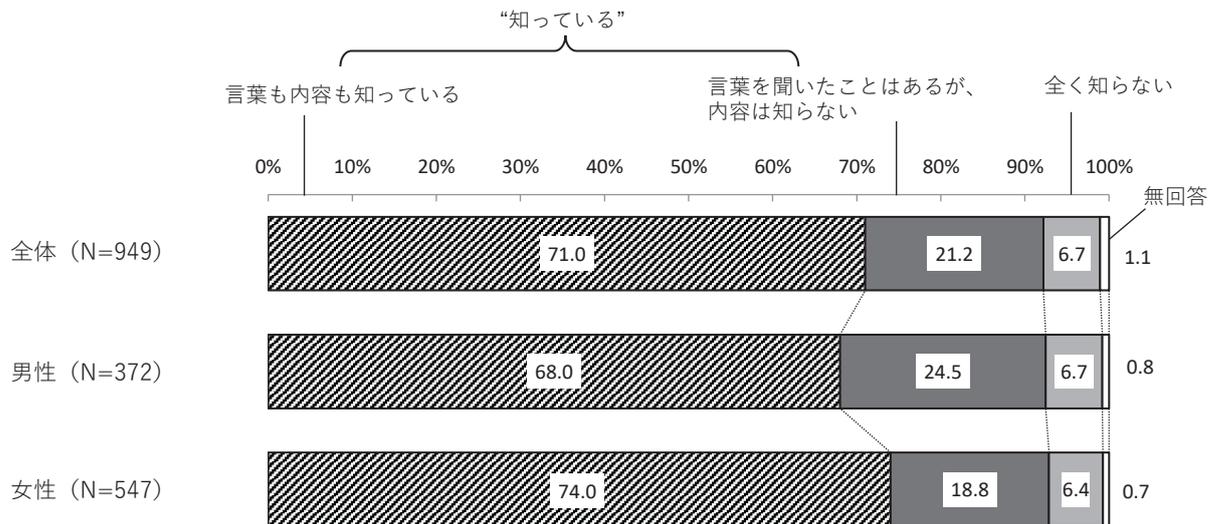
## 第8章 性暴力について

### 1 「性的同意」という言葉の認知度

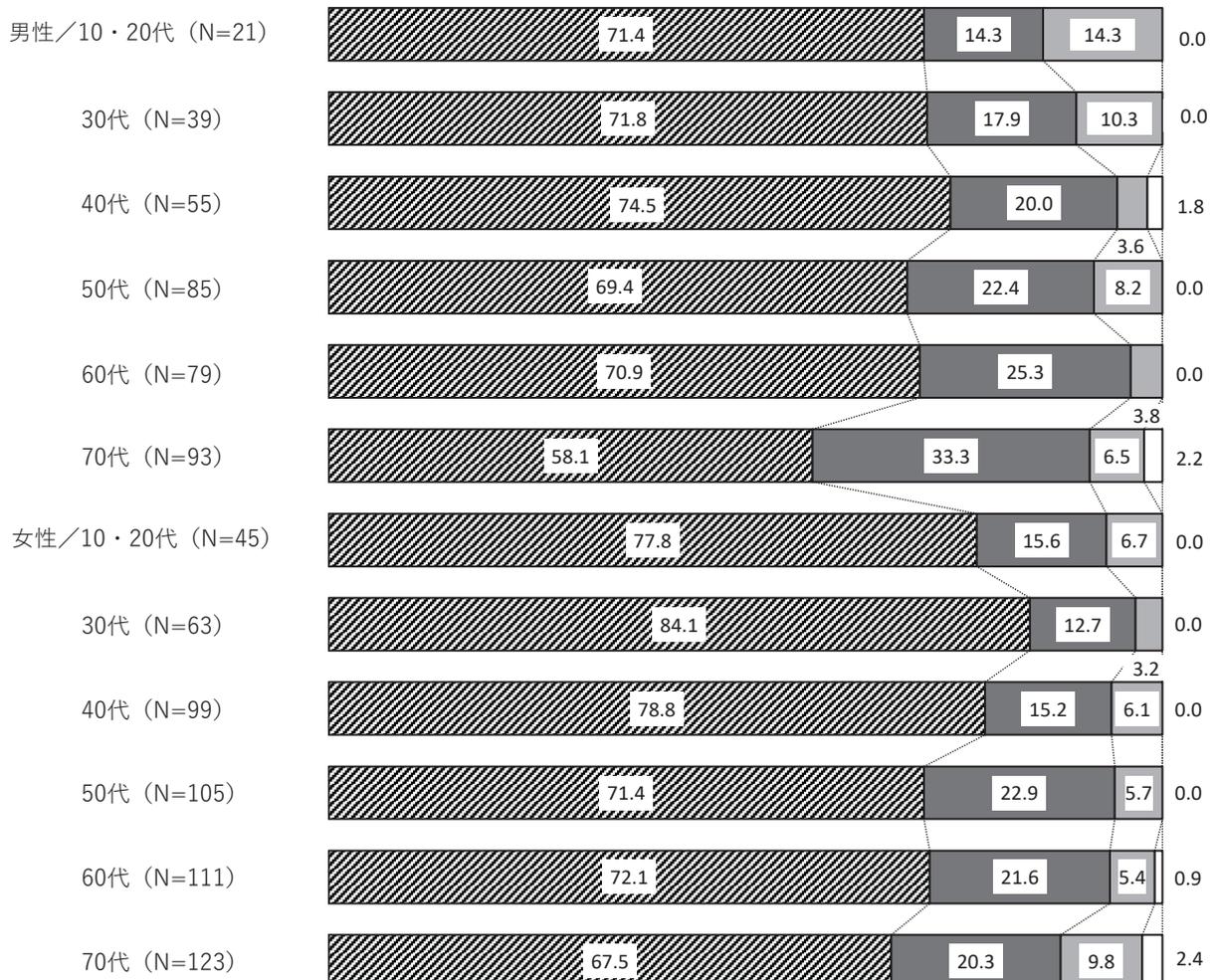
問22 あなたは「性的同意」という言葉をどの程度知っていますか。(〇は1つ)

- 全体、男女ともに、「性的同意」という言葉を“知っている”と回答した人の割合は9割を超えているが、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が2割前後となっている。
- 性別にみると、「言葉も内容も知っている」と回答した割合は女性の方が高い。

図表8-1-① 「性的同意」という言葉の認知度 — 性別



図表8-1-② 「性的同意」という言葉の認知度 — 性・年代別



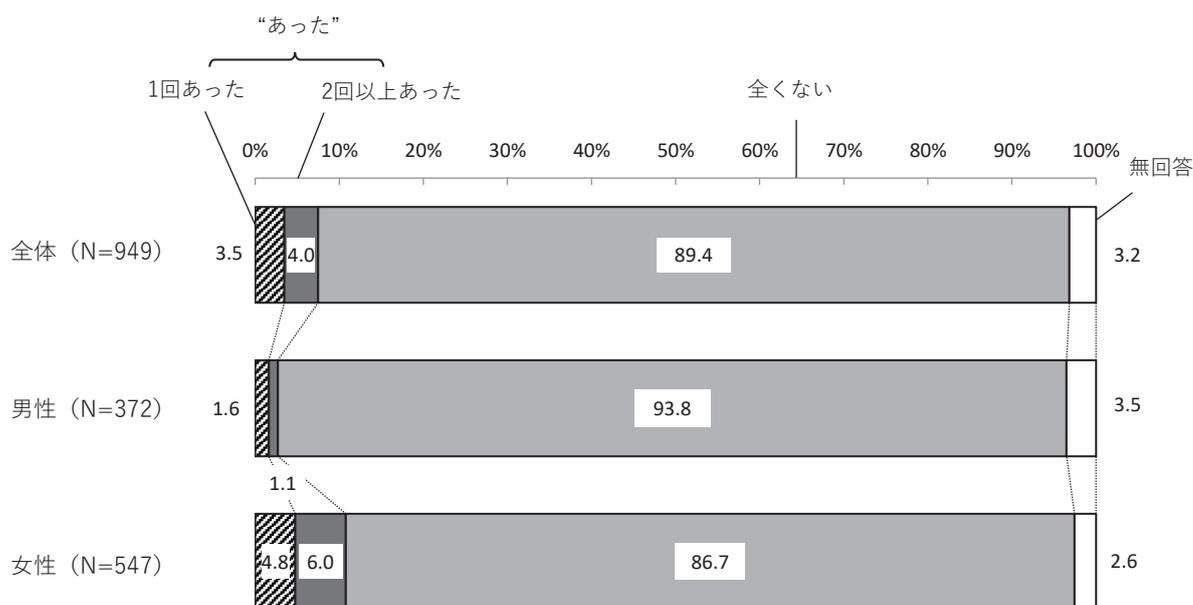
## 2 無理やりに性交された経験

問23 あなたはこれまでに無理やりに性交など（性交、肛門性交または口腔性交。相手の性別は問わない）をされたことがありますか。（○は1つ）

※子どもの頃も含めて、これまでの経験についてお聞きます。

- 全体では、「1回あった」が3.5%、「2回以上あった」が4.0%で、被害経験のある人は7.5%となっている。
- 性別にみると、被害経験のある男性は2.7%、女性は10.8%となっている。

図表8-2-① 無理やりに性交された経験の有無 — 性別

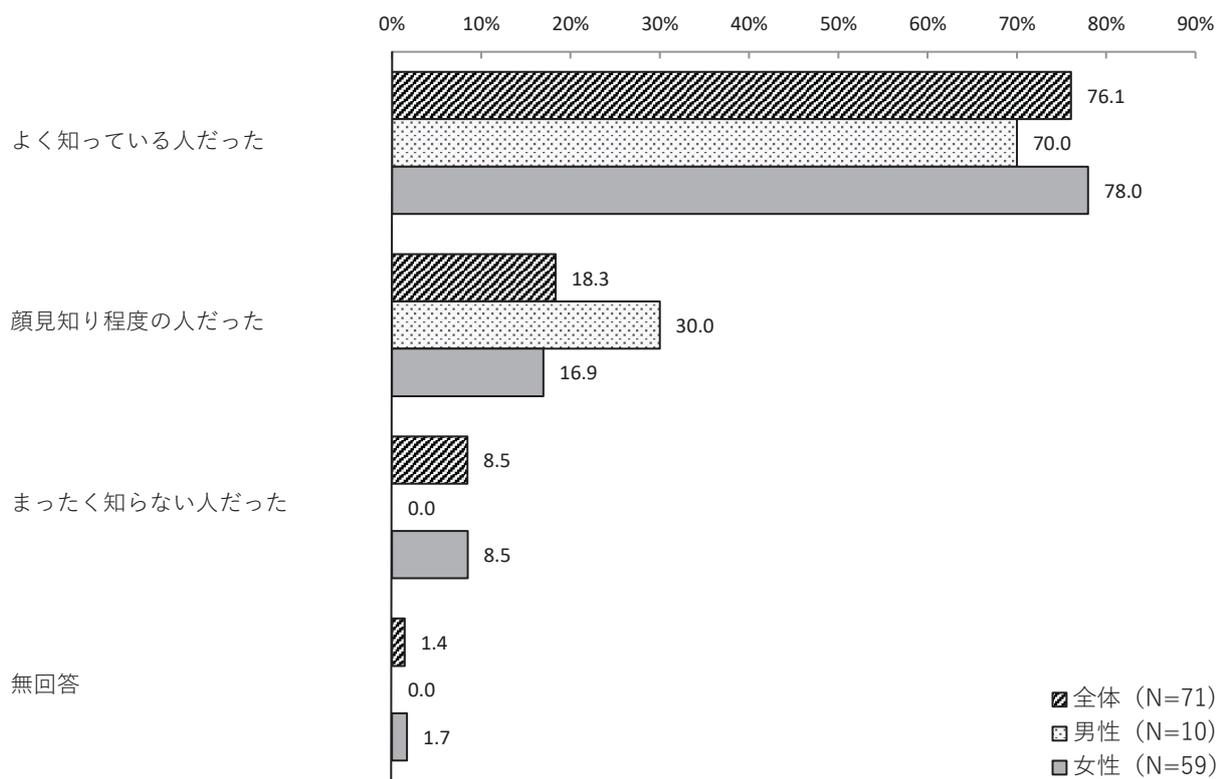


### 3 加害者との面識

【問23で「1 1回あった」または「2 2回以上あった」と回答した方にお聞きます。】  
 問24 その出来事があったとき、あなたは加害者と面識がありましたか。(〇はいくつでも)

- 全体及び女性では、「よく知っている人だった」と回答した割合が最も高く、7割を超えている。
- 男性は回答者数(N)が10人と少ないため、参考程度にとどめるが、同様に「よく知っている人だった」と回答した割合が7割と、最も高い。

図表 8 - 3 - ① 加害者との面識 — 性別

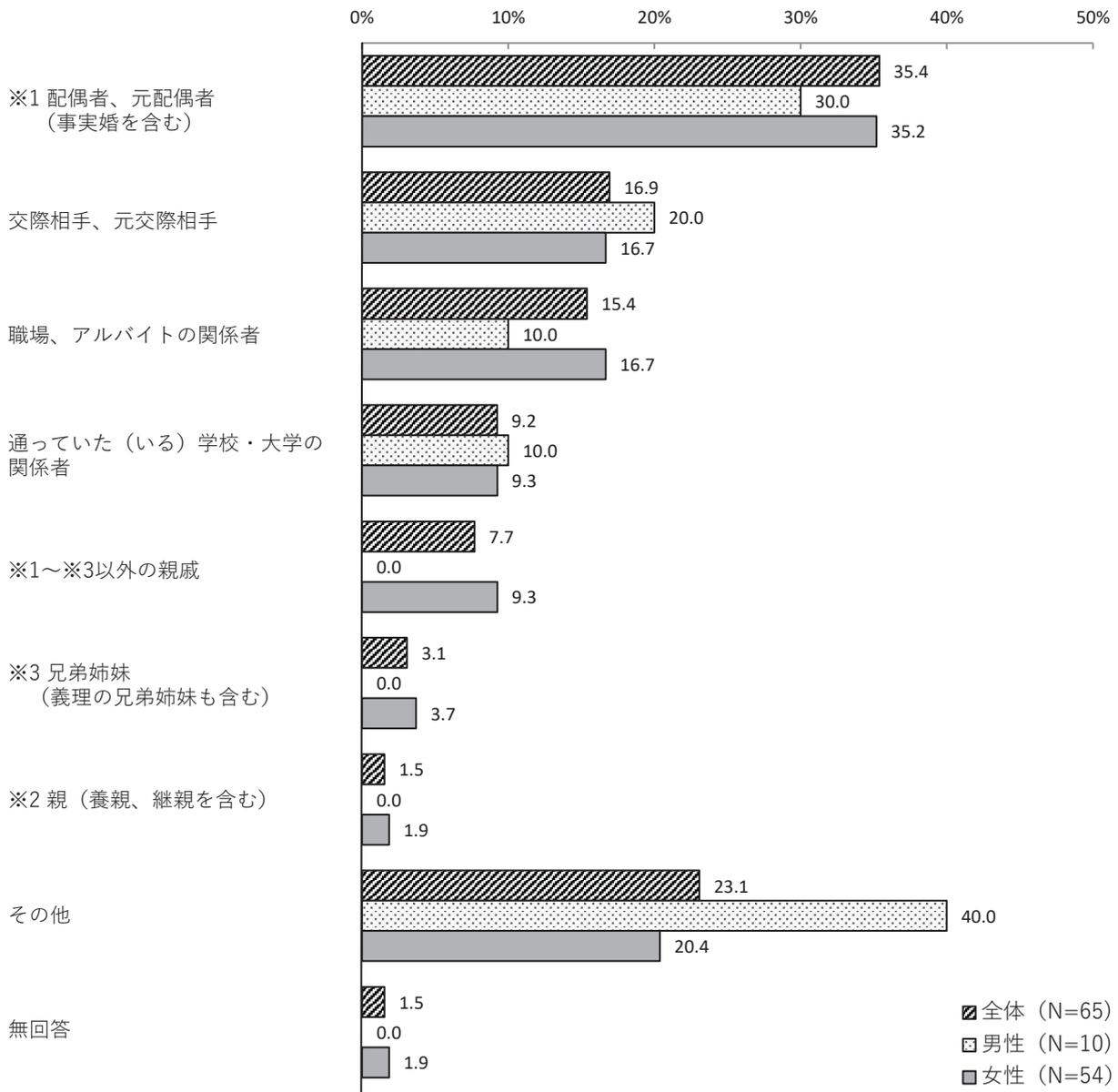


【問24で「1 よく知っている人だった」「2 顔見知り程度の人だった」と回答した方にお聞きします。】

問24-1 加害者はあなたとどのような関係でしたか。(〇はいくつでも)

- 全体及び女性では、「配偶者、元配偶者（事実婚を含む）」と回答した割合が最も高く、3割を超えている。

図表8-3-1-① 加害者との関係 — 性別

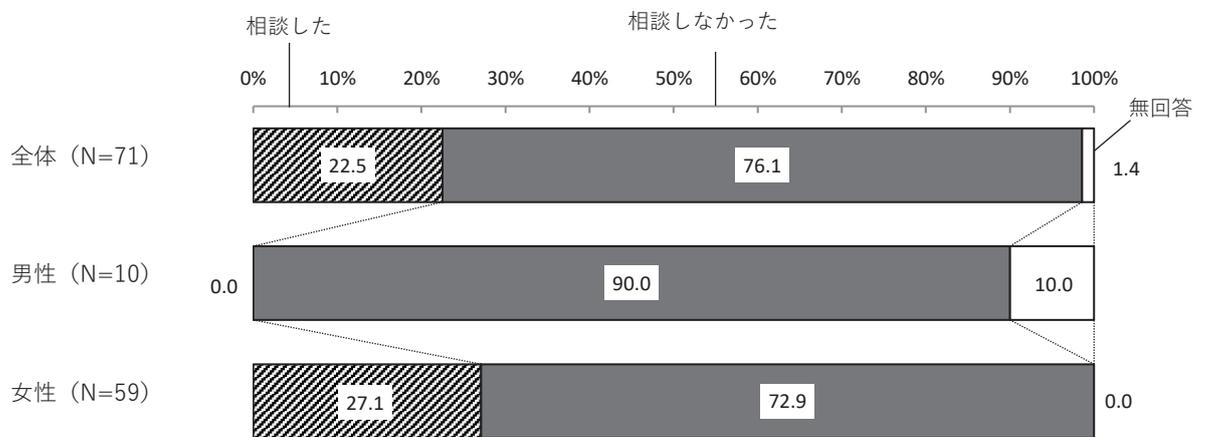


#### 4 無理やり性交された被害の相談先

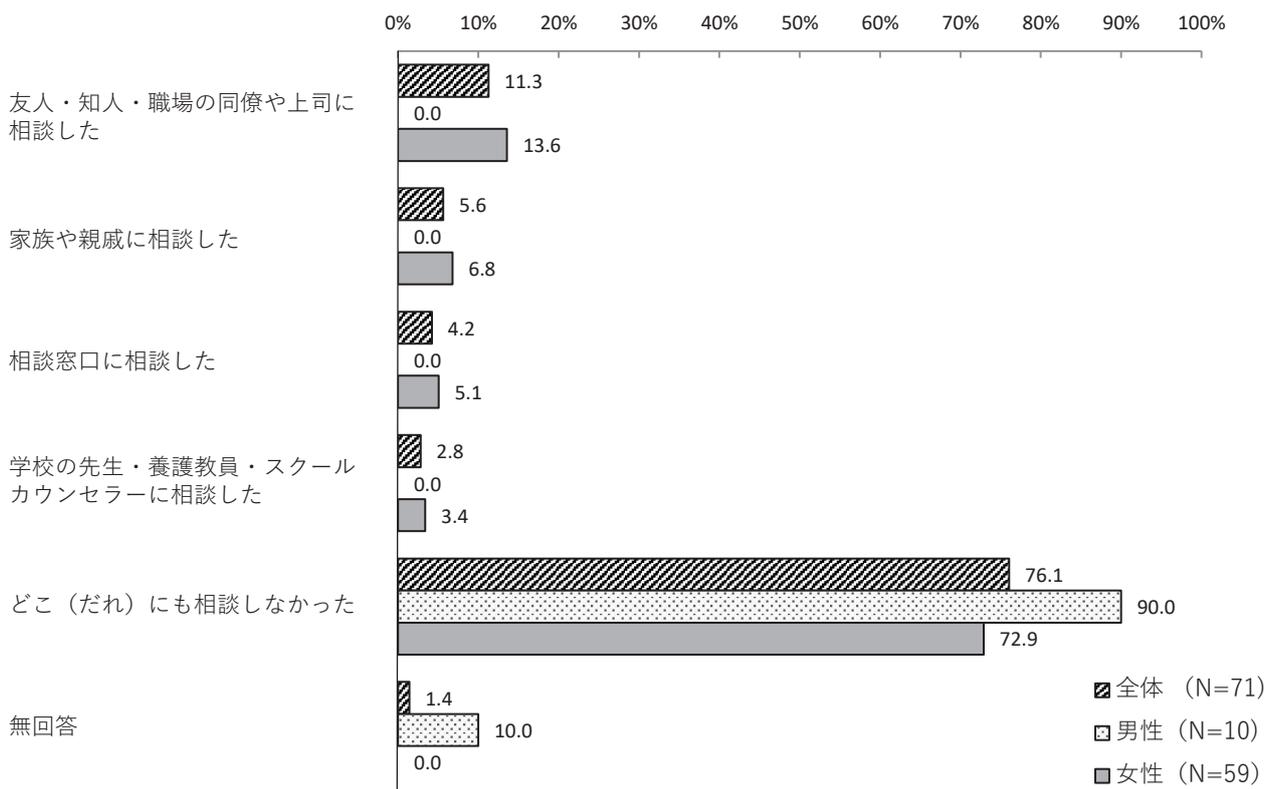
【問23で「1 1回あった」または「2 2回以上あった」と回答した方にお聞きます。】  
 問25 あなたは、その出来事があったとき、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。  
 (〇はいくつでも)

- 「家族や親戚に相談した」「友人・知人・職場の同僚や上司に相談した」「学校の先生・養護教員・スクールカウンセラーに相談した」「相談窓口相談した」のいずれかを選択した人を「相談した」にまとめると、「相談した」は22.5%、「相談しなかった」は76.1%となっている。
- 性別にみると、女性では「相談しなかった」の割合が72.9%となっている。男性は回答者数(N)が10人と少ないため、参考程度にとどめるが、90.0%が「相談しなかった」と回答している。
- 相談先をみると、全体及び女性では「友人・知人・職場の同僚や上司に相談した」が最も高い(全体：11.3%、女性：13.6%)。

図表8-4-① 無理やりに性交された被害の相談の有無 — 性別



図表8-4-② 無理やりに性交された被害の相談先 — 性別



【問25で「4 相談窓口に相談した」と回答した方にお聞きします。】

問25-1 どこに相談しましたか。(〇はいくつでも)

※ 回答者数 (N) が少ないため、結果は参考とし、比率ではなく回答件数を以下に掲載する。

図表8-4-1-① 無理やりに性交された被害の相談先(相談窓口) — 性別

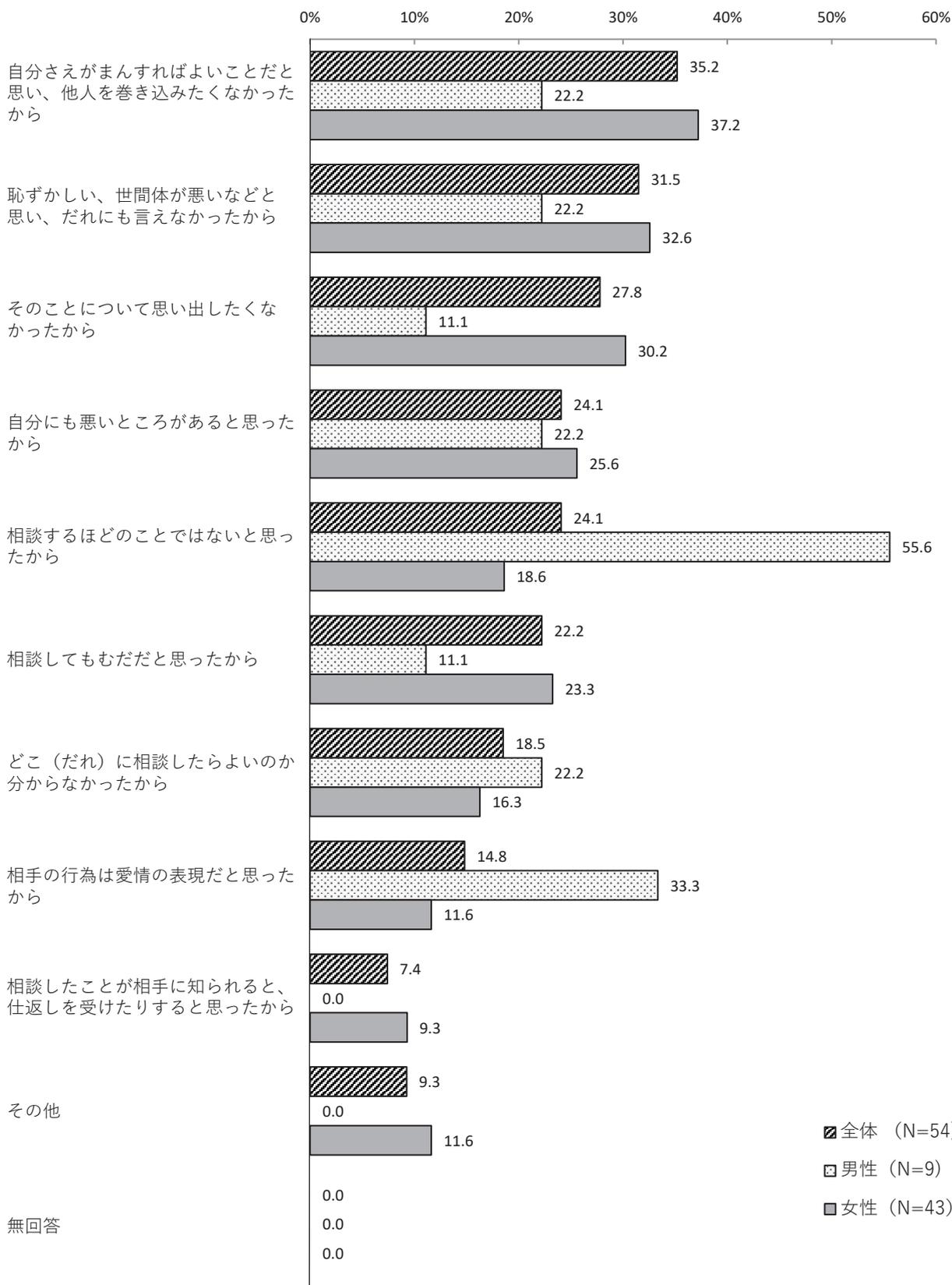
		調査数 (N)	仙台市「女性への暴力相談電話」	エル・ソーラ仙台「女性相談」	仙台市配偶者暴力相談支援センター	仙台市「男性のための電話相談」	区役所 (または総合支所)	各警察署	宮城県女性相談センター (宮城県配偶者暴力相談支援センター)	みやぎ男女共同参画相談室	性暴力被害相談支援センター宮城 「げやぎホットライン」	警察の性犯罪被害相談電話 (#8103「ハートさん」)	仙台法務局「女性の人権ホットライン」	NPO法人ハーティ仙台	よりそいホットライン	内閣府 Cure time (キュアタイム)	その他	無回答
全 体		3	2	1	—	—	1	1	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—
性別	男 性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女 性	3	2	1	—	—	1	1	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—

【問25で「5 どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問25-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから」（35.2%）が最も高く、次いで、「恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから」（31.5%）、「そのことについて思い出したくなかったから」（27.8%）となっている。

図表8-4-2-① 無理やりに性交された被害を相談しなかった理由 — 性別



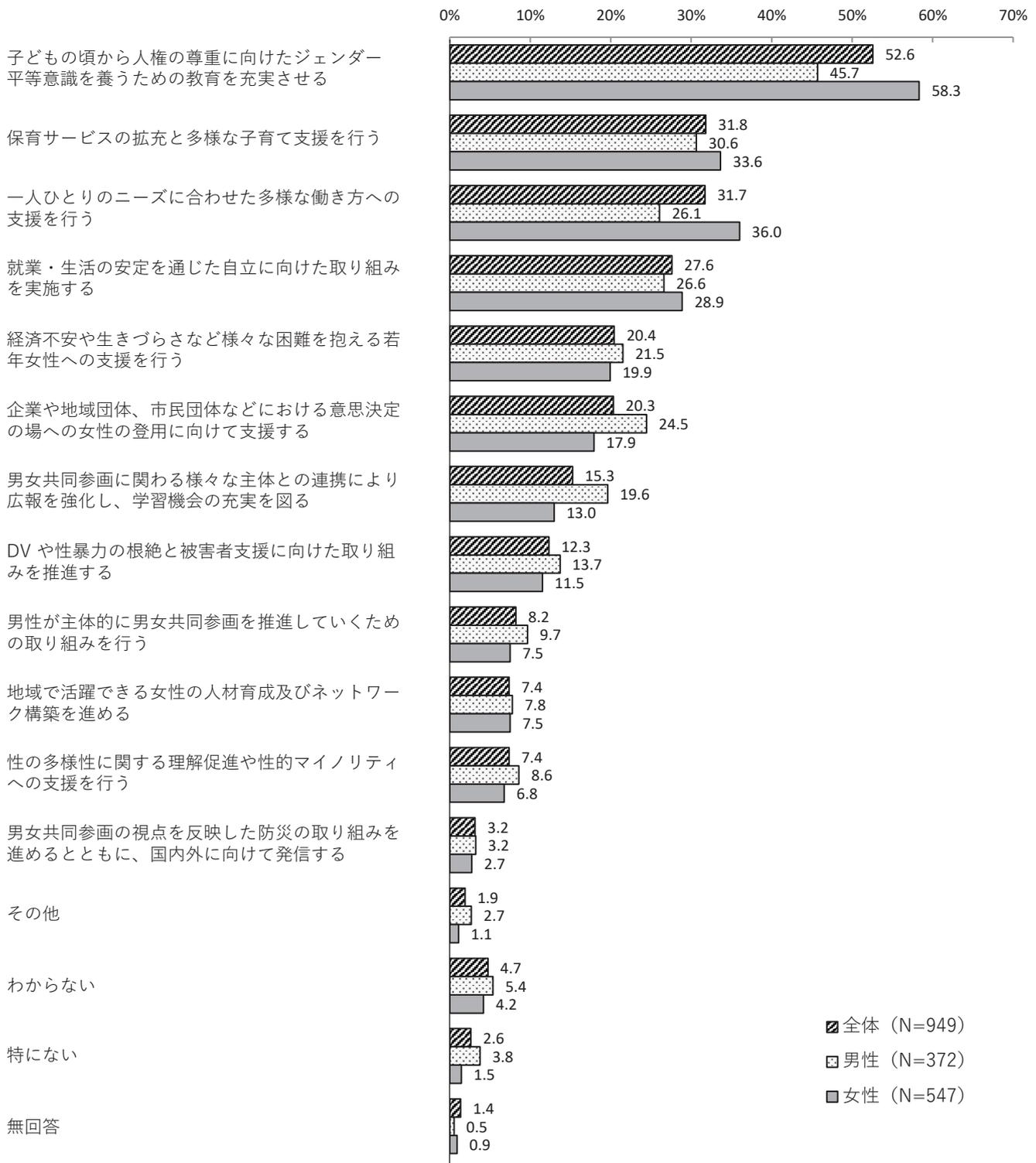
## 第9章 仙台市の今後の取り組みについて

### 1 男女共同参画社会の実現のために仙台市が特に力を入れるべきこと

問26 男女共同参画社会を実現するために、仙台市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。（特に必要だと思うものを3つまで○）

- 全体では、「子どもの頃から人権の尊重に向けたジェンダー平等意識を養うための教育を充実させる」（52.6%）が最も高く、半数を超えている。次いで、「保育サービスの拡充と多様な子育て支援を行う」（31.8%）、「一人ひとりのニーズに合わせた多様な働き方への支援を行う」（31.7%）となっている。

図表9-1-① 男女共同参画社会の実現のために仙台市が特に力を入れるべきこと — 性別



図表9-1-② 男女共同参画社会の実現のために仙台市が特に力を入れるべきこと ー 性・年代別

		調査数 (N)	子どもの頃から人権の尊重に向けたジェンダー平等意識を養うための教育を充実させる	保育サービスの拡充と多様な子育て支援を行う	一人ひとりのニーズに合わせた多様な働き方への支援を行う	就業・生活の安定を通じた自立に向けた取り組みを実施する	若年女性への支援を行う	経済不安や生きづらさなど様々な困難を抱える女性への支援を行う	企業や地域団体、市民団体などにおける意思決定の場への女性の登用に向けて支援する	男女共同参画に関わる様々な主体との連携により広報を強化し、学習機会の充実を図る	DVや性暴力の根絶と被害者支援に向けた取り組みを推進する	男性が主体的に男女共同参画を推進していくための取り組みを行う	地域で活躍できる女性の人材育成及びネットワーク構築を進める	男女共同参画の視点を反映した防災の取り組みを進めるとともに、国内外に向けて発信する性の多様性に関する理解促進や性的マイノリティへの支援を行う	その他	わからない	特になし	無回答	
全体		949	52.6	31.8	31.7	27.6	20.4	20.3	15.3	12.3	8.2	7.4	7.4	3.2	1.9	4.7	2.6	1.4	
性別	男性	372	45.7	30.6	26.1	26.6	21.5	24.5	19.6	13.7	9.7	7.8	8.6	3.2	2.7	5.4	3.8	0.5	
	女性	547	58.3	33.6	36.0	28.9	19.9	17.9	13.0	11.5	7.5	7.5	6.8	2.7	1.1	4.2	1.5	0.9	
性・年代別	男性	10・20代	21	28.6	28.6	28.6	23.8	23.8	9.5	23.8	14.3	0.0	9.5	0.0	0.0	9.5	9.5	0.0	
		30代	39	43.6	53.8	48.7	28.2	12.8	7.7	5.1	7.7	2.6	5.1	7.7	5.1	2.6	5.1	5.1	0.0
		40代	55	50.9	36.4	41.8	27.3	10.9	9.1	23.6	14.5	10.9	7.3	10.9	1.8	3.6	5.5	3.6	0.0
		50代	85	36.5	27.1	21.2	23.5	34.1	23.5	14.1	14.1	9.4	4.7	10.6	2.4	2.4	8.2	5.9	0.0
		60代	79	53.2	32.9	16.5	27.8	19.0	39.2	19.0	13.9	11.4	11.4	8.9	3.8	2.5	1.3	1.3	0.0
		70代	93	49.5	19.4	19.4	26.9	21.5	29.0	31.2	12.9	9.7	10.8	5.4	4.3	3.2	5.4	2.2	2.2
	女性	10・20代	45	37.8	42.2	40.0	17.8	15.6	15.6	15.6	15.6	11.1	2.2	8.9	4.4	0.0	4.4	4.4	0.0
		30代	63	60.3	55.6	46.0	22.2	20.6	12.7	3.2	7.9	9.5	3.2	11.1	0.0	3.2	4.8	0.0	0.0
		40代	99	57.6	30.3	41.4	23.2	19.2	15.2	16.2	12.1	8.1	5.1	9.1	2.0	3.0	7.1	1.0	1.0
		50代	105	67.6	29.5	34.3	31.4	8.6	16.2	10.5	13.3	2.9	6.7	9.5	3.8	0.0	3.8	1.9	0.0
		60代	111	58.6	33.3	38.7	33.3	24.3	18.0	12.6	10.8	10.8	10.8	3.6	3.6	0.9	2.7	0.0	0.0
		70代	123	57.7	25.2	23.6	35.0	27.6	25.2	17.1	10.6	4.9	11.4	2.4	2.4	0.0	3.3	2.4	3.3

## 2 男女共同参画社会についての意見や要望（自由記述）

問27 男女共同参画社会についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

内容	意見数
(1)男女共同参画について	42
(2)職場・女性活躍について	10
(3)子育て支援について	8
(4)教育について	6
(5)就労について	9
(6)性の多様性について	4
(7)政治について	3
(8)行政(仙台市)への要望	5
(9)当調査について	7
(10)その他	10
総意見数	104

### 主な意見

#### (1)男女共同参画について(42件)

- ・ 企業や政治で影響力がある人（地位が高い人）の理解があり、高齢者（60才以上）の参画が増えることで、男女共同参画社会が推進されていくと思う。（男性・40代）
- ・ 他人（男女を問わず）を思いやる（気持ちでも行動でも）ということが大切。それが総意となる社会であって欲しい。（男性・70代）
- ・ 男女共同参画と男女平等の違いをはっきりとすべきである。男性には男性のできること、女性には女性のできることがあることを、勘違いをしないで尊重し合い、尊敬し合ってほしい。（女性・50代）
- ・ 「男女共同参画社会」を耳にしたのは、平成元年生まれの娘が小学6年生の頃でした。それ以降、娘には「これからは何をやるにも男も女もない」を伝えていたように思います。しかし、本人たちがそう意識していたとしても、社会人になれば（大手企業はともかく）昭和世代の感覚は根強く、男女を同じ土俵にのせる事にすら気づけない役職陣がはびこっているのが現状ではないでしょうか。大変な時間を要する事ではありますが、悪い慣例が引き継がれる事のないよう、個人的にも意識していかなければと思います。（女性・50代）
- ・ 家事に男性が協力してくれるよう、もっと世の中が変わっていてもらいたいです。事実婚ですが、法的にも夫婦別姓が認められたらありがたいです。（女性・50代）
- ・ 大切なのは性別に関わらず尊重し高め合うことなので、「男女共同参画社会」だからと“男”“女”から選ばず能力や努力で認めていくことだと思います。（女性・20代）
- ・ 個性の時代だと思うので、昔ながらの偏見をなくす考え方に変えていくべきだと思います。（女性・50代）
- ・ 人それぞれが自分らしく生きることができる社会、自分らしさを尊重し合える社会の実現を目指すことが大切だと思います。（男性・70代）
- ・ 希望する人にとっては男女共同参画は良いことだと思いますが、男と女には体の違い、体力差など、性差があるので、そのような部分に配慮した方向にしてほしいです。「すべて女も男も同じ」は、無理なところもあると思います。しかし個人差があるので、女性でも男性より体力のある人もいるし、男性でも女性より体力がない人もいます。能力差をふまえて、いろんな役割に適した人が適したことをできる（性別で分けるのではなく）社会であれば良いと思います。それと、結婚しないと老後が困るのではなく、単身でも安心して老後を過ごせる社会システムがほしいです。（女性・50代）

- 年齢の高い人ほど理解が無いと思う。特に政治の場合は男性ばかり。育児も女性がまだまだメインだと思う。男性育休も、もっと男性の会社側の理解が広がると良いと思う。同じ親なのだから育児の大変さを共有すべき。(女性・30代)
- 80代以上は批判的な考えの人が多く思う。いまだに「長男の嫁は仕事を辞め、義理の両親の介護をすべき」「女のくせに」といった発言が目立つ。高齢者の理解が進む取り組みも必要だと思う。(男性・60代)
- 給与が上がらない、物価高、若者や貧困者に対する公的サービスはあるがハードルが高く、切り捨てられ感がある等の経済的理由から社会全体が貧困化し、精神的に余裕のある社会生活が送れていない現状がある。経済的にも精神的にも余裕がある社会となり、それがベースとなり男女共同参画社会が実現できるのではないと思う。社会全体に複合的に絡んでいると思う。男女共同参画の問題に特化してみたら圧倒的にトップまたは行政の発信不足を感じる。(男性・50代)
- 性の多様性に関しては近年広く共有されつつあるが、「男女共同参画」の社会的“参画”の具体例・課題などの情報量は少ない気がする。私自身このテーマを身近に感じていない。気がつかないだけかもしれないが、その“気がつかない”の意識を変えるには、教育・情報力が必要ではないかと感じる。家庭内は家族で意識共有・工夫できるが、社会の面では自分に何ができるのか、みんなで理解する機会を増やすべきではないでしょうか。(男性・50代)
- 性別に関わらず、本人の自由な選択が叶う社会が理想だとは思いますが。どこかへの所属ではそれが叶わないのなら、自分で独立などして切り拓く意思を各々が持つ事も大切です。(女性・30代)
- 女性の身体の作りを理解した制度が必要。男性より体力が無い、力が無い、子どもを産む。身体の作りから変えられないことがある。それをマイナスととらえない考え方ができる教育も必要。(女性・30代)
- 女性が社会参加するのは良いことだと思うが、多様性というのは、必ず働くということでもないので、それぞれが自分らしく伸び伸びと生きていける社会になったら素晴らしいと思います。(女性・60代)
- 男女の完全な平等は絶対に無理だと思う。現代の人たちが本当に困っているのは高い税金と物価高。共働きをしているのは、正直男女共同参画とかではなく、みんな生活が厳しいから。育児している以上周りの理解・フォローがないと働くことすらできないため、平等は無理。せめてフォローしてくれている人たちにも何か対価があってほしいと思う。(女性・20代)
- 会社などで生理休暇があるのに、ほぼ取得できない。名目上必要だから規則に載っているが、取得する事は常識がないと思われる風潮がある。これが普通の状態では、色々なことが困難だと思います。男女平等と言いますが、男性は出産できないし、女性は男性ほど体力もない人が多い。お互いの良いところを伸ばしフォローし合うことが普通にできるようになれば良いと思います。(回答しない・40代)
- 女性を優遇するのではなく、能力や素質の点で男女関係なく平等な社会を作っていきたいと思います。(女性・20代)
- 弱者男性としての意見ですが。法律に関する記事などを見ても家庭における女性の役割を強く持たされているからこそその違和感がある事例などもあり、それが女性自身を苦しめたり、逆に男性を苦しめたり。そもそも現代的な価値観にそぐわない法律、それを支持する変わり難い高年齢層から歪みが生まれているという側面を最近思います。(男性・20代)
- 「男女共同参画社会」という言葉に少し違和感を感じるようになりました。仙台市が多様性の理解促進を図る一方で、男女という考え(名称)は古いのかなと思います。(女性・40代)

## (2)職場・女性活躍について(10件)

- 男性でも女性でも得意な分野での活躍を支援して、社会での地位を向上させる。また、職能教育の範囲を広げ、社会人の再教育で意識を高める。(男性・50代)
- 男性の長時間労働を改善しない限り、家事参加や育児参加、まして既婚女性の労働環境の改善は見こめない。(女性・30代)

- 社会が女性を社会の一員として育ててこなかったのが、リーダーになる自信や知識経験がない人も多いが、多少頑張っても変えていかないと変わらないと思う。(女性・50代)
- 男性側の根本的な考え方を変えないと、女性が意見を出しても採用されにくいと思う。(女性・20代)
- 男性優位は中小企業に多いように思う。仙台市の中小企業で女性管理職を置いている会社を支援してほしい。(女性・50代)
- 企業や地域団体、市民団体などにおける意思決定の場への女性の登用がなぜ少ないのかという理由を元に改善策を立案し、むやみに女性を登用する枠を設けることはしないでほしい。(男性・30代)
- もっと女性が参加できるように最低参加数を決めて行う。(男性・60代)

### (3)子育て支援について(8件)

- 育児に対し、母親がやって当たり前で、父親がやると素晴らしい父親だと考える人が多い。子どもの体調不良で休むのは母親が多い現実を変えないと、女性は休むから管理職につけない(つけられない)。(女性・40代)
- 仙台市は東北の中でも大きな都市であるにもかかわらず、男女平等やLGBTQに関して遅れていると感じる。子どもを遊ばせる場所も少ないし、子どものために税金が使われていると思う場面も少ない。子育ての拡充や、男女関わらず自己決定できる環境を整える、LGBTQへの理解も進まない、いつまでも変わらないままで人が離れて廃れていくと思う。(女性・30代)
- 30年以上前になるが、私自身の出産・育児の頃は、現在のように育児休暇を2・3年も取得する事も、復帰して子どもの発熱で休みを貰うことも難しい時代だった。今現在、こんなにも周りの若い女性が楽に出産育児の休暇を取得していることに時代の流れを感じている。少しずつでも確実に状況が良くなっていると思うので、このまま堅実に前に進んでほしいと切に願う。働く女性が何も気にすることなく、思うような働き方で生きていくことができるのなら、未来は明るいのではないかと感じている。(女性・50代)
- 色々な活動をしたくても、家事や育児に追われて時間を捻出できない人は大勢いると思う。子どもが小さいうちからフォローすることがすごく大事。子どもが大きくなる頃には親も疲れ切っていて熱意も保てない。(女性・50代)
- 育児と家庭の両立が難しく感じる。障害児育児休暇(突然の治まらないかんしゃくや感覚過敏で雪の日に外出できないことがある)のように、臨機応変に子どもの都合で休むことができないと、発達障害のある子どもがいる人は働きづらい。また、頼れる人が近くにいないので、病児保育がもっと充実しないと働きづらい。男女共同参画というか、育児中の女性が働きやすくなるためにも、子ども由来の休みに融通が利く世の中になってほしい。(女性・30代)

### (4)教育について(6件)

- 小さい頃(保育所や幼稚園から)の男女平等の教育が必要不可欠だと思います。仙台市は、教育分野での取り組みを積極的に行っていただきたいです。個人ではなかなかできない、切りこめないのが教育分野、学校の中の改革だと感じています。しかし効果がもっともあるのが、教育だと思います。教員養成大学等のカリキュラムに入れていただけるとよいと思いますので、働きかけをお願いしたいです。(行政頼みではなく、自分でもできる働きかけは必要だと思いますのでやってみます。)(女性・50代)
- 全て教育が大事です！その為には教育者(先生)の正しい教育制度が大切になります。(男性・60代)
- 子どもの頃からの教育も必要だと思うが、60歳以上の教育、理解を得ることが大前提。上の年代が理解していないことが男女共同参画や、社会進出の足かせになっていると思います。(男性・30代)

#### (5)就労について(9件)

- 女性は年齢が上がると就職・転職の選択の幅が狭くなる。転職を考えていても資格がなければできない仕事や、年齢を制限している企業も見受けられる。40歳を区切りとしている所もあるため、女性のキャリアアップはかなり難しい社会です。(女性・30代)
- 今後、意図せず未婚になる女性(私もですが…)が増えていくと思います。これはある種働くことの弊害でもあります。成婚するまでの支援や生涯未婚の女性を見捨てず、支援をお願いできたらうれしいです。(女性・30代)
- 女性が妊娠、出産により長期で職場を休む際の会社側(上司、同僚)の理解と支援の充実が大切!子どもが産まれてさらにお金がかかるのに給料が減るのは不安。(女性・30代)

#### (6)性の多様性について(4件)

- 心が女性だとしても、体が男性ならそれは女性とは言えません。同じトイレやお風呂を使うのは不安です。ジェンダーへの理解を進めたいなら、女性の視点が足りないことがないようにお願いします。(女性・40代)

#### (7)政治について(3件)

- 政治に関わっている方々の認識や知識不足もあると思う。社会全体で取り組むためには、政治家への働きかけをし、そこから発信していくことも必要と考えます。(女性・70代)
- 議員・役員等を半数女性にするというルールを法律で決めるとよい。(男性・70代)

#### (8)行政(仙台市)への要望(5件)

- 仙台市としての取り組みが一般市民にわかりづらい。積極的に集会・勉強会、子ども食堂などを利用して発信するべきだと思います。子育て中が一番親御さんにとって話し合える場だと思います。(女性・70代)
- 公務員の中でも、本庁と教育委員会、ガス局、水道局など、元々男性が多い職場、技師の多いところ、男性の管理職が多いところでは、意識に差があると思う。そのアンケートを取って、まず行政から改善してほしい。(女性・60代)
- 行政からの支援があることも知らなかったり、知っていても利用しづらいという面があると思う。周知や利用のしやすさの改善に向けた取り組みが必要。(男性・40代)

#### (9)当調査について(7件)

- この様にアンケートがあると客観的に考えられるのでとても良い事です。本当に良い世の中になったと思う。少しずつですが進歩なのではないでしょうか?(女性・70代)
- 今回、知らないこともあり、アンケートに答えることで新たな理解が深まりました。(男性・50代)
- 問26の選択肢に「経済不安や生きづらさなどの様々な困難を抱える若年女性への支援を行う」とありますが、若年男性への支援については検討していないのでしょうか。(男性・40代)

#### (10)その他(10件)

- より良い社会にするためにできる事を、できる限り頑張りたい。(女性・60代)



## 第4部 資料



仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査

令和6年8月  
仙台市

I 男女の役割や地位に関する意識について

問1 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(ア)～(ク)のそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平 等	どちらかといえ ば 女性の方が優遇さ れている	どちらかといえ ば 女性の方が非常に 優遇されている	わ か ら な い
(ア) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場では	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(エ) 町内会など地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(オ) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(カ) 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・慣習などでは	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはど  
う思いますか。あなたの考え方に近いものを次の中からお選びください。(○は1つ)

1 賛成 2 どちらかといえば賛成	3 どちらかといえば反対 4 反対 5 わからない →問3へ
----------------------	--------------------------------------

問2-1へ 問2-2へ

【問2で「1 賛成」または「2 どちらかといえば賛成」と回答した方にお聞きします。】

問2-1 そのように思う理由は何ですか。(○は1つ)

1 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから 2 自分の両親も役割分担していたから 3 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから 4 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから 5 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから 6 その他 ( )
--

【問2で「3 どちらかといえば反対」または「4 反対」と回答した方にお聞きします。】

問2-2 そのように思う理由は何ですか。(○は1つ)

- 1 男女平等に反すると思うから
- 2 自分の両親も外で働いていたから
- 3 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
- 4 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
- 5 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
- 6 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
- 7 その他 ( )

## Ⅱ 女性活躍について

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問3 女性が働くことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- 1 結婚・出産に関わらず、働く方がよい
- 2 出産を機会に勤務先を辞め、育児が一段落した後、再び働く方がよい
- 3 出産を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい
- 4 結婚を機会に勤務先を辞め、家事・育児に専念する方がよい
- 5 女性は働かない方がよい
- 6 その他 ( )
- 7 わからない

問4 政治や企業などにおいて、政策や方針を決定する立場や指導的地位に女性が少ないという状況があります。あなたは、その理由は何だと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないから
- 2 女性自身がリーダー的立場になることを希望しないから
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないから
- 4 長時間労働の改善が十分ではないから
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えるから
- 6 子育て・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないから
- 7 子育て・介護の支援などの公的サービスが十分ではないから
- 8 その他 ( )
- 9 わからない
- 10 特に理由はない

【女性国会議員の割合】

衆議院：9.7% 参議院：25.8%

(令和5年 内閣府調べ)

【女性管理職の割合】

17.6% (仙台市内の全職種)

(総務省統計局「令和4年就業構造基本調査」)

### Ⅲ ワーク・ライフ・バランスなどについて

問5 あなたは平均的な1日において、下記（ア）～（オ）のそれぞれについてどの程度の時間をかけていますか（現状）、またかけたいと思いますか（理想）。仕事や学校がある日と無い日の両方についてお答えください。

※無職・家事専業の方は、「仕事や学校が無い日」のみお答えください。

（枠内におおよその合計時間をご記入ください。該当がない場合は、「0時間0分」とご記入ください）

	仕事や学校がある日 (仕事・学校がある人のみ)			仕事や学校が無い日		
(ア) 仕事、学校 (通勤・通学時間を含む)	(現状)	時間	分			
	(理想)	時間	分			
(イ) 家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	(現状)	時間	分	(現状)	時間	分
	(理想)	時間	分	(理想)	時間	分
(ウ) 育児、介護	(現状)	時間	分	(現状)	時間	分
	(理想)	時間	分	(理想)	時間	分
(エ) 睡眠時間	(現状)	時間	分	(現状)	時間	分
	(理想)	時間	分	(理想)	時間	分
(オ) 自由時間 (仕事、学校、家事、育児、 介護、睡眠など以外の時間)	(現状)	時間	分	(現状)	時間	分
	(理想)	時間	分	(理想)	時間	分

【次の設問はお子さんのいる方にお聞きします。】

#### お子さんのいない方は問7へ

問6 あなたは、この5年間で出産・育児をきっかけに仕事や働き方に変化がありましたか。  
(〇はいくつでも)

※複数回仕事や働き方に変化があった方は、一番最近のことについてお答えください。

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 勤務先を辞めた</li> <li>2 勤務先を辞め、別の勤務先が変わった<sup>※1</sup></li> <li>3 育児休業を取得した</li> <li>4 時短勤務にした</li> <li>5 リモート勤務にした</li> <li>6 勤務先に相談し、仕事の量を減らしたり業務内容を変更したりした</li> <li>7 その他 ( )</li> </ol>	→問6-1へ
<ol style="list-style-type: none"> <li>8 特に変化はない</li> <li>9 この5年間仕事をしていない</li> </ol>	→問7へ

※1 勤務先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更した場合も含まれます。

【問6で1～7と回答した方（仕事や働き方に変化があった方）にお聞きします。】

問6-1 出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化したのはなぜですか。  
(○はいくつでも)

- 1 家事や育児などに時間をとりたかったため
- 2 時間的、体力的に厳しかったため
- 3 配偶者など家族が希望したため
- 4 家事や育児などに対してまわりの人の支援が得られなかったため
- 5 保育施設や保育サービスが十分利用できなかったため
- 6 家事や育児などと両立する努力をしてまで続けたい仕事ではなかったため
- 7 仕事を続けるににくい職場の雰囲気があったため
- 8 出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化した、理由は出産・育児に直接関係ない
- 9 その他 ( )
- 10 特に理由はない

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問7 あなたは、この5年間で介護をきっかけに勤務先を辞めたことはありますか（介護休業などによる休職や出向は除く）。(○は1つ)

※勤務先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更した場合も含まれます。

- 1 介護をきっかけに勤務先を辞めた
- 2 介護をきっかけに勤務先を辞め、別の勤務先が変わった※
- 3 この5年間で介護をきっかけに勤め先を辞めたことはない
- 4 この5年間仕事をしていない

→問8へ

問7-1へ

【問7で「1 勤務先を辞めた」または「2 勤務先を辞め、別の勤務先が変わった」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 あなたが介護をきっかけに勤務先を辞めたのはなぜですか。(○はいくつでも)  
※複数回辞めた経験がある方は、一番最近のことについてお答えください。

- 1 仕事と介護の両立が難しい職場だったから
- 2 自分の心身の健康状態が悪化したから
- 3 施設や介護サービスを利用する経済的余裕がなかったから
- 4 定員の都合で施設への入所ができなかったから
- 5 自分の希望として介護に専念したかったから
- 6 介護対象者や家族が希望したから
- 7 介護をきっかけに勤め先を辞めた、理由は介護に直接関係ない
- 8 その他 ( )
- 9 特に理由はない

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問8 あなたは、将来自分が排せつなどの介護が必要になった場合、どなたに介護を頼みたいと思いますか。(○は1つ)

1 配偶者	5 ヘルパーなどの介護サービスの人
2 子どもや子どもの配偶者	6 その他 ( )
3 その他の家族・親族	7 特に希望はない
4 友人・知人	

#### IV 男性による男女共同参画の推進※について

※男性による男女共同参画の推進：国際的にも「男性と男児はジェンダー平等推進の戦略的なパートナーであり、社会変革のための重要な主体」とされており、「男女共同参画せんだいプラン 2021」の基本目標6では「男性による男女共同参画の推進」を掲げています

問9 あなたは、男性が主体的に男女共同参画社会の推進に取り組むためには、どのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うものを2つまで○)

1 「競争に勝つ」「弱音を吐かない」「一家の大黒柱になる」など従来の「男らしさ」を見直し、仕事中心の考え方や生き方を変えていくこと
2 男性同士で気持ちや悩みなどを気軽に話し合えるような場をつくること
3 性別によらず自分らしく生きるための教育を行うこと
4 すべての人の人権を尊重し、あらゆる暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないための取り組みを行うこと
5 家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画できるよう、本人の意識向上や、周囲の理解促進を図ること
6 組織のメンバーや管理職の男女比に偏りがないようにすること
7 その他 ( )
8 わからない
9 特に必要なことはない

問10 あなたは男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(特に必要だと思うものを2つまで○)

1 男性が家事などに参加することについて、男性自身の抵抗感をなくすこと
2 男性が家事などに参加することについて、女性の抵抗感をなくすこと
3 男性が家事などに参加することについて、社会的評価を高めること
4 性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育をすること
5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
6 家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7 労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること
8 男性の家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9 その他 ( )
10 わからない
11 特に必要なことはない

## V 性の多様性※について

※性の多様性：仙台市では、誰もが自ら望む生き方を選択できるようにするため、性の多様性の理解促進と性的マイノリティへの支援を拡充するとともに、不安や生きづらさを抱えている方が安心して暮らすことができる環境づくりに取り組んでいます

問 11 あなたは、次の言葉と意味について知っていますか。(ア)～(ク)それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味は知らない	全く知らない
(ア) LGBTQ	1	2	3
(イ) レズビアン	1	2	3
(ウ) ゲイ	1	2	3
(エ) バイセクシュアル	1	2	3
(オ) トランスジェンダー	1	2	3
(カ) クエスチョニング	1	2	3
(キ) カミングアウト	1	2	3
(ク) アウティング	1	2	3

問 12 あなたは、性の多様性の理解促進に向けて、仙台市はどのような取り組みをしていくことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うものを2つまで○)

1 理解促進が図られるよう一般向けのリーフレットの配布などを行う
2 多様な人材が働きやすい職場環境づくりに役立つよう企業向けリーフレットの配布などを行う
3 基礎知識などについて学ぶことができる市民向け講座などを開催する
4 性の多様性に関する意識などについて市民向けのアンケート調査を実施する
5 自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う
6 自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する
7 その他 ( )
8 わからない
9 特に取り組む必要はない

## VI セクシュアル・ハラスメント※について

※セクシュアル・ハラスメント：相手の意に反する性的な言動により、相手方の心身や生活環境を害するなどの不利益を与えること

問 13 あなたは職場や学校、日常生活でセクシュアル・ハラスメントだと思う行為を受けた経験はありますか。(○は1つ)

- 1 受けたことがある      2 受けたことがない      3 わからない

問 14 へ

問 17 へ

【問 13 で「1 受けたことがある」と回答した方にお聞きします。】

問 14 では、この5年間は、どうでしたか。(○は1つ)

- 1 受けたことがある      2 受けたことがない      3 わからない

問 15 へ

問 17 へ

【問 14 で「1 受けたことがある」と回答した方にお聞きします。】

問 15 あなたが受けた行為は、どのような行為ですか。(○はいくつでも)

- 1 「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた
- 2 酒席でお酌などを強要された
- 3 異性との交際、結婚や出産など、プライベートなことについて不必要に聞かれた
- 4 容姿や年齢について不必要に話題にされた
- 5 性的な話や冗談を聞かされた
- 6 性的な噂を立てられた
- 7 不必要に身体を触られた
- 8 性的な内容の手紙やメール、電話、SNS でのメッセージなどを受けた
- 9 交際または性的な関係を強要された
- 10 性別を理由として不本意な服装などを強制された
- 11 その他(具体的に )

問 16 あなたは、その行為を受けたとき、だれかに相談しましたか。(○は1つ)

- 1 相談した      2 相談しなかった

問 16-1 へ

問 16-2 へ

【問 16 で「1 相談した」と回答した方にお聞きします。】

問 16-1 どこ(だれ)に相談しましたか。(○はいくつでも)

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1 家族・友人                 | 6 宮城労働局雇用環境・均等室   |
| 2 学校の先生・養護教員・スクールカウンセラー | 7 エル・ソーラ仙台「女性相談」  |
| 3 学校の相談窓口               | 8 仙台市「男性のための電話相談」 |
| 4 職場の同僚・上司              | 9 みやぎ男女共同参画相談室    |
| 5 職場の相談窓口               | 10 その他( )         |

【問 16 で「2 相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問 16-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | どこ（だれ）に相談したらよいのか分からなかったから          |
| 2  | 恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから     |
| 3  | 相談してもむだだと思ったから                     |
| 4  | 相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから   |
| 5  | 自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから |
| 6  | そのことについて思い出したくなかったから               |
| 7  | 自分にも悪いところがあると思ったから                 |
| 8  | 相談するほどのことではないと思ったから                |
| 9  | セクシュアル・ハラスメントだとは思わなかったから           |
| 10 | その他（具体的に )                         |

**VII ドメスティック・バイオレンス（DV）※について**

※ドメスティック・バイオレンス（DV）：配偶者など親密な関係にある（あった）者から振るわれる暴力

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問 17 あなたは、次のようなことが配偶者や交際相手から行われた場合、暴力だと思いますか。（ア）～（ス）それぞれについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

	思う 暴力にあたると どんな場合でも	あ ると 思 う そ う で な い 場 合 も	思 わ な い 暴 力 に あ た る と は	わ か ら な い
（ア）物を投げつける	1	2	3	4
（イ）平手で打ったり、足で蹴ったりする	1	2	3	4
（ウ）殴るふりや蹴るふりをして威嚇（いかく）する	1	2	3	4
（エ）話しかけても長い間無視する	1	2	3	4
（オ）大声で怒鳴る	1	2	3	4
（カ）「だれのおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う	1	2	3	4
（キ）大切にしているものを捨てたり、壊したりする	1	2	3	4
（ク）外出や携帯電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3	4
（ケ）相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる	1	2	3	4
（コ）必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない	1	2	3	4
（サ）相手の意に反して性行為を強要する	1	2	3	4
（シ）相手の意に反してポルノ（アダルト）画像・動画などを見せる	1	2	3	4
（ス）避妊に協力しない	1	2	3	4

問 18 あなたは、次のような法律や、配偶者や交際相手からの暴力について相談できる窓口などを知っていますか。(ア)～(ス)それぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つ)

	知 っ て い る	名 称 も 支 援 内 容 も	名 称 は 知 っ て い る が 支 援 内 容 は 知 ら な い	全 く 知 ら な い
(ア) DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1		2	3
(イ) 仙台市「女性への暴力相談電話」	1		2	3
(ウ) エル・ソーラ仙台「女性相談」	1		2	3
(エ) 仙台市配偶者暴力相談支援センター	1		2	3
(オ) 仙台市「男性のための電話相談」	1		2	3
(カ) 区役所 (または総合支所)	1		2	3
(キ) 各警察署	1		2	3
(ク) 宮城県女性相談センター (宮城県配偶者暴力相談支援センター)	1		2	3
(ケ) みやぎ男女共同参画相談室 (一般相談・男性相談・LGBT 相談)	1		2	3
(コ) 仙台法務局「女性の人権ホットライン」	1		2	3
(サ) NPO法人ハーティ仙台	1		2	3
(シ) よりそいホットライン	1		2	3
(ス) 内閣府 DV相談+ (プラス)	1		2	3

【次の設問は配偶者などがいる (いた) 方にお聞きします。】

※配偶者などには婚姻届を出していない事実婚、同棲関係にある交際相手を含みます。(以下、同様)

**配偶者などのいない (いたことのない) 方は、問 22 へ**

問 19 あなたは配偶者などから次のような行為を受けたことがありますか。(ア)～(エ)

それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	全 く な い
(ア) 殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴行	1	2	3
(イ) 暴言、行動の監視、脅迫、無視などの心理的攻撃	1	2	3
(ウ) 生活費を渡さない、勝手に使うなどの経済的圧迫	1	2	3
(エ) 性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要	1	2	3

↓  
問 20 へ

【問 19 で (ア) ~ (エ) のうち 1 つでも「何度もあった」または「1、2 度あった」と回答した方にお聞きします。】

**それ以外の方は、問 22 へ**

問 20 では、この 5 年間は、どうでしたか。(ア) ~ (エ) それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ 1 つ)

	あつた この 5 年 間 に	な か つ た この 5 年 間 に は
(ア) 殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴行	1	2
(イ) 暴言、行動の監視、脅迫、無視などの心理的攻撃	1	2
(ウ) 生活費を渡さない、勝手に使うなどの経済的圧迫	1	2
(エ) 性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要	1	2

問 21 へ

【問 20 で (ア) ~ (エ) のうち 1 つでも「この 5 年間にあった」と回答した方にお聞きします。】

**それ以外の方は、問 22 へ**

問 21 あなたは、問 20 における行為を受けた後、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

- 1 家族や親戚に相談した
- 2 友人・知人・職場の同僚や上司に相談した
- 3 相談窓口相談した →問 21-1 へ
- 4 どこ(だれ)にも相談しなかった →問 21-2 へ

※ 3、4 いずれにも ○ をしていない →問 22 へ

【問 21 で「3 相談窓口相談した」と回答した方にお聞きします。】

問 21-1 どこに相談しましたか。(○はいくつでも)

- 1 仙台市「女性への暴力相談電話」
- 2 エル・ソーラ仙台「女性相談」
- 3 仙台市配偶者暴力相談支援センター
- 4 仙台市「男性のための電話相談」
- 5 区役所(または総合支所)
- 6 各警察署
- 7 宮城県女性相談センター(宮城県配偶者暴力相談支援センター)
- 8 みやぎ男女共同参画相談室
- 9 仙台法務局「女性の人権ホットライン」
- 10 NPO 法人ハーティ仙台
- 11 よりそいホットライン
- 12 内閣府 DV 相談+ (プラス)
- 13 その他(具体的な相談機関名)

【問 21 で「4 どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問 21-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- 1 どこ（だれ）に相談したらよいか分からなかったから
- 2 恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから
- 3 相談してもむだだと思ったから
- 4 相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから
- 5 自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから
- 6 そのことについて思い出したくなかったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 DV だと思わなかったから
- 11 その他（具体的に \_\_\_\_\_）

## VIII 性暴力について

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問 22 あなたは「性的同意」という言葉をどの程度知っていますか。（○は1つ）

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 全く知らない

性的同意：すべての性的な行為に対して、お互いその行為を積極的にしたいと望んでいるかを確認すること

問 23 あなたはこれまでに無理やりに性交など（性交、肛門性交または口腔性交。相手の性別は問わない）をされたことがありますか。（○は1つ）

※子どもの頃も含めて、これまでの経験についてお聞きします。

- 1 1回あった
- 2 2回以上あった
- 3 全くない →問 26 へ

問 24 へ

→【問 23 で「1 1回あった」または「2 2回以上あった」と回答した方にお聞きします。】

問 24 その出来事があったとき、あなたは加害者と面識がありましたか。（○はいくつでも）

- 1 よく知っている人だった
  - 2 顔見知り程度の人だった
  - 3 まったく知らない人だった
- 1、2に1つでも○ →問 24-1 へ  
3のみに○ →問 25 へ

【問 24 で「1 よく知っている人だった」「2 顔見知り程度の人だった」と回答した方にお聞きします。】

問 24-1 加害者はあなたとどのような関係でしたか。(○はいくつでも)

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 配偶者、元配偶者（事実婚を含む） | 5 交際相手、元交際相手         |
| 2 親（養親、継親を含む）      | 6 職場、アルバイトの関係者       |
| 3 兄弟姉妹（義理の兄弟姉妹も含む） | 7 通っていた(いる)学校・大学の関係者 |
| 4 1～3以外の親戚         | 8 その他（具体的に )         |

→問 25 へ

【問 23 で「1 1回あった」または「2 2回以上あった」と回答した方にお聞きします。】

問 25 あなたは、その出来事があったとき、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。(○はいくつでも)

- |                              |
|------------------------------|
| 1 家族や親戚に相談した                 |
| 2 友人・知人・職場の同僚や上司に相談した        |
| 3 学校の先生・養護教員・スクールカウンセラーに相談した |
| 4 相談窓口相談した → 問 25-1 へ        |
| 5 どこ（だれ）にも相談しなかった → 問 25-2 へ |

※4、5いずれにも○をしていない →問 26 へ

→【問 25 で「4 相談窓口相談した」と回答した方にお聞きします。】

問 25-1 どこに相談しましたか。(○はいくつでも)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1 仙台市「女性への暴力相談電話」               |
| 2 エル・ソーラ仙台「女性相談」                |
| 3 仙台市配偶者暴力相談支援センター              |
| 4 仙台市「男性のための電話相談」               |
| 5 区役所（または総合支所）                  |
| 6 各警察署                          |
| 7 宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター） |
| 8 みやぎ男女共同参画相談室                  |
| 9 性暴力被害相談支援センター宮城「けやきホットライン」    |
| 10 警察の性犯罪被害相談電話（#8103「ハートさん」）   |
| 11 仙台法務局「女性の人権ホットライン」           |
| 12 NPO法人ハーティ仙台                  |
| 13 よりそいホットライン                   |
| 14 内閣府 Cure time（キュアタイム）        |
| 15 その他（具体的な相談機関名 )              |

【問 25 で「5 どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。】

問 25-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（〇はいくつでも）

- 1 どこ（だれ）に相談したらよいか分からなかったから
- 2 恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから
- 3 相談してもむだだと思ったから
- 4 相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから
- 5 自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから
- 6 そのことについて思い出したくなかったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 その他（具体的に )

## Ⅸ 仙台市の今後の取り組みについて

《ここからの設問は全員がお答えください。》

問 26 男女共同参画社会<sup>※1</sup>を実現するために、仙台市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。（特に必要だと思うものを3つまで〇）

- 1 企業や地域団体、市民団体などにおける意思決定の場への女性の登用に向けて支援する
- 2 男女共同参画に関わる様々な主体との連携により広報を強化し、学習機会の充実を図る
- 3 子どもの頃から人権の尊重に向けたジェンダー平等意識を養うための教育を充実させる
- 4 男性が主体的に男女共同参画を推進していくための取り組みを行う
- 5 保育サービスの拡充と多様な子育て支援を行う
- 6 一人ひとりのニーズに合わせた多様な働き方への支援を行う
- 7 DV や性暴力の根絶と被害者支援に向けた取り組みを推進する
- 8 経済不安や生きづらさなど様々な困難を抱える若年女性<sup>※2</sup>への支援を行う
- 9 地域で活躍できる女性の人材育成及びネットワーク構築を進める
- 10 男女共同参画の視点を反映した防災の取り組みを進めるとともに、国内外に向けて発信する
- 11 就業・生活の安定を通じた自立に向けた取り組みを実施する
- 12 性の多様性に関する理解促進や性的マイノリティへの支援を行う
- 13 その他 ( )
- 14 わからない
- 15 特にない

※1 男女共同参画社会：男女が、その個性と人権を尊重し合うとともに、性別にかかわらず、多様な生き方を選択し、その能力を十分発揮できる社会

※2 18歳～39歳の女性を対象に実施した「仙台市 女性の暮らしと困難に関する実態調査」（令和4年度）では、回答者の半数以上が現在何らかの困りごとや生きづらさを抱えていることが明らかになっています

問 27 男女共同参画社会についてのご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

--

最後に、あなた自身のことについてお聞きします。

F1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

※現在の社会生活上の性別(自分が主にどちらの性として日常生活を送っているか)をお答えください。

※統計のために必要な情報です。選択することに違和感のある方は、回答は不要です。

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

F2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

1 18～19 歳	4 30～34 歳	7 45～49 歳	10 60～64 歳
2 20～24 歳	5 35～39 歳	8 50～54 歳	11 65～69 歳
3 25～29 歳	6 40～44 歳	9 55～59 歳	12 70 歳以上

F3 現在、あなたと一緒に住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。

(数字をお書きください)

あなたを含めて  人 ※一人暮らしの方は「1」と記入してください。

F4 あなたは結婚(事実婚を含む)をしていますか。(○は1つ)

1 結婚している(配偶者がいる)	3 未婚
2 結婚したが、離婚または死別した	

F5 あなたとあなたの配偶者の現在の働き方は、次のうちどれですか。配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。(○はそれぞれ1つ) ※配偶者には、事実婚のパートナーも含まれます。

<ご自身の働き方(○は1つ)>	<配偶者の働き方(○は1つ)>
1 会社・団体などの役員	1 会社・団体などの役員
2 正規の社員・職員	2 正規の社員・職員
3 派遣・契約社員	3 派遣・契約社員
4 パート・アルバイトなど非正規社員	4 パート・アルバイトなど非正規社員
5 自営業・家族従業	5 自営業・家族従業
6 家事専業	6 家事専業
7 学生	7 学生
8 無職	8 無職
9 その他( )	9 その他( )

F6 昨年1年間、あなたのお宅（世帯）では、全体でどれくらいの収入（税込）がありましたか。生活費を共にしている方々の分も合わせ、すべての収入（年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどを含む）についてお答えください。（○は1つ）

※一人暮らしの方の場合は、実家の収入は含みません。

1 世帯の収入はなかった	6 400万以上500万円未満	11 900万以上1000万円未満
2 100万円未満	7 500万以上600万円未満	12 1000万以上1500万円未満
3 100万以上200万円未満	8 600万以上700万円未満	13 1500万以上2000万円未満
4 200万以上300万円未満	9 700万以上800万円未満	14 2000万円以上
5 300万以上400万円未満	10 800万以上900万円未満	15 わからない

F7 昨年1年間にあなた自身がお仕事で得た収入（税込）はどれに近いですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めてお答えください。（○は1つ）

※臨時収入、年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送り、奨学金などは含みません。

※世帯収入ではなく、あなた自身の年収をお答えください。

※一人暮らしの方で、仕事で得た収入のみで生活している場合は、F6と同じ額をお答えください。

1 仕事で得た収入はなかった	5 150万以上200万円未満	9 800万以上1000万円未満
2 50万円未満	6 200万以上300万円未満	10 1000万円以上
3 50万以上100万円未満	7 300万以上500万円未満	11 わからない
4 100万以上150万円未満	8 500万以上800万円未満	

F8 あなた自身が小学校高学年だった頃、ご両親は就労していましたか。父親・母親それぞれについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

<父親の就労状況（○は1つ）>	<母親の就労状況（○は1つ）>
1 就労していた（フルタイム）	1 就労していた（フルタイム）
2 就労していた（パートタイム）	2 就労していた（パートタイム）
3 就労していなかった	3 就労していなかった
4 父親は、いなかった	4 母親は、いなかった
5 その他（ ）	5 その他（ ）
6 わからない	6 わからない

F9 あなたの最終学歴をお答えください。在学中の方は卒業見込みとしてお答えください。（○は1つ）

1 小・中学校	5 大学
2 高等学校	6 大学院
3 専門・専修学校	7 その他（ ）
4 短期大学・高等専門学校	

F10 あなたには、お子さんはいらっしゃいますか。（○は1つ）

1 <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">子どもがいる</span>	2 子どもがいない →F11へ
---	-----------------

↓  
F10-1へ

【F10で「1 子どもがいる」と回答した方にお聞きします。】

F10-1 一番下の子ども（ひとりっ子も含む）の年代をお答えください。（○は1つ）

1 0歳～2歳	3 小学生	5 高校生	7 18歳以上
2 3歳～未就学児	4 中学生	6 通学していない18歳未満	

F10-2 一番下の子ども（ひとりっ子も含む）の性別をお答えください。（○は1つ）

※統計のために必要な情報です。選択することに違和感のある方は、回答は不要です。

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

【F10-1で1～5と回答した（高校生以下の子どもがいる）方にお聞きします。】

F10-3 あなたは、一番下の子ども（ひとりっ子も含む）にどの程度までの教育を受けさせたいとお考えですか。（○は1つ）

1 中学校・支援学校中学部	4 短期大学・高等専門学校	7 その他
2 高等学校・支援学校高等部	5 大学	( )
3 専門・専修学校	6 大学院	8 わからない

《ここからの設問は全員がお答えください。》

F11 次のようなことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。

(ア)～(エ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

	そう思う	そう思う いえば どちらかと	そう思わない いえば どちらかと	そう思わない
(ア)だいたいにおいて、自分に満足している	1	2	3	4
(イ)困った時は人に助けを求めてもいい	1	2	3	4
(ウ)自分のことは自分が決めていいと思う	1	2	3	4
(エ)なんとなく、生きづらさを感じる	1	2	3	4

F12 過去1か月の間、次のようなことがどれくらいの頻度でありましたか。

(ア)～(カ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
(ア)神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
(イ)絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
(ウ)そわそわしたり、落ち着きがなく感じた	1	2	3	4	5
(エ)気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
(オ)何をするのも骨折りだと感じた	1	2	3	4	5
(カ)自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて9月20日（金）までにご投函ください。

## 2 集計表（男女別）

### F1 性別

調査数	男性	女性	回答しない	無回答
949	372	547	10	20
100%	39.2%	57.6%	1.1%	2.1%

### F2 年齢

	男性		女性		全体	
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
18～19歳	2	0.5%	4	0.7%	6	0.6%
20～24歳	8	2.2%	13	2.4%	21	2.2%
25～29歳	11	3.0%	28	5.1%	40	4.2%
30～34歳	20	5.4%	26	4.8%	47	5.0%
35～39歳	19	5.1%	37	6.8%	56	5.9%
40～44歳	24	6.5%	55	10.1%	82	8.6%
45～49歳	31	8.3%	44	8.0%	76	8.0%
50～54歳	46	12.4%	48	8.8%	95	10.0%
55～59歳	39	10.5%	57	10.4%	96	10.1%
60～64歳	38	10.2%	53	9.7%	93	9.8%
65～69歳	41	11.0%	58	10.6%	102	10.7%
70歳以上	93	25.0%	123	22.5%	220	23.2%
無回答	0	0.0%	1	0.2%	15	1.6%

### ※年代

	男性		女性		全体	
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
10代	2	0.5%	4	0.7%	6	0.6%
20代	19	5.1%	41	7.5%	61	6.4%
30代	39	10.5%	63	11.5%	103	10.9%
40代	55	14.8%	99	18.1%	158	16.6%
50代	85	22.8%	105	19.2%	191	20.1%
60代	79	21.2%	111	20.3%	195	20.5%
70代	93	25.0%	123	22.5%	220	23.2%
無回答	0	0.0%	1	0.2%	15	1.6%

### F3 同居人数

	男性		女性		全体	
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
1人	67	18.0%	89	16.3%	157	16.5%
2人	146	39.2%	205	37.5%	361	38.0%
3人	76	20.4%	106	19.4%	186	19.6%
4人	53	14.2%	84	15.4%	138	14.5%
5人	15	4.0%	40	7.3%	56	5.9%
6人	9	2.4%	14	2.6%	23	2.4%
7人	4	1.1%	5	0.9%	9	0.9%
8人以上	1	0.3%	1	0.2%	2	0.2%
無回答	1	0.3%	3	0.5%	17	1.8%

### F4 配偶関係

	男性		女性		全体	
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
既婚（有配偶）	278	74.7%	379	69.3%	671	70.7%
既婚（離別または死別）	24	6.5%	81	14.8%	107	11.3%
未婚	69	18.5%	86	15.7%	156	16.4%
無回答	1	0.3%	1	0.2%	15	1.6%

F5 働き方（「配偶者の働き方」は配偶者がいる人のみ）

【男性】

	男性			
	自分の働き方		配偶者の働き方	
調査数	372	100%	278	100%
会社・団体などの役員	31	8.3%	8	2.9%
正規の社員・職員	164	44.1%	50	18.0%
派遣・契約社員	26	7.0%	14	5.0%
パート・アルバイトなど非正規社員	33	8.9%	69	24.8%
自営業・家族従業	24	6.5%	9	3.2%
家事専業	4	1.1%	61	21.9%
学生	3	0.8%	1	0.4%
無職	73	19.6%	64	23.0%
その他	5	1.3%	0	0.0%
無回答	9	2.4%	2	0.7%

【女性】

	女性			
	自分の働き方		配偶者の働き方	
調査数	547	100%	379	100%
会社・団体などの役員	17	3.1%	35	9.2%
正規の社員・職員	134	24.5%	167	44.1%
派遣・契約社員	26	4.8%	17	4.5%
パート・アルバイトなど非正規社員	114	20.8%	26	6.9%
自営業・家族従業	25	4.6%	26	6.9%
家事専業	111	20.3%	8	2.1%
学生	14	2.6%	0	0.0%
無職	86	15.7%	85	22.4%
その他	4	0.7%	5	1.3%
無回答	16	2.9%	10	2.6%

【全体】

	全体			
	自分の働き方		配偶者の働き方	
調査数	949	100%	671	100%
会社・団体などの役員	50	5.3%	45	6.7%
正規の社員・職員	302	31.8%	220	32.8%
派遣・契約社員	53	5.6%	33	4.9%
パート・アルバイトなど非正規社員	150	15.8%	95	14.2%
自営業・家族従業	51	5.4%	35	5.2%
家事専業	115	12.1%	73	10.9%
学生	17	1.8%	1	0.1%
無職	162	17.1%	151	22.5%
その他	9	0.9%	5	0.7%
無回答	40	4.2%	13	1.9%

F6 世帯年収

	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
世帯の収入はなかった	8	2.2%	0	0.0%	8	0.8%
100万円未満	11	3.0%	9	1.6%	20	2.1%
100万以上200万円未満	17	4.6%	40	7.3%	59	6.2%
200万以上300万円未満	37	9.9%	62	11.3%	102	10.7%
300万以上400万円未満	41	11.0%	70	12.8%	113	11.9%
400万以上500万円未満	37	9.9%	56	10.2%	95	10.0%
500万以上600万円未満	44	11.8%	48	8.8%	94	9.9%
600万以上700万円未満	29	7.8%	42	7.7%	72	7.6%
700万以上800万円未満	22	5.9%	33	6.0%	56	5.9%
800万以上900万円未満	18	4.8%	32	5.9%	51	5.4%
900万以上1000万円未満	27	7.3%	34	6.2%	61	6.4%
1000万以上1500万円未満	44	11.8%	40	7.3%	84	8.9%
1500万以上2000万円未満	8	2.2%	11	2.0%	20	2.1%
2000万円以上	4	1.1%	7	1.3%	11	1.2%
わからない	20	5.4%	44	8.0%	66	7.0%
無回答	5	1.3%	19	3.5%	37	3.9%

### F7 本人の年収

	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
仕事で得た収入はなかった	62	16.7%	165	30.2%	229	24.1%
50万円未満	11	3.0%	40	7.3%	54	5.7%
50万以上100万円未満	21	5.6%	51	9.3%	73	7.7%
100万以上150万円未満	10	2.7%	41	7.5%	53	5.6%
150万以上200万円未満	12	3.2%	47	8.6%	61	6.4%
200万以上300万円未満	35	9.4%	53	9.7%	90	9.5%
300万以上500万円未満	64	17.2%	80	14.6%	145	15.3%
500万以上800万円未満	88	23.7%	38	6.9%	126	13.3%
800万以上1000万円未満	28	7.5%	4	0.7%	33	3.5%
1000万円以上	25	6.7%	2	0.4%	28	3.0%
わからない	9	2.4%	7	1.3%	18	1.9%
無回答	7	1.9%	19	3.5%	39	4.1%

### F8 両親の就労状況

#### 【男性】

	男性			
	父親の就労状況		母親の就労状況	
	人数	割合	人数	割合
調査数	372	100%	372	100%
就労していた（フルタイム）	338	90.9%	109	29.3%
就労していた（パートタイム）	3	0.8%	102	27.4%
就労していなかった	4	1.1%	139	37.4%
父親／母親は、いなかった	15	4.0%	5	1.3%
その他	12	3.2%	13	3.5%
わからない	0	0.0%	1	0.3%
無回答	0	0.0%	3	0.8%

#### 【女性】

	女性			
	父親の就労状況		母親の就労状況	
	人数	割合	人数	割合
調査数	547	100%	547	100%
就労していた（フルタイム）	473	86.5%	156	28.5%
就労していた（パートタイム）	8	1.5%	160	29.3%
就労していなかった	4	0.7%	173	31.6%
父親／母親は、いなかった	20	3.7%	5	0.9%
その他	32	5.9%	37	6.8%
わからない	5	0.9%	2	0.4%
無回答	5	0.9%	14	2.6%

#### 【全体】

	全体			
	父親の就労状況		母親の就労状況	
	人数	割合	人数	割合
調査数	949	100%	949	100%
就労していた（フルタイム）	826	87.0%	269	28.3%
就労していた（パートタイム）	11	1.2%	266	28.0%
就労していなかった	10	1.1%	319	33.6%
父親／母親は、いなかった	36	3.8%	10	1.1%
その他	44	4.6%	50	5.3%
わからない	5	0.5%	3	0.3%
無回答	17	1.8%	32	3.4%

### F9 最終学歴

	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
小・中学校	9	2.4%	9	1.6%	19	2.0%
高等学校	114	30.6%	198	36.2%	317	33.4%
専門・専修学校	39	10.5%	86	15.7%	129	13.6%
短期大学・高等専門学校	16	4.3%	83	15.2%	100	10.5%
大学	167	44.9%	151	27.6%	324	34.1%
大学院	26	7.0%	15	2.7%	41	4.3%
その他	1	0.3%	1	0.2%	3	0.3%
無回答	0	0.0%	4	0.7%	16	1.7%

### F10 子どもの有無

	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
子どもがいる	249	66.9%	391	71.5%	655	69.0%
子どもがいない	117	31.5%	141	25.8%	264	27.8%
無回答	6	1.6%	15	2.7%	30	3.2%

**F10-1 末子の年代（子どもがいる人のみ）**

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
調査数	249	100%	391	100%	655	100%
0歳～2歳	8	3.2%	30	7.7%	39	6.0%
3歳～未就学児	17	6.8%	26	6.6%	44	6.7%
小学生	21	8.4%	38	9.7%	60	9.2%
中学生	15	6.0%	15	3.8%	31	4.7%
高校生	13	5.2%	20	5.1%	33	5.0%
通学していない18歳未満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
18歳以上	166	66.7%	250	63.9%	424	64.7%
無回答	9	3.6%	12	3.1%	23	3.5%

**F10-2 末子の性別（子どもがいる人のみ）**

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
調査数	249	100%	391	100%	655	100%
末子男性	130	52.2%	178	45.5%	310	47.3%
末子女性	109	43.8%	192	49.1%	308	47.0%
回答しない	2	0.8%	5	1.3%	9	1.4%
無回答	8	3.2%	16	4.1%	28	4.3%

**F10-3 自分の子どもに受けさせたい教育程度（末子が高校生以下のみ）**

**【男性】**

	末子が男子		末子が女子		合計	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
調査数	43	100%	30	100%	73	100%
中学校・支援学校中学部	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
高等学校・支援学校高等部	1	2.3%	2	6.7%	3	4.1%
専門・専修学校	2	4.7%	2	6.7%	4	5.5%
短期大学・高等専門学校	0	0.0%	2	6.7%	2	2.7%
大学	33	76.7%	20	66.7%	53	72.6%
大学院	4	9.3%	3	10.0%	7	9.6%
その他	1	2.3%	1	3.3%	2	2.7%
わからない	1	2.3%	0	0.0%	1	1.4%
無回答	1	2.3%	0	0.0%	1	1.4%

※F10-2末子の性別「回答しない」「無回答」（1件）を除く

**【女性】**

	末子が男子		末子が女子		合計	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
調査数	69	100%	57	100%	126	100%
中学校・支援学校中学部	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
高等学校・支援学校高等部	3	4.3%	5	8.8%	8	6.3%
専門・専修学校	6	8.7%	3	5.3%	9	7.1%
短期大学・高等専門学校	0	0.0%	3	5.3%	3	2.4%
大学	47	68.1%	39	68.4%	86	68.3%
大学院	5	7.2%	2	3.5%	7	5.6%
わからない	2	2.9%	1	1.8%	3	2.4%
その他	4	5.8%	4	7.0%	8	6.3%
無回答	2	2.9%	0	0.0%	2	1.6%

※F10-2末子の性別「回答しない」「無回答」（3件）を除く

**【全体】**

	末子が男子		末子が女子		合計	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
調査数	113	100%	90	100%	203	100%
中学校・支援学校中学部	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
高等学校・支援学校高等部	4	3.5%	7	7.8%	11	5.4%
専門・専修学校	8	7.1%	5	5.6%	13	6.4%
短期大学・高等専門学校	0	0.0%	5	5.6%	5	2.5%
大学	81	71.7%	61	67.8%	142	70.0%
大学院	9	8.0%	5	5.6%	14	6.9%
わからない	3	2.7%	2	2.2%	5	2.5%
その他	5	4.4%	5	5.6%	10	4.9%
無回答	3	2.7%	0	0.0%	3	1.5%

※F10-2末子の性別「回答しない」「無回答」（4件）を除く

F11 自分自身にどれくらいあてはまるか

		調査数	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
だいたいにおいて、 自分に満足している	男性	372	80	186	70	34	2
		100%	21.5%	50.0%	18.8%	9.1%	0.5%
	女性	547	138	271	101	32	5
		100%	25.2%	49.5%	18.5%	5.9%	0.9%
全体	949	222	464	178	71	14	
	100%	23.4%	48.9%	18.8%	7.5%	1.5%	
困った時は人に助けを求 めてもいい	男性	372	162	172	28	8	2
		100%	43.5%	46.2%	7.5%	2.2%	0.5%
	女性	547	285	231	23	5	3
		100%	52.1%	42.2%	4.2%	0.9%	0.5%
全体	949	461	411	53	13	11	
	100%	48.6%	43.3%	5.6%	1.4%	1.2%	
自分のことは自分が 決めていいと思う	男性	372	190	168	7	5	2
		100%	51.1%	45.2%	1.9%	1.3%	0.5%
	女性	547	338	190	13	3	3
		100%	61.8%	34.7%	2.4%	0.5%	0.5%
全体	949	537	372	21	8	11	
	100%	56.6%	39.2%	2.2%	0.8%	1.2%	
なんとなく、 生きづらさを感じる	男性	372	48	124	115	84	1
		100%	12.9%	33.3%	30.9%	22.6%	0.3%
	女性	547	84	189	149	121	4
		100%	15.4%	34.6%	27.2%	22.1%	0.7%
全体	949	140	317	273	208	11	
	100%	14.8%	33.4%	28.8%	21.9%	1.2%	

F12 過去1か月の間、どれくらいの頻度であったか

		調査数	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない	無回答
神経過敏に感じた	男性	372	10	21	89	70	176	6
		100%	2.7%	5.6%	23.9%	18.8%	47.3%	1.6%
	女性	547	24	38	152	138	192	3
		100%	4.4%	6.9%	27.8%	25.2%	35.1%	0.5%
全体	949	37	59	250	210	375	18	
	100%	3.9%	6.2%	26.3%	22.1%	39.5%	1.9%	
絶望的だと感じた	男性	372	8	14	39	78	229	4
		100%	2.2%	3.8%	10.5%	21.0%	61.6%	1.1%
	女性	547	11	19	57	102	355	3
		100%	2.0%	3.5%	10.4%	18.6%	64.9%	0.5%
全体	949	21	35	99	186	593	15	
	100%	2.2%	3.7%	10.4%	19.6%	62.5%	1.6%	
そわそわしたり、 落ち着きがなくなった	男性	372	6	14	61	93	194	4
		100%	1.6%	3.8%	16.4%	25.0%	52.2%	1.1%
	女性	547	14	20	85	145	279	4
		100%	2.6%	3.7%	15.5%	26.5%	51.0%	0.7%
全体	949	20	35	153	246	479	16	
	100%	2.1%	3.7%	16.1%	25.9%	50.5%	1.7%	
気分が沈み込んで、 何が起ころうとも気が晴れ ないと感じた	男性	372	8	18	69	114	159	4
		100%	2.2%	4.8%	18.5%	30.6%	42.7%	1.1%
	女性	547	14	19	111	183	218	2
		100%	2.6%	3.5%	20.3%	33.5%	39.9%	0.4%
全体	949	23	42	185	302	384	13	
	100%	2.4%	4.4%	19.5%	31.8%	40.5%	1.4%	
何をするのも骨折りだと 感じた	男性	372	12	17	57	106	175	5
		100%	3.2%	4.6%	15.3%	28.5%	47.0%	1.3%
	女性	547	17	20	89	182	235	4
		100%	3.1%	3.7%	16.3%	33.3%	43.0%	0.7%
全体	949	30	40	151	297	414	17	
	100%	3.2%	4.2%	15.9%	31.3%	43.6%	1.8%	
自分は価値のない人間だ と感じた	男性	372	12	12	43	67	235	3
		100%	3.2%	3.2%	11.6%	18.0%	63.2%	0.8%
	女性	547	11	27	51	108	346	4
		100%	2.0%	4.9%	9.3%	19.7%	63.3%	0.7%
全体	949	24	41	97	181	592	14	
	100%	2.5%	4.3%	10.2%	19.1%	62.4%	1.5%	

※F12 K6の得点分布

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
0～4点	213	58.8%	299	55.5%	519	56.3%
5～8点	70	19.3%	134	24.9%	209	22.7%
9～12点	47	13.0%	61	11.3%	111	12.0%
13～24点	32	8.8%	45	8.3%	83	9.0%

問1 男女の地位の平等感

		調査数	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
家庭生活では	男性	372	6	136	158	38	11	22	1
		100%	1.6%	36.6%	42.5%	10.2%	3.0%	5.9%	0.3%
	女性	547	66	259	152	22	5	35	8
		100%	12.1%	47.3%	27.8%	4.0%	0.9%	6.4%	1.5%
全体	949	75	402	319	63	20	60	10	
	100%	7.9%	42.4%	33.6%	6.6%	2.1%	6.3%	1.1%	
職場では	男性	372	27	146	119	32	14	32	2
		100%	7.3%	39.2%	32.0%	8.6%	3.8%	8.6%	0.5%
	女性	547	97	234	113	19	5	67	12
		100%	17.7%	42.8%	20.7%	3.5%	0.9%	12.2%	2.2%
全体	949	127	389	239	55	21	102	16	
	100%	13.4%	41.0%	25.2%	5.8%	2.2%	10.7%	1.7%	
学校教育の場では	男性	372	3	41	205	15	3	98	7
		100%	0.8%	11.0%	55.1%	4.0%	0.8%	26.3%	1.9%
	女性	547	14	100	263	6	0	151	13
		100%	2.6%	18.3%	48.1%	1.1%	0.0%	27.6%	2.4%
全体	949	17	143	478	23	4	262	22	
	100%	1.8%	15.1%	50.4%	2.4%	0.4%	27.6%	2.3%	
町内会など地域活動の場では	男性	372	23	84	160	21	4	77	3
		100%	6.2%	22.6%	43.0%	5.6%	1.1%	20.7%	0.8%
	女性	547	66	182	151	17	1	122	8
		100%	12.1%	33.3%	27.6%	3.1%	0.2%	22.3%	1.5%
全体	949	89	273	321	41	6	207	12	
	100%	9.4%	28.8%	33.8%	4.3%	0.6%	21.8%	1.3%	
政治の場では	男性	372	128	162	42	7	1	29	3
		100%	34.4%	43.5%	11.3%	1.9%	0.3%	7.8%	0.8%
	女性	547	273	209	16	0	1	37	11
		100%	49.9%	38.2%	2.9%	0.0%	0.2%	6.8%	2.0%
全体	949	412	382	59	8	2	70	16	
	100%	43.4%	40.3%	6.2%	0.8%	0.2%	7.4%	1.7%	
法律や制度上では	男性	372	26	115	157	33	8	30	3
		100%	7.0%	30.9%	42.2%	8.9%	2.2%	8.1%	0.8%
	女性	547	97	221	107	22	2	85	13
		100%	17.7%	40.4%	19.6%	4.0%	0.4%	15.5%	2.4%
全体	949	129	338	271	57	13	122	19	
	100%	13.6%	35.6%	28.6%	6.0%	1.4%	12.9%	2.0%	
社会通念・慣習などでは	男性	372	33	233	61	24	6	14	1
		100%	8.9%	62.6%	16.4%	6.5%	1.6%	3.8%	0.3%
	女性	547	147	301	40	13	0	38	8
		100%	26.9%	55.0%	7.3%	2.4%	0.0%	6.9%	1.5%
全体	949	186	543	104	38	8	57	13	
	100%	19.6%	57.2%	11.0%	4.0%	0.8%	6.0%	1.4%	
社会全体では	男性	372	21	233	64	26	13	15	0
		100%	5.6%	62.6%	17.2%	7.0%	3.5%	4.0%	0.0%
	女性	547	109	335	45	14	0	36	8
		100%	19.9%	61.2%	8.2%	2.6%	0.0%	6.6%	1.5%
全体	949	136	576	112	44	14	57	10	
	100%	14.3%	60.7%	11.8%	4.6%	1.5%	6.0%	1.1%	

※問1 男性優遇と女性優遇

(男性優遇小計=「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)  
女性優遇小計=「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)

		調査数	男性優遇 小計	平等	女性優遇 小計	わから ない	無回答
家庭生活では	男性	372	142	158	49	22	1
		100%	38.2%	42.5%	13.2%	5.9%	0.3%
	女性	547	325	152	27	35	8
		100%	59.4%	27.8%	4.9%	6.4%	1.5%
全体	949	477	319	83	60	10	
	100%	50.3%	33.6%	8.7%	6.3%	1.1%	
職場では	男性	372	173	119	46	32	2
		100%	46.5%	32.0%	12.4%	8.6%	0.5%
	女性	547	331	113	24	67	12
		100%	60.5%	20.7%	4.4%	12.2%	2.2%
全体	949	516	239	76	102	16	
	100%	54.4%	25.2%	8.0%	10.7%	1.7%	
学校教育の場では	男性	372	44	205	18	98	7
		100%	11.8%	55.1%	4.8%	26.3%	1.9%
	女性	547	114	263	6	151	13
		100%	20.8%	48.1%	1.1%	27.6%	2.4%
全体	949	160	478	27	262	22	
	100%	16.9%	50.4%	2.8%	27.6%	2.3%	
町内会など地域活動 の場では	男性	372	107	160	25	77	3
		100%	28.8%	43.0%	6.7%	20.7%	0.8%
	女性	547	248	151	18	122	8
		100%	45.3%	27.6%	3.3%	22.3%	1.5%
全体	949	362	321	47	207	12	
	100%	38.1%	33.8%	5.0%	21.8%	1.3%	
政治の場では	男性	372	290	42	8	29	3
		100%	78.0%	11.3%	2.2%	7.8%	0.8%
	女性	547	482	16	1	37	11
		100%	88.1%	2.9%	0.2%	6.8%	2.0%
全体	949	794	59	10	70	16	
	100%	83.7%	6.2%	1.1%	7.4%	1.7%	
法律や制度上では	男性	372	141	157	41	30	3
		100%	37.9%	42.2%	11.0%	8.1%	0.8%
	女性	547	318	107	24	85	13
		100%	58.1%	19.6%	4.4%	15.5%	2.4%
全体	949	467	271	70	122	19	
	100%	49.2%	28.6%	7.4%	12.9%	2.0%	
社会通念・慣習などでは	男性	372	266	61	30	14	1
		100%	71.5%	16.4%	8.1%	3.8%	0.3%
	女性	547	448	40	13	38	8
		100%	81.9%	7.3%	2.4%	6.9%	1.5%
全体	949	729	104	46	57	13	
	100%	76.8%	11.0%	4.8%	6.0%	1.4%	
社会全体では	男性	372	254	64	39	15	0
		100%	68.3%	17.2%	10.5%	4.0%	0.0%
	女性	547	444	45	14	36	8
		100%	81.2%	8.2%	2.6%	6.6%	1.5%
全体	949	712	112	58	57	10	
	100%	75.0%	11.8%	6.1%	6.0%	1.1%	

問2 性別役割分担意識

	調査数	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わから ない	無回答
男性	372	11	103	111	107	34	6
	100%	3.0%	27.7%	29.8%	28.8%	9.1%	1.6%
女性	547	6	109	207	177	45	3
	100%	1.1%	19.9%	37.8%	32.4%	8.2%	0.5%
全体	949	20	220	328	289	83	9
	100%	2.1%	23.2%	34.6%	30.5%	8.7%	0.9%

※問2 賛成派と反対派

(賛成小計 = 「賛成」 + 「どちらかといえば賛成」、反対小計 = 「反対」 + 「どちらかといえば反対」)

	調査数	賛成小計	反対小計	わからない	無回答
男性	372	114	218	34	6
	100%	30.6%	58.6%	9.1%	1.6%
女性	547	115	384	45	3
	100%	21.0%	70.2%	8.2%	0.5%
全体	949	240	617	83	9
	100%	25.3%	65.0%	8.7%	0.9%

問2-1 賛成理由 (問2で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人のみ)

	男性		女性		全体	
調査数	114	100%	115	100%	240	100%
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	5	4.4%	1	0.9%	7	2.9%
自分の両親も役割分担していたから	4	3.5%	4	3.5%	8	3.3%
夫が外で働いた方が、 多くの収入を得られるから	23	20.2%	16	13.9%	42	17.5%
妻が家庭を守った方が、 子どもの成長などにとって良いと思うから	35	30.7%	31	27.0%	68	28.3%
家事・育児・介護と両立しながら、 妻が働き続けることは大変だと思うから	34	29.8%	56	48.7%	93	38.8%
その他	11	9.6%	7	6.1%	19	7.9%
無回答	2	1.8%	0	0.0%	3	1.3%

問2-2 反対理由 (問2で「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人のみ)

	男性		女性		全体	
調査数	218	100%	384	100%	617	100%
男女平等に反すると思うから	22	10.1%	35	9.1%	60	9.7%
自分の両親も外で働いていたから	5	2.3%	10	2.6%	15	2.4%
夫も妻も働いた方が、 多くの収入が得られると思うから	26	11.9%	46	12.0%	73	11.8%
妻が働いて能力を発揮した方が、 個人や社会にとって良いと思うから	44	20.2%	33	8.6%	77	12.5%
家事・育児・介護と両立しながら、 妻が働き続けることは可能だと思うから	8	3.7%	17	4.4%	26	4.2%
固定的な夫と妻の役割分担の意識を 押しつけるべきではないから	98	45.0%	219	57.0%	325	52.7%
その他	8	3.7%	14	3.6%	22	3.6%
無回答	7	3.2%	10	2.6%	19	3.1%

問3 女性が働くことについて

調査数	男性		女性		全体	
	372	100%	547	100%	949	100%
結婚・出産に関わらず、働く方がよい	212	57.0%	318	58.1%	543	57.2%
出産を機会に勤務先を辞め、 育児が一段落した後、再び働く方がよい	91	24.5%	128	23.4%	226	23.8%
出産を機会に勤務先を辞め、 家事・育児に専念する方がよい	15	4.0%	5	0.9%	21	2.2%
結婚を機会に勤務先を辞め、 家事・育児に専念する方がよい	4	1.1%	4	0.7%	8	0.8%
女性は働かない方がよい	2	0.5%	1	0.2%	4	0.4%
その他	30	8.1%	68	12.4%	103	10.9%
わからない	14	3.8%	22	4.0%	39	4.1%
無回答	4	1.1%	1	0.2%	5	0.5%

問4 指導的地位に女性が少ない理由【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	372	100%	547	100%	949	100%
現時点では、必要な知識や経験などを 持つ女性が少ないから	99	26.6%	94	17.2%	201	21.2%
女性自身がリーダー的立場になることを 希望しないから	102	27.4%	96	17.6%	201	21.2%
上司・同僚・部下となる男性や顧客が 女性リーダーを希望しないから	80	21.5%	233	42.6%	322	33.9%
長時間労働の改善が十分ではないから	98	26.3%	201	36.7%	305	32.1%
企業などにおいては、管理職になると 広域異動が増えるから	81	21.8%	127	23.2%	211	22.2%
子育て・介護・家事などにおける 夫などの家族の支援が十分ではないから	154	41.4%	318	58.1%	481	50.7%
子育て・介護の支援などの 公的サービスが十分ではないから	160	43.0%	268	49.0%	440	46.4%
その他	26	7.0%	27	4.9%	57	6.0%
わからない	10	2.7%	15	2.7%	32	3.4%
特に理由はない	5	1.3%	4	0.7%	9	0.9%
無回答	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%

問5 一日における生活時間の現状・理想

(1)仕事や学校がある日

		調査数	現状			理想		
			回答者数	無回答	平均時間	回答者数	無回答	平均時間
仕事、学校 (通勤・通学時間を含む)	男性	286	277	9	9:14	266	20	7:27
	女性	334	322	12	7:52	298	36	6:38
	全体	632	614	18	8:30	576	56	7:02
家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	男性	286	275	11	1:09	265	21	1:27
	女性	334	319	15	2:51	297	37	2:24
	全体	632	610	22	2:04	576	56	1:57
育児、介護	男性	286	261	25	0:40	242	44	1:05
	女性	334	295	39	1:33	266	68	1:39
	全体	632	570	62	1:11	518	114	1:23
睡眠時間	男性	286	279	7	6:22	266	20	7:27
	女性	334	322	12	6:16	309	25	7:29
	全体	632	617	15	6:19	589	43	7:28
自由時間(仕事、学校、家事、育児、介護、睡眠など以外の時間)	男性	286	277	9	3:01	264	22	4:01
	女性	334	317	17	2:35	297	37	3:41
	全体	632	610	22	2:49	576	56	3:54

※F5の自分の働き方で「家事専業」「無職」を選択した人及び「無回答」の人(男性86人、女性213人、全体317人)を除く

※平均時間は、回答者の合計時間を回答者数で割ったもの

(2)仕事や学校が無い日

		調査数	現状			理想		
			回答者数	無回答	平均時間	回答者数	無回答	平均時間
家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	男性	372	339	33	2:13	324	48	2:23
	女性	547	478	69	4:26	435	112	3:16
	全体	949	834	115	3:32	774	175	2:53
育児、介護	男性	372	310	62	1:32	285	87	1:46
	女性	547	437	110	2:51	358	189	2:33
	全体	949	761	188	2:20	655	294	2:13
睡眠時間	男性	372	341	31	6:58	326	46	7:39
	女性	547	490	57	6:48	459	88	7:37
	全体	949	849	100	6:51	801	148	7:37
自由時間(仕事、学校、家事、育児、介護、睡眠など以外の時間)	男性	372	340	32	6:48	322	50	7:31
	女性	547	475	72	5:37	433	114	6:22
	全体	949	830	119	6:07	770	179	6:54

※平均時間は、回答者の合計時間を回答者数で割ったもの

問6 出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化した経験の有無(子どもがいる人のみ)【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
	249	100%	391	100%	655	100%
勤務先を辞めた	3	1.2%	19	4.9%	22	3.4%
勤務先を辞め、別の勤務先へ変わった	4	1.6%	24	6.1%	28	4.3%
育児休業を取得した	6	2.4%	26	6.6%	33	5.0%
時短勤務にした	1	0.4%	22	5.6%	23	3.5%
リモート勤務にした	7	2.8%	2	0.5%	9	1.4%
勤務先に相談し、仕事の量を減らしたり業務内容を変更したりした	9	3.6%	16	4.1%	25	3.8%
その他	6	2.4%	18	4.6%	25	3.8%
特に変化はない	101	40.6%	92	23.5%	199	30.4%
この5年間仕事をしていない	12	4.8%	52	13.3%	65	9.9%
無回答	105	42.2%	154	39.4%	265	40.5%

問6-1 出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化した理由（問6で仕事や働き方に変化があった方のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	100%	調査数	100%	調査数	100%
家事や育児などに時間をとりたかったため	16	51.6%	49	52.7%	67	53.2%
時間的、体力的に厳しかったため	9	29.0%	46	49.5%	56	44.4%
配偶者など家族が希望したため	8	25.8%	6	6.5%	14	11.1%
家事や育児などに対してまわりの人の支援が得られなかったため	3	9.7%	19	20.4%	22	17.5%
保育施設や保育サービスが十分利用できなかったため	1	3.2%	8	8.6%	10	7.9%
家事や育児などと両立する努力をしてまで続けたい仕事ではなかったため	0	0.0%	8	8.6%	9	7.1%
仕事を続けるににくい職場の雰囲気があったため	2	6.5%	11	11.8%	13	10.3%
出産・育児をきっかけに仕事や働き方が変化した、理由は出産・育児に直接関係ない	0	0.0%	2	2.2%	2	1.6%
その他	6	19.4%	16	17.2%	22	17.5%
特に理由はない	0	0.0%	4	4.3%	4	3.2%
無回答	2	6.5%	6	6.5%	8	6.3%

問7 介護をきっかけに勤務先を辞めた経験の有無

	男性		女性		全体	
	調査数	100%	調査数	100%	調査数	100%
介護をきっかけに勤務先を辞めた	1	0.3%	11	2.0%	13	1.4%
介護をきっかけに勤務先を辞め、別の勤務先に変った	4	1.1%	4	0.7%	8	0.8%
この5年間で介護をきっかけに勤め先を辞めたことはない	276	74.2%	318	58.1%	612	64.5%
この5年間仕事をしていない	49	13.2%	135	24.7%	188	19.8%
無回答	42	11.3%	79	14.4%	128	13.5%

問7-1 介護をきっかけに勤務先を辞めた理由

（問7で「勤務先を辞めた」「勤務先を辞め、別の勤務先に変った」と回答した人のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	100%	調査数	100%	調査数	100%
仕事と介護の両立が難しい職場だったから	1	20.0%	8	53.3%	9	42.9%
自分の心身の健康状態が悪化したから	2	40.0%	6	40.0%	8	38.1%
施設や介護サービスを利用する経済的余裕がなかったから	1	20.0%	1	6.7%	2	9.5%
定員の都合で施設への入所ができなかったから	0	0.0%	1	6.7%	1	4.8%
自分の希望として介護に専念したかったから	0	0.0%	2	13.3%	2	9.5%
介護対象者や家族が希望したから	1	20.0%	3	20.0%	4	19.0%
介護をきっかけに勤め先を辞めた、理由は介護に直接関係ない	1	20.0%	0	0.0%	1	4.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特に理由はない	0	0.0%	1	6.7%	2	9.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問8 希望する介護者

	調査数	配偶者	子どもや子どもの配偶者	その他の家族・親族	友人・知人	ヘルパーなどの介護サービスの人	その他	特に希望はない	無回答
男性	372	79	2	4	0	214	10	50	13
	100%	21.2%	0.5%	1.1%	0.0%	57.5%	2.7%	13.4%	3.5%
女性	547	39	13	5	0	418	12	50	10
	100%	7.1%	2.4%	0.9%	0.0%	76.4%	2.2%	9.1%	1.8%
全体	949	123	17	10	0	645	23	105	26
	100%	13.0%	1.8%	1.1%	0.0%	68.0%	2.4%	11.1%	2.7%

問9 男性が主体的に男女共同参画社会の推進に取り組むために必要なこと【2つまで】

調査数	男性		女性		全体	
	372	100%	547	100%	949	100%
「競争に勝つ」「弱音を吐かない」「一家の大黒柱になる」など従来の「男らしさ」を見直し、仕事中心の考え方や生き方を変えていくこと	84	22.6%	99	18.1%	187	19.7%
男性同士で気持ちや悩みなどを気軽に話し合えるような場をつくること	32	8.6%	41	7.5%	77	8.1%
性別によらず自分らしく生きるための教育を行うこと	167	44.9%	290	53.0%	463	48.8%
すべての人の人権を尊重し、あらゆる暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないための取り組みを行うこと	112	30.1%	137	25.0%	256	27.0%
家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参画できるよう、本人の意識向上や、周囲の理解促進を図ること	151	40.6%	266	48.6%	427	45.0%
組織のメンバーや管理職の男女比に偏りがないようにすること	66	17.7%	87	15.9%	156	16.4%
その他	14	3.8%	10	1.8%	24	2.5%
わからない	15	4.0%	34	6.2%	54	5.7%
特に必要なことはない	9	2.4%	2	0.4%	13	1.4%
無回答	1	0.3%	5	0.9%	8	0.8%

問10 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参画していくために必要なこと【2つまで】

調査数	男性		女性		全体	
	372	100%	547	100%	949	100%
男性が家事などに参加することについて、男性自身の抵抗感をなくすこと	73	19.6%	108	19.7%	185	19.5%
男性が家事などに参加することについて、女性の抵抗感をなくすこと	20	5.4%	17	3.1%	38	4.0%
男性が家事などに参加することについて、社会的評価を高めること	67	18.0%	94	17.2%	166	17.5%
性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育をすること	129	34.7%	302	55.2%	438	46.2%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	133	35.8%	154	28.2%	295	31.1%
家事などに参加することについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	81	21.8%	130	23.8%	219	23.1%
労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること	97	26.1%	154	28.2%	260	27.4%
男性の家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	31	8.3%	36	6.6%	68	7.2%
その他	14	3.8%	7	1.3%	21	2.2%
わからない	8	2.2%	10	1.8%	19	2.0%
特に必要なことはない	12	3.2%	0	0.0%	13	1.4%
無回答	3	0.8%	8	1.5%	12	1.3%

問11 性の多様性に関する言葉の認知度

		調査数	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味は知らない	全く知らない	無回答
LGBTQ	男性	372	221	77	67	7
		100%	59.4%	20.7%	18.0%	1.9%
	女性	547	282	128	124	13
		100%	51.6%	23.4%	22.7%	2.4%
全体	949	511	210	203	25	
	100%	53.8%	22.1%	21.4%	2.6%	
レズビアン	男性	372	357	10	4	1
		100%	96.0%	2.7%	1.1%	0.3%
	女性	547	507	34	4	2
		100%	92.7%	6.2%	0.7%	0.4%
全体	949	885	47	9	8	
	100%	93.3%	5.0%	0.9%	0.8%	
ゲイ	男性	372	352	13	5	2
		100%	94.6%	3.5%	1.3%	0.5%
	女性	547	510	29	4	4
		100%	93.2%	5.3%	0.7%	0.7%
全体	949	883	46	10	10	
	100%	93.0%	4.8%	1.1%	1.1%	
バイセクシュアル	男性	372	267	58	43	4
		100%	71.8%	15.6%	11.6%	1.1%
	女性	547	367	119	51	10
		100%	67.1%	21.8%	9.3%	1.8%
全体	949	647	181	102	19	
	100%	68.2%	19.1%	10.7%	2.0%	
トランスジェンダー	男性	372	259	83	27	3
		100%	69.6%	22.3%	7.3%	0.8%
	女性	547	373	136	32	6
		100%	68.2%	24.9%	5.9%	1.1%
全体	949	646	225	64	14	
	100%	68.1%	23.7%	6.7%	1.5%	
クエスチョニング	男性	372	69	65	232	6
		100%	18.5%	17.5%	62.4%	1.6%
	女性	547	91	82	366	8
		100%	16.6%	15.0%	66.9%	1.5%
全体	949	163	151	616	19	
	100%	17.2%	15.9%	64.9%	2.0%	
カミングアウト	男性	372	288	48	33	3
		100%	77.4%	12.9%	8.9%	0.8%
	女性	547	456	54	32	5
		100%	83.4%	9.9%	5.9%	0.9%
全体	949	758	108	70	13	
	100%	79.9%	11.4%	7.4%	1.4%	
アウトティング	男性	372	68	64	237	3
		100%	18.3%	17.2%	63.7%	0.8%
	女性	547	90	91	357	9
		100%	16.5%	16.6%	65.3%	1.6%
全体	949	160	158	614	17	
	100%	16.9%	16.6%	64.7%	1.8%	

※問11 周知度（知っている小計＝「言葉も意味も知っている」＋「言葉は知っているが意味は知らない」）

		調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
LGBTQ	男性	372	298	67	7
		100%	80.1%	18.0%	1.9%
	女性	547	410	124	13
		100%	75.0%	22.7%	2.4%
全体	949	721	203	25	
	100%	76.0%	21.4%	2.6%	
レズビアン	男性	372	367	4	1
		100%	98.7%	1.1%	0.3%
	女性	547	541	4	2
		100%	98.9%	0.7%	0.4%
全体	949	932	9	8	
	100%	98.2%	0.9%	0.8%	
ゲイ	男性	372	365	5	2
		100%	98.1%	1.3%	0.5%
	女性	547	539	4	4
		100%	98.5%	0.7%	0.7%
全体	949	929	10	10	
	100%	97.9%	1.1%	1.1%	
バイセクシュアル	男性	372	325	43	4
		100%	87.4%	11.6%	1.1%
	女性	547	486	51	10
		100%	88.8%	9.3%	1.8%
全体	949	828	102	19	
	100%	87.2%	10.7%	2.0%	
トランスジェンダー	男性	372	342	27	3
		100%	91.9%	7.3%	0.8%
	女性	547	509	32	6
		100%	93.1%	5.9%	1.1%
全体	949	871	64	14	
	100%	91.8%	6.7%	1.5%	
クエスチョニング	男性	372	134	232	6
		100%	36.0%	62.4%	1.6%
	女性	547	173	366	8
		100%	31.6%	66.9%	1.5%
全体	949	314	616	19	
	100%	33.1%	64.9%	2.0%	
カミングアウト	男性	372	336	33	3
		100%	90.3%	8.9%	0.8%
	女性	547	510	32	5
		100%	93.2%	5.9%	0.9%
全体	949	866	70	13	
	100%	91.3%	7.4%	1.4%	
アウトティング	男性	372	132	237	3
		100%	35.5%	63.7%	0.8%
	女性	547	181	357	9
		100%	33.1%	65.3%	1.6%
全体	949	318	614	17	
	100%	33.5%	64.7%	1.8%	

問12 性の多様性の理解促進に向けて必要なこと【2つまで】

調査数	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
理解促進が図られるよう一般向けのリーフレットの配布などを行う	63	16.9%	98	17.9%	166	17.5%
多様な人材が働きやすい職場環境づくりに役立つよう企業向けリーフレットの配布などを行う	87	23.4%	156	28.5%	246	25.9%
基礎知識などについて学ぶことができる市民向け講座などを開催する	63	16.9%	72	13.2%	137	14.4%
性の多様性に関する意識などについて市民向けのアンケート調査を実施する	30	8.1%	29	5.3%	60	6.3%
自身や周囲の人が互いに気持ちや情報を共有できる居場所づくりを行う	124	33.3%	214	39.1%	346	36.5%
自身や周囲の人のことに関する悩みを相談することができる相談窓口を設置する	126	33.9%	171	31.3%	302	31.8%
その他	24	6.5%	39	7.1%	64	6.7%
わからない	37	9.9%	74	13.5%	116	12.2%
特に取り組む必要はない	33	8.9%	20	3.7%	57	6.0%
無回答	1	0.3%	4	0.7%	9	0.9%

問13 セクシュアル・ハラスメントの被害経験の有無

調査数	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
受けたことがある	45	12.1%	224	41.0%	273	28.8%
受けたことがない	278	74.7%	254	46.4%	552	58.2%
わからない	39	10.5%	60	11.0%	102	10.7%
無回答	10	2.7%	9	1.6%	22	2.3%

問14 直近5年間のセクシュアル・ハラスメントの被害経験の有無（問13で「受けたことがある」と回答した人のみ）

調査数	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
受けたことがある	19	42.2%	73	32.6%	94	34.4%
受けたことがない	23	51.1%	140	62.5%	164	60.1%
わからない	3	6.7%	7	3.1%	11	4.0%
無回答	0	0.0%	4	1.8%	4	1.5%

問15 セクシュアル・ハラスメント被害の内容（問14で「受けたことがある」と回答した人のみ）【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	19	100%	73	100%	94	100%
「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた	6	31.6%	22	30.1%	29	30.9%
酒席でお酌などを強要された	2	10.5%	11	15.1%	13	13.8%
異性との交際、結婚や出産など、プライベートなことについて不必要に聞かれた	5	26.3%	29	39.7%	35	37.2%
容姿や年齢について不必要に話題にされた	9	47.4%	27	37.0%	36	38.3%
性的な話や冗談を聞かされた	4	21.1%	35	47.9%	40	42.6%
性的な噂を立てられた	1	5.3%	6	8.2%	7	7.4%
不必要に身体に触られた	2	10.5%	21	28.8%	23	24.5%
性的な内容の手紙やメール、電話、SNSでのメッセージなどを受けた	0	0.0%	7	9.6%	8	8.5%
交際または性的な関係を強要された	0	0.0%	9	12.3%	9	9.6%
性別を理由として不本意な服装などを強制された	0	0.0%	3	4.1%	3	3.2%
その他	2	10.5%	7	9.6%	9	9.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問16 セクシュアル・ハラスメント被害の相談経験の有無（問14で「受けたことがある」と回答した人のみ）

調査数	男性		女性		全体	
	19	100%	73	100%	94	100%
相談した	1	5.3%	27	37.0%	29	30.9%
相談しなかった	17	89.5%	46	63.0%	64	68.1%
無回答	1	5.3%	0	0.0%	1	1.1%

問16-1 セクシュアル・ハラスメント被害の相談先（問16で「相談した」と回答した人のみ）【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	1	100%	27	100%	29	100%
家族・友人	0	0.0%	13	48.1%	14	48.3%
学校の先生・養護教員・スクールカウンセラー	0	0.0%	1	3.7%	1	3.4%
学校の相談窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
職場の同僚・上司	1	100.0%	13	48.1%	14	48.3%
職場の相談窓口	1	100.0%	1	3.7%	2	6.9%
宮城労働局雇用環境・均等室	0	0.0%	1	3.7%	1	3.4%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	0	0.0%	2	7.4%	2	6.9%
仙台市「男性のための電話相談」	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
みやぎ男女共同参画相談室	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	2	7.4%	2	6.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問16-2 相談しなかった理由（問16で「相談しなかった」と回答した人のみ）【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	17	100%	46	100%	64	100%
どこ（だれ）に相談したらよいか分からなかったから	3	17.6%	4	8.7%	8	12.5%
恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから	0	0.0%	5	10.9%	5	7.8%
相談してもむだだと思ったから	9	52.9%	25	54.3%	35	54.7%
相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから	5	29.4%	7	15.2%	12	18.8%
自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから	2	11.8%	8	17.4%	10	15.6%
そのことについて思い出したくなかったから	5	29.4%	4	8.7%	10	15.6%
自分にも悪いところがあると思ったから	1	5.9%	3	6.5%	4	6.3%
相談するほどのことではないと思ったから	4	23.5%	23	50.0%	28	43.8%
セクシュアル・ハラスメントだとは思わなかったから	1	5.9%	2	4.3%	3	4.7%
その他	3	17.6%	4	8.7%	7	10.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問17 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認識

		調査数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
物を投げつける	男性	372	252	102	5	7	6
		100%	67.7%	27.4%	1.3%	1.9%	1.6%
	女性	547	417	119	3	4	4
		100%	76.2%	21.8%	0.5%	0.7%	0.7%
全体	949	686	232	9	11	11	
	100%	72.3%	24.4%	0.9%	1.2%	1.2%	
平手で打ったり、足で蹴ったりする	男性	372	316	44	3	2	7
		100%	84.9%	11.8%	0.8%	0.5%	1.9%
	女性	547	521	20	0	2	4
		100%	95.2%	3.7%	0.0%	0.4%	0.7%
全体	949	863	67	3	4	12	
	100%	90.9%	7.1%	0.3%	0.4%	1.3%	
殴るふりや蹴るふりをして威嚇（いかく）する	男性	372	226	119	17	4	6
		100%	60.8%	32.0%	4.6%	1.1%	1.6%
	女性	547	382	140	12	10	3
		100%	69.8%	25.6%	2.2%	1.8%	0.5%
全体	949	626	269	30	14	10	
	100%	66.0%	28.3%	3.2%	1.5%	1.1%	
話しかけても長い間無視する	男性	372	144	175	37	10	6
		100%	38.7%	47.0%	9.9%	2.7%	1.6%
	女性	547	241	241	42	20	3
		100%	44.1%	44.1%	7.7%	3.7%	0.5%
全体	949	394	429	85	31	10	
	100%	41.5%	45.2%	9.0%	3.3%	1.1%	
大声で怒鳴る	男性	372	193	158	12	3	6
		100%	51.9%	42.5%	3.2%	0.8%	1.6%
	女性	547	377	156	8	4	2
		100%	68.9%	28.5%	1.5%	0.7%	0.4%
全体	949	586	324	22	8	9	
	100%	61.7%	34.1%	2.3%	0.8%	0.9%	

		調査数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
「だれのおかげで生活できるんだ」、「役立つ」などと言う	男性	372	281	65	12	8	6
		100%	75.5%	17.5%	3.2%	2.2%	1.6%
	女性	547	479	60	5	2	1
		100%	87.6%	11.0%	0.9%	0.4%	0.2%
全体	949	781	130	18	12	8	
	100%	82.3%	13.7%	1.9%	1.3%	0.8%	
大切にしているものを捨てたり、壊したりする	男性	372	264	77	11	11	9
		100%	71.0%	20.7%	3.0%	3.0%	2.4%
	女性	547	432	94	11	9	1
		100%	79.0%	17.2%	2.0%	1.6%	0.2%
全体	949	713	181	22	22	11	
	100%	75.1%	19.1%	2.3%	2.3%	1.2%	
外出や携帯電話・メールなどを細かく監視する	男性	372	198	127	22	17	8
		100%	53.2%	34.1%	5.9%	4.6%	2.2%
	女性	547	359	151	25	10	2
		100%	65.6%	27.6%	4.6%	1.8%	0.4%
全体	949	575	286	48	29	11	
	100%	60.6%	30.1%	5.1%	3.1%	1.2%	
相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる	男性	372	123	151	64	28	6
		100%	33.1%	40.6%	17.2%	7.5%	1.6%
	女性	547	216	232	63	32	4
		100%	39.5%	42.4%	11.5%	5.9%	0.7%
全体	949	348	392	134	64	11	
	100%	36.7%	41.3%	14.1%	6.7%	1.2%	
必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない	男性	372	232	90	29	14	7
		100%	62.4%	24.2%	7.8%	3.8%	1.9%
	女性	547	411	106	18	10	2
		100%	75.1%	19.4%	3.3%	1.8%	0.4%
全体	949	660	205	47	27	10	
	100%	69.5%	21.6%	5.0%	2.8%	1.1%	
相手の意に反して性行為を強要する	男性	372	291	56	6	12	7
		100%	78.2%	15.1%	1.6%	3.2%	1.9%
	女性	547	481	50	4	10	2
		100%	87.9%	9.1%	0.7%	1.8%	0.4%
全体	949	793	112	10	24	10	
	100%	83.6%	11.8%	1.1%	2.5%	1.1%	
相手の意に反してポルノ（アダルト）画像・動画などを見せる	男性	372	266	64	14	21	7
		100%	71.5%	17.2%	3.8%	5.6%	1.9%
	女性	547	456	65	7	17	2
		100%	83.4%	11.9%	1.3%	3.1%	0.4%
全体	949	740	136	22	41	10	
	100%	78.0%	14.3%	2.3%	4.3%	1.1%	
避妊に協力しない	男性	372	268	61	17	20	6
		100%	72.0%	16.4%	4.6%	5.4%	1.6%
	女性	547	453	59	11	22	2
		100%	82.8%	10.8%	2.0%	4.0%	0.4%
全体	949	738	125	30	47	9	
	100%	77.8%	13.2%	3.2%	5.0%	0.9%	

問18 DVに関する法律や相談窓口の認知度

		調査数	名称も支援内容も知っている	名称は知っているが支援内容は知らない	全く知らない	無回答
DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	男性	372	96	191	79	6
		100%	25.8%	51.3%	21.2%	1.6%
	女性	547	140	293	108	6
		100%	25.6%	53.6%	19.7%	1.1%
全体	949	238	496	202	13	
	100%	25.1%	52.3%	21.3%	1.4%	
仙台市「女性への暴力相談電話」	男性	372	31	131	203	7
		100%	8.3%	35.2%	54.6%	1.9%
	女性	547	103	230	209	5
		100%	18.8%	42.0%	38.2%	0.9%
全体	949	136	374	426	13	
	100%	14.3%	39.4%	44.9%	1.4%	
エル・ソーラ仙台「女性相談」	男性	372	24	95	246	7
		100%	6.5%	25.5%	66.1%	1.9%
	女性	547	97	206	242	2
		100%	17.7%	37.7%	44.2%	0.4%
全体	949	122	312	505	10	
	100%	12.9%	32.9%	53.2%	1.1%	
仙台市配偶者暴力相談支援センター	男性	372	21	78	264	9
		100%	5.6%	21.0%	71.0%	2.4%
	女性	547	58	151	334	4
		100%	10.6%	27.6%	61.1%	0.7%
全体	949	80	235	620	14	
	100%	8.4%	24.8%	65.3%	1.5%	
仙台市「男性のための電話相談」	男性	372	23	52	287	10
		100%	6.2%	14.0%	77.2%	2.7%
	女性	547	23	76	441	7
		100%	4.2%	13.9%	80.6%	1.3%
全体	949	46	134	751	18	
	100%	4.8%	14.1%	79.1%	1.9%	
区役所（または総合支所）	男性	372	122	161	80	9
		100%	32.8%	43.3%	21.5%	2.4%
	女性	547	199	232	109	7
		100%	36.4%	42.4%	19.9%	1.3%
全体	949	328	403	201	17	
	100%	34.6%	42.5%	21.2%	1.8%	
各警察署	男性	372	148	179	39	6
		100%	39.8%	48.1%	10.5%	1.6%
	女性	547	219	265	55	8
		100%	40.0%	48.4%	10.1%	1.5%
全体	949	375	459	101	14	
	100%	39.5%	48.4%	10.6%	1.5%	
宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター）	男性	372	26	103	233	10
		100%	7.0%	27.7%	62.6%	2.7%
	女性	547	70	190	284	3
		100%	12.8%	34.7%	51.9%	0.5%
全体	949	97	304	534	14	
	100%	10.2%	32.0%	56.3%	1.5%	
みやぎ男女共同参画相談室（一般相談・男性相談・LGBT相談）	男性	372	24	109	227	12
		100%	6.5%	29.3%	61.0%	3.2%
	女性	547	47	170	326	4
		100%	8.6%	31.1%	59.6%	0.7%
全体	949	72	285	575	17	
	100%	7.6%	30.0%	60.6%	1.8%	
仙台法務局「女性の人権ホットライン」	男性	372	30	115	217	10
		100%	8.1%	30.9%	58.3%	2.7%
	女性	547	72	186	286	3
		100%	13.2%	34.0%	52.3%	0.5%
全体	949	103	311	521	14	
	100%	10.9%	32.8%	54.9%	1.5%	

		調査数	名称も支援内容も知っている	名称は知っているが支援内容は知らない	全く知らない	無回答
NPO法人ハーティ仙台	男性	372	7	43	312	10
		100%	1.9%	11.6%	83.9%	2.7%
	女性	547	24	84	436	3
		100%	4.4%	15.4%	79.7%	0.5%
	全体	949	31	132	772	14
		100%	3.3%	13.9%	81.3%	1.5%
よりそいホットライン	男性	372	10	66	285	11
		100%	2.7%	17.7%	76.6%	3.0%
	女性	547	40	110	394	3
		100%	7.3%	20.1%	72.0%	0.5%
	全体	949	50	184	700	15
		100%	5.3%	19.4%	73.8%	1.6%
内閣府 DV相談+ (プラス)	男性	372	12	55	297	8
		100%	3.2%	14.8%	79.8%	2.2%
	女性	547	14	75	456	2
		100%	2.6%	13.7%	83.4%	0.4%
	全体	949	26	135	777	11
		100%	2.7%	14.2%	81.9%	1.2%

※問18 周知度（知っている小計＝「名称も支援内容も知っている」＋「名称は知っているが支援内容は知らない」）

		調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	男性	372	287	79	6
		100%	77.2%	21.2%	1.6%
	女性	547	433	108	6
		100%	79.2%	19.7%	1.1%
	全体	949	734	202	13
		100%	77.3%	21.3%	1.4%
仙台市「女性への暴力相談電話」	男性	372	162	203	7
		100%	43.5%	54.6%	1.9%
	女性	547	333	209	5
		100%	60.9%	38.2%	0.9%
	全体	949	510	426	13
		100%	53.7%	44.9%	1.4%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	男性	372	119	246	7
		100%	32.0%	66.1%	1.9%
	女性	547	303	242	2
		100%	55.4%	44.2%	0.4%
	全体	949	434	505	10
		100%	45.7%	53.2%	1.1%
仙台市配偶者暴力相談支援センター	男性	372	99	264	9
		100%	26.6%	71.0%	2.4%
	女性	547	209	334	4
		100%	38.2%	61.1%	0.7%
	全体	949	315	620	14
		100%	33.2%	65.3%	1.5%
仙台市「男性のための電話相談」	男性	372	75	287	10
		100%	20.2%	77.2%	2.7%
	女性	547	99	441	7
		100%	18.1%	80.6%	1.3%
	全体	949	180	751	18
		100%	19.0%	79.1%	1.9%
区役所（または総合支所）	男性	372	283	80	9
		100%	76.1%	21.5%	2.4%
	女性	547	431	109	7
		100%	78.8%	19.9%	1.3%
	全体	949	731	201	17
		100%	77.0%	21.2%	1.8%
各警察署	男性	372	327	39	6
		100%	87.9%	10.5%	1.6%
	女性	547	484	55	8
		100%	88.5%	10.1%	1.5%
	全体	949	834	101	14
		100%	87.9%	10.6%	1.5%

		調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター）	男性	372	129	233	10
		100%	34.7%	62.6%	2.7%
	女性	547	260	284	3
		100%	47.5%	51.9%	0.5%
全体	949	401	534	14	
	100%	42.3%	56.3%	1.5%	
みやぎ男女共同参画相談室（一般相談・男性相談・LGBT相談）	男性	372	133	227	12
		100%	35.8%	61.0%	3.2%
	女性	547	217	326	4
		100%	39.7%	59.6%	0.7%
全体	949	357	575	17	
	100%	37.6%	60.6%	1.8%	
仙台法務局「女性の人権ホットライン」	男性	372	145	217	10
		100%	39.0%	58.3%	2.7%
	女性	547	258	286	3
		100%	47.2%	52.3%	0.5%
全体	949	414	521	14	
	100%	43.6%	54.9%	1.5%	
NPO法人ハーティ仙台	男性	372	50	312	10
		100%	13.4%	83.9%	2.7%
	女性	547	108	436	3
		100%	19.7%	79.7%	0.5%
全体	949	163	772	14	
	100%	17.2%	81.3%	1.5%	
よりそいホットライン	男性	372	76	285	11
		100%	20.4%	76.6%	3.0%
	女性	547	150	394	3
		100%	27.4%	72.0%	0.5%
全体	949	234	700	15	
	100%	24.7%	73.8%	1.6%	
内閣府 DV相談+（プラス）	男性	372	67	297	8
		100%	18.0%	79.8%	2.2%
	女性	547	89	456	2
		100%	16.3%	83.4%	0.4%
全体	949	161	777	11	
	100%	17.0%	81.9%	1.2%	

問19 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害経験の有無（配偶者がいる（いた）人のみ）

		調査数	何度もあった	1、2度あった	全くない	無回答
殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴行	男性	302	6	35	248	13
		100%	2.0%	11.6%	82.1%	4.3%
	女性	460	24	67	348	21
		100%	5.2%	14.6%	75.7%	4.6%
全体	778	30	107	607	34	
	100%	3.9%	13.8%	78.0%	4.4%	
暴言、行動の監視、脅迫、無視などの心理的攻撃	男性	302	20	53	216	13
		100%	6.6%	17.5%	71.5%	4.3%
	女性	460	69	68	303	20
		100%	15.0%	14.8%	65.9%	4.3%
全体	778	92	123	530	33	
	100%	11.8%	15.8%	68.1%	4.2%	
生活費を渡さない、勝手に使うなどの経済的圧迫	男性	302	4	11	275	12
		100%	1.3%	3.6%	91.1%	4.0%
	女性	460	29	42	368	21
		100%	6.3%	9.1%	80.0%	4.6%
全体	778	35	54	656	33	
	100%	4.5%	6.9%	84.3%	4.2%	
性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要	男性	302	2	7	281	12
		100%	0.7%	2.3%	93.0%	4.0%
	女性	460	28	48	363	21
		100%	6.1%	10.4%	78.9%	4.6%
全体	778	30	58	657	33	
	100%	3.9%	7.5%	84.4%	4.2%	

問20 直近5年間のドメスティック・バイオレンス（DV）の被害経験の有無  
 （問19でどれか1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人のみ）

		調査数	この5年間にあった	この5年間にはなかった	無回答
殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴行	男性	82	7	73	2
		100%	8.5%	89.0%	2.4%
	女性	178	16	156	6
		100%	9.0%	87.6%	3.4%
全体	268	24	236	8	
	100%	9.0%	88.1%	3.0%	
暴言、行動の監視、脅迫、無視などの心理的攻撃	男性	82	25	53	4
		100%	30.5%	64.6%	4.9%
	女性	178	60	110	8
		100%	33.7%	61.8%	4.5%
全体	268	89	167	12	
	100%	33.2%	62.3%	4.5%	
生活費を渡さない、勝手に使うなどの経済的圧迫	男性	82	2	78	2
		100%	2.4%	95.1%	2.4%
	女性	178	15	158	5
		100%	8.4%	88.8%	2.8%
全体	268	20	241	7	
	100%	7.5%	89.9%	2.6%	
性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的強要	男性	82	2	78	2
		100%	2.4%	95.1%	2.4%
	女性	178	16	156	6
		100%	9.0%	87.6%	3.4%
全体	268	19	241	8	
	100%	7.1%	89.9%	3.0%	

問21 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害の相談経験の有無  
 （問19でどれか1つでも「この5年間にあった」と回答した人のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
調査数	25	100%	73	100%	102	100%
家族や親戚に相談した	3	12.0%	21	28.8%	26	25.5%
友人・知人・職場の同僚や上司に相談した	3	12.0%	12	16.4%	15	14.7%
相談窓口相談した	0	0.0%	5	6.8%	6	5.9%
どこ（だれ）にも相談しなかった	20	80.0%	37	50.7%	59	57.8%
無回答	0	0.0%	7	9.6%	7	6.9%

問21-1 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害の相談先  
 （問21で「相談窓口相談した」と回答した人のみ）【複数回答】

	女性		全体	
調査数	5	100%	6	100%
仙台市「女性への暴力相談電話」	1	20.0%	1	16.7%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	1	20.0%	1	16.7%
仙台市配偶者暴力相談支援センター	1	20.0%	1	16.7%
仙台市「男性のための電話相談」	0	0.0%	0	0.0%
区役所（または総合支所）	1	20.0%	2	33.3%
各警察署	1	20.0%	1	16.7%
宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター）	1	20.0%	1	16.7%
みやぎ男女共同参画相談室	0	0.0%	0	0.0%
仙台法務局「女性の人権ホットライン」	0	0.0%	0	0.0%
NPO法人ハーティ仙台	1	20.0%	1	16.7%
よりそいホットライン	0	0.0%	0	0.0%
内閣府 DV相談+（プラス）	0	0.0%	0	0.0%
その他	4	80.0%	5	83.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%

※男性の該当なし

問21-2 相談しなかった理由（問21で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人のみ）【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	20	100%	37	100%	59	100%
どこ（だれ）に相談したらよいか分からなかったから	1	5.0%	2	5.4%	3	5.1%
恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから	2	10.0%	4	10.8%	6	10.2%
相談してもむだだと思ったから	8	40.0%	12	32.4%	21	35.6%
相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから	1	5.0%	3	8.1%	4	6.8%
自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから	6	30.0%	9	24.3%	15	25.4%
そのことについて思い出したくなかったから	1	5.0%	4	10.8%	5	8.5%
自分にも悪いところがあると思ったから	9	45.0%	8	21.6%	17	28.8%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	1	5.0%	2	5.4%	4	6.8%
相談するほどのことではないと思ったから	12	60.0%	13	35.1%	26	44.1%
DVだと思わなかったから	5	25.0%	2	5.4%	7	11.9%
その他	0	0.0%	4	10.8%	4	6.8%
無回答	0	0.0%	2	5.4%	2	3.4%

問22 「性的同意」という言葉の認知度

	調査数	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答
男性	372	253	91	25	3
	100%	68.0%	24.5%	6.7%	0.8%
女性	547	405	103	35	4
	100%	74.0%	18.8%	6.4%	0.7%
全体	949	674	201	64	10
	100%	71.0%	21.2%	6.7%	1.1%

※問22 周知度（知っている小計＝「言葉も内容も知っている」＋「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」）

	調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
男性	372	344	25	3
	100%	92.5%	6.7%	0.8%
女性	547	508	35	4
	100%	92.9%	6.4%	0.7%
全体	949	875	64	10
	100%	92.2%	6.7%	1.1%

問23 無理やりに性交などをされた経験の有無

	男性		女性		全体	
調査数	372	100%	547	100%	949	100%
1回あった	6	1.6%	26	4.8%	33	3.5%
2回以上あった	4	1.1%	33	6.0%	38	4.0%
全くない	349	93.8%	474	86.7%	848	89.4%
無回答	13	3.5%	14	2.6%	30	3.2%

問24 加害者との面識（問23で「1回あった」「2回以上あった」と回答した人のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
よく知っている人だった	7	70.0%	46	78.0%	54	76.1%
顔見知り程度の人だった	3	30.0%	10	16.9%	13	18.3%
まったく知らない人だった	0	0.0%	5	8.5%	6	8.5%
無回答	0	0.0%	1	1.7%	1	1.4%

問24-1 加害者との関係（問24で「よく知っている人だった」「顔見知り程度の人だった」と回答した人のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
配偶者、元配偶者（事実婚を含む）※1	3	30.0%	19	35.2%	23	35.4%
親（養親、継親を含む）※2	0	0.0%	1	1.9%	1	1.5%
兄弟姉妹（義理の兄弟姉妹も含む）※3	0	0.0%	2	3.7%	2	3.1%
※1～※3以外の親戚	0	0.0%	5	9.3%	5	7.7%
交際相手、元交際相手	2	20.0%	9	16.7%	11	16.9%
職場、アルバイトの関係者	1	10.0%	9	16.7%	10	15.4%
通っていた（いる）学校・大学の関係者	1	10.0%	5	9.3%	6	9.2%
その他	4	40.0%	11	20.4%	15	23.1%
無回答	0	0.0%	1	1.9%	1	1.5%

問25 無理やりに性交などをされた経験の相談（問23で「1回あった」「2回以上あった」と回答した人のみ）【複数回答】

	男性		女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合	調査数	割合
家族や親戚に相談した	0	0.0%	4	6.8%	4	5.6%
友人・知人・職場の同僚や上司に相談した	0	0.0%	8	13.6%	8	11.3%
学校の先生・養護教員・スクールカウンセラーに相談した	0	0.0%	2	3.4%	2	2.8%
相談窓口相談した	0	0.0%	3	5.1%	3	4.2%
どこ（だれ）にも相談しなかった	9	90.0%	43	72.9%	54	76.1%
無回答	1	10.0%	0	0.0%	1	1.4%

問25-1 無理やりに性交などをされた経験の相談先（問25で「相談窓口相談した」と回答した人のみ）【複数回答】

	女性		全体	
	調査数	割合	調査数	割合
仙台市「女性への暴力相談電話」	2	66.7%	2	66.7%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	1	33.3%	1	33.3%
仙台市配偶者暴力相談支援センター	0	0.0%	0	0.0%
仙台市「男性のための電話相談」	0	0.0%	0	0.0%
区役所（または総合支所）	1	33.3%	1	33.3%
各警察署	1	33.3%	1	33.3%
宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター）	1	33.3%	1	33.3%
みやぎ男女共同参画相談室	0	0.0%	0	0.0%
性暴力被害相談支援センター宮城「けやきホットライン」	0	0.0%	0	0.0%
警察の性犯罪被害相談電話（#8103「ハートさん」）	0	0.0%	0	0.0%
仙台法務局「女性の人権ホットライン」	0	0.0%	0	0.0%
NPO法人ハートィ仙台	1	33.3%	1	33.3%
よりそいホットライン	0	0.0%	0	0.0%
内閣府 Cure time（キュアタイム）	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%

※男性の該当なし

問25-2 相談しなかった理由（問25で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人のみ）【複数回答】

調査数	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
どこ（だれ）に相談したらよいの分からなかったから	2	22.2%	7	16.3%	10	18.5%
恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから	2	22.2%	14	32.6%	17	31.5%
相談してもむだだと思ったから	1	11.1%	10	23.3%	12	22.2%
相談したことが相手に知られると、仕返しを受けたりすると思ったから	0	0.0%	4	9.3%	4	7.4%
自分さえがまんすればよいことだと思い、他人を巻き込みたくなかったから	2	22.2%	16	37.2%	19	35.2%
そのことについて思い出したくなかったから	1	11.1%	13	30.2%	15	27.8%
自分にも悪いところがあると思ったから	2	22.2%	11	25.6%	13	24.1%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	3	33.3%	5	11.6%	8	14.8%
相談するほどのことではないと思ったから	5	55.6%	8	18.6%	13	24.1%
その他	0	0.0%	5	11.6%	5	9.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問26 男女共同参画社会の実現のために、今後、仙台市が力を入れていくべきこと【3つまで】

調査数	男性		女性		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
企業や地域団体、市民団体などにおける意思決定の場への女性の登用に向けて支援する	91	24.5%	98	17.9%	193	20.3%
男女共同参画に関わる様々な主体との連携により広報を強化し、学習機会の充実を図る	73	19.6%	71	13.0%	145	15.3%
子どもの頃から人権の尊重に向けたジェンダー平等意識を養うための教育を充実させる	170	45.7%	319	58.3%	499	52.6%
男性が主体的に男女共同参画を推進していくための取り組みを行う	36	9.7%	41	7.5%	78	8.2%
保育サービスの拡充と多様な子育て支援を行う	114	30.6%	184	33.6%	302	31.8%
一人ひとりのニーズに合わせた多様な働き方への支援を行う	97	26.1%	197	36.0%	301	31.7%
DV や性暴力の根絶と被害者支援に向けた取り組みを推進する	51	13.7%	63	11.5%	117	12.3%
経済不安や生きづらさなど様々な困難を抱える若年女性への支援を行う	80	21.5%	109	19.9%	194	20.4%
地域で活躍できる女性の人材育成及びネットワーク構築を進める	29	7.8%	41	7.5%	70	7.4%
男女共同参画の視点を反映した防災の取り組みを進めるとともに、国内外に向けて発信する	12	3.2%	15	2.7%	30	3.2%
就業・生活の安定を通じた自立に向けた取り組みを実施する	99	26.6%	158	28.9%	262	27.6%
性の多様性に関する理解促進や性的マイノリティへの支援を行う	32	8.6%	37	6.8%	70	7.4%
その他	10	2.7%	6	1.1%	18	1.9%
わからない	20	5.4%	23	4.2%	45	4.7%
特になし	14	3.8%	8	1.5%	25	2.6%
無回答	2	0.5%	5	0.9%	13	1.4%



令和6年度  
仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査 報告書

令和7年3月

---

編集・発行 仙台市市民局市民活躍推進部男女共同参画課  
〒980-8671  
仙台市青葉区二日町1-23  
二日町第四仮庁舎(アーバンネット勾当台ビル)2階  
電話：022-214-6143 FAX：022-214-6140

公益財団法人せんだい男女共同参画財団  
〒980-6128  
仙台市青葉区中央1-3-1 アエル29階  
電話：022-212-1627 FAX：022-212-1628

---

